TOKYO DENKI UNIVERSITY

2009

東京電機大学理工学部

〔平成21年度　理工学部主要行事日程〕

主　要　行　事	日　　程
入学式	平成21年４月２日（木）
新入生･在学生オリエンテーション	４月３日（金）～４月８日（水）
平成21年度1～4年次定期健康診断	４月３日（金）～４月７日（火）
前期授業開始	４月９日（木）
学生大会	５月14日（木）
	＊　学部は午後休講（大学院は休講せず）
合同体育祭	５月17日（日）［予備日５月24日（日）］
前前期授業終了	６月10日（水）
前後期授業開始	６月11日（木）
授業置換え日	７月16日（木）：前期月曜日の授業
	７月17日（金）：前期水曜日の授業
前期特定日	７月25日（土）
	７月30日（木）
	７月31日（金）
前期授業・試験終了	７月31日（金）
夏季休業	８月１日（土）～９月15日（火）
創立記念日	９月11日（金）
後期授業開始・前期成績発表	９月16日（水）
授業置換え日	10月９日（金）：後期月曜日の授業
	10月29日（木）：後期月曜日の授業
	平成22年１月14日（木）：後期月曜日の授業
鳩山祭及び	平成21年10月30日（金）～11月５日（木）
準備・片付けのための休講	鳩山祭は　11月１日（日）～11月３日（火）
	＊　鳩山祭期間中は学部・大学院とも休講
後前期授業終了	11月17日（火）
後後期授業開始	11月18日（水）
授業終了	12月25日（金）
冬季休業	12月26日（土）～１月６日（水）
授業再開	平成22年１月７日（木）
大学センター入試及び準備の	
ため休講（補講は出来ません）	１月15日（金）～１月16日（土）
後期特定日	１月28日（木）
	１月29日（金）
	１月30日（土）
後期授業・試験終了	１月30日（土）
卒業発表・進級発表	３月８日（月）
卒業式	３月18日（木）

追試験は、前期：８月６・７日、後期：２月５・６日を予定しております。（理工学部のみ）
特定日は、15週を超える曜日で理工学部の一部科目の学期末試験等を行う日です。（授業は実施できません。）
前前期・前後期・後前期・後後期の授業開始・終了日は、理工学部のみとなります。
休講日は、補講を実施する可能性があります。

UNIVERSITY CATALOGUE

学生要覧　2009

東京電機大学は、平成９年４月１日付で、大学基準協会が実施する相互評価の認定を受けています。相互評価の認定は、大学が本来あるべき「大学」に相応しい要件を備え、その「理念・目的」の実現に向け改善・改革のための努力を払っているとの評価を、同基準協会から得たことの証しとなるものです。本学は、全国の大学の中でも初めてこの認定を受けた22校の大学の中の一つです。

東京電機大学理工学部

目　次

第１章　学生生活をはじめるにあたって

学長より …… 2
理工学部長より …… 3
東京電機大学の沿革と理工学部・理工学研究科の構成 …… 4
大学・大学院各英文名 …… 6
カリキュラム・授業等についての注意 …… 7
知っておいて欲しいこと …… 8
気をつけて欲しいこと …… 14

第２章　学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ …… 18
彩の国大学コンソーシアム …… 19
ホームページ …… 20
授業科目 …… 21
授業 …… 26
再履修 …… 30
単位認定 …… 31
他大学・他学部・他学系履修 …… 35
履修基準 …… 38
履修計画 …… 40
履修申告 …… 48
試験 …… 61
成績 …… 64
進級 …… 68
卒業 …… 71
人間形成科目群・英語科目群・学部共通科目群 …… 75
　履修モデル
　授業科目配当表
専門教育科目群 …… 95
　理学系 …… 95
　生命理工学系 …… 109
　情報システムデザイン学系 …… 121
　電子・機械工学系 …… 135
　建築・都市環境学系 …… 151
　・履修モデル
　・科目配置図
　・進級条件
　・授業科目配当表
資格 …… 162

第３章　教職課程

教職課程とは …… 166
大学入学から免許状取得まで …… 167
取得できる免許状 …… 168
履修要件 …… 168
教職課程の履修手続 …… 178
教育実習 …… 179
免許状の申請・交付 …… 181
教職課程授業科目配当表 …… 182

第４章　学生生活について

学籍について …… 185

クラスについて …… 187
オフィス・アワー …… 188
学費について …… 189
奨学金制度 …… 191
教育ローン（銀行提携） …… 195
連絡・呼出し …… 196
証明書の交付 …… 197
届け出・願い出 …… 201
学生相談 …… 204
健康管理 …… 205
ハラスメント防止宣言 …… 207
学習サポートセンター …… 210

第５章　各種施設の利用

総合メディアセンター …… 212
厚生施設 …… 224
スポーツ施設 …… 225

第６章　将来への道標

就　職 …… 228
進　学 …… 236
科目等履修生 …… 237
卒業後の各種証明書の申請について …… 238
校友会 …… 239

第７章　大学院

大学院入学のすすめ …… 245
修士課程　理学専攻 …… 246
情報学専攻 …… 248
デザイン工学専攻 …… 250
生命理工学専攻 …… 252
・内容と特色　・教員一覧

第８章　その他

留学 …… 256
保険制度 …… 258
学生生活支援 …… 260
課外活動 …… 261
アルバイト …… 262
東京電機大学　校歌・学生歌・理工学部讃歌 …… 264
鳩山キャンパス案内図 …… 266
鳩山キャンパス教員室一覧 …… 276
理工学部教員一覧 …… 278

第９章　学則および諸規定

東京電機大学学則 …… 288
学生生活についての規程 …… 301
試験に関する細則 …… 304
特別奨学生規程 …… 307
理工学部学生の車両通学に関する取扱細則 …… 309

本学の建学の精神

「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げた。

本学の教育・研究理念

「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げた。

理工学部理工学科の人材養成に関する目的ならびに教育研究上の目的

1．人材養成に関する目的

本理工学部は、人材養成の基本目標（教育理念）として、「未来型科学技術者の養成」と「人間性豊かな社会人の育成」を掲げている。

『未来型科学技術者の養成』

急速に進展する科学技術に先駆け、創造的かつ自由な発想と自発性・自律性、複眼的思考力による問題の発見・解決力、科学技術と人間・社会との調和を考える力を有する「科学技術に関わる個性と資質・活力を有する未来型科学技術者」を育成する。

『人間性豊かな社会人の育成』

社会をリードする良識ある人間性、環境と共生への倫理性、福祉への眼差し、ボーダレス的実行力、対人的及び国際的コミュニケーション能力、リテラシー駆動力、健康な心身などを備えた「21世紀を生きる人間としての資性・感性を有する人間性豊かな社会人」を育成する。

2．教育研究上の目的

時代に即した効果的な教育研究を推進するため、「理工学科」の基軸となる部門を理学

系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建設・都市環境学系の５つの学系とし、従来の教育研究分野の相乗的融合を図り、創造性豊かな技術者を育成する。さらに、相互の学系間の連携を図ることにより、異なった研究分野の交流を活発にしながら、幅広い専門性と社会性を兼ね備えた人材を育成していくことを目標とする。

大学科制により、学問分野を横断した基礎教育科目を設置し、現代社会を支える科学技術とその根源にある理学を軸とした基礎的な知識と技術の習得を図るとともに、社会が必要とする高度専門技術者・科学者を養成するため、次の５学系（部門）を編成し、多数の専門コースで学系を構成する。

＜理学系＞

本学系は、新たな科学技術の開拓に向けて、その基礎となる科学知を学び、さらに工学の発展に寄与する。

数学・物理学・化学・数理情報学の４つのコースから編成し、全体に理学的側面を強調しながらも、基礎科学から応用面まで含めた幅広い学識を得ることができるように教育研究を進める。

＜生命理工学系＞

本学系は、遺伝子治療、人工臓器、福祉機器など、人間の健康な生活を支える技術の開発、さらに生物機能を利用した安全で有用な物質の開発を目指す。

生命工学、電子情報工学に基礎を置いたいくつかの分野から構成される。生命・生体工学に関連性を持たせながら工学の基礎分野の習得を行える教育カリキュラムの編成を行うと同時に、幅広い知識を得ることができるような教育を進める。

＜情報システムデザイン学系＞

本学系は、コンピュータ技術を基盤とした総合的な情報学を探究し、加えて、社会と情報の関係に精通した視野の広い技術者を養成する。

文理複合的学系として情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造に関わるいくつかの異なった分野から構成し、互いに統一的かつ協調性を持った教育課程の編成を行う。同時に広い学識を得ることができるような学系共通カリキュラムを基に教育研究を進める。

＜電子・機械工学系＞、＜建築・都市環境学系＞

本学系は、基礎工学である機械・建設を基礎にエレクトロニクス技術を加えて将来の循環型社会を構築する。

従来の機械工学・建設工学を中心にし、電子工学分野や新たな先端工学分野を含めた５コースより構成する。各コースはそれぞれの特徴を生かした専門性の高い教育研究を行うと同時に、学系全体として広範囲にわたる工学分野をカバーし、グローバルな視点を有するエンジニアの育成を目指す。

個人情報保護法施行に伴う個人情報利用について

入学時及び在学中を通じて収集した個人を識別または特定できる情報については、「個人情報保護法」（平成17年４月１日施行）に従い、以下に定める目的以外に利用することはありません。

なお、本学では「学校法人東京電機大学個人情報保護に関する規程」に基づき、「個人情報」保護に努めています。

(1)　学籍管理を行うため。
(2)　正課および正課外活動の目的で利用するため。
(3)　学生本人、保証人に対して、本学ならびにその関連機関である東京電機大学後援会および社団法人東京電機大学校友会から、通知および連絡を行うため。
(4)　本学より学生本人に連絡の上、了承を得た目的に利用するため。
(5)　その他本学の教育研究および学生支援に必要な業務を遂行するため。
(6)　その他法令に基づく場合。

以　上

※詳細につきましては、事務部窓口（学生厚生担当）へお問い合わせ下さい。

第１章

学生生活をはじめるにあたって

次世代科学技術を担う皆さんへ



学 長　古田　勝久

御入学おめでとうございます。大学を代表して皆様を歓迎します。

東京電機大学は、工学部、工学部第二部、未来科学部、理工学部、情報環境学部の 5 学部と、工学研究科、理工学研究科、情報環境学研究科、未来科学研究科の 4 研究科（大学院修士課程）および先端科学技術研究科（博士課程(後期)）からなります。学部は一学年約2,000名で、この数は日本の国公私立大学の理工系学部の定員の約 2 %という大きな値です。大学院の修士は一学年約400名です。東京電機大学は、1907年に広田精一先生と扇本真吉先生が創立された神田の電機学校を母体とし、昨年には創立100年を迎え、卒業生は19万人にのぼります。「技術で社会に貢献する人材を養成し、国を発展させること」がお二人の志でした。

現代は、政治、経済、産業のすべての分野において、科学技術の知識なしには正しい決定の出来ない時代であり、知識自体が価値を持ち、価値を生み出す「知識基盤社会」と言われております。東京電機大学は、この社会を支える科学技術者という人材養成と、科学技術の知識を生み出す重要な役割を果たして来ました。

これから皆さんは、科学技術の基盤と専門を学び、科学技術の専門家として様々な問題発見と解決により、社会へ貢献してくださることを期待しております。将来、最新知識と技術を駆使するためには、まず数学のような基礎の勉強を重視してください。大学時代は人生で一番効率良く、新しい知識を吸収し、自分の能力に出来る時代です。自分の専門はもちろん、いろいろ関連分野にも興味を持ってください。学問領域は、専門の境界をつけることが難しくなりました。機械、電気、情報等が融合した、メカトロニクスのような分野が生まれています。ある分野の知識が、他分野の問題解決に有効な例がたくさんあります。

また、研究、開発、生産、販売を行う企業も、一つの国の中でそれらすべてを行うことがまれになり、ほとんどの企業が国際的に活動する時代となっています。科学技術の研究教育も国際的になっています。このような時代においては、国際的なコミュニケーション能力が科学技術者にも要求されるようになっています。科学技術の研究教育に、外国語の知識が必要なことをしっかり認識してください。

東京電機大学でこれから学ぶ基礎と専門によって得られる問題発見と解決能力が、皆さんと日本の将来を作ります。将来国際的な技術者として活躍できるように、大学生活を有意義なものにしてください。

理工学部を楽しもう



理工学部長　井浦　雅司

新入生の皆様、理工学部へご入学おめでとうございます。

理工学部における教育理念は、「未来型科学技術者の育成」と「人間性豊かな社会人の養成」であります。20世紀における科学技術の進歩は人間生活をより快適な方向へ推し進める一方、地球温暖化に代表されるように大きな負の遺産を残しました。これらの問題を解決するためには、やはり科学技術の進歩が必要です。我々の子孫が今後も長い間この地球上で生活するためには、これまでとは考え方を変えた未来志向型の科学技術が必要とされます。そのためには、幅広い教養と高い専門知識が要求されます。様々な分野の専門家と意見を交換する中で、自分の意見を他人に分かってもらうと同時に、他人の意見も理解できるコミュニケーション能力を備えた人間性に溢れた人々を養成することが、理工学部の教育目標です。

理工学部の主・副コース制度について説明します。最初の１年間は今後の進路を決めるための助走期間となります。自分自身で考えることは勿論のこと、家族、友人、先生等と相談しながら自分の進むべき方向を決めてください。１年次の終了時に、自分の進路に沿った「主コース」と「副コース」を選択することになります。理工学部には16コースがありますから、この中に自分のやりたい専門が必ずやあるはずです。これを主コースとして選択してください。副コースの選択ですが、専門性をさらに追求したい場合と、専門性を広げたい場合とで方法が異なります。主コースを除いた15コースの中から副コースを選択してください。このように自分の個性に合わせた選択が可能になり、これを「次世代モードの学び」と呼んでいます。

皆様が学ぶ鳩山の四季を紹介します。入学時には満開の桜が皆様を暖かく迎えてくれ、大学生活に慣れ始めた頃には、木々の芽が吹きだします。新緑の山々に囲まれた比企丘陵を満喫してください。夏には学内の芝生が青々と茂り、その上で寝転びながら日光浴。夏休みを終えて大学に戻る頃には、真っ赤な夕陽と富士山を背景に赤とんぼが飛び始めています。この時期は勉強とスポーツに精を出してください。鳩山祭（大学祭）が終わる11月中旬頃からは寒さが厳しくなり、師走には見事なイチョウの黄葉が見られ、これらが散る頃には寒さが一段と厳しくなります。後期の期末試験が終わる頃には蝋梅（ろうばい）が咲き始め豊かな梅の香りを楽しむことができます。そして皆様が春休みを迎えている間に、桜につぼみが付き始め春を予感させます。我々人間が自然を破壊しない限り四季の巡りは永遠に続きます。このような素晴らしい環境に恵まれた鳩山キャンパスを大切にし、また周囲に目を配り新しい発見を楽しんでください。

さて高校生活の３年間を思い出してください。中学卒業時と高校卒業時の自分を比較すると、いろいろな面において進歩したはずです。大学生活は４年間ですから、さらに大きく進歩するチャンスなのです。高校生活と異なり、大学生活の規則はかなり緩やかですが、その分自己責任は大きくなります。人間としての基礎力を付け、専門職としての基礎知識を学び、さらに生涯にわたる友人を得るのがこの４年間です。しかし、計画的に生活しないとすぐに月日は経過し、あとで後悔することになります。勉強、サークル活動、友人との会話等、計画を立てて悔いのない学生生活を送ってください。

理工学部の教職員は皆様の学生生活を有意義にするために、いつでもアドバイスできる状態にあります。本館３階の学部長室では、ドアが開いている時にはいつでも相談にのります。またメールでもかまいません。気軽に相談してください。

メールアドレス：deans@ccs.dendai.ac.jp

東京電機大学の沿革と理工学部・理工学研究科の構成

1907.9.11（明治40年）・東京・神田に電機学校創立
1949.4（昭和24年）・東京電機大学開設＜工学部第一部電気工学科・電気通信工学科設置＞
1950.4（昭和25年）・東京電機大学短期大学部開設＜電気科第二部設置＞
1952.4（昭和27年）・工学部第二部開設＜工学部第二部電気工学科設置＞
1956.2（昭和31年）・東京電機大学短期大学部を東京電機大学短期大学に名称変更
1958.4（昭和33年）・東京電機大学大学院（夜間）開設＜工学研究科電気工学専攻（修士課程）設置＞
1960.4（昭和35年）・工学部第一部電子工学科設置
1961.4（昭和36年）・工学部第一部機械工学科・応用理化学科設置
1961.4（昭和36年）・工学部第二部電気通信工学科設置
1962.4（昭和37年）・大学院工学研究科博士課程開設＜電気工学専攻（博士課程）設置＞
1962.4（昭和37年）・工学部第二部電子工学科・機械工学科設置
1965.4（昭和40年）・工学部第一部精密機械工学科・建築学科設置
1975.4（昭和50年）・工学研究科電気工学専攻（修士課程）（昼間）設置
1977.4（昭和52年）・鳩山キャンパス開設・理工学部開設＜数理学科・経営工学科・建設工学科・産業機械工学科設置＞
1981.4（昭和56年）・理工学研究科開設＜数理学専攻（修士課程）・システム工学専攻（修士課程）・建設工学専攻（修士課程）・機械工学専攻（修士課程）設置＞
・総合研究所開設
1983.4（昭和58年）・理工学研究科博士課程開設＜応用システム工学専攻（博士課程）設置＞
1984.4（昭和59年）・理工学研究科数理学専攻（博士課程）設置
1986.4（昭和61年）・理工学部情報科学科、応用電子工学科設置
1990.4（平成２年）・千葉ニュータウンキャンパス開設
・工学研究科情報通信工学専攻（修士課程）・電子工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科情報科学専攻（修士課程）・応用電子工学専攻（修士課程）設置
1991.4（平成３年）・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程）・物質工学専攻（修士課程）設置
1992.4（平成４年）・工学研究科情報通信工学専攻（博士課程）・電子工学専攻（博士課程）、建築学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理学専攻（博士課程）を数理科学専攻（博士課程）に名称変更
1993.4（平成５年）・工学研究科機械システム工学専攻（博士課程）、物質工学専攻（博士課程）設置
・工学部第一部・工学部第二部電気通信工学科を情報通信工学科、工学部第一部応用理化学科を物質工学科に名称変更
1995.4（平成７年）・工学研究科建築学専攻（博士課程）設置
1997.4（平成９年）・超電導応用研究所、建設技術研究所設立
・産官学交流センター設立
1997.6（平成９年）・ハイテク・リサーチ・センター設立
1999.4（平成11年）・理工学部数理学科を数理科学科、経営工学科を情報システム工学科、建設工学科を建設環境工学科、産業機械工学科を知能機械工学科、応用電子工学科を電子情報工学科に名称変更
・フロンティア共同研究センター設立
2000.4（平成12年）・理工学部生命工学科、情報社会学科設置
2001.4（平成13年）・情報環境学部開設＜情報環境工学科、情報環境デザイン学科設置＞
2001.4（平成13年）・大学院工学研究科機械工学専攻（博士課程・修士課程）、精密システム工学専攻（博士課程・修士課程）設置
2002.4（平成14年）・工学部第一部情報メディア学科設置
・工学部第一部物質工学科を環境物質化学科、精密機械工学科を機械情報工学科に名称変更
・理工学研究科生命工学専攻（修士課程）設置
・理工学研究科数理科学専攻（博士課程）を数理・情報科学専攻（博士課程）、数理学専攻（修士課程）を数理科学専攻（修士課程）、システム工学専攻（修士課程）を情報システム工学専攻（修士課程）、機械工学専攻（修士課程）を知能機械工学専攻（修士課程）に名称変更
2003.4（平成15年）・理工学研究科応用電子工学専攻（修士課程）を電子情報工学専攻（修士課程）に名称変更
2004.4（平成16年）・情報環境学研究科（修士課程）開設＜情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）設置＞
・工学研究科情報メディア学専攻（修士課程・博士課程）設置

・理工学研究科情報社会学専攻（修士課程）設置
・超電導応用研究所を先端工学研究所に名称変更

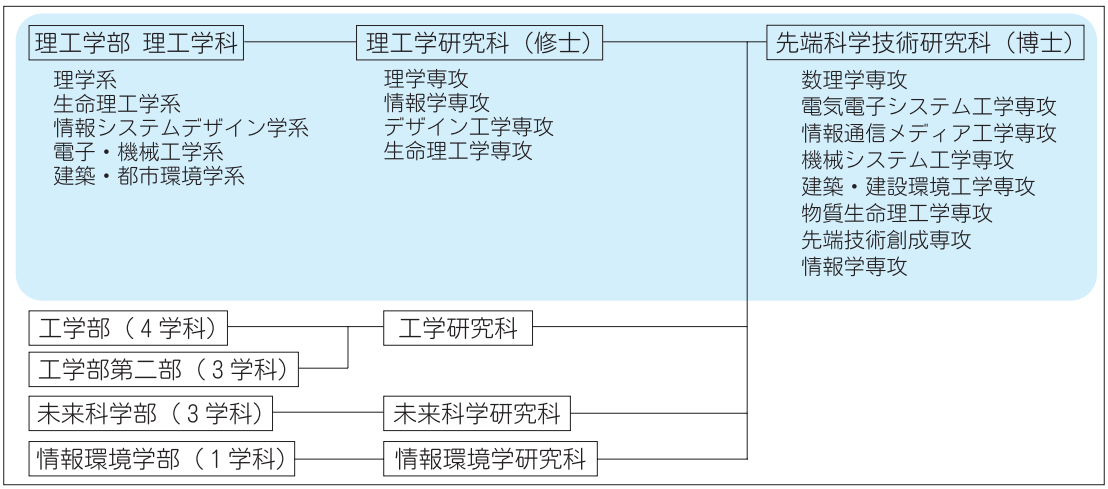
2005.7（平成17年）
・東京電機大学短期大学廃止
・工学研究科機械システム工学専攻（修士課程・博士課程）廃止

2006.4（平成18年）
・先端科学技術研究科（博士課程(後期)）開設＜数理学専攻、電気電子システム工学専攻、情報通信メディア工学専攻、機械システム工学専攻、建築・建設環境工学専攻、物質生命理工学専攻、先端技術創成専攻、情報学専攻設置＞（※工学研究科博士課程、理工学研究科博士課程を廃止）
・理工学研究科建設工学専攻（修士課程）を建設環境工学専攻（修士課程）に名称変更
・情報環境学部情報環境学科設置（※情報環境学部情報環境工学科、情報環境デザイン学科学生募集停止）

2007.4（平成19年）
・創立100周年（９月11日）
・未来科学部開設＜建築学科、情報メディア学科、ロボット・メカトロニクス学科設置＞
・工学部開設＜電気電子工学科、環境化学科、機械工学科、情報通信工学科設置＞（※工学部第一部電気工学科、電子工学科、環境物質化学科、機械工学科、機械情報工学科、情報通信工学科、情報メディア学科、建築学科の学生募集停止）
・理工学部理工学科設置＜４学系体制：サイエンス学系、情報システムデザイン学系、創造工学系、生命理工学系＞（※理工学部数理科学科、情報科学科、情報システム工学科、建設環境工学科、知能機械工学科、電子情報工学科、生命工学科、情報社会学科の学生募集停止）

2008.4（平成20年）
・工学部第二部電気電子工学科設置（※工学部第二部電気工学科、電子工学科の学生募集停止）

2009.4（平成21年）
・未来科学研究科（修士課程）開設＜建築学専攻、情報メディア学専攻、ロボット・メカトロニクス学専攻設置＞
・工学研究科電気電子工学専攻（修士課程）設置（※工学研究科電気工学専攻（修士課程）、電子工学専攻（修士課程）、精密システム工学専攻（修士課程）、情報メディア学専攻（修士課程）、建築学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学研究科理学専攻（修士課程）、情報学専攻（修士課程）、デザイン工学専攻（修士課程）、生命理工学専攻（修士課程）設置（※理工学研究科数理科学専攻（修士課程）、情報科学専攻（修士課程）、情報システム工学専攻（修士課程）、建設環境工学専攻（修士課程）、知能機械工学専攻（修士課程）、電子情報工学専攻（修士課程）、生命工学専攻（修士課程）、情報社会学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・大学院情報環境学研究科情報環境学専攻（修士課程）設置（※情報環境学研究科情報環境工学専攻（修士課程）、情報環境デザイン学専攻（修士課程）の学生募集停止）
・理工学部理工学科学系再編＜５学系体制：理学系、生命理工学系、情報システムデザイン学系、電子・機械工学系、建築・都市環境学系へ再編＞



大学・大学院英文名

東京電機大学	Tokyo Denki University
理工学部	School of Science and Engineering
理工学科	Department of Science and Engineering
理学系	Division of Science
生命理工学系	Division of Life Science and Engineering
情報システムデザイン学系	Division of Information System Design
電子・機械工学系	Division of Electronic and Mechanical Engineering
建築・都市環境学系	Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering

東京電機大学大学院	Graduate School of Tokyo Denki University
先端科学技術研究科	Graduate School of Advanced Science and Technology
博士課程（後期）	Doctoral Programs
数理学専攻	Mathematical Sciences
電気電子システム工学専攻	Electrical and Electronic Systems Engineering
情報通信メディア工学専攻	Information, Communication and Media Design Engineering
機械システム工学専攻	Mechanical System Engineering
建築・建設環境工学専攻	Architecture, Civil and Environmental Engineering
物質生命理工学専攻	Materials and Life Sciences
先端技術創成専攻	Advanced Multidisciplinary Engineering
情報学専攻	Informatics
理工学研究科	Graduate School of Science and Engineering
修士課程	Master's Programs
理学専攻	Science
情報学専攻	Informatics
デザイン工学専攻	Engineering and Design
生命理工学専攻	Life Science and Engineering

カリキュラム・授業等についての注意

1　進級条件は所属する学系及び選択する主コース及び副コースの組み合わせにより、それぞれ定められています。自分の所属する学系及び選択したコースの進級条件を必ず確認してください。

2　1年次に在籍している間は、学系ごとの枠組みでカリキュラムが構成されていますが、2年次以降は各自が選択する主コース及び副コースにより進級条件等が異なります。科目配当表等で必ず確認してください。

3　履修上限単位数は1年間に50単位となっています。これには前期に履修し、単位を取得できなかった科目の単位数も含まれます。進級条件および卒業要件を考慮し、計画的な履修を心掛けてください。

4　Happy Monday 等による授業日数の不足を補うため、他の曜日に授業置換え日として月曜日の授業を行う場合があります。学生要覧の始めに記載されている〔理工学部主要行事日程〕、または掲示等で予め確認してください。

5　学期末試験は原則として授業中に行ないますが、一部の科目は特定日として授業日以外で行ないます。科目や日程は学期末試験の掲示で確認してください。

6　授業は集中講義として土曜日や長期休業中・休講日に、日にちを指定して行う事があります。介護体験・学外研修と重複する事もありますので、予め確認しておいてください。

知っておいて欲しいこと

1．登下校時は掲示板を見てください

掲示板は、大学から学生のみなさんへの伝言板です。みなさんへの告示、通知、呼び出しなどはすべて掲示板によって行われます。授業教室の臨時変更あるいは休講の連絡などもあります。したがって、掲示板を見ることは自己責任として自覚しておいて下さい。
（P 196参照）

2．学生証について

学生証はプラスチック製カードでできています。この学生証は、みなさんの身分証明書ですから常に携帯してください。特に、試験時に忘れると受験できませんので注意してください。その他に学生証は、通学定期券の購入、各種証明書の発行、図書の貸出し、体育施設など諸施設を利用の際に必要です。卒業するまで使用することになりますので大切に取り扱ってください。万一学生証を紛失したときは、直ちに近くの警察署や交番へ届けるとともに、学生厚生担当へ申し出て、すみやかに学生証再発行（有料）の手続きを取ってください。
（P 197参照）

なお、退学、除籍、休学の場合は学生証を直ちに返納してください。

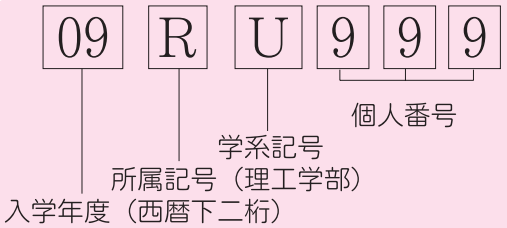
学生証



3．学籍番号について

学生証に記入された 7 桁の数字・記号を学籍番号といいます。この番号は、みなさんの卒業後も生きつづけます。

学籍番号のしくみ



所属学系記号

学内においては、各学系を簡単にアルファベット記号で表しています。

平成21年度（'09）

理学系 ……ＲＵ
生命理工学系 ……ＲＢ
情報システムデザイン学系 ……ＲＤ
電子・機械工学系 ……ＲＴ
建築・都市環境学系 ……ＲＧ

4．東武東上線のストライキおよび自然災害などによる授業の取り扱いについて

東武東上線がストライキで運休した場合の授業の取り扱いは、次のとおりです。

（1） 午前 6 時のＮＨＫニュースにおいて運休の場合は、午前中の授業は休講。

（2） 午前 9 時のＮＨＫニュースにおいて運休の場合は、午後の授業も休講（終日休講）。

なお、地震、台風などの自然災害により不測の事態が発生した場合の取り扱いは、そのつど指示します。

5．呼び出し、連絡、照会について

家族・知人などから大学へ、電話による学生の呼び出しを依頼されることがありますが、大学では、学生の居場所については明確に把握しかねますので、呼び出しには応じていません。あらかじめ承知しておいてください。

また、電話による学生の住所、成績などの問い合わせにも一切応じないことになっています。

6．通学定期乗車券について

通学のために電車・バス等を利用する場合の通学定期乗車券の購入方法は、次のとおりです。

ＪＲ・私鉄の場合

通学途中の主要駅で、駅備付の「通学定期乗車券購入申込書」に記入して、学生証を添えて駅窓口に提出すれば購入できます。

バスその他の場合

バス会社によっては大学の通学証明書を必要とする場合があります。その場合には学生厚生担当で証明書を発行しますので申し込んでください。（P 198参照）

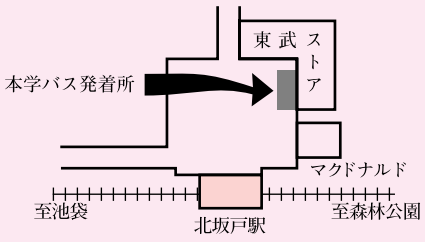
7．スクールバスについて

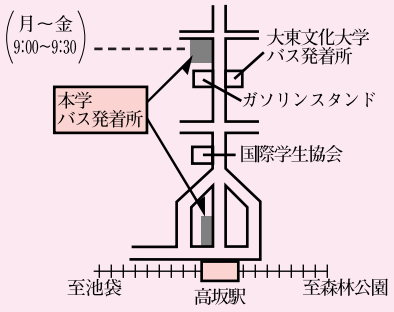
東武東上線高坂駅・北坂戸駅～大学間に、平日・土曜のみ授業時間にあわせてスクールバスを運行しています。運行時刻は大学本館前バス停、高坂駅・北坂戸駅の発着場所に掲示されています。なお、北坂戸駅発着のスクールバスは便数が少ないため、高坂駅発着のスクールバスを利用してください。

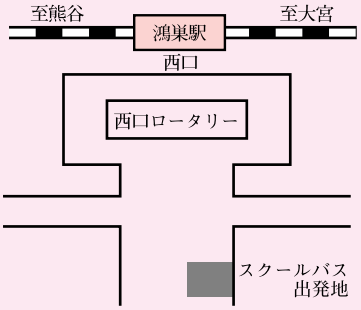
また、ＪＲ熊谷駅・鴻巣駅～大学間にもスクールバスを運行しています。（原則的に熊谷便は平日・土曜、鴻巣便は授業期間の平日のみ）ただし便数が少ないため、運行時間には注意して下さい。（時刻の変更等については掲示をよく確認すること。）熊谷便・鴻巣便のスクールバスは、道路事情や天候により所要時間や時刻が大幅に変わる場合があるので、利用する学生はその点をよく了解の上、利用してください。

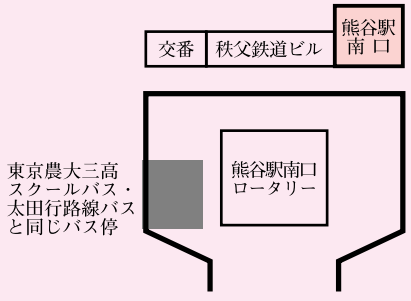
運行時間帯：高坂駅発　8：30頃～大学発　21：30頃

日曜・祝日は運行しておりません。









スクールバスの他、高坂駅からの路線バスも大学まで乗り入れています。通常の路線バスですので有料ですが、スクールバスの運行がない日曜・祝日も運行されています。

運行時間帯　：高坂駅発 6 ：30頃～大学発22：50頃（平日）
土・日・祝日は始発が遅くなり、終発が早くなります。
詳しくは路線バスのバス停で時刻表を確認してください。

運　　賃　：片道￥200

8．車両通学は許可制です

本学では車両通学許可証の発行を受けていない者の車両による通学は一切認めていません。車両での通学を希望する場合は、年 2 回行われる「安全運転講習会」を受講し、車両通学願を学生厚生担当に提出して許可を受けてください。

なお、車両通学願には保証人と連名の車両通学届、該当車両の任意保険の写しと、免許証の写しが必要です。

9．許可条件

1．公共の交通機関を利用しての通学が困難な者
2．運転免許取得後 6 ヶ月以上経過している者
3．道路運送車両法による12ヶ月定期点検整備の適用を受けられる者
4．自動車損害賠償責任および次の自動車任意保険の適用を受けられる者

	対人賠償	対物賠償	搭乗者賠償
四　　輪	7,000万円以上	100万円以上	500万円以上
自動二輪	5,000万円以上	100万円以上	200万円以上

10. 駐車許可証と駐車場

車両通学を許可した者に対しては、駐車許可証を発行します。駐車許可証は、四輪車の場合には常にダッシュボード上に提示し、自動二輪・原付の場合には常に携帯していなければ

なりません。

学生用駐車場は第一、第二、第三駐車場です。それ以外の場所に駐車する事は社会の一員として行なってはいけません。特に来客用駐車場は来訪者にも不自由をかけますので絶対に駐車しないで下さい。

11. 違反者の処置

無許可で車両通学をした場合および車両通学者が道路交通法等の関係法令および学内諸規定に違反し、大学の指示に従わない時は、学則第50条に則り退学を含む厳しい処置を行います。

12. 車両通学は安全運転を心がけましょう

電車やバスなど公共交通機関を利用しての通学が困難な場合には車両通学を認めています。しかしながら、ここ数年、車両事故による残念な報告が後を断ちません。

みなさんは、学友が通学中に尊い生命を失ったり、重傷を負い長期間学業を中断せざるをえなくなったり、また、周囲の方々にも多大な迷惑をかけた例を繰りかえしてはなりません。

できるだけ車両通学をひかえて電車やスクールバスを利用するようにしてください。

13. 自動車・バイク・自転車は指定の置き場に

自動車・バイク・自転車などの車両は必ず学生駐車場（第一・第二・第三・体育館前）・駐輪場に駐車してください。また、バイク・自転車は盗難防止のため錠前をつけるなど各自で防犯対策をとりましょう。

学生駐車場・駐輪場以外の場所に駐車した場合には規則によって罰せられますので注意してください。

14. 無届けの「掲示」「印刷物の配布」は禁止しています

学内での連絡、呼びかけ（クラブ・サークル勧誘を含む）の掲示や印刷物の配布は、許可を得なければなりません。意見、主張などを書いたパンフレット、ビラなどを配布したい場合も同じ取扱いとなりますので、必ず事前に学生厚生担当に届けてください。

15. 良識をもって行動しましょう

・授業中の私語、居眠り
・授業中の携帯電話・PHS等の使用
・カンニング・レポートの丸写し
・遅刻、早退
・ゴミ、空カン、タバコの投げ捨て

これらの行動は、クラスメイトのみならず教職員に多大な迷惑をかけ、社会的マナーにも反することですので各々が自分の行動を振り返り、良識のある行動をとってください。

16. キャンパス内は禁煙です

指定の喫煙場所以外では禁煙です。**灰皿の設置されていない場所や歩行中の喫煙は厳禁です**。医学上喫煙は有害であることがわかっていますので、健康管理のうえでも喫煙は控えましょう。

17. 物を大切にしましょう

キャンパス内では落とし物の数が多いにもかかわらず、持ち主に引き取られるのは約半数に過ぎません。学生証や財布など貴重品は別ですが、教科書や学用品はなかなか持ち主が現れないのが実状です。これらの落とし物は、学生厚生担当で保管していますので、気が付いたときは速やかに申し出てください。また、落とし物を拾ったときにも学生厚生担当に届け出てください。自分の持ち物に記名することを習慣づけ、物を大切にする気持ちを養ってください。

なお、落とし物の保管等は次のとおりです。
持ち主不明の物▶事務室前ロビーの陳列棚の中
持ち主が明らかな物▶掲示にて呼び出し
現金等貴重品▶学生厚生担当にて保管

気をつけて欲しいこと

１．盗難に注意

大学キャンパスは公共的色彩の強い施設であり、現にキャンパス内には公道が通っています。学外者の出入りも比較的頻繁であり、盗難事件の発生が懸念されますので、各自所持品は常に身近に携帯するよう心掛けて下さい。

特に校舎や体育館のロッカーに貴重品や高価な物を留め置くことは絶対に止めてください。各自で利用するロッカーには鍵式の錠前をつけるなどして、防犯対策をとるようにして下さい。もし盗難にあった場合には速やかに学生厚生担当に申し出てください。特にキャッシュカードなどを紛失した場合には、カード発行元への連絡も忘れないでください。貴重品の所持には、くれぐれも注意を払ってください。

また、バイクや自転車を学内の駐輪場にとめる際には、錠前をつけるなど各自で盗難防止対策をとるようにして下さい。

２．「金融ローン」の利用は注意してください

「学生証だけで低利融資します」と言うこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりではなく、両親にまで迷惑をおよぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などによく相談してください。

３．悪徳商法に注意してください

路上で「アンケートに協力して」と言って声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、英会話カセットなど学習用教材の割賦販売、換気扇のフィルター販売などでもトラブルが多発しています。これらは、「海外留学の特典がある」などの甘い誘いや、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、相手がどのような者か

しっかり確認し、その内容について時間をおいて十分に検討したうえで判断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

なお、解約に関しては無条件で解約できる**「クーリング・オフ制度」**があることも知っておいてください。（契約書や領収書は解約の際必要になる場合があるので、必ず保管して下さい。）

このほか悪徳商法には次のようなものがありますので、おかしいと思ったら、まずはっきりと断ってください。

マルチ（連鎖販売取引）商法

「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的、強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となりますので、こうした商法に関与しないよう充分注意してください。

点 検 商 法

「消防署から点検にきました」などと公的機関の職員の身分をかたり消火器などの商品を売りつける商法です。他に布団、換気扇フィルターなどの点検商法も多発しています。

アポイントメント商法

「あなたが選ばれました」と言う電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。

資格取得（ 士（さむらい） ）商法

講座を受けるだけで「〇〇資格が取れます。」と言う手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。

クーリング・オフについて

クーリング・オフとは違約金を払わずに無条件解約のできる制度のことです。

クーリングオフの期間は、訪 問 販 売……８日間
電 話 勧 誘……８日間
マルチ商法……20日間
特定継続的役務……８日間
いわゆるエステティックサロン
いわゆる語学教室
いわゆる家庭教師
いわゆる学習塾

通知の方法は、口頭ではなく文書を内容証明郵便または簡易書留郵便で送付してください。

第２章

学修活動について

理工学部で学ぶ学生諸君へ

理工学部のカリキュラムは、皆さんが、４年間これに従って勉学するために、科学技術の基礎を系統立てて学べるように構成されています。

また、卒業後に優れた科学技術者となり、さらには社会で指導的な立場を担うようになれば、幅の広い人間性が求められてくるでしょう。優れた科学技術者もまずはひとりの人間として優れていなければなりません。そのためにも、人文・社会科学の科目や、これからの国際社会を担う人材となるための語学にも、時間をとって勉強することが必要です。したがって、“幅広く、より専門的に”を心がけて学習することが重要です。

本学部では大学自身の特色を出したカリキュラムを編成しています。今までの教育・研究の実績をもとに、さらには、今後の科学技術の動向、社会からの要望をも考慮し、以下のようなカリキュラムになっています。

ガイダンス・教員のオフィスアワー・学習サポートセンター等（P210参照）を積極的に利用して各自で目標をさだめて履修計画をたてて下さい。

1．卒業単位数を１２４単位としています。
2．ほとんどの科目が、半期科目であり、必修科目を少なくしてあります。
3．開講科目の科目名称においては、時代と授業内容にあった科目名称となっています。
4．単位数の計算方法が、学習の負担に応じたものとなっています。
5．人間形成科目・英語科目・学部共通科目・学系共通科目・コース専門科目に関係なく、自由に履修できる単位を20単位設けてあります。
6．学部共通科目群では理工学部において体系的、段階的な勉学を可能にする最も基礎となる入門的知識と技法、さらに基礎知識修得のため、基礎教育科目を特に充実させています。
7．高精細映像システムを幅広く活用した授業を開講しています。

このように、皆さんの履修に関する自由度を大幅に認める一方で、皆さんが履修計画をたてやすいように、「履修モデル」を作成し公表しています。

この章は、学修に関する事項を集中的に掲載しています。履修に関する注意事項や進級・卒業の条件、科目配当表（科目名・単位数・配当学年・配当期・担当者・履修条件等）が掲載されています。これらは、「履修モデル」や「授業時間割」とともに履修計画をたてる際には、非常に重要ですので、熟読してから計画を作成して下さい。今年度はオリエンテーションにて、教務担当ガイダンス、共通教育群ガイダンス、また、各学系のガイダンスを予定しています。詳しくは掲示を確認して下さい。

また、もっと詳しい授業計画（シラバス）を知りたい場合は、インターネットを利用したオンラインシラバスで知ることができます。（P 42参照）

また、教員免許を取得するための教職課程については、第 3 章で説明してあります。

さらに理工学部には、より高度な学習を学部に引き続き行えるように、大学院理工学研究科が併設されており、修士課程さらには先端科学技術研究科博士課程（後期）に進むことができます。

最近社会からは、理工系の科学者・技術者には大学院修了程度の知識を求められることもあり、進学者も年々増加しています。よりハイレベルな科学技術の知識修得を目指すことを期待しています。

彩の国大学コンソーシアム

本学は平成13年10月15日に埼玉県の私立大学17大学において彩の国大学コンソーシアムという協定を結びました。この中では単位互換・公開講座を平成14年度より実施しており、今後は大学同士協力しあい教育活動・研究活動・学生交流等を行っていく予定です。詳細については掲示でお知らせしますので掲示板を確認してください。（単位互換はP 35参照）

協定大学

跡見学園女子大学・埼玉医科大学・埼玉工業大学・十文字学園女子大学・城西大学・尚美学園大学・女子栄養大学・駿河台大学・西武文理大学・大東文化大学・東京家政大学・東京国際大学・東邦音楽大学・東洋大学・文京学院大学・明海大学・立正大学

ホームページ：http：//www. saicon. jp/

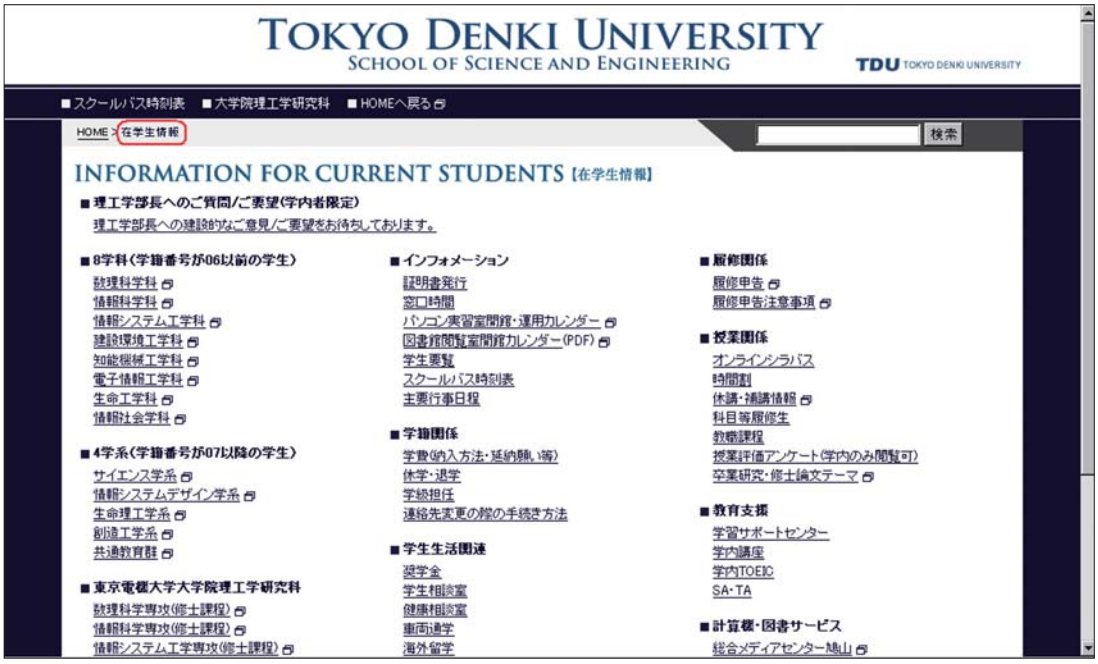
ホームページ

理工学部のホームページ内にある在学生のページでは、履修・授業関係、学生生活関係、図書・情報サービス等に関する連絡事項等を掲載しております。

但し、各種の連絡事項は、学内の掲示板での確認も必ず行ってください。

アドレス：http：//www. cse. dendai. ac. jp/**（東京電機大学理工学部）**

http：//www. cse. dendai. ac. jp/students/**（理工学部在学生のページ）**



※デザインや項目は変更される可能性がありますのでご了承下さい。

授　業　科　目

1．授業科目

大学での学修は、授業科目の履修を中心に行われます。授業には講義だけではなく、演習や実験・実習・実技・製図などの形態があります。そのひとつひとつに、内容にふさわしい名称がつけられています。これらを**授業科目**といいます。

この授業科目は、１年次からそれぞれ定められた学年次に配当され、その全体を**教育課程（カリキュラム）**といいます。

理工学部の教育課程には、**共通教育科目・専門教育科目・教職に関する科目**があり、特に専門教育科目は、その学系・コースによって当然異なっており、それぞれの分野が特色づけられています。

科目名の最後についているⅠ・Ⅱ、Ａ・Ｂとは何を表しているのか？

Ⅰ・Ⅱというのは、Ⅰを履修してからⅡを学ぶことを原則として開講されている科目です。

Ａ・Ｂというのは、ほとんどの学生に対してＡを履修してからＢを学ぶほうが望ましいという科目です。

いずれも半期制の科目ではありますが、通年科目のつもりで履修計画を立ててください。

2．授業科目の区分

授業科目は、教育課程の構成上次のように区分されています。

共通教育科目	人間形成科目群	新人教育科目 概論科目 主題科目 教養ゼミ 第二外国語 保健体育
	英語科目群	英語科目 英語研修
専門教育科目	学部共通科目群	基礎 数学 物理学 化学 生物 地学 情報 工学
	学系共通科目群	
	コース専門科目群	
教職に関する科目	教職課程科目群	教職に関する専門科目

人間形成科目群は、社会共同体の一員としての基礎的教養を身につけ、人間および人間社会に対する広い視野と柔軟な思考力を養うために開講されています。将来社会に出て各方面で活躍するときは、専門分野についての学力のほかに、正しい人生観・社会観をこれによって培っておくことが必要です。科目分野ごとの目的・内容については、履修モデルを参照して下さい。

英語科目群には集中講義として、アメリカのアイオワ大学、コロラド大学、オーストラリアのシドニー大学等での海外英語研修も開催されています。また、TOEFL・TOEIC での高得点及び英検等の資格を取得することに力をいれています。

学部共通科目群は、本理工学部で勉学を開始する際に必要な入門的知識と基礎知識を会得でき、特色ある教育の一貫としての基礎科目や数学、物理学、化学、生物、地学、情報、工学の科目が開講されています。

専門教育科目群は、専門の職業人を育成するために、それぞれの専門知識を身につけ、その原理と応用を把握することを目的としています。各学系に配当された専門の授業科目は、学系・コースの個性に応じ、上記の目的に適合すべく設けられています。

教職課程科目群は、将来高校または中学校の教育職員になるための教職課程が設けられていますが、これについては後記教職課程の項に詳しく記載されていますので、熟読して間違いのないように履修計画をたてて下さい。（Ｐ166参照）

３．必修科目・選択科目・自由科目（必選区分）

授業科目は、その履修が義務づけられているかどうかにより、必修科目と選択科目および自由科目に分かれます。

必修科目は、履修が義務づけられている科目であり、卒業するためには、必ずその単位を取得しなければなりません。卒業研究は、４年間の学習の総決算であり、各人の卒業後の進路をも決定する重要なものであることから必修となっています。

選択科目は、各人の意思により選択履修する科目です。しかし、卒業・進級時の条件では、選択科目の比重がかなり高いので、おろそかにはできない科目です。また、各学系ごとの「進級条件」や「履修モデル」を考慮して履修しなければなりません。

自由科目は、この科目を履修する事によりその科目の単位は与えられますが、進級・卒業所要単位数には算入されない科目です。本学部では、教職関係科目（「生徒指導論」、「道徳教育論」他Ｐ175参照）の一部がその対象になっています。

４．授業時限数と形態

授業科目の開講される期間（配当期）により、次のように分けられます。

通年科目は、１年間３０週にわたって開講される科目で、原則として、前学期末および後学期末に学期末試験が行われます。

前期科目は、前学期の半年間１５週にわたって開講される科目で、原則として前学期末に学期末試験が行われます。

後期科目は、後学期の半年間１５週にわたって開講される科目で、原則として後学期末に学期末試験が行われます。

４半期（前前期、前後期、後前期、後後期）科目は１／４年間7.5週にわたって開講される科目で、原則としてそれぞれの学期末に学期末試験が行われます。学期の開始と終了日は主要行事日程で確認して下さい。

集中講義は、授業形態が曜日・時限が定期的でなく特別な期間に集中して行うものです。学期末試験はその期間の終りに行ないます。

毎年のカレンダーや休講等により決められた期間を確保できない場合は、別に期日を定め

補講授業を行うことになります。

授業は、その形態により、次のように分けられます。

講義科目は、教室内で、教員が学問を伝える形態の授業科目です。

演習科目は、教室内で、学生が問題を解いたり外国語を日本語に訳したりし、教員がこれに講評を加える形態で行われる授業科目です。

実験・製図・実習科目は、実験室内や製図室で与えれたテーマにつき実験を行ったり、図面をひいたり外国語の実習をする授業科目です。本学部では、その立地条件上実験器具の取扱いや、薬品の処理などに制約があるので、実験担当教員の注意をよく守ることが必要です。

実技科目は、運動場等で体育を実践する授業科目です。

5．単位数

各授業科目には、それぞれ単位数が割り当てられています。単位数は、授業の形態ごとに、単位が以下のように定められています。

講義および**独立した演習科目**については、週１コマ（90分）１５週をもって２単位です。

講義に付随した演習科目および**語学・実験・実技・製図科目**については、週１コマ（90分）１５週をもって１単位です。（講義に付随した演習科目とは、〇〇〇・同演習といった科目の演習部分を指します）

6．学年制併用単位制

単位制とは、履修した授業科目の所定の試験に合格することによってその授業科目に与えられている単位を取得し、その単位が一定の数に達することによって、学士の学位が与えられる（卒業する）制度です。

学年制とは、学年次ごとにその学年次に配当されている科目の成績を総合的に判断して、それによって上級学年次への進級および卒業を認めるという制度です。

本学部では、上記単位制及び学年制の併用型である、**学年制併用単位制**を採っています。

7．授業科目の配当

各授業科目には、開講される学年と学期があらかじめ決められていて、たとえば、１年次生は１年次に配当されている授業科目を履修することになっています。２年次になれば２年次に配当されている授業科目に加え、自己の学年次より下級年次に配当された授業科目を履修することになります。授業科目は、無秩序に履修するものではなく、特に理学・工学の分野は、これを理解していくための一定の順序を踏むことが、どうしても必要になります。

授業科目は、それに付随した単位数、必修選択の別、配当学年、配当期、配当コマ数、担

当教員名とともに、**授業科目配当表**に記載されています。

授業科目の配当をはじめ、試験・成績・進級・卒業・学籍異動等在学中に必要なことがらは学則にもとづいて行われています。学則に改正があったときは、改正された年度以降の新入生に対して適用されるのが原則ですが、部分的に、２年次以上の在学生にも適用されることもありますので、注意して下さい。

特に留年した場合は、留年した学年次のカリキュラムが適用されることになります。

（Ｐ65参照）

授　　業

1．学期と学年

授業は一定の期間継続して行われますが、その期間に、学年と学期があります。

学年　　4月1日から翌年3月31日

学年は、次の2学期に分けられます。

前学期・・・・・4月1日から9月15日まで

後学期・・・・・9月16日から3月31日まで

2．授業時間割

授業は、週単位で決められた**授業時間割**に従って行われます。

(1) 種類

授業時間割には「共通教育・教職科目時間割」「学部共通科目時間割」「学系配当時間割」の3種類があります。

冊子体（紙）とホームページ上からダウンロード可能なexcel形式ファイルの2通りで配布いたします。

「共通教育・教職科目時間割」（全学系共通）

人間形成科目群・英語科目群・教職課程科目群が記載されております。なお、特定の学系の学生の履修を優先する科目については、準学系指定の科目として記載されております。

「学部共通科目時間割」（全学系共通）

学部共通科目群が記載されています。なお、一部準学系指定の科目も記載されております。

「学系配当時間割」

学系共通科目群およびコース専門科目群が記載されております。

(2) 内容と注意

①授業時間割には、科目名・担当教員名・教室番号が曜日・時限・配当期ごとに記載されています。

②3種類の時間割表をあわせて、その年度に履修できる全ての科目を網羅することになりますが、原則として同一曜日・同一時限の科目を重複して履修することはできませんので注意してください。

③同一配当期に同一科目が複数開講されている場合でも、同一科目を同時に複数履修することはできません。

④時間割に学年・学系の記載がある科目を準学系指定の科目（例：基礎線形代数学）といいます。準学系指定の科目は記載されている学生が優先して履修できますが、その他の学生も人数に余裕がある場合は履修することができます。

⑤体育Ⅰ～Ⅵについては、総じて体育（科目名）というように時間割表に記載されています。なお、これらの科目の履修方法については、P58を参照して下さい。

⑥日本語リテラシー（就職対策）は、日本語リテラシーと同一科目の扱いですので両方を履修する事はできませんので注意して下さい。

⑦集中講義科目については時間割表の備考欄に記載してあります。

3．授業時間

授業時間は次のように定められています。

時間	1 時限	休憩	2 時限	休憩	3 時限	休憩	4 時限	休憩	5 時限	休憩	6 時限
時間	9 ：30 ～ 11：00	10 分	11：10 ～ 12：40	50 分	13：30 ～ 15：00	10 分	15：10 ～ 16：40	10 分	16：50 ～ 18：20	10 分	18：30 ～ 20：00

※他キャンパスとの遠隔講義等においては、上記とは異なる時間帯にて講義を行うことがあります。

※ 6 時限目は補講時限として、補講のみ実施することがあります。（学部の通常授業は実施しません。）

4．休　　講

次の場合、休講となります。

⑴ 学校行事を行う場合。（主要行事日程表・掲示により連絡します）

⑵ 授業科目担当教員にやむを得ない理由が生じた場合。（掲示および大学の HP・携帯用情報端末により連絡します）

⑶ 休講の掲示がなく、授業開始時間から 3 0 分を経過しても授業科目担当教員がやむを得ない理由で講義を開始できない場合。（自然休講と呼ぶ）
ただし、特別な指示により、それ以上経過しても授業を行う場合があります。

⑷ 東武東上線の事故等の場合。（P 9 参照）

⑸ 地震、台風、大雪などの自然災害により不測の事態が発生した場合。（そのつど指示します。）

5．補　　講

授業回数が不足した場合など必要に応じて、補講を行うことがあります。補講の有無は授業科目担当教員によって指示され、原則として**月～金曜日 6 時限**に行うことになっています。また、**月～金曜日 5 時限、土曜日**に、通常授業と支障がない場合に限り補講を実施する場合があります。日程は、授業中または掲示および大学の HP・携帯用情報端末により伝達します。

6．授業の欠席

病気、ケガその他やむを得ない理由で授業を欠席する場合は、教務担当窓口で欠席届の用紙を受けとり、必要事項を記入し、診断書等欠席を証明出来る物等を添えて提出してください。（P202参照）公欠制度はありません。届出に対して大学（科目担当教員等）が判断を行ないます。

7．授業等のガイダンス

授業科目のガイダンスは、授業開始前あるいは開始時に行われますので、必ず出席して下さい。特に、実験・演習・実技等については、グループ分け等の説明がある場合が多いので、出席しないと履修に支障が出る場合があります。

8．テストによるクラス分け

学年末や学年始めにテストを行い、授業科目のクラス分けを行う科目があります。

	クラス分けする授業科目名	テストの実施時期
英語	英語ⅠＡ・Ｂ 英語ⅡＡ・Ｂ	平成21年 4 月初
	英語ⅢＡ・Ｂ 英語ⅣＡ・Ｂ	平成22年 1 月末
	英語ＶＡ・Ｂ	平成23年 1 月末
数学	数学基礎	平成21年 4 月初
化学	化学基礎	平成21年 4 月初
物理	物理学基礎	平成21年 4 月初

これらの授業を受けるには、年度始めや年度末に行うテストを受けなければなりません。詳しいことは、入学時のガイダンス及び掲示を確認してください。

9．提出物期限の厳守

履修申告・レポート・製図その他の提出物には、必ず期限が定められています。期限を守らないと成績評価を受けられないことになりますので、期限・提出場所は厳守するように注意して下さい。

本館１階事務室内にある教務担当レポートBOXは、期限になったら撤去します。撤去後の扱いは行なっていませんのでご了承下さい。

10. e-Campus 科目

東京電機大学の４学部（理工学部・工学部・情報環境学部・未来科学部）では、平成18年度より遠隔授業を行なっています。遠隔授業で行なう科目は以下の科目です。今までに記載してきた授業形態とは異なる所もありますが、積極的に履修をしてください。

科目名	担当者名	単位数	配当期	主催学部	科目区分	配当学年
「日本経済入門」*１	阿部　一知	2	前期 後期	工　学　部	共通教育科目	１年次
「曲線・曲面論」	田澤　義彦	2	前期	理工学部	専門科目群	３年次
「ｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ基盤とｾｷｭﾘﾃｨ」*１	佐々木良一	2	前期	工　学　部	専門科目群	４年次
「アルゴリズミックデザイン」*１	朝山秀一	2	前期	工　学　部	専門教育科目	３年次
「東京電機大学で学ぶ」	大江正比古	1	前期	全　学　部	人間形成科目群 （理工学部）	１年次
「ロボティクス」	石川　　潤	2	前期	理工学部	専門科目群	２年次
「生物科学」	栗山　　昭	2	後期	理工学部	学部共通科目群	１年次

＊１　他学部履修になります。
＊２　授業時間は、別途時間割表で確認ください。その際、他キャンパスにて履修者がいない場合、授業時間の変更になる場合があります。詳細は、掲示にてお知らせいたします。
＊３　その他変更等のお知らせは適宜掲示にて行います。

再　履　修

1．再履修

履修した授業科目の単位が取得できなかったときに、もう一度その科目を履修からやり直すことを、**再履修**といいます。

2．再履修上の注意

⑴ 必修科目の単位を取得できなかったときは、必ず再履修しなければなりません。

⑵ 選択科目の単位を取得できなかったときに、再履修するかしないかは、各自の意思にまかせられますが、その際、履修基準、進級条件、履修モデルに充分注意して下さい。

⑶ 再履修科目名等科目配当条件に変更があった場合は、年度始めのガイダンスや掲示を参考にして、単位未取得科目に対応する授業科目を理解し、誤りのないよう再履修して下さい。

⑷ 再履修科目の担当教員が前年度と変更になった場合は、再履修年度の担当教員のもとで再履修しなければなりません。

⑸ 授業時間割は前年と同時限に配置されるとは限りません。

⑹ 再履修科目の履修申告・受講・試験等については、新規履修の場合と同様です。

単　位　認　定

1．入学前に取得した単位の認定

⑴ 編入学（転入学・再入学・転学系・転学部含む）の場合

編入学前に、大学・短期大学・高等専門学校・専修学校等で取得した成績を、本学で取得したものとして認定の対象科目とすることができ（高等専門学校での科目は、原則として４・５年次の科目に限ります。）、単位は進級・卒業条件へ算入することができます。

編入学の科目認定方法は**“科目対応認定”**で行います。取得している科目を本学部もしくは所属学系に対応する科目に振り替える方法です。卒業要件、進級条件は正規入学の学生と同じになります。

２・３年次への編入学の認定は必要に応じて**“包括単位認定”**を行うことがあります。認定単位数合計は原則として２年次編入学者に対しては36単位以上、３年次編入学者に対しては68単位以上となっています。

なお、単位認定を行うことにより、進級・卒業条件が他の学生とは異なる場合がありますので注意してください。

詳しくは、教務担当窓口にて確認してください。

⑵ 新入学者の場合

入学前に、大学、短期大学、高専等で取得した科目・単位のうち、本学部の科目・単位に相当するものを、教育上有益と認めた場合には本学で取得したものとして認定します。

この場合の単位認定については入学後他学系、他学部、他大学等で取得した単位を合わせて最高６０単位までです。

認定希望者は、「単位認定申請書」に、入学前の最終成績証明書及び講義要目を添付して、期日までに教務担当へ申し出て下さい。４月上旬に掲示にて提出期限等をお知らせします。

2．本学部の指定する資格

次頁に記載されている資格取得者に対して本学の科目を認定することができます。資格による科目の認定を希望する者は、教務担当へ申し出て下さい。

なお、この認定の注意事項は次のとおりです。

①資格による認定の際は、該当科目を履修申告する必要はありません。

②該当科目を履修中の場合は履修を取り消すこととなります。

③既に単位取得済みの科目については認定することが出来ません。

④履修上限単位数には加算されません。

⑤該当科目が現学年より上級年次の配当であっても、成績表には表記され、進級条件にも加算することができます。

⑥単位認定は、一つの資格に対して共通科目と専門科目の両方が対応している場合は、希望によりどちらか一方を認定します。

⑦専門科目の対応については、所属学系の科目のみとし、他の学系の科目は認定しません。

資格と認定科目

学系・群	資格名称	科目名	学年	単位数
共通教育	実用英語技能検定（２級）または ＴＯＥＩＣ510点以上	英語ⅠＡ	1	1
		英語ⅡＡ	1	1
	実用英語技能検定（準１級）または ＴＯＥＩＣ730点以上	英語ⅠＡ	1	1
		英語ⅡＡ	1	1
		英語ⅠＢ	1	1
		英語ⅡＢ	1	1
	実用英語技能検定（１級）または ＴＯＥＩＣ850点以上	英語ⅠＡ	1	1
		英語ⅡＡ	1	1
		英語ⅠＢ	1	1
		英語ⅡＢ	1	1
		英語ⅢＡ	2	1
		英語ⅣＡ	2	1
	ドイツ語技能検定（４級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
	ドイツ語技能検定（３級）	ドイツ語入門Ⅰ	全	1
		ドイツ語入門Ⅱ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅰ	全	1
		基礎ドイツ語Ⅱ	全	1
		初級ドイツ語Ⅰ	全	1
		初級ドイツ語Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（４級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
	実用フランス語技能検定（３級）	フランス語入門Ⅰ	全	1
		フランス語入門Ⅱ	全	1
		基礎フランス語	全	1
		初級フランス語	全	1
	ＩＴパスポート （旧名：初級システムアドミニストレータ）	情報処理Ａ	1	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	情報処理Ａ	1	2
		情報処理Ｂ	1	2
	応用情報技術者 （旧名：ソフトウェア開発技術者） （旧名：第１種情報処理技術者）	情報処理Ａ	1	2
		情報処理Ｂ	1	2

学系・群	資格名称	科目名	学年	単位数
理学系	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	数理プログラミング	1	2
	応用情報技術者 （旧名：ソフトウェア開発技術者） （旧名：第１種情報処理技術者）	数理プログラミング	1	2
		数理情報学演習Ⅲ	3	2
生命理工学系	－	－	－	－
情報システムデザイン学系	応用情報技術者 （旧名：ソフトウェア開発技術者） （旧名：第１種情報処理技術者）	ISDプログラミングⅠ・同演習	1	3
		ISDプログラミングⅡ・同演習	2	3
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	ISDプログラミングⅠ・同演習	1	3
	ＣＧエンジニア検定ＣＧ部門２級 （旧名：ＣＧ検定２級）	コンピュータグラフィックスⅠ	2	2
		コンピュータグラフィックスⅡ	2	2
	ＣＧエンジニア検定ＣＧ部門３級 （旧名：ＣＧ検定３級）	コンピュータグラフィックスⅠ	2	2
	マルチメディア検定２級	インタラクティブデザイン論	3	2
	カラーコーディネーター検定２級	色彩論	2	2
	色彩検定２級	色彩論	2	2
電子・機械工学系	電気主任技術者（第１・２・３種）	電気回路	1	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	実用プログラミングＡ	2	2
		コンピュータ工学Ⅰ	2	2
	電気主任技術者	電気電子回路Ａ・演習	2	3
	応用情報技術者 （旧名：ソフトウェア開発技術者） （旧名：第１種情報処理技術者）	コンピュータ工学Ⅰ	2	2
		コンピュータ工学Ⅱ	2	2
建築・都市環境学系	ＣＡＤ利用技術者試験１級	建築都市デザイン演習Ⅰ	1	3
	測量士	測量学・演習	2	3
		測量実習	2	2
	測量士補	測量実習	2	2
	基本情報技術者 （旧名：第２種情報処理技術者）	プログラミング演習	2	2

他大学・他学部・他学系履修

以下の制度を利用し科目の履修を行なう場合の注意点は、原則として、自己が所属する学系において開講されていない科目のみが対象ということです。但し、項目の ”5．他学部科目の履修”においては、自己が所属する学系において開講している科目であっても必要な手続きを取り認められた場合においては可能となります。

履修時期や方法も各協定により異なっていますので掲示をよく見て決められた期間内に履修申告をして下さい。

1．東京理工系 4 大学の単位互換について

東京電機大学・工学院大学・芝浦工業大学・東京都市大学（旧名：武蔵工業大学）の 4 大学間において、単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、上記の本学を除く他の 3 大学の科目を履修することが出来ます。

2．東洋大学との単位互換について

本学部は東洋大学と単位互換の協定を締結しています。これにより希望者は特別科目等履修生として、東洋大学の科目を履修することが出来ます。

3．彩の国大学コンソーシアムについて

本学部では、埼玉県に所在する17大学と「彩の国大学コンソーシアム」という協定を結んでおり、その中で以下の 9 大学と単位互換協定を行っています。

跡見学園女子大学、十文字学園女子大学、城西大学、尚美学園大学、駿河台大学、
西武文理大学、大東文化大学、東京家政大学、文京学院大学

4．山村学園短期大学との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

本学部では山村学園短期大学との間に単位互換協定を結んでいます。本協定により、希望者は特別科目等履修生として、山村学園短期大学の科目を履修することができます。

5．他学部科目の履修

未来科学部・工学部・工学部第一部・工学部第二部・情報環境学部科目の履修を希望する学生は、本人の所属する学系長、または専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得れば履修することが出来ます。

6．他学系・他コース科目の履修

自分が所属していない学系の学系共通科目（副コースを他学系から選択した場合の副コース学系共通科目を除く）、および選択していないコースのコース専門科目を履修することを他学系・他コース科目履修といいます。

他学系・他コース科目履修は、①選択した主・副コースの学系が同じ場合と、②主・副コースの学系が違う場合で、対象となる科目の範囲が異なります。

他学系・他コース科目履修の科目範囲

①主・副コースが同じ学系の場合

- 他学系の科目
- 所属学系配当科目のうち、選択しないコースのコース専門科目

②主・副コースが違う学系の場合

- 主・副コース以外の学系の科目
- 所属学系配当科目のうち、選択しないコースのコース専門科目
- 副コース学系の選択しないコースのコース専門科目

他学系・他コース科目履修による単位算入区分は、「自主選択科目」となります。

この科目履修を行う際の履修手続きについては、別途掲示等にて連絡します。

7．他学部・他大学科目の履修手続

1～5に記載した、他学部・他大学科目履修を希望する学生は、所属する学系長または専任教員の承認を得た上で、授業担当教員の承認を得ることが必要です。

これらの履修を行う際に許可をもらう人、修得した単位の扱い、履修費等については、次頁の表を確認してください。

	許可をもらう人	修得した単位の扱い	履　修　費
東京理工系４大学	所属する学系長	専門科目群※	無　料
東洋大学	所属する学系長	専門科目群※	無　料
彩の国大学コンソーシアム	所属する学系長	専門科目群※、または人間形成科目群	１大学2,000円
山村学園短期大学	所属する学系長	人間形成科目群	１単位500円
他学部科目	所属する学系長または専任教員、科目担当教員	専門科目群※、または人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群	無　料

※　卒業所要単位数には専門選択科目として算入されます。

また、履修するにあたっては次の点に注意して下さい。

(1)　既に取得した科目や履修中の科目と内容の重複する科目は認められません。

(2)　自分の所属する学年または原則として下級年次配当の科目でなければなりません。

(3)　自学系の授業内容及び時限と重複しないように気をつけて下さい。特に他大学、他学部の科目を履修する場合は、移動時間を含め、本学部の授業と重複しないように注意して下さい。

他大学・他学部・他学系で取得した単位について

編入学・転入学をのぞき、他大学・他学部・他学系等において取得した単位については、卒業所要単位として算入出きる単位数は入学前の既取得単位等と合せて60単位を超えることは出来ない。

履　修　基　準

1．履修基準

入学してから卒業するまでに必ず修得しなければならない単位数の定めを、履修基準といい、科目区分ごとに次の通り決められています。

区　　分		単　位　数
共通教育科目	人　間　形　成　科　目　群	１６単位
	英　　語　　科　　目　　群	８単位
専門教育科目	学　部　共　通　科　目　群	１４単位
	学　系　共　通　科　目　群	６６単位　※
	コ　ー　ス　専　門　科　目　群	
自　主　選　択　科　目		２０単位
合　　計		１２４単位

※学系共通科目群及びコース専門科目群における「66単位」の内訳は以下のとおりである。

主コース・副コース履修形態	コース	学系共通科目群	コース科目群		合計
			コース専門	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	
同じ学系から副コースをとる場合	主コース	36単位	16単位	6 単位	66単位
	副コース		8 単位		
異なった学系から副コースをとる場合	主コース	26単位	16単位	6 単位	66単位
	副コース	14単位	4 単位		

☆　必修科目の単位の全部を履修し、修得しなければならない。

☆　自主選択科目については、任意に選択し（自由科目を除く）、修得した科目とする。

2．卒業するための最低取得単位数

A．共通教育科目

(1)　人間形成科目群

人間形成科目（新人教育科目・概論科目・主題科目・教養ゼミ・第二外国語・保健体育）の中から最低16単位以上取得しなければなりません。

(2)　英語科目群

英語科目から最低 8 単位以上取得しなければなりません。

B．専門教育科目

(1)　学部共通科目群

学部共通科目群（基礎・数学・物理学・化学・生物・地学・情報・工学）から最低14単位以上取得しなければなりません。

(2)　学系共通科目群・コース専門科目群

所属する学系および選択する主・副コースに関連した「学系共通科目」および「コース専門科目」から必修科目の単位数を含めて、最低66単位以上取得しなければなりません。なお前頁の表にも記載されているとおり、66単位の内訳は、主・副コースの履修形態により異なりますので、注意して下さい。

(3)　自主選択科目

卒業するまでに最低２０単位以上を取得しなければなりません。「自主選択単位」を取得するには、特別な授業科目を履修するのではなく、前述のA(1)～B(2)のそれぞれの最低取得単位を超えた単位数が自動的にこの自主選択単位となります。したがって「自主選択単位」として履修できるのは、必修科目と自由科目を除く全ての選択科目です。

卒業するための最低取得単位数を簡単に式にすると次のようになります。

人間形成科目群		英語科目群		学部共通科目群		学系共通科目群 コース専門科目群		
16単位	＋	8 単位	＋	14単位	＋	66単位	＝	104単位

卒業所要単位数			自主選択単位
124単位	－	104単位	＝ 20単位

履修計画をたてる際には、各学系・群から示されている「履修モデル」と進級基準を念頭におき、それぞれの科目群に定められた最低取得単位数のみならず、自主選択単位数も余裕をもって取得できるよう十分注意してください。

履　修　計　画

1．履修計画の意味

その年度に授業科目を何科目・何単位、どのような順序で履修するかを計画することを「履修計画」といいます。本学では履修申告をして、「授業に出席する」ことを「授業科目を履修する」といい、また「履修申告をして授業に出席する科目」を「履修科目」と呼びます。

2．履修計画のたてかた

履修計画は各自によって異なりますが、これまでに説明した事柄をまとめると次のようになります。

(1)　各学系・共通教育群のページにある「履修モデル」を参考にして、履修科目の見通しを立てて下さい。

(2)　授業科目配当表と学期始めに配布する授業時間割表を参考にし、オンラインシラバスを読んで、授業科目の内容をつかむようにして下さい。

(3)　必修科目の履修申告を忘れないようにして下さい。

(4)　各学系で定められている、進級条件・卒業要件をクリアできるように充分考慮し、余裕をもって履修して下さい。

(5)　履修上限単位数（50単位／年）を超えないように注意して下さい。

(6)　同一曜日同一時限の科目を重複して履修することはできないので注意して下さい。

(7)　履修できる科目は自分の所属する学年または、原則として下級年次に配当された授業科目だけです。（上級年次配当科目を履修する場合はＰ41を参照して下さい。）

(8)　所属する学系以外（他大学、他学部、短期大学、大学以外の教育施設）の科目も一定の条件内で履修でき、60単位まで取得単位を、入学前の既取得単位等と合せて卒業要件に含めることができます。（Ｐ35参照）

3．履修上限について

全学年とも1年間に履修することができる単位数（履修上限単位数）は**50単位**と定められています。従って進級条件および卒業要件に注意しながら、しっかりと４年間の履修計画を立てることが必要となります。

なお、以下に該当する場合については履修上限50単位の制限を受けません。

①成績優秀者に対して、学系の判断による場合（１・４年次生は除く）

②教職課程科目

③海外英語研修・学外体育研修

④「インターンシップ」「海外事情」

⑤進級・卒業に影響する場合

⑥その他の特別な場合で、学部長の判断により認める場合

４．上級年次科目・下級年次新設科目の履修について

上級年次に配当されている科目、または下級年次カリキュラムに新設された科目（平成22年度以降入学生に対し新設された科目）は通常履修できないことになっていますが、下記の場合については履修が可能となります。

上級年次科目の評価は、当該学年次に進級した時点で、成績通知書・成績証明書等へ表記されますので、**現学年次の進級条件には含まれません。**

※３年（または3.5年）での卒業の場合、４年次配当の科目（４年次後期科目）は卒業単位に算入されませんので注意して下さい。

【上級年次科目の履修】

１）　成績優秀者において、上級年次配当の科目を履修する場合は、学生の所属する学系の承認の他定められた手続きを行い、学部長の決済を得る。

２）　各学系の別途定める基準を満たしていること。

【下級年次新設科目の履修】

１）　上級年次における開講を可能とする新設科目を、年度初めに学系・共通教育群で指定する。

２）　通常の科目と同様に履修申告を行う。

※履修方法、手続期間等の詳細については掲示を確認してください。

5．オンラインシラバスについて

オンラインシラバスとは、教員が作成する授業計画（シラバス）をインターネットを介して閲覧することができるシステムです。

シラバスには、科目名、配当学年、必選区分、単位数、目的概要、テーマ・内容、評価方法、教科書名、質問への対応（オフィスアワー）等が掲載されています。しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成すると共に、常時確認することにより確実に情報を取得して下さい。

オンラインシラバス利用方法

1．オンラインシラバスはどのパソコンから閲覧できるか。

オンラインシラバスは、鳩山キャンパスの教育用の全てのパソコン（パソコン教室：本館 1 階、第 3 実習室： 1 号館 1 階、第 2 実習室： 2 号館 1 階メディアセンター内）から自由に閲覧できる他、学内に設置されている情報端末及び研究室において、またインターネットに接続可能なパソコンであれば、自宅や下宿からも閲覧することができます。

以下に閲覧方法を記載しますが、画面のデザイン等はリニューアル等により変更される事がありますので予めご了承下さい。

2．オンラインシラバスの閲覧方法（※デザインや項目は変更される可能性があります）

(1) 理工学部ホームページ内の在学生のページより、「オンラインシラバス」を選択します。

http：//www.cse.dendai.ac.jp/students/



(2) オンラインシラバスのトップページの画面が開きます。以下の 4 つの検索条件がありますので、検索したい条件をクリックします。

〇講義情報から検索

－講義名称や曜日時限など、講義情報に関する複数の検索項目から検索ができます。

〇対象学科から検索

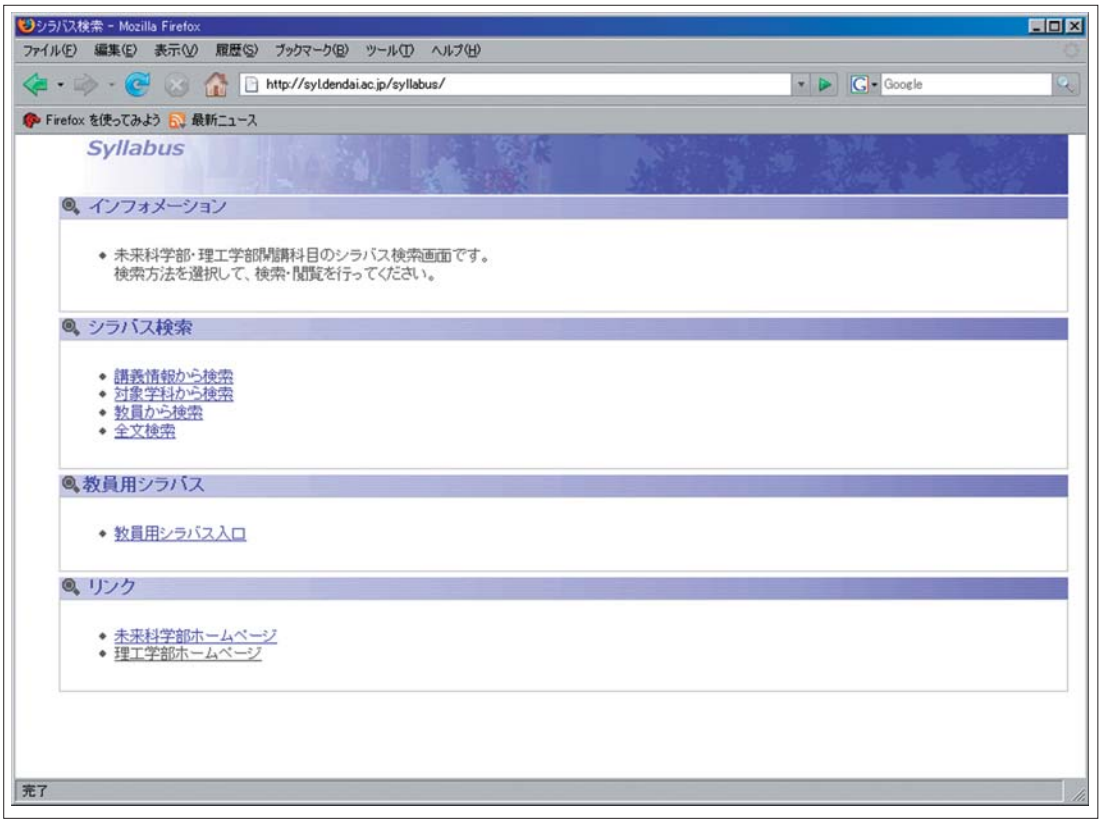
－科目が開講されている学部・学科から検索ができます。

〇教員から検索

－科目の担当教員名（ア～ワ行）から検索ができます。

〇全文検索

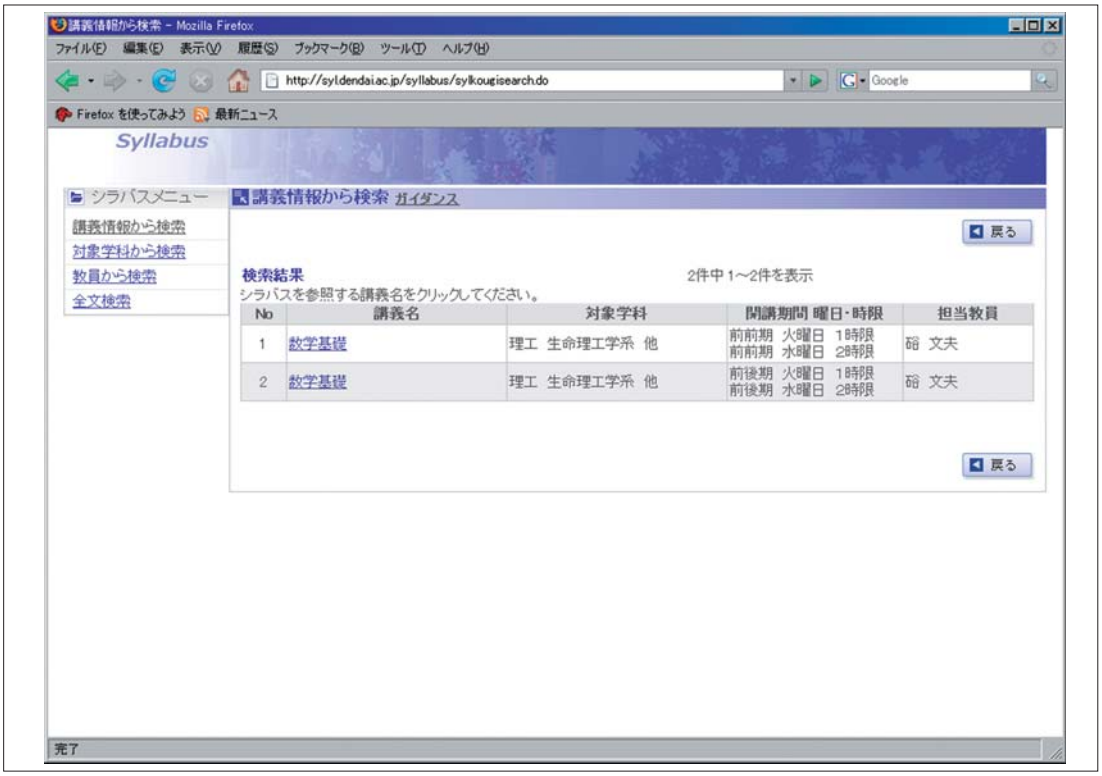
－全ての科目のシラバス内容を、キーワードで全文検索します。



(3)　4 つの検索条件の中から、講義情報から検索を選択した場合、検索項目を入力・選択して科目の検索を行います。検索項目の入力・選択を行った後、検索開始 をクリックして下さい。



(4) 検索結果画面に科目名が表示されるので、目的の科目をクリックして下さい。



(5) 選択した科目のシラバスが表示されます。



6．授業評価アンケートについて

目的：大学で開講されている授業は、学生が積極的に授業に参加することにより、その授業科目の充実度が増すばかりではなく、より専門性の高い授業が受講できるものです。その一手段として授業評価アンケートがあり、科目担当教員にとって授業改善の大きな方策の一つです。

種類：授業評価アンケートには大別すると 2 つの種類があります。一つは、鳩山キャンパスの共通フォーマットにて行なわれるもの。また、もう一つは学系および共通教育群など独自のフォーマットを使用しているもの。どちらの場合においても、科目担当教員の指示により行なって下さい。

注意：授業評価アンケートは上記の目的により、授業改善につながるものでありますから、率直な意見を記載して下さい。一時的な感情やいい加減な考えでなく、授業での様子をできるだけ正しく伝えるようにして下さい。

　なお、この処理はＯＣＲ（光学読取装置）を使用し機械処理を行いますので、読み取りミスなどを減らすため、丁寧な記載をお願いします。

集計結果の閲覧：授業評価アンケートの集計結果については、Web（キャンパス内のみ）、図書館、事務室窓口等で閲覧出来ます。

履　修　申　告

1．履修申告の意味

各自がどの授業に出席し、科目を修得しようとしているのかをあらかじめ届け出る手続きを履修申告といいます。

授業科目を履修するには、履修計画に従い必ず履修申告をしなければなりません。

履修申告をしていない科目は、授業に出席することも、また学期末試験を受験する事もできません。

2．履修申告の期間

履修申告は、その年度に開講される全ての科目について、前期開始後、１週間程度経過した時点（おおむね４月中旬）で１年間（通年・前期・後期・前前期・前後期・後前期・後後期・集中講義科目）の申告を行い、各自で履修科目を確認の後、履修申告の修正期間が設けられています。（修正期間は後期にも設けられています）

また、一部の前後期科目（１／４期）に限り、別途履修修正期間が設けられています。

日程、方法の詳細は、掲示によりお知らせします。

履修申告の内容と時期

	履修申告	確認期間①	履修修正手続	確認期間②	前期成績発表（9月16日）	後期科目修正	後期科目確認	後期成績発表（3月8日）
学系配当科目	４月中旬 PCにて入力(通年分)	４月中旬 ～下旬	４月下旬 PCにて入力	５月中旬		９月下旬 PCにて入力	10月上旬	
重複履修特定科目	４月下旬 願用紙提出	５月中旬	－	－		－	－	
他学部科目	４月下旬 願用紙提出	５月中旬	－	－		９月下旬 願用紙提出	10月上旬	
他大学科目 (4工大学・山村短大・東洋・彩の国コンソーシアム)	４月上旬 願用紙提出	４月中旬 ～下旬	－	－		９月下旬 願用紙提出	10月上旬	
科目担当教員が履修制限する科目	４月上旬 PCにて入力	４月中旬 ～下旬	4月下旬 PCにて入力	５月中旬		９月下旬 PCにて入力	10月上旬	
前後期科目の一部（学部共通基礎科目）	６月中旬	６月下旬	－	－		－	－	
大学院科目（理工学研究科進学内定者のみ）	－	－	－	－		９月下旬 願用紙提出	10月上旬	

3．履修申告の方法

履修申告はすべて、履修期間内に各自でパソコンのWebから入力することとなります。（一部Web以外での申請科目もあります。P 48参照）

パソコンは学内設置のパソコン、教務担当窓口に臨時に置いてあるパソコン、その他の場所でもインターネット接続可能なパソコンから行う事ができます。

履修申告期間中であれば何回でも修正することが出来、24時間行う事が出来ます（学内に設置してあるパソコンは時間が決っています）。履修申告を行う際には、あらかじめ自分の履修したい科目を決定してからパソコンに向かい、すみやかに作業を終了するようにして下さい。

また、**パソコンの操作ミスを含む入力ミスや、勘違い等による履修申告漏れがあった場合でも、履修申告期間及び履修申告修正期間以外では一切認められません**ので、履修申告の確認期間には各自で責任を持って確認しなくてはなりません。

なお、科目によっては**科目担当教員が履修制限する科目**があります。これらの科目は、学期始めの授業等で科目担当教員が最終的に決定した者のみが履修の資格を与えられるものです。

履修申告結果は、後日、Webで公開すると共に、個人毎に「履修登録確認表」を証明書自動発行機より配布します。各自で必ず確認し、申告の追加及び取消等の必要があるときは所定期間中に手続をとって下さい。

詳細は適宜掲示で確認するようにして下さい。

「オンライン履修申告システム」操作手順

⑴ 全体の流れ

「オンライン履修申告システム」ではWebブラウザを用いて、履修希望科目の登録を行うことができます。登録は下記のような手順で行います。

1．ログイン
2．「履修時間割」に履修を希望する科目を選択し、登録（保存）
3．登録（保存）が正しく行われているかどうか確認するため、再ログイン
4．「履修時間割」のプリントアウト

⑵ 起動方法

理工学部ホームページ内の在学生のページ（http://www.cse.dendai.ac.jp/students/）より、『履修申告』ボタンをクリックします。（図１）



図１在学生のページ画面

トップ画面の、ログインをクリックします。（図２）



図２　トップ画面

クリックするとログイン画面になります。（図３）



図３　起動／ログイン画面

⑶　利用開始処理（ログイン）

「**学籍番号**」および「**パスワード**」を入力し、ログインをクリックします（図４）。

「パスワード」はパソコン実習室でログインする時と同一のものとなります。総合メディアセンターで管理していますので、「パスワード」について不明な点は総合メディアセンターで確認して下さい。

「パスワード」は定期的に変更が義務づけられています。変更しないままにしておくと履修申告は行えませんので十分に注意して下さい（P218ユーザー端末の利用参照）。



図４　学籍番号／パスワードの入力

入力した学籍番号やパスワードに誤りがある場合、エラーメッセージが表示されます。（図５）正しく入力しているにもかかわらず、エラーメッセージが出る場合は教務担当までご連絡ください。

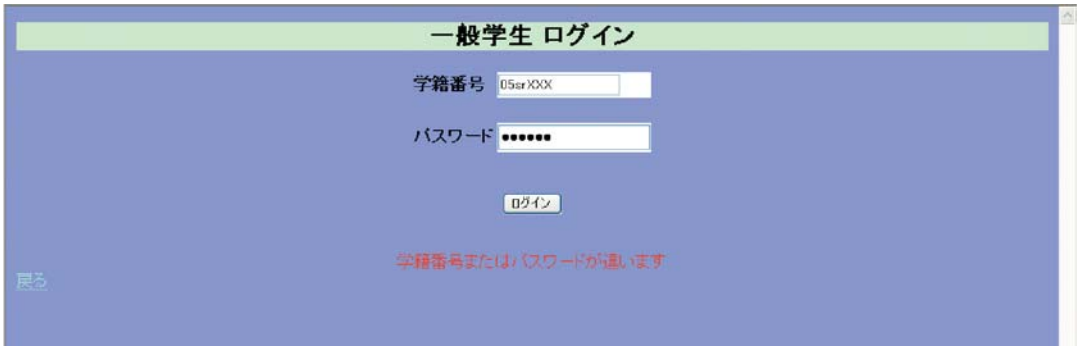


図５　学籍番号／パスワードの入力

(4)　画面構成の説明

学籍番号・パスワードが正確に入力されログインすると、履修登録の画面になります。（図６）



図６　履修登録画面

①履修時間割欄　　現在の履修状況が時間割の形で表示されます。

②単位表示欄　　現段階での、履修単位の状態が表示されます。

⑸　履修科目の選択

⑺開講期および授業時限の選択

①前期・後期を選択し、②編集したい授業時限の編集ボタンをクリックします。(図７)

※集中講義等は、枠外に編集ボタンがあります。

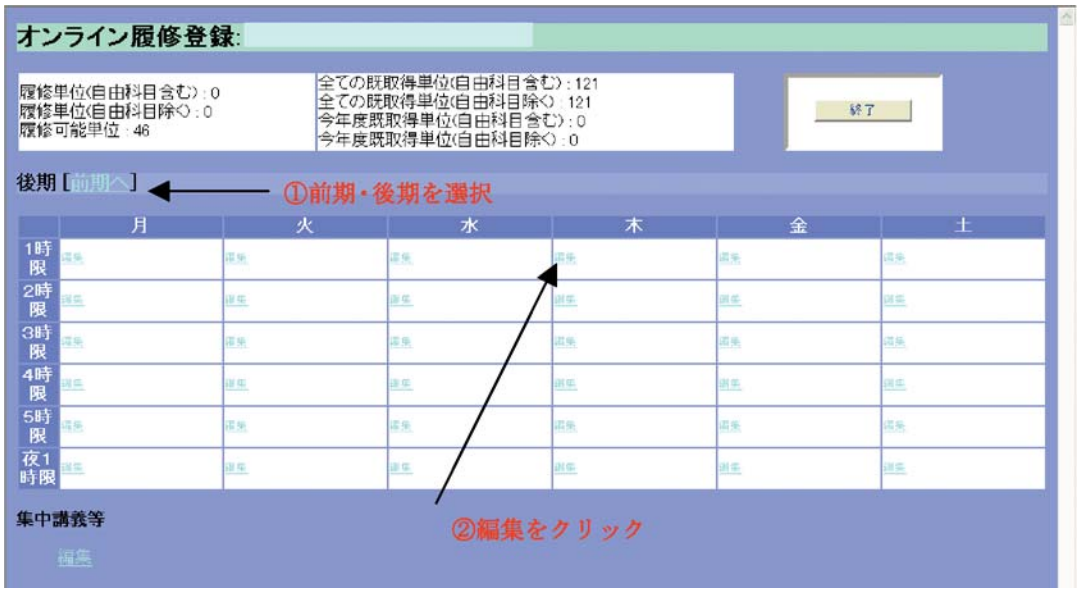


図７　開講期・授業時限の選択

⑴履修可能科目から選択

⑺の手順の後、履修可能科目の一覧が表示されるので、①履修する科目を選択、②「戻る」ボタンを押して履修科目の選択を行います。(図８)

※他学系・他コースの科目を履修する場合は「他学系・他コース」ボタンを押し、科目の切り替えを行って下さい。



図８　履修可能科目から選択

(ウ)選択科目の確認、登録（保存）

(イ)の手順の後、①選択した科目の確認を行います。履修登録を終了する場合は**“保存して終了”をクリックします。新しく履修科目を選択した場合は、“保存して終了”を必ずクリックして下さい。これにより、初めて履修登録が行われたこととなります。**

既に登録されている科目は、ログイン時に表示されます。

選択した科目を保存せずに、既に登録してある科目のみを残す場合は“編集内容を破棄して終了”をクリックして下さい。



図 9　選択した科目の確認、登録

(I)科目選択時誤りの場合

何らかの条件で履修することができない科目が選択された場合、履修時間割画面、履修科目選択画面にエラーメッセージが表示され、履修登録ができません。エラーについて不明な点がある場合は、教務担当までお問い合わせください。(図10、11)



図10　代表的なエラー表示（時限重複：履修時間割画面）



図11　代表的なエラー表示（時限重複：履修科目選択画面）

⑹　再ログイン（利用開始処理）、履修登録の確認

⑺～(I)の操作の後、選択した科目が正しく履修登録されているかどうか確認するため、再度ログインを行って下さい「P.50(1)～P.52(4)参照」。

ログイン後、①登録を行った科目の確認、②登録を行った日時の確認を行います。特に**②の日時の確認では、登録を行った時の日時に更新されているかどうか十分注意して下さい。**（図12）

→例．P.54図 9 の画面では「分子集合の化学」は2004/09/07 13：10になっていますが（まだ保存して終了を行っていないため）、図12の画面では登録した日時の2004/11/01 13：05に更新されています。



図12　再ログイン、履修登録の確認

(7) 「履修時間割」のプリントアウト

履修内容の確認のために「履修時間割」のプリントアウトを必ず行うようにして下さい。

また後日、履修登録確認表やWebにより、学生自身で今年度の履修内容の確認を行って下さい。(図13)

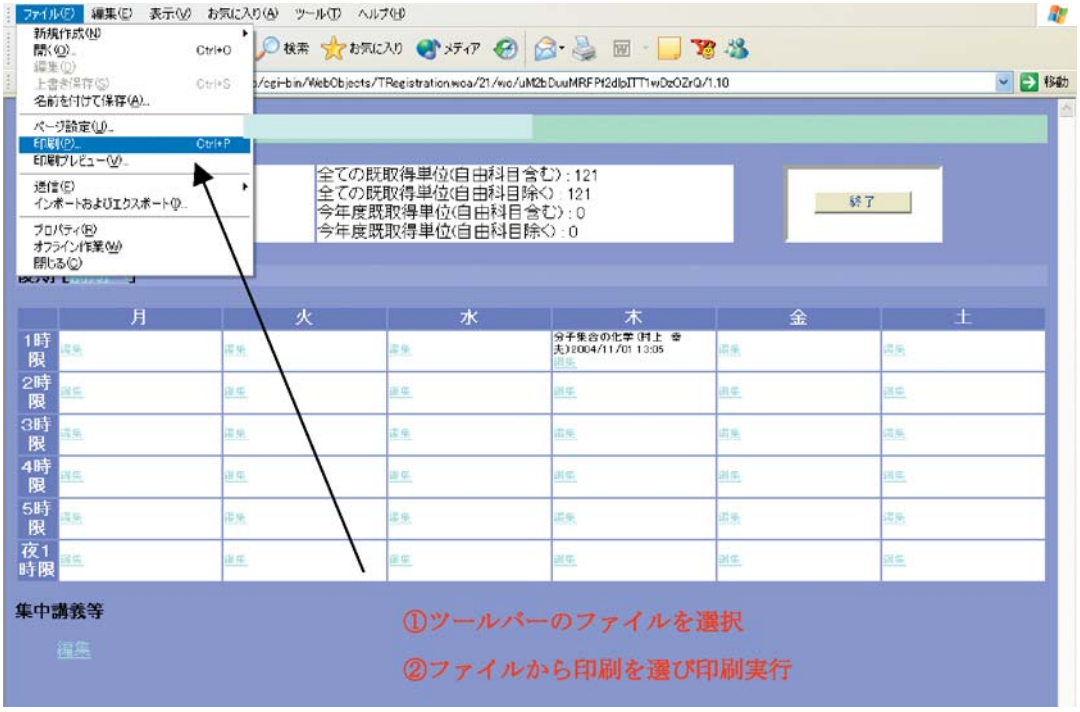


図13　プリントアウト

４．履修人数の制限

履修申告はパソコンで受け付けますが、科目によっては申告を受け付けた結果１つの時限に履修者が集中し、その履修人数が教室等の関係で一定人数を超えた場合に限り、履修人数の制限をかける場合があります。

履修人数は抽選または科目担当教員の判断により制限をかけ、それらの結果によっては、希望する科目を履修できずに第二希望・第三希望の科目に移ることになる場合があります。

履修申告に関する詳細や申告期間・具体的な申告方法等は掲示により知らせますので、見落すことの無いように注意してください。

５．体育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ

この科目は、授業時間割の表記と履修申告システムの表記が異なっています。授業時間割表の表記は「体育（種目名）」として記載されています。履修申告システムの表記は「体育Ⅰ～Ⅵ」となっています。履修申告の際には自分の履修したい教員名で選択して下さい。

順番は体育ⅠからⅥと順番になるように履修を行って下さい。

６．インターンシップＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆについて

インターンシップは、科目の性質上一般の科目とは履修及び履修申告上以下の点で取り扱いが異なりますので注意して下さい。

(1) インターンシップについて

インターンシップとは、一般的には、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことであり、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として幅広くとらえられています。（労働報酬はありません）

本学部でのインターンシップに関する科目は、全学系に開講され、講義科目の「情報と職業入門」及び実習科目の「インターンシップＡ～Ｆ」にて構成されています。

実習科目の「インターンシップＡ～Ｆ」を履修する学生は、その前提科目として「情報と職業入門」の履修をしなくてはなりません。

(2) 履修の取り扱い

インターンシップは科目配当表上の「インターンシップＡ～Ｆ」のうち、在籍学年に配当されている科目のみが履修可能であり、下級年次科目としての履修や再履修はできませんので、授業科目配当表を確認の上注意してください。

(3) インターンシップ科目の運用

インターンシップ科目の運用は以下のようになります。

- 履修の希望を学系へ申し出て企業を決定します。
- １企業あたりの派遣学生数は企業毎に異なります。
- 研修期間は合計２週間程度。
- 研修形態は学系と打ち合せ、決定します。
- **履修申告の手続きは不要**です。
- 履修上限単位数には含まれません。
- **研修前には必ず「情報と職業入門」を取得**し、事前指導を受けて下さい。
- 評価は学期末もしくは、翌年度となります。

(4) 履修の形態

インターンシップは、全学系に配当されていますが、科目名は履修した時の在籍学年・配当期によって次の通りになります。

２年次前期：インターンシップＡ　　後期：インターンシップＢ
３年次前期：インターンシップＣ　　後期：インターンシップＤ
４年次前期：インターンシップＥ　　後期：インターンシップＦ

7．海外研修における振替について

理工学部において各種海外研修に参加した学生は、下記のような科目に振替られます。海外研修の実施については掲示または、学生厚生担当に確認してください。

(1) 海外研修の研修校及び実施時期について

- フランス国立高等精密機械大学院大学（フランス）
  実施時期：２月～３月（２週間）
  最終実施年度：平成14年度
- 上海交通大学（中国）・西安交通大学（中国）
  実施時期：８月～９月（２週間）
  最終実施年度：平成10年度

※実施時期についての詳細及び申込みについては、掲示または、学生厚生担当にお問合せください。

(2) 振替科目について

人間形成科目群の「海外事情」に振替となります。
（在学期間中にこの振替えができるのは１回のみとなります）

(3) 履修について

海外研修の参加申込をすることにより履修となります。

また、この履修は履修上限には含まれません。

8．履修申告をしなくても良い科目

・海外英語研修Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ
・学外体育研修Ａ・Ｂ
・インターンシップＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ
・海外事情

これらの科目は、参加の申し込みを行った後、参加が許可されることにより、履修申告した事になります。参加申込み受付については掲示しますが、定員がありますのであらかじめ了解しておいてください。実施の時期により年度内に成績がつかない場合がありますので、年度末に実施される研修は確認して下さい。

9．重複履修特定科目について

特定科目とは、**再履修者**に対しその科目を担当する学系又は群が、授業時間外に指導すること等を条件に、時間割上での重複履修を許可する科目のことをいいます。科目名と対象者がいる場合は掲示します。なお、重複履修が認められるのは特定科目が再履修科目となる場合のみです。

試　　験

授業科目の単位認定の方法として、試験が行われます。試験には、学期末試験・中間試験・追試験等があります。いずれの試験も**受験する際に必ず学生証を携帯してください。**

なお、試験は主に筆記で行われますが、科目によってはレポート提出・口頭試問などの方法により行われることもあります。

1．学期末試験

学期末試験は、原則として授業時間中に行われ、一部の科目については学期末の学部が定める期間（特定日）に行われます。（科目によっては、小テスト、レポートなどの内容により採点する為、行わない場合もあります。）

学期末試験は試験のなかでも最も重要で、単位認定の大部分を占めるのは学期末試験の結果によるといっても過言ではありません。

2．中間試験等

学期末試験以外の通常の授業中行う小試験や学期の途中で行われる中間試験は、授業科目担当教員が実施日・方法などを決定し、授業中または掲示により伝達します。

3．追試験

学期末試験の受験資格があり、かつ、次に示した真にやむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。

(1)　病気で受験できなかった場合

(2)　親族の死亡などで受験できなかった場合

(3)　交通機関の運休・遅延などで受験できなかった場合

(4)　火災・台風災害などに罹災した場合

(5)　上記と同程度と認められる本人の責任でないやむを得ない理由がある場合

ただし、追試験の実施方法は科目担当教員の判断によります。

追試験を希望する学生は、追試験願に医師の診断書等の**欠席理由を証明する書面等**を添えて、当該科目の試験終了時から試験期間終了後 2 日後までに、教務担当へ提出しなければなりません。追試験は、追試験願受付期限終了後 2 日後から実施されます。
（追試験手数料は、 1 科目につき500円です。）

4．学期末試験の受験資格

学期末試験受験のためには、次の条件を備えていることが必要となります。

(1) 履修申告をした授業科目であること。

(2) その学期までの学費を納入していること。

(3) 休学期間中ではないこと。

5．学期末試験受験上の注意

学期末試験の受験に際しては、次のような注意が必要です。授業中に実施する場合や学部の指定する期間に実施する場合にかかわらず熟読し、よく理解しておいてください。

(1) 試験時間割等の確認

試験日・試験時間割・試験教室・座席表など試験に関する掲示は、試験開始日のおおむね 1 週間前に掲示されます。試験教室が通常の授業の教室と変更となる場合等がありますので、よく確認し見間違いのないようにしてください。

(2) 試験教室・座席の指定

試験教室・座席は、学籍番号により以下の 3 種類の指定があります。掲示される座席表で確認して下さい。

- 授業着席（隣席との間を空けずに着席します）
- 試験着席（原則として隣席との間を 1 席分空けて着席します。）
- 教員にて指示（科目担当教員により事前に掲示等での指示、また当日口頭での指示等があります）

(3) 遅刻・退出について

遅刻－試験開始後30分を経過すると入室は認められません。

退出－試験開始後40分を経過しないと退出は許可されません。

（ただし、終了10分前まで）

なお、事情により、上記に拠らない場合がありますので、試験監督者の指示に従って

ください。

(4) 学生証について

学生証は常に携帯し、試験（学期末試験・中間試験・追試験等）のときは常に机の上に出しておいてください。また監督者からの要求があったときには、必ず提示しなければなりません。

学生証を持参していない学生は、いかなる理由があっても受験できません。

注）学生証を忘れた者は、証明書自動発行機で仮受験票を発行してください。ただし仮受験票発行手数料は1,000円です。当日１～６時限の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限の仮受験票は各自で処分してください。

(5) 試験場での心得

試験期間中は試験監督者が一切の権限を持ちます。試験監督者の指示に従わない者や、態度不良の者は退室を命ぜられることがあります。

また、ＰＨＳ・携帯電話等の持ち込み（時計としての使用も不可）は禁止しています。

(6) 不正行為

カンニングなど不正行為をした者は、退室を命じられたうえ、原則としてその学期末試験の全部の試験が無効となり卒業・進級が不可能な事態を招くことがあります。試験は各自の実力を公正にためすものですから、カンニングなどは、学生の本分に反する卑劣な行為であると心得てください。

(7) 放棄

放棄する場合でも、答案用紙に必ず、学年・学系・学籍番号・氏名を記入し提出しなければなりません。

成　　績

1．単位認定と成績評価

試験の結果は科目担当教員が採点し、１点きざみの**評点**が与えられます。60点以上の評点が与えられたとき、その授業科目は合格とされ、その授業科目について定められた単位数が与えられます。これを、大学側からみて**単位認定**、学生側からみて**単位取得**といいます。

単位取得した授業科目は、履修の修了が認定されたわけですから、たとえ評価が不本意なものであっても再履修はできません。

評点に対し、**S・A・B・C・D**等の評価が与えられ、本人が確認する成績通知書にはこの評価と評点が記載されます。**なお成績証明書には、評価のみ記載となっており、D・ーの評価の科目は記載されません。**

成績（評点・評価）

評点と評価の関係は、次の通りです。

評点	評価		判定
	成績通知書	成績証明書	
９０点以上	S	S	合格 (単位取得)
８０～８９点	A	A	
７０～７９点	B	B	
６０～６９点	C	C	
認定された科目	R	R	
５９点以下	D	記載されません	不合格
放棄	ー		

ー　放棄（履修した授業科目を受験しなかったとき）

＊　履修中（履修した授業科目にまだ評点が入らないとき）

注(1) 単位認定の時期は、その授業科目の履修が終わる配当期の終了時点（前期末・後期末）です。これは再履修の場合も同じで、これ以外の時期に単位認定が行なわれることはありません。

注(2) 配当期が変更された科目を再履修した場合の単位の認定の時期は、原則として現に受講している科目の配当期末とします。

2．成績の通知

成績の通知は指定日（掲示により通知）に本人に成績通知書を配布することにより行ないます。

成績配布の時期は次の通りです。

(1)前期・前前期・前後期・前期集中科目……後期授業開始後

(2)後期・後前期・後後期・後期集中・通年・通年集中科目

…… 3 月初旬の卒業・進級判定発表日

成績の通知後、学期の途中で担当教員から採点の訂正がおこなわれた場合でも、原則としてその都度の発表はしません。

3．留年

留年したときには、次のような点に注意して下さい。

(1) 留年すると 1 学年下の学生と同じになりますが、自己の学習能力に過度の疑いをもつことなく、毎日授業に出席することが必要です。

(2) 留年した場合においては、在籍することになる学年の科目配当表に従うことになります。したがって、**留年者に対し翌年度適用される進級条件は、その学年に正規に進んだ者の条件と同じものになります。教務担当窓口にて、該当の学生要覧を必ず受け取って下さい。**

(3) この 1 年間に、留年の原因となった単位未取得科目を重点的に履修し、進級条件を満たすよう努力してください。その他の時間には、進級条件以外の科目も履修することができます。

また、同一学年次に 3 回留年してなお進級できないときは、**除籍**となります。

（注）留年（休学による留年も含む）した場合の学費は、当該学年の正規学年次生の学費を納めなければならないので注意すること。

４．科目配当条件変更時の注意（留年者）

留年者の成績表は４月に発行された分から全てカリキュラムが読替えられています。教務担当窓口で**新しい学生要覧を受け取って下さい。**前年度と今年度とで、授業科目名、必修・選択、新設・廃止、分割・統合、単位数、配当学年、配当期等の変更があったときは、**留年者（休学により現学年次にとどまった者、卒業延期者を含む）は、履修上次の点に注意して下さい。**

⑴ **授業科目名の変更**　既取得科目は、新しいカリキュラムでの名称に変更してあり、未取得科目においては新しい科目名で履修することになります。

⑵ **必修・選択の変更**　留年者にとって選択科目であった授業科目が、正規学年次生（その学年次に進んできた者）にとって必修科目に変更になっていれば、留年者にとっても必修科目となり、単位未取得であれば必ず取得しなければなりません。必修が選択になった場合は、必ずしも再履修する必要はありません。単位取得済であれば、変更されたとおりの取り扱いになります。

⑶ **科目の新設・廃止**　留年者にとって配当されていなかった授業科目が、正規学年次生に新設されているとき、特に必修科目として新設されたときは、留年者にとっても必修科目となり、必ず修得しなければなりません。逆に廃止されているときは、履修する必要はありませんが、取得した科目はそのまま取得単位として卒業単位に含む事が出来ます。

⑷ **科目の分割・統合**　留年者にとって通年１科目であった授業科目が、正規年次生にとっては、前期科目と後期科目の２科目に分割されたときは、留年者にとっても２科目の扱いとなります。逆に、前期科目と後期科目の２科目が通年１科目に統合されたときは、通年１科目の扱いとなります。分割または統合された科目について単位取得済のときは、それぞれ新しい単位数に変更になることがあります。

⑸ **単位数の変更**　授業科目の単位数が、留年者と正規年次生との間で変更になった場合、その科目についての単位が取得済であれば、取得単位数は原則として変更されません。単位数が減っている変更の場合、取得した単位がそのままつきます。単位数が増えている場合、増加している単位数分の授業を受け、既に取得している評価と合せて再度評価を行いますので、履修申告が必要となります。

⑹ **配当学年、配当期の変更**　進学年度の時間割に従って下さい。

5．GPA（Grade Point Average）について

本学部では、成績の総合評価の指標としてGPAを採用しています。

GPAとは、科目を履修して最終的に与えられたS・A・B・C・Dの評価（Grade）に 4 ～ 0 のポイント（Point）を配当しそれに単位数を掛け、取得したポイントの合計と単位数をもとに算出する平均値（Average）です。

そのポイントと計算式は以下のようで、GPAの最高値は“ 4 ”となり、最高値に近いほど評価が高くなります。

・ポイント

評点 （100点法）	評価	GP （グレードポイント）
9 0 ～ 1 0 0	S	4
8 0 ～ 8 9	A	3
7 0 ～ 7 9	B	2
6 0 ～ 6 9	C	1
0 ～ 5 9	D	0
放　棄	―	0

・計算式

$$GPA=\frac{\text{（各科目の単位数 × その科目で得たポイント）の合計}}{\text{履修申告した科目の単位数の合計―自由科目・教職科目の単位数}}$$

※　GPAの値は小数点第 1 位までとします。

※　分母の「履修申告した科目の単位数の合計」は履修中の科目（含 再履修科目）は除きます。

※　対象科目は本学部で履修し評価を受けた科目となるので、資格等で認定された単位（R評価）は含まれません。

※　卒業要件とならない科目（教職に関する科目・自由科目）は含まれません。

・用　途

※　成績証明書及び成績通知書に記載します。

※　学部内における判定等（ 3 年次在学における卒業・履修上限を超えての履修・その他）に使用します。

※　順位計算は、ＧＰＡ値の小数点第 4 位を四捨五入し、数値の多い者から順位をつけ、同位の者がいる場合は、同位の順位とします。

Dおよび放棄科目は 0 ポイントとなるため、放棄しない計画的な履修が結果的にGPAを上げることとなります。

進　　級

1．進級制度

大学は学年制併用単位制をとるのが前提であることは前にも触れました。理工系の大学では、学問の性質上、基礎から応用へと積み重ねて勉学していくことが不可欠です。

そこで、本学部では、学問の基礎から応用へと順序立てて修得できるように、それに適した授業科目を各学年に配当し、その学年ごとに履修を指定しています。

したがって、下級学年次に不合格科目が多い状態で上級学年次に進むと、基礎学力が不足しているにもかかわらず上級学年次配当の専門的授業科目を履修しなければならないことになり、教育的にみて好ましくない状況をもたらします。

このような事態を避けるため、本学部においては、低学年次配当授業科目の単位取得状況を考慮し、上級学年次へ**進級**するための条件を定め、この条件を充たさないときは、もとの学年次に**留年**するという**進級制度**をとっています。

2．進級条件

上級学年次に進級するための条件を**進級条件**といいます。

理工学部においては、以下の学年に進級条件を設けています。

1年次から2年次　30単位

2年次から3年次　なし

3年次から4年次　下記の条件および合計で１０４単位以上履修のこと

科目区分			単位数(括弧内は卒業条件)
人間形成科目			１２（１６）
英語科目			６（　８）
学部共通科目			１２（１４）
主コースと副コースが同一の学系	学系共通科目		２８（３６）
	主コース専門科目		１４（２２）※
	副コース専門科目		６（　８）
主コースの学系と副コースの学系が異なる場合	学系共通科目	主コース	２２（２６）
		副コース	１０（１４）
	コース専門	主コース	１４（２２）※
		副コース	２（　４）

※は、卒業研究を含む

進級条件は、学系、学年ごとに異なるので、各学系のページを熟読して下さい。

3．2・3年次への編入学者の進級条件

2・3年次への編入学者については入学時に取得している成績の単位認定をおこないますので、各学系に表示してある条件とは異なります。編入学者は教務担当窓口で確認してください。

4．コース制とコースの選択

〇コース制とは

理工学部は「次世代モードの学び」としてあたらしい教育システムを導入し、自分に合った学びが自由に選択できるように16種類の教育コースを開設しています。

コースとは、体系化された学問の最小ユニットです。みなさんは2年次に進級する際、自分にあった主コース（メインとなる学習コース）と副コース（サブとなる学習コース）の2つのコースを選択します。主コースと近い分野の副コースを選択する場合は、専門性をより一層高めることができますし、主コースとは異なる分野から副コースを選択する場合は、1つの専門性にはとらわれずに将来に亘る広い視野と見識を養成することができます。

主コースは、自分が所属する学系のコースを必ず選択しなければなりません。副コースについては自分が所属する学系からも、自分が所属する学系以外の学系からも選択することが可能です。

各学系に開設されたコースは以下のとおりとなっています。

理学系
数学コース
物理学コース
化学コース
数理情報学コース

生命理工学系
生命科学コース
生物環境コース

情報システムデザイン学系
コンピュータソフトウェアコース
ネットワークシステムコース
アミューズメントデザインコース
社会コミュニケーションコース
コンピュータサイエンスコース

電子・機械工学系
知能機械コース
電子機械コース
電子システムコース

建築・都市環境学系
建築コース
都市環境コース

〇コース選択の時期と方法

2年次から主コースと副コースを選択します。希望コース調査については1年次の5月、9月に行いその結果を公表します。希望コース申告は1年次終了前の1月中旬に行います。主コースについては希望先を申告し、原則的に第1希望が優先されます。主コースの人数に大きな偏りが生じた場合には、1年次のGPAに基づき選考されます。なおGPAと面接結果を基に選考するコースもあります。副コースについては本人の希望が優先されます。

主コースの変更は2年前期終了時に申告でき、受入コースの承諾を前提に認められます。副コースの変更は2年前期終了時と2年後期終了時に申告でき、本人の希望が優先されます。

卒　　業

1．卒業の要件

卒業するための必要要件は、次のとおりです。

(1) 卒業に必要な単位数（卒業所要単位数）を取得していること。

(2) 自己の所属する学系に配当されている必修科目の単位を全て取得していること。

(3) 各学年次に 1 年、合計 4 年以上（ 8 年以内､但し休学時は異なる）在学していること。

(4) 卒業までに、必要な学費が全て納入されていること。

卒業所要単位数は、前記の履修基準と同じですが、念のため以下に表示します。

区　　分		単　位　数
共通教育科目	人間形成科目群	16単位
	英語科目群	8単位
専門教育科目	学部共通科目群	14単位
	学系共通科目群	66単位　※
	コース専門科目群	
自主選択科目		20単位
合　　計		124単位

※学系共通科目群及びコース専門科目群における「66単位」の内訳は以下のとおりである。

主コース・副コース履修形態	コース	学系共通科目群	コース科目群		合計
			コース専門	卒業研究Ⅰ・Ⅱ	
同じ学系から副コースをとる場合	主コース	36単位	16単位	6 単位	66単位
	副コース		8 単位		
異なった学系から副コースをとる場合	主コース	26単位	16単位	6 単位	66単位
	副コース	14単位	4 単位		

☆　必修科目の単位の全部を履修し，修得しなければならない。

☆　自主選択科目については、任意に選択し（自由科目を除く）、修得した科目とする。

2．３年以上の在学での卒業について（３年卒業、3.5年卒業）

本学の学生として３年以上在学した者で、本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認められる場合は、以下の条件により４年間をかけなくても卒業することができます。

条件は以下のようになります。

⑴　３年以上の在学での卒業における基準

１．所属学系の指導する早期卒業についての履修計画に従っていること。

２．在学期間が３年以上の学生であること。

３．３年次以上までに卒業要件の全てを満たしていること（卒業研究は除く）。

４．３年次から４年次への進級条件を充足していること。

５．原則として全単位取得科目の85％以上がＳまたはＡ評価であり、（自由科目は除く）かつ、ＧＰＡが3.4以上であること。

６．学系長および学部長の了解が得られていること。

７．卒業時に大学院進学、公務員等の進路が確定していること。

※３年次編入学者の早期卒業は認めない。

⑵　３年以上の在学での卒業における運用

３年次以上の在学での卒業を望む学生に対し、所属学系の判断により以下の①～④のうちいずれかを適用し実施する。

①修業年限を３年とする。（卒業研究の修得はなし。）

②修業年限を３年とする。（３年次後期に特別卒業研究を履修する。）

③修業年限を3.5年とする。４年次前期に卒業研究Ⅰを履修し、４年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

④修業年限を3.5年とする。３年次後期に卒業研究Ⅰを、４年次前期に卒業研究Ⅱを履修し、４年次前期を終えた時点で学期末卒業となる。

※詳細については掲示にて確認して下さい。

3．卒業の時期

卒業の時期は学年末で、卒業式は毎年３月の下旬に挙行されます。

3.5年での卒業の場合は９月15日付での卒業となり、卒業式については別途連絡いたします。

4．学位の授与

理工学部を卒業した者には、次の学位が授与されます。

理　　学　　系	学士（理学）
生　命　理　工　学　系	学士（工学）
情報システムデザイン学系	学士（情報学）
電　子　・　機　械　工　学　系	学士（工学）
建　築　・　都　市　環　境　学　系	学士（工学）

学位は卒業式の時に授与される学位記により証明されます。

共通教育科目

人間形成科目群

英語科目群

専門教育科目

学部共通科目群

人間形成科目群履修モデル

１．人間形成科目群とは

大学設置基準では、「教育課程の編成に当たっては、大学は、学部などの専攻にかかわる専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮しなければならない」と定められています（第19条第２項）。

この課題に応えるのが、人間形成科目群です。大学で学ぶ以上は、単に有能な「職業人」となるにとどまらず、高い見識を持った「教養人」になることが期待されているのです。

本学の初代学長の丹羽保次郎博士が遺した「技術は人なり」という銘言も、そうした期待を表わした言葉であると言えます。技術は、単に職に就いたり収入を得るためのものではなく、技術という文化の習得そのものを通じて「人間性が磨かれる」ということの重大さに注意を向けた理念なのです。

では、「人間性を磨く」「教養を磨く」「学のある人間になる」にはどうすればいいのでしょう。人類文化の歴史に敬意を払いながら、自らの頭で一歩でも考えを前に進める、ということであると思います。長い人生を楽しく過ごし、そのあなた一人の人生を同時に人類にとっても有意義なものにするには、自ら思考し学び続けることが肝心であり、そうした習慣を是非この大学時代に形成することです。

人間形成科目群では、人類が面白いと考え、大事だと思って、開拓・発展させてきた様々な学問分野を、皆さんの興味や関心の広がり・深まりに応じて学べるよう、どの学年でも自由に履修できるよう配慮しています。大学に入りたてのフレッシュな意欲によって一年次に履修することも、また大学生活の中で青春の苦悩を抱えながら、あるいは社会への船出に心を震わせながら上級学年次で履修することもできます。卒業するためには、人間形成科目群から16単位以上取得することが必要ですが、必ずこの科目を採らなければならないといった必修科目はありませんから、自由に履修計画を立ててください。

なお科目名にＡ・Ｂが付されているものについては、各々が半期ごとの独立した科目として開講されています。したがって、Ａ・Ｂの両方を履修することもできますし、片方だけを履修したり、Ｂを履修した後にＡを履修することも可能です。

2．各分野の案内

(1)　新人教育

大学での学問は、高校までの勉強とは違って、自主的・自立的で批判的な思考が求められます。高校までの「垢」を落として、さっぱりした気持ちで大学生活になじめるように、１年前期にのみ開かれるいくつかの講座があります。

「新人ゼミ」　15人程度の少人数のゼミで、思考の進め方・問題の見つけ方など学問の方法や大学での暮らし方を手ほどきします（７回の授業で、前々期・前後期に開講。希望者は初回に必ず出席すること）。テキストは１年次生全員に配布します。

「日本語リテラシー」　文章を書きながら、論理的な思考や発想の広げ方などをレッスンします（７回の授業で、1/4期１コマ開講。希望者は初回に必ず出席すること）。

「技術と環境と社会」　社会の中での科学技術のあり方、技術者としての倫理や環境意識などについて、技術者ならば誰もが持つべき教養と工学を学んでいく上での問題意識を育みます。

(2)　概論科目

概論科目は、今日までに確立されてきた学問分野について、その概要の全体をざっと見渡すことができるような講義を行ないます。

いわゆる文系の学問分野にも、「人文科学」と「社会科学」の違いがあります。

「人文科学」系の科目としては、哲学Ａ・Ｂ、倫理学Ａ・Ｂ、歴史学Ａ・Ｂ、心理学Ａ・Ｂ、文学Ａ・Ｂが用意されています。

「社会科学」系の科目としては、法学Ａ・Ｂ、政治学Ａ・Ｂ、経済学Ａ・Ｂ、社会学Ａ・Ｂ、科学技術史Ａ・Ｂが開講されています。

また、特に教員免許を取得する人たちのために、日本国憲法、教職入門、教育心理学概論、教育学概論Ｂ・Ｃ、教職総合演習が用意されています（これらの科目は、教員免許を取得しない人でも受講でき、共通教育科目の履修単位として計算されます）。

(3)　主題科目

主題科目は、それぞれに専門分野を持った教師たちが、自らの専攻分野の中でも特に注目すべき話題（トピック）について集中的に論じたり、あるいは専攻分野の形式に必ずしもこだわることなく、学生の問題関心や現在の時代状況が抱える問題に対して進んで応えようとする内容を講義しながら、学問の奥行きを実感できるように工夫されています。

講義の内容は、随時、新しくなりますので、シラバスを参照してください。

(4)　教養ゼミ

「セミナール」とはドイツ語で「苗床」を意味します。まだ形にならない問題意識の「種子」を育てて、ある程度、形をもった知識へと変換していく学問の現場です。少人数で、発表や討論を行いながら進めていきます。

(5)　第二外国語

英語は 8 単位必修ですが（英語のページを参照）、それ以外に、ドイツ語・フランス語・中国語のクラスが用意されています。いずれも、「入門Ⅰ・Ⅱ」で初等文法を、「基礎Ⅰ・Ⅱ」で簡単な会話と読解を、「初級Ⅰ・Ⅱ」で少し難しい読み物を読むように設計されています。

英語が上達するためにも、英語だけでなく、もうひとつの言語を学習することは効果的です。また、特に将来大学院への進学を考えている学生は、積極的に履修しておくことが望ましいと思います。ネイティブ・スピーカーが担当する授業もあります。意欲的に、継続的に取り組むことを勧めます。

（＊なお「留学生のための日本語」は、日本語を母語としない外国籍学生のための科目です。他の学生は履修できません）

(6)　保健体育

よき社会人・職業人であるためには、そして人生を楽しくはつらつと過ごすには、健康であることがより望ましいことだと言えましょう。

心身の健康を保ち、充実した人生を過ごすには、継続的にスポーツに親しむ習慣、「生涯スポーツ」の習慣を身につけることが必要です。身体を動かすことに喜びを感じることができるということも、努力して獲得すべき大切な教養のひとつであり、教養人であれば引きこもったりすることはありません。

本学部のカリキュラムでは、体育の授業は必修ではありませんが、教員免許を取得するためには、次に述べる体育Ⅰ～Ⅵのうち、いずれか 2 つの単位を必ず取得しなければなりません。

体育科目では、サッカー、ソフトボール、バレーボール、テニス・ゴルフなどの種目が用意されています。 1 年生から 4 年生までの間に、自分の実施したい種目を選択し、履修することができます。種目にかかわらず、体育Ⅰ～Ⅵまでの 6 コマの履修が可能です。また夏休みや冬休みを利用して、学外で宿泊形式で行なわれる学外体育研修Ａ・Ｂという集中授業もあります。この学外体育研修も、いくつかの種目が開講されていて、 4 年間の間に自分の希望する種目を選択し履修することができ、最初に履修したものが学外体育研修Ａ、次に履修したものがＢとして認定されます。

英語科目群履修モデル

1. 英語の科目はどのように構成されているのでしょうか。

理工学部の英語教育の目標は、読む、書く、話す、聴くという英語の4技能を習得し、これを使い専門知識を学び、また学んだ成果を発信できるようにすることです。その目標を達成するためには、これまで中学校から高等学校まで学んだ英語にほころびがあるかどうかを確認し、あればそれを補って大学で求められている英語の力を習得しなくてはいけません。

そこで理工学部の英語は、能力別クラスを導入しています。これにより大学入学までの各人さまざまな英語の学習歴を見極め、それを踏まえて各人の英語の実力にもっとも効果があるクラスで英語の力を養っていくことになります。また1年次、2年次、さらに3年次以降、各学期の終わりに英語を履修した全ての学生諸君は、「英語の実力テスト（統一テスト）」を受けることが義務付けられています。これにより各人の英語学習の成果や補強すべき点を確認するとともに、次年度の英語科目を履修する場合のクラス指定がされるという、きめ細かな英語の力をつけるための処方箋が示されます。

「専門知識の獲得と研究成果の発信」に必要な英語力のうち「読む、書く」については、「英語Ⅰ、英語Ⅲ」の科目で練成します。世界から専門知識を獲得し分析するには、世界の共通語である英語の読む力が何より重要です。例えば各専門分野の論文は、世界に向けて書かれているので英語で書かれていることが一般的です。また研究成果の多くは世界に向けて発信するので、英語が最も即効性があります。卒業後では、日常業務の中で英語の電子メールを読んだり書いたりは当たり前のことですし、インターネットでの情報収集と発信にも英語の読む、書くという技能は欠かせません。

実は英語の骨組みとなる文法は、中学、高等学校など大学入学前に学んだことが全てです。大学で新たに学ぶ文法の項目は本来ないのです。しかし現実にはいろいろ不十分なままに入学されることも多いのが現状です。そこで、大学で学ぶために必要な英語の語彙や文法が獲得されているかどうかを確認し、不十分な場合にはまずそれを養います。もちろんすでに習得がされている場合には、より高度なレベルに英語の読む、書くという力を養成して、英語で研究成果を発信ができるような英語の書く力を習得することをめざします。

一方、「話す、聴く」という英語の技能は、「英語Ⅱ、Ⅳ」の科目で練成します。英語によるコミュニケーション能力がますます重視される現代社会に対応するため、こうした能力が

各人の英語の力に合わせて習得できるよう「話す、聴く」の技能を各人の英語の力に合わせて、基本的なことからより実践的なことまで練成できるよう、英語を母語とするネィティヴ・スピーカーと日本人教員により練成がはかられるようになっています。

また 3 年次以降には、「英語Ⅴ」が設けられています。担当する教員の専門性を活かしながら、「各種の英検や、TOEIC、TOEFL」など英語の資格獲得をめざす学生諸君を対象とした演習クラスや、研究発表に欠かせない英語による「プレゼンテーション」を主とする演習クラス、さらに英語で書かれた論文や文章を理工学を志す学生諸君が興味を持つトピックを取り上げて読解することを主とする演習クラスの開設が予定されています。但し、英語Ⅴは年度により開講される演習の内容に変更があります。

こうした理工学部の英語の目標を達成するため、卒業までに必要な英語の単位は、「英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英語ⅢA・B、英語ⅣA・B」の 8 単位です。これは東京電機大学3キャンパスのなかでもっとも多い英語の取得単位数です。学生諸君は基本的に1年次の前期と後期を通じて「英語ⅠA・Bと英語ⅡA・B」を、そして 2 年次の前期と後期を通じて「英語ⅢA・Bと英語ⅣA・B」を取得することをめざします。つまり学生諸君は、 2 年次終了までに、前期と後期に、 1 週間に英語科目を2つずつ学ぶことになります。英語は半期で 1 単位です。例えば前期に英語ⅠAと英語ⅡAに取得できれば2単位となります。なお英語ⅠA・B、英語ⅡA・B、英語ⅢA・B、英語ⅣA・Bは、学年学系指定科目です。

なお、それぞれの英語科目には「再履修」のためのクラスを開講します。これは英語科目を履修したものの、残念ながら単位取得の条件に英語の力が及ばなかったり、またそれを満たさなかった場合、再度勉強をして必要な英語の力を養成していくためのものです。これにより大学で必要とされている英語の力が習得されない限り、単位は得られないものの、意欲を持っている学生諸君には、いつでも学習すべき環境が整っていることがおわかりだと思います。厳しいことではありますが、実学志向の本学ならではのあり方です。

ところで 2 年次までに卒業単位 8 単位を取得したら、英語は勉強できないのでしょうか。それは違います。 3 年次以降英語の力をより高度に養成していくために、「英語Ⅴ」が設けられているわけです。卒業時まで学生諸君は英語の力を継続して練成していくことが可能です。英語ⅤA・Bは、全学系共通科目です。

なお、東京電機大学では卒業単位として認定されるアイオワ大学、コロラド大学、シドニー大学における短期の海外研修制度が整っています。

2．科目についているⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、そしてA、Bは何を意味していますか。

Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴは英語の学習内容を表しています。Ⅰ、Ⅲは「読む、書く」という英語の技能を養成する科目です。Ⅱ、Ⅳは「話す、聴く」という英語の技能を養成し、Ⅴは英検やTOEICといった英語の資格試験対策や英語でのプレゼンテーションなど、英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの学習を踏まえて、より高度なさまざまな学生諸君の目的に即した英語技能の養成をはかる科目を意味します。Aは前期、Bは後期を表しています。英語科目は半期ごとに科目が設定されていますが、通年のつもりで履修計画をたてましょう。

3．英語ⅠA・B（1年次）と英語ⅢA・B（2年次）のクラス編成について

1年次の英語ⅠA・Bと2年次の英語ⅢA・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別に5クラスに分けて授業をします。英語Ⅰのクラスは年度始めのプレースメントテストによって決定します。また英語Ⅲのクラスは、英語Ⅰの統一テストを含む成績評価にもとづいて決定します。

4．英語ⅡA・B（1年次）と英語ⅣA・B（2年次）のクラス編成について

1年次の英語ⅡA・Bと2年次の英語ⅣA・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別に6クラスに分けて授業をします。英語Ⅱのクラスは、英語Ⅰとともに年度始めのプレースメントテストによって決定します。また英語Ⅳのクラスは、英語Ⅱの統一テストを含む成績評価にもとづいて決定します。

5．英語Ⅴ（3年次以降）について

3年次以降履修ができます。担当教員の専門性を活かし、英検やTOEICといった英語の各種資格試験の演習や、プレゼンテーション演習、その他を習熟度に応じて授業を行います。

6．英語各科目のクラス分けについて

プレースメントテストや前年度統一テストを含む成績評価にもとづいた指定クラスの第1回目の授業に出席し、担当の教員から許可を得てください。

クラス分けが行われる科目：
1年次　：　英語ⅠA・B、英語ⅡA・B

2年次　：　英語ⅢA・B、英語ⅣA・B

3年次　：　英語ⅤA・B

7．大学4年間に英語をどう勉強すると良いですか。

新1年次生のみなさんの大学入学までの経路は、中学、高等学校（普通高校や工業高校、その他の実業高校等）や、大学検定試験を経てなどさまざまです。しかし、大学や実社会はこうした入学までの経路にかかわらず、より的確に言えばそのようなことはお構いなく、ある一定以上の英語の力を求めています。こうした現実を直視して、英語の4技能とそれを支える語彙と文法を習得しなければ社会が求めている人材とは成り得ません。

1年次から2年次までは、1週間に2度の英語の授業があるわけですから、予習と復習を十分な時間をかけて行う習慣をつけましょう。テキストのわからない単語や語句は、（電子式も含む）辞書などを使って調べてから授業に出席しましょう。また、専任教員やEEPの教員に遠慮なく学習方法などオフィスアワーや授業の合間などを利用して相談しましょう。

履修モデル

1年次の英語ⅠA・Bと英語ⅡA・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別クラスに分けて授業をします。英語Ⅰ及びⅡのクラスは年度始めのプレースメントテストによって決定します。

2年次の英語ⅢA・B とⅣA・Bのクラス編成は、各学系を習熟度別にクラスを分けて授業をします。英語ⅢとⅣのクラスは、前年度の統一テストの結果にもとづいて決定します。英語Ⅴは3年次以降履修ができます。担当教員の専門性を活かし、英検やTOEICといった英語の各種資格試験の演習や、プレゼンテーション演習、その他を習熟度に応じて授業を行います。

1年次
前期　英語　ⅠA・ⅡA
後期　英語　ⅠB・ⅡB

2年次
前期　英語　ⅢA・ⅣA
後期　英語　ⅢB・ⅣB

3年次・4年次
前期　英語　ⅤA
後期　英語　ⅤB

※英語科目は全学年の全クラスで履修制限を行う
※英語科目は全クラス排他条件・前提条件は設定しない

クラス分けが行われる科目

英語は1年・2年・3年次の全科目についてクラス分けを行います

1年次　：　英語ⅠA・B、英語ⅡA・B
2年次　：　英語ⅢA・B、英語ⅣA・B
3・4年次　：　英語ⅤA・B

技術者として社会に出ていくための科目

皆さんは本学部で、人間形成科目、英語科目を学び、さらに、それぞれの専門コースの科目を学んで、社会に技術者として出ていきます。このとき、皆さんは技術者・市民としてさまざまな課題に直面します。以下に示す科目では、特に技術者として考えなければならない課題を学ぶことができます。

新人教育科目から：東京電機大学で学ぶ、技術と環境と社会

概論科目から：科学技術史

主題科目から：技術経営学、技術者倫理、仕事と職業

授業科目配当表

平成21年度　人間形成科目・英語科目　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
共通教育科目	人間形成科目	新人教育科目	東京電機大学で学ぶ	選択	1	1	1	1			大江　正比古（兼担）		
			新人ゼミ	選択	1	1	※1				岡林　茂・石村　多門　他		
			日本語リテラシー	選択	1	1	1/4期1ｺﾏ				岡林　茂・°河野　次郎　他		
			技術と環境と社会	選択	2	1			1	1	若松　征男・°勝　忠義		
		概論科目	哲学Ａ	選択	2	全	1	1			石村　多門		
			哲学Ｂ	選択	2	全			1	1	石村　多門		
			倫理学Ａ	選択	2	全	1	1			°美頭　千不美		
			倫理学Ｂ	選択	2	全			1	1	°美頭　千不美		
			心理学Ａ	選択	2	全	1	1			小林　春美		
			心理学Ｂ	選択	2	全			1	1	小林　春美		
			歴史学Ａ	選択	2	全	1	1			°中島　浩貴		
			歴史学Ｂ	選択	2	全			1	1	°中島　浩貴		
			文学Ａ	選択	2	全	1	1			細川　正昭		
			文学Ｂ	選択	2	全			1	1	細川　正昭		
			法学Ａ	選択	2	全	1	1			°小沼　史彦		
			法学Ｂ	選択	2	全			1	1	°小沼　史彦		
			政治学Ａ	選択	2	全	1	1			°工藤　豊		
			政治学Ｂ	選択	2	全			1	1	°工藤　豊		
			経済学Ａ	選択	2	全	1	1			岡林　茂		
			経済学Ｂ	選択	2	全			1	1	岡林　茂		
			社会学Ａ	選択	2	全	1	1			若松　征男		
			社会学Ｂ	選択	2	全			1	1	若松　征男		
			科学技術史Ａ	選択	2	全	1	1			若松　征男		
			科学技術史Ｂ	選択	2	全			1	1	若松　征男		
			日本国憲法	選択	2	全			1	1	°小沼　史彦		00100
			教職入門	選択	2	全	1	1			前島　康男		10100
			教育心理学概論	選択	2	2	1	1					10200
			教育学概論Ｂ	選択	2	全			1	1	前島　康男		10200
			教育学概論Ｃ	選択	2	全			1	1	前原　健二		10200
			教職総合演習	選択	2	全	半期1ｺﾏ		※2		°松本　洋二		10500
		主題科目	技術経営学（MOT）	選択	2	全			1	1	°小泉　寿男・°山本　寿武		
			技術者倫理	選択	2	全	半期1ｺﾏ		※2		石塚　正英		60100
			仕事と職業	選択	2	2			1	1			
			日本経済の現在	選択	2	全			1	1	岡林　茂		
			世界経済の現在	選択	2	全	1	1			岡林　茂		
			現代社会と法	選択	2	全	1	1			°小沼　史彦		
			社会福祉論	選択	2	全			1	1	°嶋田　芳男		
			日本の文化と倫理	選択	2	全			1	1	石村　多門		
			現代青年の心理と論理	選択	2	全	1	1			石村　多門		
			社会の成り立ち	選択	2	全			1	1	石村　多門		
			感性文化論	選択	2	全			1	1	石塚　正英		
			ことばと社会	選択	2	全	1	1			小林　春美		
			ヒトの発達心理学	選択	2	全			1	1	小林　春美		
			欧米文化研究	選択	2	全			1	1	未定		
			アジア文化研究	選択	2	全	半期1ｺﾏ		※2		°河野　次郎		
			海外事情	選択	2	全	半期1ｺﾏ				未定		
		教養ゼミ	教養ゼミＡ	選択	2	全	1	1			石村　多門・岡林　茂　他		
			教養ゼミＢ	選択	2	全			1	1	石村　多門・岡林　茂　他		
		第二外国語	ドイツ語入門Ⅰ	選択	1	全	1	1			細川　正昭・°長谷川　悦朗		00300
			ドイツ語入門Ⅱ	選択	1	全			1	1	細川　正昭・°増田　晴美		00300
			基礎ドイツ語Ⅰ	選択	1	全	1	1			細川　正昭		00300
			基礎ドイツ語Ⅱ	選択	1	全			1	1	細川　正昭		00300
			初級ドイツ語Ⅰ	選択	1	全	1	1			°長谷川　悦朗		00300
			初級ドイツ語Ⅱ	選択	1	全			1	1	°長谷川　悦朗		00300
			フランス語入門Ⅰ	選択	1	全	1	1			°増田　晴美・°ミルティル		00300
			フランス語入門Ⅱ	選択	1	全			1	1	°増田　晴美・°ミルティル		00300

授業科目配当表

平成21年度　人間形成科目・英語科目　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
共通教育科目	人間形成科目	第二外国語	基礎フランス語	選択	1	全	半期1コマ				° ミルティル		00300
			初級フランス語	選択	1	全	半期1コマ				° 増田　晴美		00300
			中国語入門Ⅰ	選択	1	全	1	1			° 呂　小燕・° 林　鳴宇　他		00300
			中国語入門Ⅱ	選択	1	全			1	1	° 呂　小燕・° 林　鳴宇　他		00300
			基礎中国語Ⅰ	選択	1	全	1	1			° 呂　小燕・林　鳴宇		00300
			基礎中国語Ⅱ	選択	1	全			1	1	° 呂　小燕・° 林　鳴宇		00300
			初級中国語Ⅰ	選択	1	全	1	1			° 林　鳴宇・° 張　国璐		00300
			初級中国語Ⅱ	選択	1	全			1	1	° 林　鳴宇・° 張　国璐		00300
			留学生のための日本語Ⅰ	選択	1	全	1	1			若松　征男・° 野口　佳子		
			留学生のための日本語Ⅱ	選択	1	全			1	1	若松　征男・° 野口　佳子		
			留学生のための日本語Ⅲ	選択	1	全	1	1			細川　正昭・° 野口　佳子		
			留学生のための日本語Ⅳ	選択	1	全			1	1	細川　正昭・° 野口　佳子		
		保健体育	体育Ⅰ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・池田　瑞音　他		00200
			体育Ⅱ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・池田　瑞音　他		00200
			体育Ⅲ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・池田　瑞音　他		00200
			体育Ⅳ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・池田　瑞音　他		00200
			体育Ⅴ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・池田　瑞音　他		00200
			体育Ⅵ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・池田　瑞音　他		00200
			学外体育研修Ａ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・野田　達也	集中講義	
			学外体育研修Ｂ	選択	1	全	半期1コマ				掛水　隆・野田　達也	集中講義	
	英語科目	英語	英語ＩＡ	必修	1	1	1	1			越川　邦夫・遠藤　晶子　他		00300
			英語ＩＢ	必修	1	1			1	1	越川　邦夫・遠藤　晶子　他		00300
			英語ⅡＡ	必修	1	1	1	1			越川　邦夫・小山内　大　他		00300
			英語ⅡＢ	必修	1	1			1	1	越川　邦夫・遠藤　晶子　他		00300
			英語ⅢＡ	必修	1	2	1	1					00300
			英語ⅢＢ	必修	1	2			1	1			00300
			英語ⅣＡ	必修	1	2	1	1					00300
			英語ⅣＢ	必修	1	2			1	1			00300
			英語ＶＡ	選択	1	3	1	1					00300
			英語ＶＢ	選択	1	3			1	1			00300
		英語研修	海外英語研修Ａ	選択	2	全	半期2コマ				未定　（アイオワ大学）	集中講義	
			海外英語研修Ｂ	選択	2	全	半期2コマ				未定　（コロラド大学）	集中講義	
			海外英語研修Ｃ	選択	2	全	半期2コマ				未定　（シドニー大学）	集中講義	
			海外英語研修Ｄ	選択	1	全	半期1コマ				未定　（未定）	集中講義	

※1　1/4期2コマ(但し、前前期・前後期開講)
※2　但し、前期・後期開講
※　教職コードは、「教職課程」参照。

学部共通科目群履修モデル

近年の科学技術の進歩・発展の早さはめざましく、大学で現在最先端といわれる科学技術を学んで卒業しても、その中の多くは諸君が卒業後、実社会で活躍する頃すぐに一時代前のものになってしまいます。未来に対して創造性・発展性のある科学技術は、確固たる学問体系に裏付けられたものしか成り得ません。理工学部では、どの学系・専門コースで専門を体系的に学ぶ際にも必要となる基礎知識・学力を身につけるため、共通教育科目を充実しています。諸君が必要とする学問体系としての基礎知識は一、二年次のうちにこの共通教育から習得しておく必要があります。理工学は自然を理解し応用していく学問分野であるため自然を理解する事が必要不可欠です。理工学部の共通教育における大きな柱は数学、物理学と化学です。「数学」では数の法則を理解し、科学的な考え方と技術を記述する世界共通の言語とも言える数式による表現を学びます。「物理学」では物質の運動と存在の基本法則を学び、「化学」では物質がどのようにできているか、物質の性質と変化の本質を学びます。さらに生物や地球環境への理解も必要です。また、情報や工学の基礎も身につけておく必要があります。いずれも、これからの技術の発展に欠くことのできない基礎となる学問です。

学部共通科目の構成と履修の順序

学部共通科目群の科目構成は基礎、数学、物理学、化学、生物、地学、情報および工学の八分野から成ります。基礎分野には他の共通科目や専門科目を学ぶために必要な数学・物理学・化学の基礎科目と物理学と化学にはさらに基礎演習科目が用意されています。これら基礎科目は基礎学力が不足する学生は必ず履修する必要があります。共通教育の基幹分野としての数学・物理学・化学にはいくつかの科目が用意されており、そのほとんどを履修する必要があります。また、生物学分野と地学分野にそれぞれ一科目ずつ、情報分野と工学分野には二科目ずつ用意されていますので必要に応じて履修すると良いでしょう。

数学・物理学・化学の基礎科目、共通科目は、基礎科目→共通科目の順に履修すると理解しやすいでしょう。科目がＡ科目とＢ科目に分かれている場合はＡ科目を履修してからＢ科目を学びます。具体的にどの科目をどの順序で履修するかは、履修モデルと各科目系統別説明を参考に、学系・コースの進級条件を考慮して学生自らの判断で決めなくてはなりません。

科目分野別の履修について

基礎科目：

確実に基礎を身につけるため、４月初めに行われるプレースメントテストの数学・物理学・化学に不合格の場合は、それぞれ「**数学基礎**」・「**物理学基礎**」・「**化学基礎**」を履修する必要があります。また、「物理学基礎」と「化学基礎」の履修者には学力に応じてさらに「**物理学基礎演習**」・「**化学基礎演習**」を履修する事が求められます。これらの基礎科目・基礎演習科目は学力別クラス編成を取り、どのクラスを履修するかはプレースメントテストの結果によって指示されます。物理と化学の基礎演習科目は基礎科目の授業の演習として行われるので演習科目のみ履修することはできません。

「数学基礎」は、高校では十分に数学を学んで来なかった人、例えば、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はやったけれども、「数学Ａ・Ｂ・Ｃ」の中にはやっていないものがあるという人のために、大学での学習への橋渡しを行う科目です。数学の実力にあまり自信が持てない人も履修すると良いでしょう。「数学基礎」は前々期（前期の前半）に週２回の授業があり、それ以外の基礎科目・基礎演習科目は前期に週１回の授業を行います。前々期の成績が不合格となった場合は前後期（前期の後半）に再履修しなくてはなりません。数学のプレースメントテストに合格するか、「数学基礎」に合格しないと、「**基礎微積分学Ａ・Ｂ**」を履修することはできません。

「**物理学基礎**」では物理の基本原理である力学の初歩をゼロから学びます。「**化学基礎**」では原子・分子の基本的な構造、物質量と溶液濃度、化学結合、物質の状態や化学平衡などの化学の基本を学びます。「物理学基礎」と「化学基礎」ではできるだけ多くの演習問題を解く事で基礎学力を身につけます。また、「**物理学基礎演習**」および「**化学基礎演習**」は特に物理および化学の初級者に演習問題の解法を身につけてもらうための科目です。物理学または化学のプレースメントテストに不合格であった場合でも基礎演習科目の履修が求められていない場合は「物理学基礎」または「化学基礎」を同時に学ぶことで「物理学Ａ」または「化学Ａ」を前期に履修することができます。しかし、基礎演習科目の履修を指示された場合は、前期に基礎科目と基礎演習科目を履修して、基礎を理解してから後期に「物理学Ａ」と「物理学Ｂ」または「化学Ａ」と「化学Ｂ」をそれぞれ同時に履修すると良いでしょう。

数学：

数学は数の基本法則を追求する学問です。自然現象や化学技術を客観的に表現する際にも数式で表現されるので、理工学全分野に必須の学問です。数学関連科目の「基礎線形代数学

Ａ・Ｂ」、「基礎微積分学Ａ・Ｂ」の四科目は理工学部でこれから学んで行くいろいろな分野の基礎として、最も基本的な知識を習得するためのものです。そのためにも、これらの科目はできるだけ一年次のうちに全科目を履修しておいて、その後の各学系・コースでの、より専門的な科目を学習するときに支障とならないようにすることが大切です。

物理学：

物理学は読んで字のごとく、物事（自然現象）の理（ことわり）を探求する学問です。「自然現象が何故どのように起きているのか、それをどう理解していくのか」という、理工系の学問全体に共通する考え方の基礎を学びます。また専門分野への直接的なあるいは間接的な基礎ともなっています。

ある程度、物理の基礎が身に付いている学生は「**物理学A**」を履修します。「物理学A」では物理学の考え方や現象をどう理解しどう説明するのかを、物体の運動の解析を通じて学んでいきます。その後、「**物理学Ｂ**」で更なる自然の理解へと進んでいきます。それと平行して「**一般物理学実験**」があります。理論で予想されたものが実験結果と一致するかを実体験してください。前期の「**物理学A**」の授業は、「物理学基礎」同様、４月最初に実施されるプレースメントテストの結果に基づき、各人がどのクラスを受講すればよいのかが指定されます。後期の「**物理学Ｂ**」は物理学のもうひとつの柱である電磁気を中心に学びます。詳しくはオンラインシラバスで内容を確認してください。

化学：

化学では物質とは何か、物質はどのように変化し物質集合体にはどのような性質があるかを学びます。現在の科学技術は物質抜きでは成り立ちません。従って、直接化学物質を扱わない専門コースの学生にとっても、理工系である以上化学は重要な基礎科目です。

基礎がある程度、身に付いた学生は「**化学Ａ**」または「**化学Ｂ**」を履修します。「化学A」は「化学基礎」で基礎を補いながら履修することができます。「**化学Ａ**」と「**化学Ｂ**」はどちらを先に履修しても良く、同時に履修してもかまいません。「**化学Ａ**」では量子化学によって解き明かされた原子と分子の成り立ちと化学結合を理解します。「**化学Ｂ**」では物質の状態を物質エネルギーの学問体系である化学熱力学の観点から理解し、反応速度や有機高分子・金属・セラミックなどの化学材料についても概観します。

化学は現象の発見や実験を通して発展してきた学問です。化学現象の本当の姿を理解し化学の面白さを体験するためには是非「**一般化学実験**」を履修することを勧めます。基本的な実験器具の扱い方から本格的な化学分析まで自ら行い実験技術を習得します。また、「**一般**

化学実験」では学問としての化学ばかりではなく、実験の準備から後かたづけと報告書の作成に至るまで、科学技術者に必要な全ての要素を練習し身につけることも学習目標となっています。

その他の自然科学分野の科目：

以下の科目は自分の状況にあったものを履修すると良いでしょう。

「**生物科学**」は専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付けたい人にも見逃せません。高校で生物を履修しなかった学生のことも考え、生物学の初歩から学びます。授業時間のはじめの１０分くらいで、キャンパス周辺の植物を取り上げ、その構造や分類学上の位置などについて説明することも考えています。

「**環境科学**」も専門分野で関係する諸君には必要となる科目ですが、自然科学の素養を付けたい人にも見逃せません。現代の技術は環境を配慮しないと生き残ることはできません。この科目では、現在の地球環境問題の科学技術的側面を見渡し、技術者として身につけるべき環境保全・修復の基礎を勉強します。また、地球上での人類の位置づけについて、グローバルな視点と地球史的な視点から考えていきます。

情報：

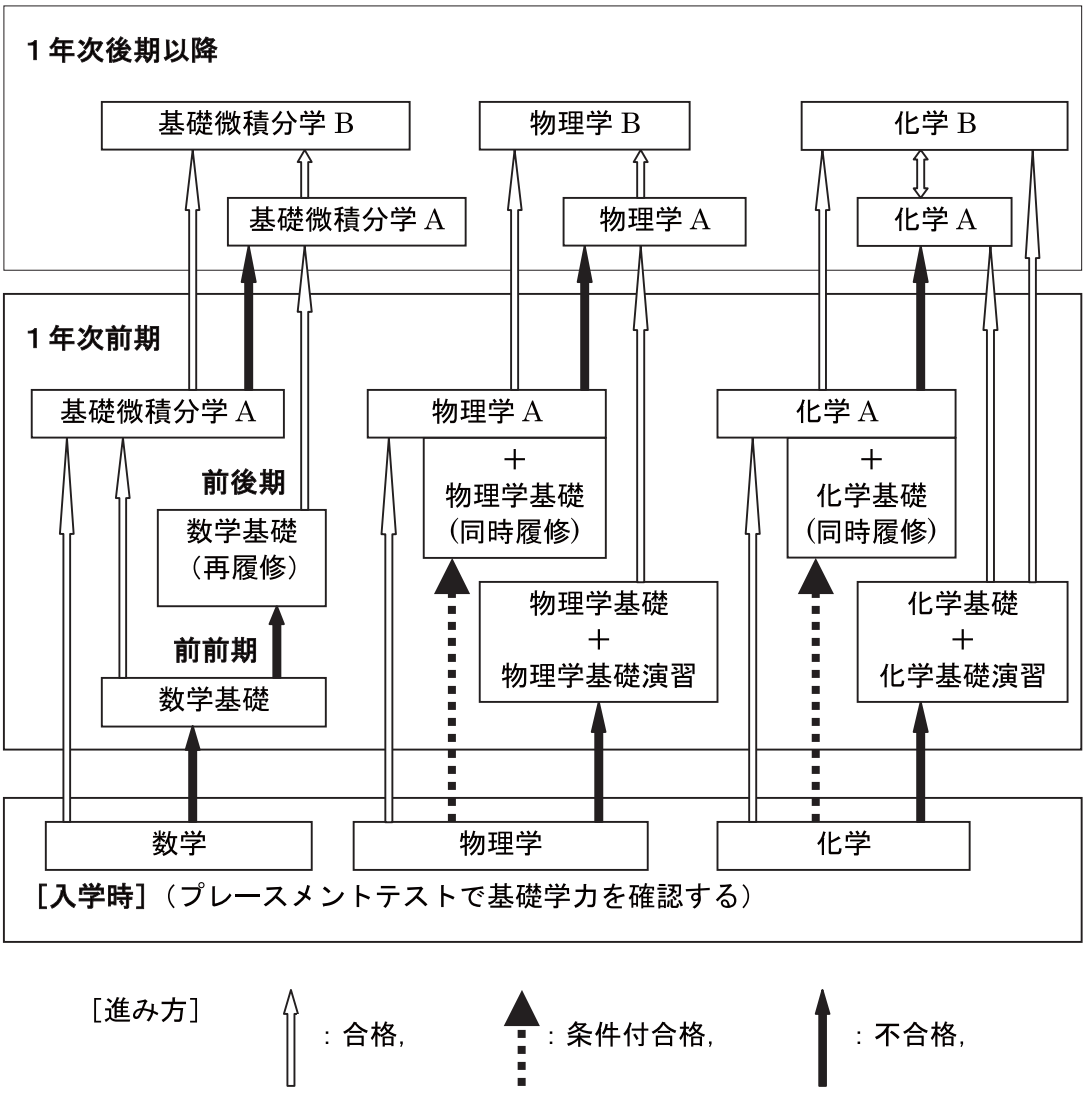
情報技術は未来社会を担う人材に不可欠な素養で、特に理工系学生にとってはこれを高いレベルで理解し実践する能力が要求されます。「**情報処理A**」ではアプリケーションプログラムを用いた情報処理とネットワーク利用の技能を習得し、情報に入門します。「**情報処理B**」ではさらに高度な内容を学び、計算機プログラミングに関する基礎的な知識を理解し、専門課程における諸分野での応用や、より高度な情報学の修得に繋げます。情報に関する学生の理解度には大きな差があるため、自分にあった科目を履修すると良いでしょう。

工学：

工学分野の共通科目には「**立体図学**」と「**工学基礎**」があります。「立体図学」では立体を紙面に表す方法を学びます。正投影法、軸測投影法、透視投影法による基本的な立体の表現を習得します。また、副投影法などを用いて、ねじれの位置にある 2 直線や 2 平面の交線、立体の相貫線を求めることで、空間認識力を養います。「工学基礎」では電気、機械、建設土木の基礎として簡単な電気回路、機械設計と設計図の見方、土木・建築構造物の概要を学びます。

共通科目群の科目配置図

［履修の順序に注意が必要な科目］



［その他の共通科目］

配当期	数学・物理学・化学分野	その他の自然科学・情報・工学分野
１年次前期	基礎線形代数学 A 一般物理学実験* 一般化学実験*	生物科学*・環境科学* 情報処理 A** 立体図学・工学基礎
１年次後期	基礎線形代数学 B 一般物理学実験* 一般化学実験*	生物科学*・環境科学* 情報処理 B**

*　前期と後期のどちらで履修しても良い科目
**　学生の技量に応じて選択する科目

授業科目配当表
平成21年度　学部共通科目　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	学部共通科目	基礎	数学基礎	選択	1	1	※1				硲　文夫・市野　学　他		
			物理学基礎	選択	1	1	1	1			木下　彬・吉武　裕美子　他		
			物理学基礎演習	選択	1	1	1	1			木下　彬・吉武　裕美子　他		
			化学基礎	選択	1	1	1	1			小川　英生・柏崎　尚也　他		
			化学基礎演習	選択	1	1	1	1			類家　正稔・向山　義治　他		
		数学	基礎微積分学A	選択	2	1	※2				市野　学・町原　文明　他		20300
			基礎微積分学B	選択	2	1			1	1	荒牧　淳一・越智　禎宏　他		20300
			基礎線形代数学A	選択	2	1	1	1			硲　文夫・中野　哲夫　他		20100
			基礎線形代数学B	選択	2	1			1	1	硲　文夫・中野　哲夫　他		20100
		物理学	物理学A	選択	2	1	半期1ｺﾏ			※3	井上　真・仲光　邦昭　他		30100
			物理学B	選択	2	1			1	1	本橋　章・細田　真妃子		30100
			一般物理学実験	選択	2	1	半期2ｺﾏ			※3	木下　彬・本橋　章　他		30200
		化学	化学A	選択	2	1	半期1ｺﾏ			※3	岡本　博司・小川　英生　他		30300
			化学B	選択	2	1			1	1	小川　英生・山室　憲子　他		30300
			一般化学実験	選択	2	1	半期2ｺﾏ			※3	岡本　博司・小川　英生　他		30400
		生物	生物科学	選択	2	1			1	1	栗山　昭		30500
		地学	環境科学	選択	2	1	半期1ｺﾏ			※3	岡本　博司・°勝本　正之		30700
		情報	情報処理A	選択	2	1	1	1			藤本　衡　他		00400
			情報処理B	選択	2	1	半期1ｺﾏ			※3	藤本　衡・高橋　達二　他		70100
		工学	立体図学	選択	2	1	1	1			°奈尾　信英		
			工学基礎	選択	2	1	1	1			井浦　雅司・羽根吉　寿正　他		

※1　1/4期2コマ(但し、前前期・前後期開講)
※2　1/4期2コマまたは半期1コマ
※3　但し、前期・後期開講
※　教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

理　学　系

(Division of Science)

理学系履修モデル

学系の学習・教育目標

理学は工学等の分野において基礎であると同時に、それ自身が多くの研究対象をもつ分野です。近代の自然科学は自然を観察し、その仕組みを解析し、理論的モデルを用いて表現し、そして体系化することによって発展してきました。数学を基礎としたモデルによる解析とその結果の応用は自然科学ばかりでなく工学を発展させる道を開きました。理学系にはそのような学問分野として数学・物理学・化学・数理情報学の 4 つの専門分野があります。

理学は自然界の法則を探求し、論理的思考によってそれを体系づける学問であり、数学・物理学・化学はまさにそのような代表的学問です。また、数理情報学は代数学や解析学などの数学をベースとする数理的なアプローチによって情報の本質を理解し考える学問です。

理工学では、さまざまな未知の問題に興味を持ち挑戦していく姿勢が求められます。そのために、理学系では基本的な理論を習得し、それが問題解決のためにどのように使えるかを学びます。問題を本質的に捉えて解決できる創造性豊かで高度な専門性をもった人材を世に送り出すことを学習・教育の目標としています。

学系のカリキュラムの概要

理学系では他の学系とも連携を進め、基礎を大切にしながらも幅広い応用力も身につけられる教育システムを構築しています。いくつかの専門コースに共通で必要な基礎科目は学系共通科目として配置しています。学系共通科目は、数学、物理学、化学、その他の自然科学および数理情報学の基礎科目から成り、それぞれ科目はその分野と関連する専門コースの専門科目の学習につながる内容となるよう配慮されています。特に数学分野の学系共通科目は数学コースの専門科目の前提科目となっている場合が多いため、履修計画を立てる際に注意が必要です。

コースの専門科目は二年次から三年次にかけて、基礎から段階的に応用、発展的内容になるよう配置されています。また、演習、実験が多いのも理学系の特徴です。専門の応用力を確実にするため演習、実験科目はできるだけ配当年次に履修する必要があります。配当年次に単位取得できなかった場合、上級年次での再履修が困難になる場合があるので注意が必要です。一部の専門科目は複数のコースに同一科目名で配置されていますが、同じ科目である

ため一度しか履修することはできません。主専攻コースの科目として履修して下さい。

＜各コースの概要＞

数学コース：

数学コースでは代数学、幾何学、解析学等の基礎から現代数学までの分野を学んで習得することならびにそれを通じて自由な発想を持った柔軟な論理的思考力を身につけた人材を養成することを目標としております。この目標に沿って、学部共通科目・理学系共通科目・数学コース専門科目を連携して高校数学に接続したものから現代数学に至るまでの数学を体系的に学ぶことができるようにカリキュラムが用意されております。

- 理学系共通科目のうち数学分野の科目は分類上は共通科目ですが、本コースにとって専門科目に相当するものです。
- 数学の学習には講義だけでなく自分で問題を解く演習が大切なため本コースのカリキュラムでは将来どの方向に進むとしても共通に必要となる１、２年次の科目でとくに基本となる科目には演習科目が用意されています。演習科目も併せて履修することが望ましいです。
- 各自の興味を持ったテーマを選択してその理解をさらに深めることができるように、本コースでは少人数で行われる輪講Ⅰ、輪講Ⅱがあり、さらに理学卒業研究Ⅰ、理学卒業研究Ⅱが用意されています。

物理学コース：

物理学は、力学・電磁気学・量子力学・統計力学を中心軸とし、様々な分野が互いに関連した学問です。特に近年は分野の細分化と統合が同時に起き、ある分野で発達した方法などが他分野に応用されることも珍しくありません。その意味で、物理学コースでは他の、数学はもとより化学・情報など、普通の物理学科では学びにくい幅広い分野の科目を履修することができるようになっています。物理だけにとどまらず多くの他のコースや他学系の分野も学び、多彩な能力と興味を身につけることが必要です。それぞれの科目を履修するためには予め履修しておく方が望ましい科目があります。科目履修に当たってはそれぞれの科目の履修要件をオンラインシラバス等で確認しておくことが必要です。

化学コース：

科学技術の急速な進歩によって、多くの分野で物質に関する認識・知識が重要となってきています。とくに、環境分野、エネルギー分野、バイオテクノロジー分野、ナノテクノロジー分野、電子工学分野など、現代の重要技術分野のほとんどにおいて、化学が重要基盤の一つ

になっています。化学コースでは、このような多くの分野に対応するため、化学の基礎中の基礎をみっちり勉強します。そのため、２年生、３年生、４年生と学年が上がるにしたがって、内容は連続性を持って高度化します。

化学には、無機化学、有機化学、生物化学、高分子化学および物理化学があります。化学コースでは、物質の構造・性質・反応を系統的に扱う物理化学を中心に勉強し、それ以外の分野の化学と連係することによって、最終的には化学の大系を学んでいきます。講義のあいまには、「サイエンス実験Ⅱ」（２年後期）、「物理化学実験」（３年前期）を行って感覚的に物質に親しむと同時に、少人数で「化学輪講」を行い化学の知識を確かなものにします。４年生では、先生の指導のもとに興味を持った研究テーマで自発的に研究を行い、それまでに学んだ化学の知識を応用します。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、演習科目を数多く準備し、情報の基礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。まず１年次と２年次では、学部共通科目や理学系共通科目、演習や実習科目によって数学やコンピュータ、情報の基礎をしっかり学ぶことが重要と考えています。特に学系共通科目の数理情報学入門（１年前期）はコースの教員全員による数理情報学についての解説がありぜひ履修することを期待します。コースに配属された２年次からは、徐々に数理情報学の専門に進み、３年次での専門科目（人工知能、ロボット科学、画像解析、システム理論など）を経て４年次で卒業研究を行います。この間、少人数制での輪講Ⅰ、Ⅱや、情報分野の課題を題材とするコンピュータ実習科目である数理情報学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲもあり実践的な学習が継続できます。なお、３年次から４年次への進級の際には本コース固有の進級条件があり注意が必要です。また中学高校の「数学」や高校の「情報」の教員免許を取得することもできます。

一年次の履修計画の立て方・学習の進め方

一年次はできるだけ学部共通の数学、物理学、化学、情報の専門基礎科目、英語科目および教養科目を中心に履修し、専門科目を学ぶ上での基礎を確かなものにします。また、理学系では他学系以上に自然科学の基礎が重要となるので、学系共通科目としても数学、物理学、化学分野の科目が配置され、特に数学分野には多くの科目があります。一年次配当の理学系共通科目の数学分野の科目のうち、「解析学Ⅰ演習」は「基礎微分積分学A」の内容に対応する演習科目であり、「解析学Ⅱ演習」、「線形代数学Ⅰ演習」、「線形代数学Ⅱ演習」はそれ

ぞれ「基礎微分積分学B」、「基礎線形代数学A」、「基礎線形代数学B」の演習科目です。

さらに、二年次から学ぶ専門分野により基礎として重視される科目が異なりますので、希望する主専攻コースに応じて下記を考慮する必要があります。

数学コース：

数学コースを希望する学生には、対応する講義科目だけでなく、２単位演習科目「解析学Ⅰ演習」、「解析学Ⅱ演習」、「線形代数学Ⅰ演習」、「線形代数学Ⅱ演習」の履修も強く勧めます。(これらの４科目は本コースの３年次から４年次の進級条件で必ず単位を取得する必要のある科目となっています。)

さらに「集合と論理」、「集合と論理演習」も本コースの２年次以降の科目で使われることの多い内容のため履修を勧めます。

物理学コース：

物理は特に基礎から理論と実験を積み上げていく学問です。例えば力学を理解しないで量子力学を理解することは困難です。また多くの面で数学を利用します。従ってまず、数学（**基礎微積分学A・B、解析学Ⅰ・Ⅱ演習**と**基礎線形代数学A・B**及び**その演習Ⅰ、Ⅱ**）を身につける必要があります。物理コース志望を志望する学生は、**物理学A・B**に続いて**力学**を履修します。理論だけでなく**一般物理学実験**も大切です。

また、この時期に英語はもちろんのこと、人文・社会系の科目である人間形成科目群を履修し、大学人としての教養を身につけておくことが重要です。

化学コース：

化学コースを選択しようと考えている学生は、プレースメントテストの合否にかかわらず、「化学基礎」、「物理学基礎」、「数学基礎」を履修し、高校までに学んだ基礎をきっちり身につけておくことをすすめます。２年次以降で行う専門的な実験に先立ち、実験の基礎を身につけるために、共通科目の一般化学実験と一般物理学実験は必ず履修して下さい。また、大学における化学と物理の基礎を身につけるために、共通科目の「化学A・B」、「物理学A・B」、「環境科学」および学系共通科目の「生命の化学」を履修することを特にすすめます。

数理情報学コース：

１年次では数学や情報、コンピュータの基礎の学習に努めて下さい。数学では学部共通科目の基礎微分積分学Ａ・B、基礎線形代数学A・Ｂの４科目すべてを履修してください。また並行して開講されている演習科目（理学系共通科目の解析学Ⅰ演習、線形代数学Ⅰ演習な

ど）も履修することを勧めます。情報やコンピュータ関係では、まずは数理情報学入門（1年前期）は必ず履修し数理情報分野の概要を学び、また数理プログラミング（1年後期）も履修してください。学部共通科目の情報処理Bも、できれば1年前期に取るといいでしょう。プログラミングを含む実習科目は2年次以降にも継続して開講されます。

主専攻コースの選択と履修について（2～4年次）

一年次に理学系の共通科目を学ぶことで、各専門分野がどのような性格・内容の学問分野であるかが入学段階と比べて良く理解されたでしょう。専門コースの選択は卒業後の歩み方に大きな影響を与えますので、入学段階でのコース希望にとらわれず各コースの内容を理解した上で、自分にあったコースを主専攻コースとして選ぶ必要があります。二年次以上では主専攻コースとして選んだコースに応じて、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

数学コースを主コースとする学生は講義科目を履修するだけではなく対応する演習科目が開講されている場合は演習科目も併せて履修するようにしてください。理学系共通科目数学分野に分類されている1単位の演習科目は対応する講義科目と同時履修の必要があるので注意してください。（ただし、すでに講義科目の単位を取得済みである場合は別です。）

- 2年次の数学分野の科目は理学系共通科目に分類されていますが、将来数学のどの分野に進むにも基本となる内容ですからそれらを履修してください。2年次から3年次への進級条件はとくに設けておりませんが、2年次は本コースで基本となる科目を学習する大切な学年です。実際、本コースのカリキュラムとしては重要な内容のため3年次から4年次への進級条件に2年次科目の多くの科目が含まれております。
- 3年次には本コース専門科目も始まり、興味や将来の進路などを考えて履修科目を選択していくことになります。本コースの輪講Ⅰ、Ⅱの単位取得は進級のために必要です。
- 本コースを主コースとした場合、3年次から4年次への進級には理工学部で共通の進級条件の他に本コース独自の進級条件もみたす必要があります。詳しくは進級条件表（理学系）の数学コースの欄を見てください。

物理学コース：

力学・電磁気学・量子力学ⅠとⅡ・**統計力学**ⅠとⅡおよび**サイエンス実験**Ⅰがどの物理分野を学ぶ上でも必須項目となります。また、**物理学演習**Ⅰ～Ⅳは学んだことを身につけるた

めの授業なので、これも必須科目です。

物理学を理解するためには学習の順序があります。物理学の基礎としてはじめに**力学**と**電磁気学**を学びます。これらの科目を学ぶには**物理学A**と**B**・**基礎微積分学A**と**B**・**解析学ⅠとⅡ演習**・**基礎線形代数学A**と**B**とその**演習ⅠとⅡ**・常微分方程式・偏微分方程式の基礎物理と基礎数学が必要となります。また、**サイエンス実験Ⅰ**および**計測と分析**も早めに履修すると良いでしょう。これらの科目を履修するには一般物理学実験を履修しておく必要があります。

次に**熱力学**と**量子力学ⅠとⅡ**を履修します。これらの科目は数学の基礎と複素解析学Ⅰに加えて力学と電磁気学の理解が欠かせません。熱力学と量子力学の基礎が理解できたら**統計力学ⅠとⅡ**、**量子力学Ⅲ**および**物性論**に進みます。これらの科目を学ぶには物理学全般の知識に加え化学熱力学も必要です。

物理学の講義科目を学びながら**物理学演習Ⅰ～Ⅳ**を履修し各年次で学んだ物理学の演習に取り組み、さらに**論文考究**や**特論**で物理学を確かなものとします。**特論**は物理学コースの卒業研究を受ける学生は必ず履修して下さい。

また、サイエンス実験Ⅱ・数理プログラミング・集合と論理・**解析学ⅢとⅣ**とその演習・線形代数学の演習・代数学Ⅱ・線形代数学Ⅲ・複素解析学Ⅱ・幾何学ⅡとⅢ・統計学・確率過程論等の履修も推奨されます。これらの科目は必ずしも履修年次にこだわらなくともよいでしょう。

化学コース：

化学コースを主コースとする学生は、2年次において「学系共通科目」と「コース専門科目」の両方から、学問分野を考慮しバランスよく科目を履修して下さい。例えば、化学反応学Ⅰ、有機化学Ⅰ、無機化学Ⅰなど化学の大きな部門をなす分野名のついた科目は低学年次において学習しておく必要があります。また、熱力学、統計力学Ⅰ、量子力学Ⅰなど物理分野を履修し学習しておくことは高学年次にそれらを基盤とする化学の科目を履修する際に大きなアドバンテージとなります。また、生物学などの科目を履修することも視野を広げるためには重要なことです。3年次においては高度に専門化された科目が多くなり、それらの多くは「コース専門科目」として準備されています。電気化学など初めて学習する分野もありますが、化学熱力学や統計力学Ⅱ、分子分光学Ⅱ、化学反応学Ⅱなど、2年次に配当される科目の内容をふまえて講義を進めるような科目が多くあります。また、少人数のゼミ形式により行なう化学輪講Ⅰでは文献の探し方、読み方や化学のワンポイントなどを学習します。

更に、２年次、３年次では講義で学習した内容などを実際に実験で確かめてみる意味でサイエンス実験Ⅱと物理化学実験を履修します。実験で確認することによって理論がより鮮明に理解できるでしょう。４年次においては理学卒業研究Ⅰ、Ⅱを履修し、各人が個別のテーマで研究を行います。また、化学輪講Ⅱでは卒業研究の内容をまとめて報告する方法を学んだり、研究テーマに関連する文献の輪講などを行なったりします。これらは化学コースで学習したことの総仕上げの意味がありますので、非常に重要な科目です。

数理情報学コース：

２年次からは、徐々に数理情報学の専門的な科目に移っていきます。本コースに所属して順調に進級し卒業できるよう、以下の点に注意しながら今後の履修計画を立てて勉学に取り組んでください。

①進級・卒業条件：主コース、副コースの条件も含め、学部共通の条件をよく確認してください。なお、数理情報学コースでは３年次から４年次への進級条件として、１年次の学部共通科目の基礎微積分学Ａ、Ｂと基礎線形代数学Ａ、Ｂの４科目のうちから３科目以上、コース専門科目の数理情報学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの３科目のうちから２科目以上、および輪講Ⅰ、Ⅱの２科目が単位取得できていることが必要です。注意して下さい。

②取得単位数の目安：４年次では理学卒業研究Ⅰ、Ⅱ（計６単位）や進学、就職の活動が中心となります。卒業に必要な単位数は124単位ですから、３年次までは各年次40単位強を目安に単位取得するとよいでしょう。

③科目履修ガイド：進級・卒業に必要な単位を取得していくことはもちろんですが、人間形成科目や英語科目、主コース、副コースの科目もバランスよく履修するように計画することを勧めます。理学系共通科目の中でも離散数学を始めとする数理情報分野の科目はできるだけ履修して下さい。コース専門科目では、数理情報学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのすべて、またその他の科目もできる限り多く履修し取得するよう心がけてください。

④教員免許：中学高校の「数学」、高校の「情報」の教員免許が取得できます。教員免許の項を参照してください。

副専攻コースの選択と履修について（２～４年次）

どの副専攻コースを選択するかは、主専攻コースとして選んだ専門分野と合わせてどのようなスペシャリストを目指すのか、またはどの分野の進学やどのような業種の就職を目指すのかを考えて決定する必要があります。主コースと副コースとの組み合わせと進学、就職分野は各コースのホームページを参照すると良いでしょう。副専攻コースとして理学系の各コー

スを選んだ場合、履修計画の立て方・学習の進め方に以下の注意が必要です。

数学コース：

他のコースを主コースとしたが数学も学んでみたいという場合や主コースのために数学による基礎付けをしておきたいなど数学コースを副コースとして希望する目的にはいろいろな場合が考えられます。いずれにしろ本コースを副コースとする場合、数学全体を学ぶだけの科目数を履修する余裕がもてないことも考えられますので、各自の趣味、将来の希望、主コースとの関連、科目間のつながり等を考慮して有効に履修科目を選択する必要があります。

・数学コースの専門科目の中には準備が想定されている科目もあります。本コースを副コースとする学生も学系共通科目から対象となる科目を履修しておくことが望ましいです。詳しくは各科目のシラバスをご覧ください。

物理学コース：

力学・電磁気学・量子力学ⅠとⅡ・統計力学ⅠとⅡが何を学ぶにしても必須項目です。それぞれの科目の前提となる科目については、主コースの欄と同じですので参照して下さい。専門科目は、化学熱力学・量子力学Ⅲ等の履修を勧めます。**特論ⅠとⅡは、物理学コースの学生専門です。**

化学コース：

化学コースを副コースとして選んだ学生は、興味の対象が何であるかで履修すべき科目が異なります。例えば、「材料」に興味があるのか、それとも「化学反応」に興味があるのかは大きな違いです。前者の場合は「材料化学」を履修すべきでしょうし、後者の場合は「化学反応学Ⅰ、Ⅱ」を履修するのがよいでしょう。また、材料であっても、それが「無機」材料であるのか「有機」材料であるのか、はたまた「高分子」に分類される材料であるのかで、「有機化学」や「高分子科学」の履修が適している場合もあります。何に興味があるのか、勉強したいのは何なのかをよく考慮した上で履修科目を選択して下さい。また、コース専門科目に準備されている科目で分子分光学Ⅱや化学反応学Ⅱなどのように「Ⅱ」がつく科目は理学系の学系共通科目にそれらに対応する「Ⅰ」の科目がありますので、まずそちらを履修することを勧めます。

数理情報学コース：

数理情報学コースは、数学とコンピュータを基礎に情報について学び研究するコースです。カリキュラムでは、低学年次で数学やコンピュータ、情報の基礎を学び、その後、情報の基

礎から応用まで段階的に学習できるよう構成しています。従って、数理情報学コースを副コースとして選び、コース専門科目を履修する際には、できるだけその前提となる基礎科目を履修しておいてください。また、科目の一部には履修制限する場合がありますので注意してください。

その他注意事項

理学系の教職科目に指定されている科目履修で数学、理科または情報の教員免許を取得することができます。所属するコースにかかわらず各免許状の科目要件を満たせば複数の免許状を取得することも可能です。学系共通科目、コース専門科目には教職科目に指定されている科目が多数あるため、教員免許取得を目指す学生は教職課程の章を良く読んで目指す免許状に応じて履修計画を立てる必要があります。例えば、数学の教員免許の「教科に関する科目」としてコンピュータに区分された科目があり、理学系の学生に対しては「数理プログラミング」が必修となっています。

理学系の科目配置図

4年

理学卒業研究Ⅰ・Ⅱ
（必要に応じて）理学インターンシップE・F

〔数学コース専門科目〕	〔物理学コース専門科目〕	〔化学コース専門科目〕	〔数理情報学コース専門科目〕
関数解析学Ⅱ 複素解析学Ⅱ 代数学Ⅳ 幾何学Ⅲ	物性論Ⅱ 特論Ⅰ・Ⅱ	化学輪講Ⅱ	専門科目は配置しない

3年

〔数学コース専門科目〕	〔物理学コース専門科目〕	〔化学コース専門科目〕	〔数理情報学コース専門科目〕
代数学Ⅱ・Ⅲ 位相空間Ⅱ 幾何学Ⅱ 積分論 関数解析学Ⅰ 統計学 確率過程論 偏微分方程式 輪講Ⅰ・Ⅱ	化学熱力学 統計力学Ⅱ 量子力学Ⅲ 物性論Ⅰ 物理学演習Ⅲ・Ⅳ 論文講究Ⅰ・Ⅱ	化学熱力学 統計力学Ⅱ 無機化学Ⅱ 高分子科学 電気化学 分子分光学Ⅱ 化学反応学Ⅱ 物理化学実験 化学輪講Ⅰ	人工知能 データ科学 ロボット科学 画像解析 学習理論 システム理論 制御理論 数理情報学演習Ⅲ 輪講Ⅰ・Ⅱ

〔理学系共通科目〕

（物理学・化学・地学分野）
量子力学Ⅱ・機器分析・分子分光学Ⅰ
生態地球科学・地学実験

（その他）理学特別卒業研究、理学インターンシップC、D

2年

〔数学コース専門科目〕	〔物理学コース専門科目〕	〔化学コース専門科目〕	〔数理情報学コース専門科目〕
専門科目は配置しない 学系共通科目の数学分野科目を履修すること	計測と分析Ⅱ 物理学演習Ⅱ	計測と分析Ⅱ 有機化学Ⅱ 界面化学	最適化法 数理情報学演習Ⅰ・Ⅱ

〔理学系共通科目〕

（数学分野）	（物理学・化学・生物学分野）	（数理情報学分野）
解析学Ⅲ、Ⅳ・解析学Ⅲ、Ⅳ演習 線形代数学Ⅲ・線形代数学Ⅲ演習 代数学Ⅰ・代数学Ⅰ演習 位相空間Ⅰ・位相空間Ⅰ演習 常微分方程式・常微分方程式演習 複素解析学Ⅰ・幾何学Ⅰ 確率論	計測と分析Ⅰ・熱力学 統計力学Ⅰ・量子力学Ⅰ サイエンス実験Ⅰ、Ⅱ・電磁気学 物理学演習Ⅰ・有機化学Ⅰ 無機化学Ⅰ・材料化学 化学反応学Ⅰ・生物学	離散数学 応用線形代数学 情報論 信号理論 画像処理

（その他）理学インターンシップA、B

1年

〔理学系共通科目〕

（数学分野）	（物理学・化学分野）	（数理情報学分野）
解析学Ⅰ、Ⅱ演習 線形代数学Ⅰ、Ⅱ演習 集合と論理・集合と論理演習	力学・生命の化学	数理プログラミング・数理情報学入門

〔学部共通科目（基礎科目）〕

（基　礎）：数学基礎・物理学基礎・化学基礎・物理学基礎演習・化学基礎演習
（数　学）：基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B
（物理学）：物理学A・B・一般物理学実験
（化　学）：化学A・B・一般化学実験
（その他）：環境科学・生物科学・情報処理A・B・立体図学・工学基礎

共通教育科目

人間形成科目

英語科目

理学系　進級条件表

平成21年度　1年次

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を取得のこと

2年次→3年次

進級条件を設けない

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上取得のこと。但し以下の各条件を満たすこと。

1. 下記の単位を取得のこと

科目区分			単位数	(卒業条件)
人間形成科目			12	(16)
英語科目			6	(8)
学部共通科目			12	(14)
副コースを理学系から選んだ場合	学系共通科目		28	(36)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※
		副コース	6	(8)
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	(26)
		副コース	10	(14)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※
		副コース	2	(4)

※は、卒業研究を含む

2. 理学系の各コースを主専攻コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を取得していること。

数学コース	物理学コース	化学コース	数理情報学コース
[学系共通科目]	[学系共通科目]	[学系共通科目]	[学部共通科目]
次の4科目を全て取得のこと	次の1科目を取得のこと	次の1科目を取得のこと	次の4科目中3科目以上を取得のこと
解析学I演習	サイエンス実験Ⅰ	サイエンス実験Ⅱ	基礎微積分学A
解析学II演習			基礎微積分学B
線形代数学I演習		[コース専門科目]	基礎線形代数学A
線形代数学II演習		次の2科目を全て取得のこと	基礎線形代数学B
次の14科目中下記科目数を取得のこと。(但し演習科目のみの履修は認めない)		物理化学実験	[コース専門科目]
		化学輪講Ⅰ	次の3科目中2科目以上を取得のこと
副コースも理学系の場合は10科目以上，副コースが他学系の場合は8科目以上			数理情報学演習Ⅰ
			数理情報学演習Ⅱ
集合と論理			数理情報学演習Ⅲ
集合と論理演習			
解析学III			次の2科目を全て取得のこと(但し，数理情報学コースの科目であること)
解析学III演習			
解析学IV			輪講Ⅰ
解析学IV演習			輪講Ⅱ
線形代数学III			
線形代数学III演習			
代数学I			
代数学I演習			
位相空間I			
位相空間I演習			
常微分方程式			
常微分方程式演習			
[コース専門科目]			
次の2科目を全て取得のこと(但し，数学コースの科目であること)			
輪講Ⅰ			
輪講Ⅱ			

3. 理学系の各コースを副専攻コースで選んだ場合はどのコースも進級の条件となる科目はありません

授業科目配当表
平成21年度　理学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	数学	解析学Ⅰ演習	選択		2	1	1	1			高橋　秀慈　他		20300
		数学	解析学Ⅱ演習	選択		2	1			1	1	荒牧　淳一　他		20300
		数学	線形代数学Ⅰ演習	選択		2	1	1	1			山形　周二　他		20100
		数学	線形代数学Ⅱ演習	選択		2	1			1	1	中野　哲夫　他		20100
		数学	集合と論理	選択		2	1			1	1	山形　周二		
		数学	集合と論理演習	選択		1	1			1	1	山形　周二　他		
		数学	解析学Ⅲ	選択		2	2	1	1					20300
		数学	解析学Ⅲ演習	選択		1	2	1	1					20300
		数学	解析学Ⅳ	選択		2	2			1	1			20300
		数学	解析学Ⅳ演習	選択		1	2			1	1			20300
		数学	線形代数学Ⅲ	選択		2	2	1	1					20100
		数学	線形代数学Ⅲ演習	選択		1	2	1	1					20100
		数学	代数学Ⅰ	選択		2	2			1	1			20100
		数学	代数学Ⅰ演習	選択		1	2			1	1			20100
		数学	位相空間Ⅰ	選択		2	2			1	1			20200
		数学	位相空間Ⅰ演習	選択		1	2			1	1			20200
		数学	常微分方程式	選択		2	2	1	1					20300
		数学	常微分方程式演習	選択		1	2	1	1					20300
		数学	複素解析学Ⅰ	選択		2	2			1	1			20300
		数学	幾何学Ⅰ	選択		2	2	1	1					20200
		数学	確率論	選択		2	2	1	1					20400
		物理化学	計測と分析Ⅰ	選択		2	2	1	1					
		物理化学	熱力学	選択		2	2	1	1					30100
		物理化学	統計力学Ⅰ	選択		2	2			1	1			30100
		物理化学	量子力学Ⅰ	選択		2	2			1	1			30100
		物理化学	量子力学Ⅱ	選択		2	3	1	1					30100
		物理学実験	サイエンス実験Ⅰ	選択		2	2	2	2					30200
		化学実験	サイエンス実験Ⅱ	選択		2	2			2	2			30400
		物理学	力学	選択		2	1			1	1	井上　真		30100
		物理学	電磁気学	選択		2	2	1	1					30100
		物理学	物理学演習Ⅰ	選択		2	2	1	1					
		化学	生命の化学	選択		2	1			1	1	田中　眞人		30300
		化学	有機化学Ⅰ	選択		2	2	1	1					30300
		化学	無機化学Ⅰ	選択		2	2			1	1			30300
		化学	材料化学	選択		2	2			1	1			30300
		化学	化学反応学Ⅰ	選択		2	2	1	1					30300
		化学	機器分析	選択		2	3			1	1			
		化学	分子分光学Ⅰ	選択		2	3	1	1					30300
		生物学	生物学	選択		2	2	1	1					30500
		地学	生態地球科学	選択		2	3	1	1					30700
		地学	地学実験	選択		2	3	半期1コマ					集中講義	30800
		数理情報学	数理プログラミング	選択		2	1			1	1	内門　茂　他		20500
		数理情報学	数理情報学入門	選択		2	1	1	1			狩野　弘之　他		60100
		数理情報学	離散数学	選択		2	2	1	1					20500
		数理情報学	応用線形代数学	選択		2	2	1	1					20100
		数理情報学	情報論	選択		2	2			1	1			60400
		数理情報学	信号理論	選択		2	2			1	1			
		数理情報学	画像処理	選択		2	2	1	1					60500
	数学コース専門科目	数学	代数学Ⅱ	選択	U1	2	3	1	1					20100
		数学	代数学Ⅲ	選択	U1	2	3			1	1			20100
		数学	位相空間Ⅱ	選択	U1	2	3			1	1			20200
		数学	幾何学Ⅱ	選択	U1	2	3	1	1					20200
		数学	積分論	選択	U1	2	3	1	1					20300
		数学	関数解析学Ⅰ	選択	U1	2	3			1	1			20300
		数学	統計学	選択	U1	2	3			1	1			20400
		数学	確率過程論	選択	U1	2	3			1	1			20400
		輪講	輪講Ⅰ	選択	U1	2	3	1	1				※1	
		輪講	輪講Ⅱ	選択	U1	2	3			1	1		※1	
		数学	偏微分方程式	選択	U1	2	3			1	1			20300
		数学	関数解析学Ⅱ	選択	U1	2	4			1	1			20300
		数学	複素解析学Ⅱ	選択	U1	2	4	1	1					20300
		数学	代数学Ⅳ	選択	U1	2	4	1	1					20100
		数学	幾何学Ⅲ	選択	U1	2	4			1	1			20200

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

授業科目配当表
平成21年度　理学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	物理学コース専門科目	物理学	計測と分析Ⅱ	選択	U2	2	2			1	1		※1	
		物理学	化学熱力学	選択	U2	2	3	1	1				※1	30300
		物理学	統計力学Ⅱ	選択	U2	2	3	1	1				※1	30100
		物理学	量子力学Ⅲ	選択	U2	2	3			1	1			30100
		物理学	物性論Ⅰ	選択	U2	2	3			1	1			
		物理学	物性論Ⅱ	選択	U2	2	4	1	1					
		物理学	物理学演習Ⅱ	選択	U2	2	2			1	1			
		物理学	物理学演習Ⅲ	選択	U2	2	3	1	1					
		物理学	物理学演習Ⅳ	選択	U2	2	3			1	1			
		輪講	論文講究Ⅰ	選択	U2	2	3	1	1					
		輪講	論文講究Ⅱ	選択	U2	2	3			1	1			
		輪講	特論Ⅰ	選択	U2	2	4	1	1					
		輪講	特論Ⅱ	選択	U2	2	4			1	1			
	化学コース専門科目	化学	計測と分析Ⅱ	選択	U3	2	2			1	1		※1	
		化学	化学熱力学	選択	U3	2	3	1	1				※1	30300
		化学	統計力学Ⅱ	選択	U3	2	3	1	1				※1	30100
		化学	有機化学Ⅱ	選択	U3	2	2			1	1			30300
		化学	界面化学	選択	U3	2	2			1	1			30300
		化学	無機化学Ⅱ	選択	U3	2	3			1	1			30300
		化学	高分子科学	選択	U3	2	3			1	1			30300
		化学	電気化学	選択	U3	2	3			1	1			30300
		化学	分子分光学Ⅱ	選択	U3	2	3			1	1			30300
		化学	化学反応学Ⅱ	選択	U3	2	3			1	1			30300
		実験	物理化学実験	選択	U3	4	3	4	4					30400
		輪講	化学輪講Ⅰ	選択	U3	2	3			1	1			
		輪講	化学輪講Ⅱ	選択	U3	2	4	1	1					
	数理情報学コース専門科目	数理情報学	人工知能	選択	U4	2	3	1	1					60500
		数理情報学	データ科学	選択	U4	2	3			1	1			60300
		数理情報学	最適化法	選択	U4	2	2			1	1			
		数理情報学	ロボット科学	選択	U4	2	3			1	1			
		数理情報学	画像解析	選択	U4	2	3	1	1					20500
		数理情報学	学習理論	選択	U4	2	3			1	1			
		数理情報学	システム理論	選択	U4	2	3	1	1					
		数理情報学	制御理論	選択	U4	2	3			1	1			
		数理情報学	数理情報学演習Ⅰ	選択	U4	2	2	1	1					60200
		数理情報学	数理情報学演習Ⅱ	選択	U4	2	2			1	1			60300
		数理情報学	数理情報学演習Ⅲ	選択	U4	2	3	1	1					60500
		輪講	輪講Ⅰ	選択	U4	2	3	1	1				※1	
		輪講	輪講Ⅱ	選択	U4	2	3			1	1		※1	
	コース専門科目	職業	理学インターンシップA	選択		2	2	1	1					
		職業	理学インターンシップB	選択		2	2			1	1			
		職業	理学インターンシップC	選択		2	3	1	1					
		職業	理学インターンシップD	選択		2	3			1	1			
		職業	理学インターンシップE	選択		2	4	1	1					
		職業	理学インターンシップF	選択		2	4			1	1			
		職業	情報と職業	選択		2	2			1	1			60600
		職業	情報と職業入門	選択		1	全	1				＊中間　正人		60600
		職業	情報と倫理	自由		2	2			1	1			60100
		卒業研究	理学特別卒業研究	選択		3	3			3	3		3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
		卒業研究	理学卒業研究Ⅰ	必修		3	4	3	3					
		卒業研究	理学卒業研究Ⅱ	必修		3	4			3	3			

※1の科目を履修した場合は、同一科目名の他コース科目を履修することはできません。

コースコードは、U1:数学コース・U2:物理学コース・U3化学コース・U4:数理情報学コース
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

生命理工学系

(Division of Life Science and Engineering)

生命理工学系履修モデル

１．学系の学習・教育目標

21世紀の人類が避けて通ることのできない問題に環境問題や医療、福祉問題などがあります。これらの諸問題を解決していくと同時に安全で快適な生活を維持するためには、まず生命や生体の持つ高度な機能の本質を理解することが重要になります。そして、生命の機能を学びこれを利用しながら、真に人類のためとなる社会やシステムを築いていく必要があります。このためには、今までの基礎工学や医学、理学分野を学ぶだけではなく工学と理学・医学分野を融合した新しい発想に基づくアプローチが求められるようになります。生命理工学系では、理学や工学といったこれまでの枠組みを超えて新たな教育研究分野を構築し、教授することで、これからの人間社会の変化に対応できる柔軟な応用力を身につけた人材を育成する事を目標としています。

また、本学系は理工学部の中で他の学系とも連携を取りながら生命工学、電子・情報工学に基礎をおいた教育・研究を行うことにより、生命（理工学）分野における適切な基礎知識と倫理観を有し、創造力にあふれる工学技術者および高度な専門技術者を育成します。

２．カリキュラムの概要

本学系は、生命・生物工学、環境学などに基礎を置いたいくつかの分野から構成されています。カリキュラムは、大学院進学も視野に入れ、各コースとも基礎から応用まで無理なく身につけることができる編成を組んでいます。

生命理工学系では、学生の自主性を重んじ自らが履修計画を立て、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものにするように努力するとともに判らなかった部分をそのままにしないで予習・復習もしっかりと行ってください。

カリキュラムは生命・生体工学に関連性を持たせながら工学の基礎分野の習得を行えるように編成しており、同時に幅広い知識を得ることができるよう工夫していますので自分にあった履修計画を立てるようにしてください。

２．１．コースの概要

本学系の教育分野を次の２コースに分けて編成しています。

各コースの概要は後述します。

（1）「生命科学コース」

細胞内で起こっている生命現象を分子レベルで理解したり、生命と調和した物質を創製するために必要となる知識や分析技術を教育します。

（2）「生物環境コース」

様々な環境変化や刺激に対する生物の応答機構を解明し、それを生物資源の保全や環境保全につなげるための教育を行っていきます。

2．2．授業科目

生命理工学系の授業科目は大きく分けて次のように分類されます。

1）専門科目・・・・学部共通科目群、学系共通科目群、コース専門科目群

2）人間形成科目群

3）英語科目群

生命理工学系の卒業条件は、専門科目を66単位以上、人間形成科目を16単位以上、英語科目を8単位以上、学部共通科目を14単位以上取得し合計124単位以上取得しなければなりません。

各学年における進級条件は表を参照してください。

3．各コースの概要

3．1．生命科学コース

生命科学コースでは、さまざまな生命現象を分子のレベルで理解することを目標としています。DNAやタンパク質の構造・機能を理解し、これらの相互作用にもとづく高次の生命現象について学習します。このため本コースは、生化学や有機化学などの基礎的な科目からはじまり、細胞生物学、遺伝子工学、免疫学、再生医化学などの専門性の高い科目にいたる幅広いカリキュラムから構成されています。また、生命と調和した物質を創製するために必要となる知識や分析技術も身につけます。このカリキュラムのもと、バイオテクノロジー、食品、医薬品、再生医療、生体有用成分に関連する領域での最先端の教育・研究を行います。

カリキュラム：1年生では生命科学入門や細胞の科学など生化学の基礎となる科目の履修を勧めます。2年生では有機化学などの基礎的科目の他に、生体組織学や免疫学など細胞や生体レベルで生命現象を解説する科目を中心に、また3年生では細胞生物学や再生医化学など専門性の高い科目を学びます。

３．２．生物環境コース

生物環境コースでは、環境破壊やエネルギー問題など人類の生存と発展に関わる分野を扱います。環境からのさまざまな刺激に対する生物の応答メカニズムを理解するとともに、環境要因を明らかにすることで、植物・微生物を利用した環境保全や生物資源の保全につなげるための学習をします。このため、植物生理学、細胞工学、微生物学、応用微生物学などの植物・微生物関連科目、気象・土壌環境学、植物環境学などの環境関連科目、および食品工学、栄養科学などの食品関連科目などからカリキュラムが構成されています。このカリキュラムのもと、生物環境に関連する領域でのバイオテクノロジーの技法を駆使できる力を身につけます。

カリキュラム：１年生では環境生命工学や生命の化学など環境や生化学の基礎となる科目の履修を勧めます。２年生では植物生理学、植物環境学や微生物学など植物や微生物に関連する科目を中心に、また３年生では応用微生物学、生態地球科学、細胞工学、食品工学など応用分野の科目を中心に学習することを勧めます。

４．１年次における学習の進め方

大学入試を終え、新しい生活に向けて期待に胸ふくらませていることと思います。大学に入って最初の年は大学生活の中でも重要な年になります。１年生の時は焦らずに基礎の勉強をしっかりと行っておくことが求められます。１年生の基礎科目がしっかりと身に付いていないと２年生以降の専門科目の学習が理解できずに習得できなくなってしまい、結局高学年でその影響が大きく生じてきます。このため１年生時における勉学への取り組みには十分注意をしてください。スタートが肝心です。

また、１年生から２年生へは進級条件をクリアしなくてはいけません。生命理工学系では１年次における単位数が30単位に達していないと２年生の進級を許可していません。

１年次には人間形成科目、英語科目、学部共通科目、学系共通科目の中から履修をしていきます。これらの科目群は３年生から４年生の進級条件や卒業条件に深く関わっています。表の進級条件を見て計画を立て１年次にとるべき単位数を各自決めてください。

英語はこれからの国際社会において必要不可欠な科目です。積極的に取り組んでください。また、大学を卒業した学生には高い専門的な学力ばかりでなく、社会で通用する一般教養の知識も求められます。哲学や経済学、心理学など理工学系の学生でも身につけておくべき科目が人間形成科目群です。シラバスや４月当初のガイダンスに積極的に参加して自分の興味のある分野を積極的に履修してください。

専門科目には学部共通科目と学系共通科目があります。まず、学部共通科目で数学、物理、化学の基礎を学んでいきます。高校で学んだことの復習と同時に大学で学ぶことの根幹をなす科目です。一方、２年次にコースを選択する際に必要となる学系共通科目があります。学系共通科目は生命理工学系で学んでいくための基礎科目になります。生命科学入門、生命理工学概論、ゼミ科目はどのコースを選ぶかにかかわらず履修するようにしてください。上記以外の学系共通科目も幅広く履修しておくことを勧めます。１年生の学系共通科目履修は、２年次に進むコース選択の際の参考になると思います。各コースには定員が設けられていますので１年生の間は希望のコースに進むために各自努力を怠らないようにしてください。

５．２年生～４年生（主コース学生と副コース学生の履修計画と学習の進め方）

（主コース・副コース共に生命理工学系の学生）

２年生以上になるとコース専門科目がいよいよ始まります。２年生、３年生では主に学系共通科目とコース専門科目を履修していくことになります。学系共通科目は、生命理工学系に所属するのであればどのコースに所属するにしても必要となる科目群です。特に実験は重要な科目ですので必ず履修するようにしてください。学系共通科目、コース専門科目ともに３年生から４年生への進級条件があります。表で確認して不足の無いように計画を立てて履修してください。

また、英語科目や人間形成科目の履修も進級条件を考え不足の無いようにすることが重要です。進級条件は、進級に必要な最低条件です。ぎりぎりの単位数で進級や卒業しようとするとまずうまくいきません。条件に書かれている数字は最低条件と理解して条件を余裕を持ってクリアできるだけの単位数を履修するようにしてください。

４年生になりますと、いよいよ学部時代の仕上げになります。４年生に進級するときには進級条件である104単位でなく卒業単位の124単位もクリアできるようにすることを勧めます。４年生では卒業研究で忙しくなるからです。この卒業研究では1年間かけて各自が独自の研究テーマに取り組みます。４年生までに授業や実験で身につけた知識と技術を総動員して取り組んでください。卒業研究では、高い技術力と研究能力、プレゼンテーション能力を養います。また、大学院へ進学する際の準備段階にもなります。社会人あるいは大学院生なるために必要な知識と技術などを研究を行いながらしっかり身につけるようにしてください。

（主コースのみを生命理工学系とした学生）

人間形成科目、英語科目、学部共通科目に関しては、進級条件を考慮し不足の無いよう余裕を持って履修してください。３年生から４年生への進級条件では学系共通科目およびコー

ス専門科目に進級条件があり、実験も履修することになっています。条件をよく確認し履修を行ってください。また副コースに関しても他学系にて条件が決められている場合があります。他学系の副コースの履修条件をよく確認し不足の無いようにしてください。

（副コースのみを生命理工学系とした学生）

進級条件は、主コースを選択している学系によりますので主コースのある学系の進級条件を確認して不足の無いように履修を行ってください。副コースでとらなくてはいけない科目数は卒業条件に記載されています。卒業までに必要な学系共通科目および副コースの科目の単位を修得するようにしてください。学系共通科目では、１年生に配当されている生命科学入門や生命理工学概論を履修し生命理工学系の全体像をつかんでください。また所属する副コースの基礎となる科目は、学系共通科目群から履修しておくことを勧めます。

６．大学院進学を考えている学生

大学院に進学するということは、研究開発ができると言うことだけでなく、将来企業や社会のリーダーとなって活躍できる道に進むということを意味します。このために、研究開発ができる能力だけでなく、人格的にも優れたものを持つ必要があります。大学院では学部生時代に学んだ事をさらに深く追求すると同時にそれをきっかけとして幅広い知識を吸収するように心がけてください。このために、国内や国際的な学会へも参加し広く社会を知ることなどが要求されます。

知識を吸収し工学者としても人間としても成長するためには自分の意志をしっかりと持ち、勇気を持って新しい道を切り開かなくてはなりません。１年次にすでに大学院進学を目指している学生もいることと思いますが、４年生になって進学を決める学生もいると思います。進学希望を持った時点からしっかりと自分の将来を見つめ計画を立ててください。大学院に進学する際にこの科目は履修しておかなくてはいけないというものはありません。すでに述べたように、幅広い知識が必要になりますので自分のペースに合わせバランスよく科目を履修するようにしてください。

また修士課程の上には博士課程も準備されています。さらに研究能力を深めて行こうという意志のある学生は博士課程への進学も視野に入れ、真に社会のリーダーとなれるように努力してください。

生命理工学系の履修配置図

	〔生命科学コース〕	〔生物環境コース〕	
4年	生命理工卒業研究Ⅰ・Ⅱ		
3年	**〔前期〕** 生命分析化学 遺伝子工学 生命理工学ゼミⅣ 生命科学実験Ⅰ 細胞工学 食品工学	**〔前期〕** 生命分析化学 遺伝子工学 生命理工学ゼミⅣ 生物環境実験Ⅰ 細胞工学 食品工学	共通教育科目 人間形成科目 英語科目
	〔後期〕 薬理学 細胞生物学 生物圏の環境 生体高分子科学 再生医化学 生命理工学ゼミⅤ 生命科学実験Ⅱ 特別卒業研究	**〔後期〕** 生物反応学 生物圏の環境 細胞生物学 生命理工学ゼミⅤ 生物環境実験Ⅱ 特別卒業研究	
	〔前期〕 地学実験、分子分光学Ⅰ、生体材料工学、生態地球科学、環境適応物質学 **〔後期〕** 環境計測、応用微生物学、機器分析、高分子合成学、電気化学、生物物理学、生体高分子工学		
2年	**〔前期〕** 免疫学 気象・土壌環境学 遺伝学 生命理工学ゼミⅢ	**〔前期〕** 免疫学 気象・土壌環境学 遺伝学 生命理工学ゼミⅢ	
	〔後期〕 生体組織学 植物環境学 有機化学Ⅱ 生物情報科学	**〔後期〕** 生体組織学 植物環境学 有機化学Ⅱ 気圏・地圏の環境 生物情報科学 水圏の環境	
	〔前期〕 生命物理化学、栄養科学、生物学、有機化学Ⅰ、微生物学、生命物理化学 生命理工学実験Ⅰ **〔後期〕** 生命理工学実践論、環境分析学、有機化学Ⅱ、分子生物学、無機化学Ⅰ、 化学センサー、植物生理学、生命理工学実験Ⅱ		
1年	**〔学系共通科目〕** **〔前期〕** 生命科学入門、生命理工学概論、生命理工学ゼミⅠ **〔後期〕** 生命の化学、環境生命工学、細胞の科学、生命理工学ゼミⅡ		
	〔学部共通科目（基礎科目）〕 数学基礎・物理学基礎・化学基礎・物理学基礎演習・化学基礎演習、 基礎微積分学A・B、基礎線形代数学A・B、物理学A・B、一般物理学実験、化学A・B、 一般化学実験、環境科学、情報処理A・B、立体図学、工学基礎、生物科学		

生命理工学系　進級条件表

平成21年度　1年次

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を取得のこと

2年次→3年次

進級条件を設けない

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上取得のこと。但し以下の各条件を満たすこと。

1. 下記の単位を取得のこと

科目区分			単位数	（卒業条件）
人間形成科目			12	(16)
英語科目			6	(8)
学部共通科目			12	(14)
副コースを生命理工学系から選んだ場合	学系共通科目		28	(36)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※
		副コース	6	(8)
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	(26)
		副コース	10	(14)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※
		副コース	2	(4)

※は、卒業研究を含む

2. 上の条件に加えて、以下に定める科目・単位を取得のこと

	以下の条件を満たし、3年次までに配当されている専門科目（学部共通科目群・学系共通科目群・コース科目群）から78単位以上を取得のこと。
学系共通科目群およびコース科目群	1. 副コースを生命理工学系とした場合
	以下の条件を満たし、学系共通科目群およびコース科目群より、56単位以上取得のこと ①「生命理工学実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て取得すること ②「生命理工学ゼミⅠ」または「生命理工学ゼミⅡ」のいずれか1科目を取得すること
	2. 副コースを生命理工学系以外の学系から選択した場合
	以下の条件を満たすこと。 ①「生命理工学実験Ⅰ・Ⅱ」および所属する主コースの実験科目を全て取得すること ②「生命理工学ゼミⅠ」または「生命理工学ゼミⅡ」のいずれか1科目を取得すること

※副コースのみ、生命理工学系のコースを選択した場合の進級基準は、主コースの学系・コースに従う

授業科目配当表
平成21年度　生命理工学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	基礎	生命理工学概論	選択		2	1	1	1			川井　悟　他		
		基礎	生命科学入門	選択		2	1	1	1			川井　悟		
		ゼミ	生命理工学ゼミⅠ	選択		2	1	1	1			内川　義則　他		
		ゼミ	生命理工学ゼミⅡ	選択		2	1			1	1	川井　悟　他		
		基礎	生命の化学	選択		2	1			1	1	田中　眞人		30300
		基礎	細胞の科学	選択		2	1			1	1	長原　礼宗		30500
		基礎	環境生命工学	選択		2	1			1	1	村勢　則郎		30500
		実験	生命理工学実験Ⅰ	選択		2	2	2	2					30600
		生物	栄養科学	選択		2	2	1	1					30300
		生物	微生物学	選択		2	2	1	1					30500
		化学	有機化学Ⅰ	選択		2	2	1	1					30300
		化学	無機化学Ⅰ	選択		2	2			1	1			30300
		生物	生物学	選択		2	2	1	1					30500
		実験	生命理工学実験Ⅱ	選択		2	2			2	2			30600
		基礎	生命理工学実践論	選択		2	2			1	1			
		生物	分子生物学	選択		2	2			1	1			30500
		生物	植物生理学	選択		2	2			1	1			30500
		化学	化学センサー	選択		2	2			1	1			
		化学	生命物理化学	選択		2	2	1	1					30300
		地学	地学実験	選択		2	3	半期1コマ						30800
		生命	生体材料工学	選択		2	3	1	1					
		化学	分子分光学Ⅰ	選択		2	3	1	1					
		生物	生態地球科学	選択		2	3	1	1					30700
		生物	応用微生物学	選択		2	3			1	1			30500
		生物	環境計測	選択		2	3			1	1			
		化学	機器分析	選択		2	3			1	1			70100
		化学	電気化学	選択		2	3			1	1			30300
		化学	環境分析学	選択		2	2			1	1			
		生物	環境適応物質学	選択		2	3	1	1					
		化学	高分子合成学	選択		2	3	1	1					
		生物	生物物理学	選択		2	3			1	1			
		化学	生体高分子工学	選択		2	3			1	1			
専門教育科目	コース専門科目	職業	生命理工インターンシップA	選択		2	2	1	1					
		職業	生命理工インターンシップB	選択		2	2			1	1			
		職業	生命理工インターンシップC	選択		2	3	1	1					
		職業	生命理工インターンシップD	選択		2	3			1	1			
		職業	生命理工インターンシップE	選択		2	4	1	1					
		職業	生命理工インターンシップF	選択		2	4			1	1			
		職業	情報と職業入門	選択		1	全	1				○ 中間　正人		60600
		職業	情報と職業	選択		2	全			1	1	○ 中間　正人		60600
		職業	情報と倫理	自由		2	2			1	1			60100
		職業	職業指導	自由		4	4	1	1	1	1			70200
		ゼミ	生命理工学ゼミⅢ	選択	B1・B2	2	2	1	1					
		化学	有機化学Ⅱ	選択	B1・B2	2	2			1	1			30300
		生命	生体組織学	選択	B1・B2	2	2			1	1			30500
		生命	免疫学	選択	B1・B2	2	2	1	1					30500
		生命	生物情報科学	選択	B1・B2	2	2			1	1			
		実験	生命科学実験Ⅰ	選択	B1	2	3	2	2					30600
		化学	生命分析化学	選択	B1・B2	2	3	1	1					30300
		生命	遺伝子工学	選択	B1・B2	2	3	1	1					30500
		生命	薬理学	選択	B1	2	3			1	1			30500
		ゼミ	生命理工学ゼミⅣ	選択	B1・B2	2	3	1	1					
		ゼミ	生命理工学ゼミⅤ	選択	B1・B2	2	3			1	1			
		実験	生命科学実験Ⅱ	選択	B1	2	3			2	2			30600

コースコードは、B1:生命科学コース・B2:生物環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

授業科目配当表
平成21年度　生命理工学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	コース専門科目	化学	生体高分子科学	選択	B1	2	3			1	1			30300
		生物	細胞生物学	選択	B1・B2	2	3			1	1			
		生命	再生医化学	選択	B1	2	3			1	1			30300
		生物	植物環境学	選択	B1・B2	2	2			1	1			
		生物	気象・土壌環境学	選択	B1・B2	2	2	1	1					
		生命	遺伝学	選択	B1・B2	2	2	1	1					30500
		生物	水圏の環境	選択	B2	2	2			1	1			
		生物	気圏・地圏の環境	選択	B2	2	2			1	1			
		実験	生物環境実験Ⅰ	選択	B2	2	3	2	2					30600
		生物	食品工学	選択	B1・B2	2	3	1	1					
		生物	細胞工学	選択	B1・B2	2	3	1	1					30500
		生物	生物反応学	選択	B2	2	3			1	1			30500
		生物	生物環境実験Ⅱ	選択	B2	2	3			2	2			30600
		生物	生物圏の環境	選択	B1・B2	2	3			1	1			
		卒研	生命理工特別卒業研究	選択		3	3			3	3		3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
		卒研	生命理工卒業研究Ⅰ	必修		3	4	3	3					
		卒研	生命理工卒業研究Ⅱ	必修		3	4			3	3			

コースコードは、B1:生命科学コース・B2:生物環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

情報システムデザイン学系

(Division of Information System Design)

情報システムデザイン学系履修モデル

学系の学習・教育目標

朝起きてから寝るまで、そして寝ている間さえ、私たちの暮らしを支える情報技術は休むことなく動き続けています。しかし情報技術は便利で快適な反面、新たな格差や社会問題、犯罪を引き起こす要因ともなってきました。科学技術だけでは、人間や社会に関する知識だけでは、解決できない複雑な問題を抱えた社会、それが私たちの暮らしている情報社会なのです。

そこで東京電機大学では創立100周年となる2007年に、情報科学科、情報システム工学科、電子情報工学科、情報社会学科の 4 学科から情報に関わる領域を選択・融合し、「情報学」を多面的、総合的に学べる文理複合系教育組織として「コンピュータソフトウェアコース」「ネットワークシステムコース」「アミューズメントデザインコース」「社会コミュニケーションコース」の 4 つのコースから成る「情報システムデザイン学系」を発足させました。さらに2009年からは「コンピュータサイエンスコース」も加わり教育研究の幅がより広がりました。

「情報学」とは、情報に関する広範な研究領域を総合的に扱う学問です。情報学は対象とする領域が広く、情報、ネットワーク、コンピュータ、現代社会、表現創造などさまざまな異なった分野から構成されています。本学系では主・副コース選択制カリキュラムとマルチメディア教育環境を有効に活用し、君たちが本当に学びたいことを見つけ出し、それに必要な専門知識と実践力を身に付け情報学の専門家として活躍できるようになることを目標に、理学系、工学系、情報系、人文社会系、芸術系の専門家を擁するバラエティ豊かな教授陣が一致協力し教育を進めていきます。

学系のカリキュラムの概要

本学系では、学系共通カリキュラムとして、「情報数学」「コミュニケーション」「情報技術」「表現学」「プログラミング」の基礎について講義、ゼミ、実習など、さまざまな授業形態で立体的、総合的に学んでいきます。これらの 5 項目は、情報学を学ぶ学生においてはどれも重要なもので、すべてのコースの学生が共通に学ぶべき事項となっています。例えば人文社会系の色彩が強い社会コミュニケーションコースにおいては、統計的データを定量的に扱う必要から情報数学の知識は必要となりますし、プログラミングに対する知識がなければ、

社会で役立つソフトウェアの仕組みを想像することすらできないでしょう。理工系的色彩の強い、コンピュータソフトウェアコース、ネットワークシステムコースにおいては、表現力、コミュニケーション力がなければ、使いやすく大規模なソフトウェアやネットワークシステムの開発はおぼつかないですし、社会で役立つソフトウェアを設計する場合には社会に対する知識は必ず役に立つはずです。

客観的には、２年生修了時に「基本情報技術者」試験に合格できる程度の知識を身に付けることを目標に勉強していくと良いでしょう。

各コースの概要

●コンピュータソフトウェアコース

プログラミング、グラフィックス、人工知能の各分野から専門技術を修得し、コンピュータソフトウェアの設計・開発に関する総合的な実習を通じて、コンピュータソフトウェアの高度化・知能化に挑戦します。本コースでは、ビジネスからアミューズメント産業まで、あらゆる分野に現れるソフトウェアの開発に必要な技術を習得することができます。１年次から３年次までに、Ｃ言語やＪＡＶＡ、ゲームプログラミング、人工知能プログラミング、コンピュータグラフィックスなど、プログラミングに関する幅広い講義、演習が用意されており、プログラミングの様々な技法を実践的に学ぶことができます。

●ネットワークシステムコース

情報ネットワークを構成する機器やその動作原理、様々な通信方式や情報サービスなど、情報ネットワークを構築・利用するために必要な知識を垂直的・網羅的に学ぶことを目標としています。これらの学修を通じて、次世代の情報ネットワーク基盤を支え発展させることの出来る高度な技術者の育成を目指します。さらに、他のコースと合わせて学修することにより、情報ネットワークを様々な分野に適用することの出来る、広い見識を得ることもできます。

●アミューズメントデザインコース

新しい情報社会の潮流のなかで、「遊び」や「人を楽しませること」に関わるテクノロジー、芸術、文化について学び、感動力・発想力をあわせ持つ表現創造型情報技術者の養成を目指します。現在から未来、さらにその先に向けた情報デザインには、「どうやって」作るのかという技術習得を超え「何を、何のために」作るのかという、作るモノの存在と、その価値観をも、ゼロから創り出す提案力が求められます。美術、映像、ＣＧ、電子出版、音楽制作等の分野を、それぞれ「技術」「文化」「表現」「コミュニケーション」等の視点から多角的

に捉えることを重視、人間の感性と情報技術の高度なコミュニケーションメディアであるアミューズメントを総合的に科学することで、番組制作者やＣＧ・ウェブデザイナー、ゲームクリエイター等、コンテンツの中身そのものをトータルデザインし、社会に向けて情報発信することを目標とします。

●社会コミュニケーションコース

情報伝達という観点から、コミュニケーションの多様な機能について心理学的、文化論的な理解を深めます。コミュニケーションという語の原義は、「意志、感情、思考の伝達」と理解されています。本コースではさらに、社会とコミュニケーションを扱うにあたり、コミュニケーションの原義である「共有」をキーワードにその本質・現代的意義に迫っていきます。また、私たちが生活する場はすべて人工物に囲まれています。裸の自然など私たちの身の周りには存在しません。私たちは自然をなんらかの方法によって心地よい方向に加工してきたのです。すなわち、現代社会を特徴づけるものは自然科学や技術のめざましい発展に支えられたメタ・ライフスタイルなのです。本コースでは、IT（情報技術）を基盤とする社会を前提とし、人間の内面（心）、外面（身体）を含めた社会環境、ライフスタイルに関する諸問題、文化交流、コミュニケーション一般に関する問題の発見・解決のため、文理複合的な観点から教育研究を行います。

●コンピュータサイエンスコース

コンピュータはパソコンやインターネットに使われるだけでなく、あらゆる機械や社会システムに組み込まれ、現代のさまざまな文化の基盤となっています。コンピュータサイエンスコースでは、このような観点からコンピュータを理論と実際の両面から極めることを目標に、ソフトウエア技術の枠を超えて情報科学の理論と基礎から応用技術までを学びます。理論と技術を体得できるようにコンピュータサイエンスコースは本学の伝統である実学精神にもとづいた実験・演習に重点を置いています。このような教育を通してソフトウエア開発、システム開発、システム・エンジニアなどの広い情報通信分野で国際的に活躍できる技術者・研究開発者を育成します。

一年次の履修計画の立て方・学習の進め方

１年生から２年生に進級するのに必要な単位数は30ですが卒業に必要な単位数は124となっていますので、最低でも40単位、できれば、45単位を目標に履修してください。

「情報学」で取り扱う学問領域には、理学、工学はもちろん、人文科学や社会科学、芸術なども含まれます。従って学系の専門科目はもちろんですが、共通教育科目もできる限り履

習する必要があります。英語や自然科学（数学、物理、化学）の基礎科目、人間形成科目についてはできるだけ１年次に履習するようにしましょう。

１年終了時には、主コース、副コースの選択を行います。１年次に履習できる学系専門科目はまだ少ししかありませんが、自分が第一希望とするコースに関係する科目はもちろん、他コースに関連のある科目についても積極的に履習し、情報学の全体像を捉えるとともに、基礎学力を充実させることを目指してください。

（２～４年次生向け）主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、以下の６つの分野に取り組みます。

【数理】グラフィックス処理、プログラミング、人工知能のための数理を学ぶ。

【人工知能】人間と同じ感覚でつきあえるような究極のソフトウェアづくりを目指す。

【プログラミング】Ｃ言語、Ｃ＋＋言語、ＪＡＶＡ言語を習得し、ネットワークプログラミングとゲームプログラミングに取り組む。

【CG・音響】グラフィックスとサウンドのコンピュータ処理技術を実践的に学ぶ。

【ソフトウェア開発】ソフトウェア、ハードウェア、ネットワーク、情報と経営の各方面を幅広く学び、視野の広いＩＴエンジニアを目指す。

【総合】人工知能、ＣＧ、ゲーム、画像処理、図形処理を題材に、大規模なソフトウェアの開発を行う。

これらの分野を総合的に学習することにより、ソフトウェア開発者としての実践的な技術と幅広い教養を身に付けることができます。

本コースでは、履修モデル図に履修を推奨する科目を分野名もつけて提示しますので、履修科目選択の際の目安としてください。また、副コースを選択することにより、自分にとって大切な分野をより重点的に学習することができます。

●ネットワークシステムコース

１年次から２年次にかけては、学部共通科目と学系共通科目を中心に学ぶことになります。ここでしっかりと基礎的な知識を身につけることが、コース専門科目を学ぶ上で重要になります。特にネットワークシステムコースの専門科目を学ぶ際には、学系共通科目の内容だけでなく、微分積分学、線形代数学、電磁気や波動などの物理学といった、学部共通科目で得られる知識も必要とされることが少なくありません。上級年次になって困らないように、こうした科目は1年次のうちにしっかりと理解しておきましょう。

進級条件では、指定した科目群から一定の科目数を履修するよう付帯条件が付けられています。ここで指定した科目は、いずれもネットワークシステムの概要を理解する上で重要なものですから、所定の科目数をクリアするだけではなく、全科目を履修するよう心がけてください。

●アミューズメントデザインコース

私たちの生活を取り巻く多くの「モノ」は例外なく人によって「デザイン」されたものです。人の役に立ち、人を楽しませる「モノ」をデザインするということは、仕組みを支える技術と、その技術を形にするアート感覚とをバランス良く身に付けることで初めて可能となります。１年次から２年次にかけては学部共通科目と学系共通科目を学ぶことで、「モノ」の仕組みの基本的な知識と表現の技法を習得します。２年次以降、コース専門科目では「仕組み」に関する知識と技術に加え、様々な文化的な側面についても学びます。

本コースでは、感性工学、メディア学、芸術表現学、映像情報美、現代音楽の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講していますので、感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、音響空間デザイン論の中から少なくとも２科目、可能であればすべての科目を履修することで幅広い視野を身に付けることが望まれます。また、ISD実習（Ｂ～Ｅ）を可能な限り履修し、工学から表現学に至る幅広い分野に関する実習を通して多眼的、実践的な問題解決力を身に付けることを望みます。

●社会コミュニケーションコース

本コースでは、大別して、以下の研究が行われています。

１．認知心理学および社会心理学の研究を倫理実証主義に立脚して行っています。認知心理学では記憶、知識、思考、情報処理に関するもの、社会心理学ではコミュニケーション、社会調査、対人関係に関するものを扱います。

２．「Non-Verbal Communication」、つまりは身体を使ったジェスチャー、視線を用いたコミュニケーションについて研究しています。

３．教師と学生、医師と患者、技術者とユーザとの間にある隔たりを、メディアという名の橋でつなぐコミュニケーションの研究をしています。具体的には、ＣＧ、動画、音声などのメディアとインターネット技術を利用した、効果的な教育や訓練を行うための、ゲームや教材の研究開発を行っています。

４．演劇的身体論に関する研究、化粧と身体―表現媒体としての仮面と化粧という括りの研究、そしてアート・デザイン的発想による都市空間に関する研究を行っています。

５．インターネット・マガジンの編集を目的とするゼミを設置しています。そうして情報社

会における編集工学のエディターをめざすのです。

なお、社会コミュニケーションコースにおいて研究を進める主要な方向として以下の３つがあります。

１．認知・社会（社会調査法、性格心理学、情報処理心理学）

２．メディア・文化（記号図像の社会史、文化政策比較論、身体文化論、環境健康論、メディア文化論）

３．言語・コミュニケーション（ヒューマン=インターラクション学、インストラクショナル・デザイン、言語情報論、社会調査法）

●コンピュータサイエンス（コンピュータサイエンス）コース

コンンピュータサイエンスコースでは、まずコンピュータシステムを履修してコンピュータの原理を学び、ＩＳＤプログラミング同演習Ⅰを履修してＣ言語を勉強することが重要です。Ｃ言語はJavaなどの他の言語、またプログラミングやアルゴリズムとデータ構造の基礎にもなっています。さらに数学、物理、英語に関する学部共通科目もコンピュータサイエンスコースの大事な基礎科目です。

２年次のＩＳＤプログラミング同演習Ⅱを履修してＣ言語をマスターすることが重要です。学系共通科目のアルゴリズムとデータ構造と演習を履修して高度なＣプログラミングと基本的なアルゴリズムを、また、コンピュータ科学演習Ｂ、Ｃを履修してJavaのプログラミングについて演習を通して学習することが大事です。さらにコンピュータ科学演習Ｄではデータベースとそのプログラミングを学習します。コンピュータ科学実験Ａ、Ｂもコンピュータサイエンスコースで情報技術の基礎と実際を体得するための重要な必修科目です。その他いくつかのコース専門科目についてはコースの教員と相談して履修科目を選択します。

（２～４年次生向け）副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

●コンピュータソフトウェアコース

本コースでは、数理、人工知能、プログラミング、CG・音響、ソフトウェア開発、総合の６つの分野に分類して履修を推奨する科目を提示していますので、科目選択の際の目安としてください。本コースを副コースとして選択する場合、どの科目を履修しても進級条件を満たすことは可能です。

●ネットワークシステムコース

情報システムデザイン学系の学生が本コースを副コースとする場合、進級条件に付帯する科目は主コースとして履修する場合と同じになります。これらの科目の中には、数学や物理

学の知識を必要とするものも含まれていますので、できるだけ１年次のときに対応する学部共通科目を履修するよう心がけてください。異なる学系の学生が本コースを副コースとする場合は、こうした付帯条件は無く、単位数のみで副コースの進級条件を満足できます。主コースの履修内容と関連性の高い科目を履修し、将来のキャリアアップに生かすよう努めて下さい。

●アミューズメントデザインコース

本コースは、感性工学、メディア学、芸術表現学、映像情報美、現代音楽の専門家がそれぞれの専門分野の核となる科目を開講しています。どの科目を履修しても進級条件を満たすこと自体は可能となりますが、出来るだけ感性工学、出版メディア論、遊戯文化論、映像制作論、音響空間デザイン論を含め、各自の主コースとの関連のある科目を中心に履修することを推奨します。

●社会コミュニケーションコース

本コースでは、大別して以下の研究が行われています。

１．認知心理学および社会心理学。

２．「Non-Verbal Communication」、つまり身体を使ったジェスチャー、視線を用いたコミュニケーション。

３．教師と学生、医師と患者、技術者とユーザとの間にある隔たりを、メディアという名の橋でつなぐコミュニケーション。

４．演劇的身体論、化粧と身体、アート・デザイン的発想による都市空間。

５．感性文化論、インターネット・マガジンの編集を主とするエディター育成。

なお、社会コミュニケーションコースにおいて研究を進める主要な方向として以下の３つがあります。１．認知・社会、２．メディア・文化、３．言語・コミュニケーション。

●コンピュータサイエンス（コンピュータサイエンス）コース

コンンピュータサイエンスコースは情報技術者、システム開発のエキスパートの育成を目指しています。このため、１、２年次でコンピュータやＣ言語などの基礎を学び、その後で、コンピュータ科学演習などの科目で基礎から応用を段階的に学習するようになっています。このため、このコースを副コースとして選ぶときには、できるだけ前提となる基礎科目を履修しておく必要があります。

情報システムデザイン学系の科目配置図

４年

〔コース専門科目〕
情報システムデザイン卒業研究Ⅰ・Ⅱ

〔コンピュータソフトウェアコース専門科目〕	〔ネットワークシステムコース専門科目〕	〔アミューズメントデザインコース専門科目〕	〔社会コミュニケーションコース専門科目〕	〔コンピュータサイエンスコース専門科目〕
			社会調査実習Ⅰ 社会調査実習Ⅱ	

〔コース専門科目〕
情報システムデザインインターンシップE　　情報システムデザインインターンシップF

３年

〔コンピュータソフトウェアコース専門科目〕	〔ネットワークシステムコース専門科目〕	〔アミューズメントデザインコース専門科目〕	〔社会コミュニケーションコース専門科目〕	〔コンピュータサイエンスコース専門科目〕
画像工学 コンパイラ コンピュータ言語 人工知能プログラミング 情報数値計算学 空間情報処理 図形情報処理Ⅱ オブジェクト指向プログラミング ネットワークプログラミング ゲームプログラミングB	ワイヤレスネットワーク工学 ネットワークデザイン論 確率ネットワーク 多変量解析 パターン認識 ユビキタスネットワーク オブジェクト指向プログラミング ネットワークプログラミング	遊戯文化論 インタラクティブデザイン論 映像制作論 地域貢献論 アミューズメントデバイス論 音響空間デザイン論 イメージ創造学 ゲームプログラミングB	メディア文化論 文化政策比較論 性格心理学 ヒューマン・インタラクション学 数理経済学 インストラクションデザイン論 身体文化論 情報処理心理学 言語情報論 社会調査論B	記号論理学 計算量理論 数理最適化入門 知識と推論 ソフトウェア工学 コンピュータ科学演習C コンピュータ科学演習D

〔学系共通科目〕

コンピュータ設計学	経営情報論	ＩＳＤゼミ
科学技術社会学	メディアの法と倫理	情報システムデザイン特別卒業研究
データベース	形式言語とオートマトン	情報システムデザインインターンシップC
オペレーティングシステム	ＩＳＤ実習E	情報システムデザインインターンシップD

２年

〔コンピュータソフトウェアコース専門科目〕	〔ネットワークシステムコース専門科目〕	〔アミューズメントデザインコース専門科目〕	〔社会コミュニケーションコース専門科目〕	〔コンピュータサイエンスコース専門科目〕
コンピュータグラフィックスⅡ 音響情報処理 情報・符号理論 図形情報処理Ⅰ ゲームプログラミングA	情報伝送工学 データ解析 システム制御論 システム数学Ⅰ システム数学Ⅱ	感性工学 色彩論 出版メディア論 音楽構造論 ゲームプログラミングA	環境健康論A 環境健康論B 記号図像の社会史 社会調査論A	コンピュータアーキテクチャー 組み込みシステム コンピュータ科学演習B

〔学系共通科目〕

ＩＳＤプログラミングⅡ・同演習	社会心理学	コンテンツ情報論C
コンピュータグラフィックスⅠ	コミュニケーション科学	技術情報の表現
アルゴリズムとデータ構造	空間演出デザイン論	ＩＳＤ実習C
コンテンツ情報論A	コンテンツ情報論B	ＩＳＤ実習D
情報基礎数学Ⅱ	情報ネットワーク概論	情報システムデザインインターンシップA
マルチメディア基礎	社会基盤工学	情報システムデザインインターンシップB
基礎統計学	アルゴリズムとデータ構造演習	

１年

〔学部共通科目（基礎科目）〕

数学基礎・物理学基礎・化学基礎
物理学演習・化学演習
基礎微積分学Ａ・Ｂ、線形代数学Ａ・Ｂ
物理学Ａ・Ｂ・一般物理学
化学Ａ・Ｂ・一般化学
環境科学・情報処理Ａ・Ｂ
立体図学・工学基礎

〔学系共通科目〕

コンピュータシステム
社会とコンピュータ
デザイン学
情報システムデザイン概論
ＩＳＤ実習Ａ（プレゼンテーション）
ＩＳＤプログラミングⅠ・同演習
情報基礎数学Ⅰ
造形デザイン実習
基礎確率論
ＩＳＤ実習Ｂ

共通教育科目
人間形成科目
英語科目
情報と職業入門
情報と職業

ＲＤ学系科目の履修について

理工学部は2009年度より従来の 4 学系から 5 学系体制に移行しました。それに伴いサイエンス学系は理学系に名称が変更され、サイエンス学系のコンピュータ科学コースは情報システムデザイン学系のコンピュータサイエンスコースとして再出発することになりました。

コンピュータサイエンスコースが学系を移動したため、情報システムデザイン学系の科目とサイエンス学系（旧名称）の科目で内容的に重複するものが出てきました。そこで下の表にあるように重複した科目は情報システムデザイン学系の科目のみを開講することとし、サイエンス学系（旧名称）の科目は開講しないことになりました。これは 5 学系体制に移行にともなう一時的な措置であり、学生のみなさんにとって不利になることは一切ないことを申し添えます。

情報システムデザイン学系の科目（開講する）	サイエンス学系（旧名称）の科目（開講せず）
コンピュータシステム	プログラミング同演習Ⅰ
オペレーティングシステム	ＯＳとシステム・ソフトウェア
データベース	データベースシステム
コンピュータ設計学	ソフトウェア工学
社会とコンピュータ	コンピュータ基礎
情報基礎数学Ⅰ	数値解析Ⅰ
情報基礎数学Ⅱ	数値解析Ⅱ
情報・符号理論	記号論理学
形式言語とオートマトン	形式言語
ネットワークデザイン論	コンピュータ・ネットワーク
情報システムデザイン概論	コンピュータ科学入門
ＩＳＤ実習Ｃ	コンピュータ科学演習Ａ
ＩＳＤ実習Ｄ	コンピュータ科学実験Ａ
ＩＳＤゼミ	輪講Ｃ
ＩＳＤプログラミングⅠ・同演習	プログラミング同演習Ⅱ
アルゴリズムとデータ構造	アルゴリズム論
アルゴリズムとデータ構造演習	データ構造
ＩＳＤプログラミングⅡ・同演習	コンピュータ科学演習Ｂ
	ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC）

情報システムデザイン学系　進級条件表
平成２１年度　１年次

１年次→２年次
　１年次配当科目から３０単位以上を取得のこと
２年次→３年次
　進級条件を設けない
３年次→４年次
　１～３年次配当科目から１０４単位以上取得のこと。但し以下の各条件を満たすこと。

１．下記の単位を取得のこと

科目区分			単位数	（卒業条件）
人間形成科目			12	(16)
英語科目			6	(8)
学部共通科目			12	(14)
副コースを情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学系から選んだ場合	学系共通科目		28	(36)
	コース専門科目	主コース	14	(22) ※
		副コース	6	(8)
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	(26)
		副コース	10	(14)
	コース専門科目	主コース	14	(22) ※
		副コース	2	(4)

※は、卒業研究を含む

２．情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ学系の各コースを主専攻コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を取得していること。

コンピュータソフトウェア	ネットワークシステム	アミューズメントデザイン	社会コミュニケーション	コンピュータサイエンスコース
[学系共通科目]	[学系共通科目]	[学系共通科目]	[学部共通科目]	[学系共通科目]
情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論	情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論
ISD実習Ａ	ISD実習Ａ	ISD実習Ａ	ISD実習Ａ	ISD実習Ａ
ISD実習Ｂ	ISD実習Ｂ	ISD実習Ｂ	ISD実習Ｂ	ISD実習Ｂ
ISD実習Ｃ	ISD実習Ｃ	ISD実習Ｃ	ISD実習Ｃ	ISD実習Ｃ
ISDゼミ	ISDゼミ	ISDゼミ	ISDゼミ	ISDゼミ
ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習	ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習	ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習	ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習	ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習
次の4科目のうち2科目以上を取得のこと	次の4科目のうち4単位以上を取得のこと			
コンピュータシステム	基礎確率論			
ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造	基礎統計学			
ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑとﾃﾞｰﾀ構造実習	情報ﾈｯﾄﾜｰｸ概論			
ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ・同演習	社会基盤工学			
				[コース専門科目]
				コンピュータ科学演習Ｃ
				コンピュータ科学演習Ｄ
[コース専門科目]	[コース専門科目]	[コース専門科目]	[コース専門科目]	
次の5科目中4単位以上を取得のこと	次の6科目中4単位以上を取得のこと	次の5科目中4単位以上を取得のこと	次の5科目中4単位以上を取得のこと	次の4科目中4単位以上を取得のこと
ｹﾞｰﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞＡ	情報伝送工学	感性工学	性格心理学	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｱｰｷﾃｸﾁｬ
ｹﾞｰﾑﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞＢ	ﾃﾞｰﾀ解析	映像制作論	文化政策比較論	数理最適化入門
人工知能ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	ｼｽﾃﾑ数学Ⅰ	音楽構造論	ﾒﾃﾞｨｱ文化論	システム制御論
ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	ﾈｯﾄﾜｰｸﾃﾞｻﾞｲﾝ論	遊戯文化論	ﾋｭｰﾏﾝ・ｲﾝﾀﾗｸｼｮﾝ学	知識と推論
ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	ﾕﾋﾞｷﾀｽﾈｯﾄﾜｰｸ	出版ﾒﾃﾞｨｱ論	ｲﾝｽﾄﾗｸｼｮﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ論	
	ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ			

授業科目配当表
平成21年度　情報システムデザイン学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	アート&デザイン	造形デザイン実習	選択		2	1	1	1			゜志水　賢二		60500
	学系共通科目		デザイン学	選択		2	1			1	1	柴田　良二		
	コース専門科目		色彩論	選択	D3	2	2			1	1			
	学系共通科目		空間演出デザイン論	選択		2	2	1	1					
	コース専門科目		音楽構造論	選択	D3	2	2			1	1			
	コース専門科目		映像制作論	選択	D3	2	3	1	1					
	コース専門科目		イメージ創造学	選択	D3	2	3			1	1			
	コース専門科目		音響空間デザイン論	選択	D3	2	3			1	1			
	コース専門科目	キャリアデザイン	情報システムデザインインターンシップA	選択		2	2	1	1					
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップB	選択		2	2			1	1			
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップC	選択		2	3	1	1					
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップD	選択		2	3			1	1			
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップE	選択		2	4	1	1					
	コース専門科目		情報システムデザインインターンシップF	選択		2	4			1	1			
	コース専門科目		情報と職業入門	選択		1	全	1				゜中間　正人		60600
	コース専門科目		情報と職業	選択		2	全			1	1	゜中間　正人		60600
	学系共通科目	コミュニケーション・心理	社会心理学	選択		2	2	1	1					
	学系共通科目		コミュニケーション科学	選択		2	2	1	1					
	学系共通科目		技術情報の表現	選択		2	2	1	1					
	コース専門科目		感性工学	選択	D3	2	2			1	1			
	コース専門科目		環境健康論A	選択	D4	2	2	1	1					
	コース専門科目		環境健康論B	選択	D4	2	2			1	1			
	コース専門科目		ヒューマン・インタラクション学	選択	D4	2	3	1	1					
	コース専門科目		情報処理心理学	選択	D4	2	3			1	1			
	コース専門科目		性格心理学	選択	D4	2	3	1	1					
	コース専門科目		身体文化論	選択	D4	2	3			1	1			
	コース専門科目		言語情報論	選択	D4	2	3			1	1			
	学系共通科目	コンピュータシステム	コンピュータシステム	選択		2	1	1	1			築地　立家　他		20500
	学系共通科目		プログラミング同演習Ⅰ	選択		3	1	2	2			中村　克彦　他		60200
	学系共通科目		オペレーティングシステム	選択		2	3	1	1					60300
	学系共通科目		OSとシステム・ソフトウェア	選択		2	3			1	1			60300
	コース専門科目		コンパイラ	選択	D1	2	3	1	1					
	学系共通科目		データベース	選択		2	3			1	1			60300
	学系共通科目		データベースシステム	選択		2	3			1	1			60400
	コース専門科目		コンピュータ言語	選択	D1	2	3			1	1			20500
	学系共通科目		コンピュータ設計学	選択		2	3	1	1					60200
	学系共通科目		ソフトウェア工学	選択		2	3			1	1			60300
	コース専門科目	システムデザイン	システム数学Ⅰ	選択	D2	2	2	1	1					20300
	コース専門科目		システム数学Ⅱ	選択	D2	2	2			1	1			
	コース専門科目		システム制御論	選択	D2	2	2			1	1			60200
	コース専門科目		データ解析	選択	D2	2	2			1	1			
	コース専門科目		インタラクティブデザイン論	選択	D3	2	3	1	1					
	コース専門科目		多変量解析	選択	D2	2	3	1	1					20400
	コース専門科目		アミューズメントデバイス論	選択	D3	2	3			1	1			
	コース専門科目		パターン認識	選択	D2	2	3			1	1			
	学系共通科目	情報社会	社会とコンピュータ	選択		2	1			1	1	矢口　博之		60100
	学系共通科目		コンピュータ基礎	選択		2	1			1	1	゜小泉　寿男		60200
	学系共通科目		社会基盤工学	選択		2	2			1	1			
	コース専門科目		社会調査論A	選択	D4	2	2			1	1			
	コース専門科目		記号図像の社会史	選択	D4	2	2			1	1			
	コース専門科目		インストラクションデザイン論	選択	D4	2	3	1	1					
	学系共通科目		科学技術社会学	選択		2	3	1	1					
	学系共通科目		経営情報論	選択		2	3			1	1			
	コース専門科目		社会調査論B	選択	D4	2	3			1	1			
	コース専門科目		社会調査実習Ⅰ	選択	D4	1	4	1	1					
	コース専門科目		社会調査実習Ⅱ	選択	D4	1	4			1	1			

コースコードは、D1:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱｺｰｽ・D2:ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑｺｰｽ・D3:ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ・D4:社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ・D5:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽｺｰｽ
教職コードは、「教職課程」参照。

授業科目配当表
平成21年度　情報システムデザイン学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	情報数学	情報基礎数学Ⅰ	選択		2	1			1	1	志和　新一　他		20100
	学系共通科目		数値解析Ⅰ	選択		2	2	1	1					60200
	学系共通科目		基礎確率論	選択		2	1			1	1	町原　文明		20400
	コース専門科目		図形情報処理Ⅰ	選択	D1	2	2			1	1			20200
	学系共通科目		情報基礎数学Ⅱ	選択		2	2	1	1					20100
	学系共通科目		数値解析Ⅱ	選択		2	2			1	1			60200
	学系共通科目		基礎統計学	選択		2	2	1	1					20400
	コース専門科目		情報・符号理論	選択	D1	2	2	1	1					20100
	コース専門科目		記号論理学	選択	D2	2	3	1	1					60500
	コース専門科目		数理経済学	選択	D4	2	3	1	1					
	コース専門科目		図形情報処理Ⅱ	選択	D1	2	3			1	1			20200
	コース専門科目		情報数値計算学	選択	D1	2	3	1	1					20300
	学系共通科目		形式言語とオートマトン	選択		2	3			1	1			
	学系共通科目		形式言語	選択		2	2			1	1			60200
	コース専門科目	情報ネットワーク	情報伝送工学	選択	D2	2	2			1	1			60400
	学系共通科目		情報ネットワーク概論	選択		2	2			1	1			60400
	コース専門科目		ネットワークデザイン論	選択	D2	2	3	1	1					60400
	コース専門科目		コンピュータ・ネットワーク	選択	D2	2	3	1	1					60400
	コース専門科目		ネットワークプログラミング	選択	D1・D2	2	3			1	1			60400
	コース専門科目		ワイヤレスネットワーク工学	選択	D2	2	3			1	1			60400
	コース専門科目		ユビキタスネットワーク	選択	D2	2	3	1	1					
	コース専門科目		確率ネットワーク	選択	D2	2	3			1	1			20400
	学系共通科目	情報メディア	コンピュータグラフィックスⅠ	選択		2	2	1	1					20500
	学系共通科目		マルチメディア基礎	選択		2	2	1	1					60500
	コース専門科目		コンピュータグラフィックスⅡ	選択	D1	2	2			1	1			60500
	コース専門科目		音響情報処理	選択	D1	2	2			1	1			60500
	コース専門科目		画像工学	選択	D1	2	3	1	1					60500
	コース専門科目		空間情報処理	選択	D1	2	3			1	1			
	学系共通科目	総合情報	情報システムデザイン概論	選択		2	1	1	1			佐藤　定夫　他		60100
	学系共通科目		コンピュータ科学入門	選択		2	1			1	1	゛小泉　寿男　他		
	学系共通科目		ISD実習A(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ)	選択		1	1	1	1			佐藤　定夫　他		60200
	学系共通科目		ISD実習B	選択		2	1			2	2	佐藤　定夫　他		
	学系共通科目		ISD実習C	選択		1	2	1	1					
	学系共通科目		コンピュータ科学演習A	選択		1	2	1	1					60300
	学系共通科目		ISD実習D	選択		1	2			1	1			
	学系共通科目		コンピュータ科学実験A	選択		1	2			1	1			60200
	学系共通科目		ISD実習E	選択		1	3	1	1					
	コース専門科目		情報システムデザイン特別卒業研究	選択		3	3			3	3		3年以上の在学での卒業対象者のみ適用	
	コース専門科目		ISDゼミ	選択		2	3			1	1			
	コース専門科目		輪講C	選択		1	3			1	1			
	コース専門科目		情報システムデザイン卒業研究Ⅰ	必修		3	4	3	3					
	コース専門科目		情報システムデザイン卒業研究Ⅱ	必修		3	4			3	3			
	学系共通科目	プログラミング	ISDプログラミングⅠ・同演習	選択		3	1			2	2	佐藤　定夫　他		60200
	学系共通科目		プログラミング同演習Ⅱ	選択		3	1			2	2	古東　馨　他		60200
	学系共通科目		アルゴリズムとデータ構造	選択		2	2			1	1			20500
	学系共通科目		アルゴリズム論	選択		2	2			1	1			60300
	学系共通科目		アルゴリズムとデータ構造演習	選択		2	2			1	1			20500
	学系共通科目		データ構造	選択		2	2	1	1					60500
	コース専門科目		ゲームプログラミングA	選択	D1・D3	2	2			1	1			
	学系共通科目		ISDプログラミングⅡ・同演習	選択		3	2	2	2					60300
	学系共通科目		コンピュータ科学演習B	選択		1	2			1	1			60500
	コース専門科目		オブジェクト指向プログラミング	選択	D1・D2	2	3	1	1					60300
	コース専門科目		人工知能プログラミング	選択	D1	2	3	1	1					
	コース専門科目		ゲームプログラミングB	選択	D1・D3	2	3	1	1					
	学系共通科目	文化情報	音楽文化論	選択		2	2	1	1					
	コース専門科目		出版メディア論	選択	D3	2	2			1	1			
	学系共通科目		言語表現学	選択		2	2			1	1			
	学系共通科目		美術・芸術学	選択		2	2	1	1					
	コース専門科目		遊戯文化論	選択	D3	2	3	1	1					

コースコードは、D1:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱｺｰｽ・D2:ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑｺｰｽ・D3:ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ・D4:社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ・D5:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽｺｰｽ
教職コードは、「教職課程」参照。

授業科目配当表
平成21年度　情報システムデザイン学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	コース専門科目	文化情報	文化政策比較論	選択	D4	2	3	1	1					
	コース専門科目		メディア文化論	選択	D4	2	3	1	1					
	学系共通科目		メディアの法と倫理	選択		2	3			1	1			60100
	コース専門科目		地域貢献論	選択	D3	2	3	1	1					
	コース専門科目	コンピュータ科学	輪講A	選択	D5	1	2			1	1		RUで開講	
	コース専門科目		輪講B	選択	D5	1	3	1	1				RUで開講	
	コース専門科目		コンピュータ科学演習C	選択	D5	1	3	1	1					60400
	コース専門科目		コンピュータ科学演習D	選択	D5	1	3			1	1			60400
	コース専門科目		コンピュータ科学実験B	選択	D5	1	3	1	1					60400
	コース専門科目		数理最適化入門	選択	D5	2	3			1	1			60300
	コース専門科目		コンピュータ・アーキテクチャ	選択	D5	2	2	1	1					60200
	コース専門科目		ハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)	選択	D5	2	3			1	1			60400
	コース専門科目		知識と推論	選択	D5	2	3			1	1			60500
	コース専門科目		組み込みシステム	選択	D5	2	2			1	1			60500
	コース専門科目		計算量理論	選択	D5	2	3	1	1					

コースコードは、D1:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｿﾌﾄｳｪｱｺｰｽ・D2:ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑｺｰｽ・D3:ｱﾐｭｰｽﾞﾒﾝﾄﾃﾞｻﾞｲﾝｺｰｽ・D4:社会ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｺｰｽ・D5:ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｻｲｴﾝｽｺｰｽ
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

電子・機械工学系

(Division of Electronic and Mechanical Engineering)

電子・機械工学系履修モデル

1．電子・機械工学の必要性

みなさんは「工学とは、何か？」と考えたときがありますか？欧米諸国では、「工学とは人類に対する奉仕」と理解されています。災害救助などはこのことを理解する上で分かり易いでしょう。奉仕とは、誰かのために役立つという意味が含まれています。無医村で活躍する医療用ロボット、高齢者をサポートする福祉用ロボットなども、奉仕に対する意識を有しているからこそ開発できるものなのです。講義で学ぶ専門知識も重要ですが、工学技術者として兼ね備えるべき人間性が備わって卒業することがより望まれます。将来社会で活躍する工学技術者として「奉仕」ということを常に念頭において行動をとって下さい。

2．学系の学習・教育目標

現代社会において、私たちの周りには各種の電子・機械装置が存在しています。私たち人間が社会生活を営む上でも電子・機械装置への依存は増加し続けています。このことは、近未来において人間と機械が共存し相互理解が必要となることが予期されます。この社会での人間と機械との関係は、従来のように人間が機械操作において機械に適応できるようにその技術を磨き上達することが要求されてきた機械主導型ではなく、機械が人間の技能や技術のレベルを読み取り人間の行動にも適応する人間適応型でかつ人間主導型の機械システムであることが望まれます。このような人間適応型・人間主導型の電子・機械システムは根源的なものであり、地球および宇宙環境を含む人間の社会生活の全てに関わることになるでしょう。そこで「電子・機械工学系」の 3 コースでは、技術者として豊かな人間性と電子・機械工学の知識と技術を有し、自動車、ロボット、電子機器、医療機器、福祉機器などのものづくりを通して21世紀の人間社会に貢献できる技術者の育成を目的にしている。

3．学系カリキュラムの概要

本学系は、電子・情報工学、機械工学、そしてシステム工学などといった、ものづくりに直結した分野で構成されています。カリキュラムはこれら基礎分野の習得を無理なく行えるよう編成しており、さらには「技術者」に求められる応用力を養えるよう、大学院進学を視野に入れ、自動車産業をはじめとする宇宙産業から医用機械まで、幅広い分野の工学技術を

学べるよう工夫しています。

授業科目は専門科目（学部共通科目群、学系共通科目群、コース専門科目群）、人間形成科目群、英語科目群の 3 つに大別されます。学生は、１年次に配当されている専門科目を履修することにより、コースを選択する前に各コースで学ぶ専門的な内容を把握することができます。進級・卒業条件は選択した主・副コースによって異なりますので、詳細は表を参照してください。

電子・機械工学系では学生の自主性を重んじ、自らが履修計画を立て、卒業に向けしっかりと学習していく姿勢が求められます。講義で学んだ事を実験や演習を通じて確実に自分のものとするように努力するとともに、わからなかった部分をそのままにしないで予習・復習もしっかりとしてください。

なお、本学鳩山キャンパスには、大学院理工学研究科が設置されており、毎年多くの先輩が大学院に進学しています。大学院では、学部と異なり、社会で即戦力として活躍できる技術者を育成しています。ぜひ大学院への進学も視野に入れて勉学に努めてください。

４．各コースの概要

（１）知能機械コース

知能機械コースは「賢い機械」について学ぶコースです。「賢い機械」とは、機械自身が状況判断でき、必要な機能を確実に提供できるような機械です。このコースでは「賢い機械」を作るためにイラストレーションを重視した機械設計と「賢さ」を生み出すための機構や制御を学び、さらに機能材料や知的加工法の基本を学びます。また、実際に機械が動作したときの発熱や振動などの状態をコンピュータでシミュレーションすることのできるコースを準備しています。このコースに進んだ君たちは「賢い機械」に対する目標が生まれます。

（２）電子機械コース

電子機械コースは、「コンピュータ搭載の知的機械」を作り出すことのできるコースです。そのためには、人間の機能に「目があり、脳があり、口があり、四肢があり、神経がこれ等の関係を結びつける」ように作用しています。人間の機能と同じように、知的な機械とするためにコンピュータを頭に滑らかな動作を作り出す四肢の筋肉に類似したアクチュエータや神経に相当する信号処理やマン・マシン・インターフェイス、いわゆる、メカトロニクス技術を基本から学ぶコースです。したがって、このコースでは、電子・電気に強い機械技術者が育ちます。このような技術者こそ、新しいロボットや自動車、航空機を生み出す要となる

でしょう。

（3）電子システムコース

生体の機能をサポートする機器である人工臓器や治療機器、手術用ロボットなどには機械的な要素が多く含まれています。心臓に必要な拍動はどのようにして作るのか、血液の流れはどのようになっているのか、ロボットの機構には何が求められるかなど機械やシステム工学的な知識が必要になります。また、このような生体と同調する装置を開発するうえでは、生体内の他組織との関係を無視することはできません。そのため、生体信号をはじめとする様々な計測技術も必要となります。電子システムコースでは、機械・システム的な技術とともに医学的な分野も学び、医療機器や診断支援機器ならびにシステムを作り上げる能力を授けていくことを目標としています。

5．1年次の履修計画の立て方・学習の進め方

学習の進め方は高校時代と違い、まず、「将来何になりたいのか」、「どのようなエンジニアになりたいか」、「何を作りたいのか」を考えることが大学生活を有意義に送る上で必要です。なお、2年次生への進級条件は、「1年次に配当されている科目から**30単位以上**取得すること」です。この条件を満たせばよいと考えずに、**できるだけ多くの単位**を取得するよう努めて下さい。

ここでは1年を前期と後期に分けて履修の方法を説明します。

前期には、2年次から始まるコースの導入科目が開講されます。**「ものづくりのいろは」**では、各コースがどのような特徴を持っているかを分かり易く説明します。卒業後、どのような職に就き、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。電子・機械工学系のどのコースを選択する場合においても、この科目は3年次から4年次に進級するための**選択必修科目**に指定されています。よって全ての学生がこの科目の単位を1年次の間に取得しておくことが望まれます。

「電子工学概論」では、コンピュータをはじめとする各種電子機器・システムを構成しているハードウエアを理解する上で必要な電子回路の基礎について、直流回路、交流回路、半導体とその応用回路、アナログ技術とオペアンプ、ディジタル技術とコンピュータなど幅広く学びます。これを履修することで、電子工学の中でも自分にとって特に興味のある分野を見つけることができるでしょう。

後期になると、**「夢工房Ⅰ」**が**選択必修科目**として開講されています。この科目では、

6ヶ月を通し、「物作り」を体験しながら学ぶ事ができます。具体的には、最近の自動車を解体し、その仕組みから材料や加工されたものを実際に手に取って見ることができます。また、あるグループでは、手作りのロボットを動かしたり、自動演奏装置の作成に取り組んだりすることが経験できます。自分達が考えた機械を実際に作り上げる経験をつむことで、前期の「ものづくりのいろは」とともに、工学の分野に対する自分なりのビジョンを持つことができるようになるでしょう。

また、他にも2年次以降に始まる専門科目の基礎となるいくつかの科目が開講されます。「イラストレーション工学」では、右脳を訓練して、機械のデザインを考えるのに必要な創造性を養うことができます。「ロボット工学」「自動車工学」は機械の総合工学として、大学ではどのように学べばよいかを知る良い機会となるでしょう。「工学のための数学演習」は、高校レベルの数学と2年次以降に開講される工業数学との橋渡し的な科目です。「電気回路」は後に電子回路・ディジタル回路などを学ぶ上で、さらには電子・機械装置を開発する上で重要な科目となります。「電気磁気学Ａ」は、将来電気・電子・通信工学はもとより、半導体工学、生体工学、計測工学等を含む広範囲な学問分野の理解を深めるのに役立ちます。そして「基礎医学概論」では、電子・機械システムを医療に応用するにあたって欠かせない医学の基礎知識を学びます。

6．主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

（1）学系共通科目の履修（3コース共通）

本学系の目標である「新しい物作り」に携わる技術者育成を2年次から開始します。そのきっかけとなるのが、**「夢工房Ⅱ、Ⅲ」**です。夢工房は、機械系にとって必要な実験が準備されており、グループで一つの実験を二週間にわたり進めます。実験装置は準備されますが、使う材料はグループごとに製作し、それらの特性を調べ、時には図書館で文献を調べ、各自が納得して実験に望むことが要求されます。最終日にはその調査結果と実験結果をプレゼンテーションし、全員でその結果について討論します。このような方法で進行する実験です。また**「マシンデザインⅠ、Ⅱ」**が始まります。マシンデザインは、自分の考えたアイデアを具体的な図面に書き表す世界共通の機械のデザイン学を学びます。一年間で簡単な設計までできるようになります。これが、アイデアを実現する物作りの第一歩です。これらの科目は全て学系共通科目であり、本学系のコースを主コースとする場合、**3年次から4年次への進級条件**となっているので必ず履修してください。

（２）知能機械コースを主コースとした学生の履修計画

a) ２～３年次

２年次になると、主コース・副コースが決定されます。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある**科目群**の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画をたててください。３年次から４年次への進級条件として、１年次から３年次に配当されている科目から**104単位以上**を取得している必要があることとなっています。

また、その104単位の中には、**最低でも**、人間形成科目（12単位）・英語科目（６単位）・学部共通科目（12単位）で**合計30単位**、学系共通科目の中から**28単位**、コース専門科目の中からコースコード**Ｔ１**（Ｔ１：知能機械コース）のついた科目**14単位**と副コースとして選んだコースコードをもつ科目**６単位**が含まれていなければなりません。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数はあくまでも進級のための最低ラインを示したものであり、実際には低学年のうちになるべく多くの単位を取得するように心がけてください。

知能機械コースでは、２年次で**「夢工房Ⅱ」「夢工房Ⅲ」「マシンデザインⅠ」「マシンデザインⅡ」**、３年次で**「夢工房Ⅳ」「夢工房Ⅴ」「マシンデザインⅢ」「マシンデザインⅣ」**の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある機械工学の分野を中心に、機械制御、コンピュータ応用技術などの分野の科目を履修することを薦めます。

b) ４年次

順調であれば４年次生は卒業研究および４年次に開講されている応用科目の履修を行います。進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位**を、**ある程度余裕を持って**、取得するようにしてください。このコースを主コースとして選択した４年次生は研究室に配属されます。それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。

学系共通科目；「実践プレゼンテーションとディベート」「光機能工学」「ＣＡＤ工学」「ナノ技術」は、専門科目として現在企業では重要視されている科目です。

（3）電子機械コースを主コースとした学生の履修計画

a)　2～3年次

2年次になると、主コース・副コースが決定されます。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある**科目群**の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画をたててください。3年次から4年次への進級条件として、1年次から3年次に配当されている科目から**104単位以上**を取得している必要があることとなっています。

また、その104単位の中には、**最低でも**、人間形成科目（12単位）・英語科目（6単位）・学部共通科目（12単位）で**合計30単位**、学系共通科目の中から**28単位**、コース専門科目の中からコースコード**T2**（T2：電子機械コース）のついた科目**14単位**と副コースとして選んだコースコードをもつ科目**6単位**が含まれていなければなりません。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数はあくまでも進級のための最低ラインを示したものであり、実際には低学年のうちになるべく多くの単位を取得するように心がけてください。

電子機械コースでは、2年次で**「夢工房Ⅱ」「夢工房Ⅲ」「マシンデザインⅠ」「マシンデザインⅡ」**、3年次で**「夢工房Ⅳ」「夢工房Ⅴ」「エレクトロニクスデザインⅠ」「エレクトロニクスデザインⅡ」**の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある機械制御の分野を中心に、機械工学、コンピュータ応用技術などの分野の科目を履修することを薦めます。

b)　4年次

4年次生は卒業研究および4年次に開講されている応用科目の履修を行います。進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位**を、**ある程度余裕を持って**、取得するようにしてください。このコースを主コースとして選択した4年次生は研究室に配属されます。それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。

「環境エネルギー工学」「マイクロコンピュータ工学」「パワーエレクトロニクス」「量子物理化学」「ナノ技術」は、専門科目として現在企業では重要視されている科目です。

（4）電子システムコースを主とした学生の履修計画

a) 2～3年次

2年次になると、主コース・副コースが決定されます。学系で開講される科目は全て、**学系共通科目**か**コース専門科目**に分類されています。授業科目配当表にある**科目群**の項目を参照してください。さらに、コース専門科目には、それぞれどこのコースに属する科目であるかを示す**コースコード**がふられています。これらの情報と進級条件表とを見比べながら、履修計画をたててください。3年次から4年次への進級条件として、1年次から3年次に配当されている科目から**104単位以上**を取得している必要があることとなっています。

また、その104単位の中には、**最低でも**、人間形成科目（12単位）・英語科目（6単位）・学部共通科目（12単位）で**合計30単位**、学系共通科目の中から**28単位**、コース専門科目の中からコースコード**T 3**（T 3：電子システムコース）のついた科目**14単位**と副コースとして選んだコースコードをもつ科目**6単位**が含まれていなければなりません。履修の際にはこれらの条件に十分気をつけて、余裕のある計画を立てるようにしてください。これらの単位数はあくまでも進級のための最低ラインを示したものであり、実際には低学年のうちになるべく多くの単位を取得するように心がけてください。

電子システムコースでは、2年次で**「夢工房Ⅱ」「夢工房Ⅲ」「マシンデザインⅠ」「マシンデザインⅡ」**、3年次で**「生体・電子情報実験Ⅰ」「医用・機械システム実験Ⅰ」**の中からどちらか1科目と**「生体電子情報実験Ⅱ」「医用・機械システム実験Ⅱ」**の中からどちらか1科目（合計2科目）の単位は必ず取得してください。コース専門科目に関しては、授業科目配当表にある電子システムの分野を中心に、生体医工学、機械工学、コンピュータ応用技術などの分野の科目を履修することを薦めます。

b) 4年次

4年次生では、4年次に開講されている応用科目の履修を行うとともに、それまでに学んだ知識を活かし卒業研究に取り組みます。研究室に配属し、それぞれの教員が行っている研究テーマに従って研究を推進し、卒業研究論文を完成させます。卒業研究では、過去に学んだ知識を活かすだけではなく、未解決の問題に対してどう取り組むか（調査や解決方法の考案）といった研究開発者としての姿勢・素養を身につけます。また、進級条件表のなかの（卒業条件）の項目に注意し、**卒業に必要な単位**を、**ある程度余裕を持って**、取得するうようにしてください。

7．副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

（1）知能機械コースを副コースとする学生の履修計画

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

1年次の「ものづくりのいろは」「夢工房Ⅰ」の単位を必ず取得してください。2年次の「夢工房Ⅱ」「夢工房Ⅲ」「マシンデザインⅠ」「マシンデザインⅡ」の単位は必ず取得してください。3年次の「夢工房Ⅳ」「夢工房Ⅴ」「マシンデザインⅢ」「マシンデザインⅣ」の単位は必ず取得してください。

（2）電子機械コースを副コースとする学生の履修計画

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

1年次の「ものづくりのいろは」「夢工房Ⅰ」の単位を必ず取得してください。2年次の「夢工房Ⅱ」「夢工房Ⅲ」「マシンデザインⅠ」「マシンデザインⅡ」の単位は必ず取得してください。3年次の「夢工房Ⅳ」「夢工房Ⅴ」「エレクトロニクスデザインⅠ」「エレクトロニクスデザインⅡ」の単位は必ず取得してください。

（3）電子システムコースを副コースとする学生の履修計画

進級条件は、主コースとした学系により異なります。主コースの学系の進級条件をよく確認して不足のないように余裕をもって単位を取得してください。

1年次の「ものづくりのいろは」「夢工房Ⅰ」の単位を必ず取得してください。2年次の「夢工房Ⅱ」「夢工房Ⅲ」「マシンデザインⅠ」「マシンデザインⅡ」の単位は必ず取得してください。3年次の「生体・電子情報実験Ⅰ」「生体・電子情報実験Ⅱ」「医用・機械システム実験Ⅰ」「医用・機械システム実験Ⅱ」の単位は必ず取得してください。

8．その他の注意事項

（1）大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学を認めています。進学を希望する学生は、早い段階から、よい成績を取るように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、

企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業の者よりもより専門性の高い職種、部門に就職することができます。大学院在籍中に、海外の大学院へ留学することができます。

機械分野の大学院は、①高級技術者として企業からの要求であり、②開発を中心とした研究者育成、③専門的機械技術を教える高校教諭、工業高校、高等専門学校らには、大学等の教育に従事する教員を目指す登竜門であります。④大学院在籍中に大学からの奨学金を得て、フランスの精密機械大学院大学（ENSMM）に半年間留学し、研究と文化の違いを学ぶ大学院生もいます。

（2）就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。多くの学生は学校推薦で就職しますが、最近は自由応募で就職する学生もいます。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、最も重視されていることは、コミュニケーション能力や、教養の広さ・深さです。これらは、日常生活における習慣やちょっとした取り組みによって蓄積されるものです。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

なお、機械開発に携わる職種の就職においては、本人の技術に対する取り組み方、卒業研究の進め方とその内容、大学での学業に対する取り組み方などの自己主張と熱意を重視する場合がありますので、将来何をやりたいか目標を持って勉強に励んでください。

電子・機械工学系の科目配置図

	知能機械コース	電子機械コース	電子システムコース	
4年	〔知能機械コース専門科目〕 CAD工学 光機能工学 ナノ技術	〔電子機械コース専門科目〕 量子物理化学 パワーエレクトロニクス マイクロコンピュータ工学 環境エネルギー工学	〔電子システムコース専門科目〕 宇宙通信工学 メカトロニクス	
	〔学系共通科目〕 電子・機械工学卒業研究Ⅰ 電子・機械工学卒業研究Ⅱ 実践プレゼンテーションとディベート 電子・機械工学インターンシップE 電子・機械工学インターンシップF			
3年	〔知能機械コース専門科目〕 夢工房Ⅳ＊ 夢工房Ⅴ＊ マシンデザインⅢ＊ マシンデザインⅣ＊ エレクトロニクスデザインⅠ エレクトロニクスデザインⅡ 工業熱力学・演習 形状創成学・演習 構造・機能材料学 流体工学 材料変形学 情報システム設計 機械工学B 電子・機械工学特別卒業研究	〔電子機械コース専門科目〕 夢工房Ⅳ＊ 夢工房Ⅴ＊ マシンデザインⅢ マシンデザインⅣ エレクトロニクスデザインⅠ＊ エレクトロニクスデザインⅡ＊ 電磁気工学・演習 マンマシンインターフェース 電気電子回路B・演習 自動機械 信号とシステム 環境アセスメント 電子・機械工学特別卒業研究	〔電子システムコース専門科目〕 生体・電子情報実験Ⅰ＊ 生体・電子情報実験Ⅱ＊ 医用・機械システム実験Ⅰ＊ 医用・機械システム実験Ⅱ＊ 信号処理工学A 信号処理工学B 応用電子回路 医用電子工学 制御工学A 制御工学B システム工学 臨床医学概論Ⅱ 生体代替工学 電子設計 計算機工学 循環器系人工臓器学 生体情報工学 電子・機械工学特別卒業研究	共通教育科目 人間形成科目 英語科目 情報と職業入門 情報と職業 職業指導
	〔学系共通科目〕 工業数学Ⅲ 振動学 応用プログラミング 計測センサ工学 アクチュエータ工学 特別講義 医療とコミュニケーション 電子・機械工学インターンシップC 電子・機械工学インターンシップD			
2年	〔知能機械コース専門科目〕 マシンエレメントⅠ マシンエレメントⅡ 材料強度学 シミュレーション工学 情報通信ネットワーク	〔電子機械コース専門科目〕 電気電子回路A・演習 シミュレーション工学 自動制御・演習 電子機械材料学	〔電子システムコース専門科目〕 電子情報回路A 電子情報回路B 計測装置学 生体計測工学 電子材料工学 医療福祉機器学 臨床医学概論Ⅰ ディジタル情報理論	
	〔学系共通科目〕 夢工房Ⅱ＊ 夢工房Ⅲ＊ マシンデザインⅠ＊ マシンデザインⅡ＊ 工業数学Ⅰ 工業数学Ⅱ 応用数値解析 実用プログラミングA コンピュータ工学Ⅰ コンピュータ工学Ⅱ 材料力学Ⅰ 材料力学Ⅱ・同演習 剛体の力学Ⅱ 流体力学 計測工学 機械工学A 電気磁気学B 過渡現象 電子・機械工学インターンシップA 電子・機械工学インターンシップB			
1年	〔学系共通科目〕 ものづくりのいろは＊ 夢工房Ⅰ＊ 基礎医学概論 電気回路 電子工学概論 ロボット工学 イラストレーション工学 電気磁気学A 工学のための数学演習 自動車工学			
	〔学部共通科目〕 数学基礎・物理学基礎・化学基礎、物理学基礎演習・化学基礎演習、基礎微分積分学A・B、基礎線形代数学A・B、物理学A・B、一般物理学実験、化学A・B、一般化学実験、環境科学、情報処理A・B、立体図学、工学基礎、生物科学			

＊：進級条件に関係する科目

電子・機械工学系　進級条件表

平成21年度　1年次

1年次→2年次

1年次配当科目から30単位以上を取得のこと

2年次→3年次

進級条件を設けない

3年次→4年次

1～3年次配当科目から104単位以上取得のこと。但し以下の各条件を満たすこと。

1．下記の単位を取得のこと

科目区分			単位数	(卒業条件)
人間形成科目			12	(16)
英語科目			6	(8)
学部共通科目			12	(14)
副コースを電子・機械工学系から選んだ場合	学系共通科目		28	(36)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※
		副コース	6	(8)
副コースを他学系から選んだ場合	学系共通科目	主コース	22	(26)
		副コース	10	(14)
	コース専門科目	主コース	14	(22)※
		副コース	2	(4)

※は、卒業研究を含む

2．電子・機械工学系の各コースを主専攻コースで選んだ場合，下記科目を履修し単位を取得していること。

知能機械コース	電子機械コース	電子システムコース
[学系共通科目] 次の6科目を全て取得のこと ものづくりのいろは 夢工房Ⅰ 夢工房Ⅱ 夢工房Ⅲ マシンデザインⅠ マシンデザインⅡ	[学系共通科目] 次の6科目を全て取得のこと ものづくりのいろは 夢工房Ⅰ 夢工房Ⅱ 夢工房Ⅲ マシンデザインⅠ マシンデザインⅡ	[学系共通科目] 次の6科目を全て取得のこと ものづくりのいろは 夢工房Ⅰ 夢工房Ⅱ 夢工房Ⅲ マシンデザインⅠ マシンデザインⅡ
[コース専門科目] 次の4科目を全て取得のこと 夢工房Ⅳ 夢工房Ⅴ マシンデザインⅢ マシンデザインⅣ	[コース専門科目] 次の4科目を全て取得のこと 夢工房Ⅳ 夢工房Ⅴ エレクトロニクスデザインⅠ エレクトロニクスデザインⅡ	[コース専門科目] 次の4科目の中から2科目を取得のこと. 生体・電子情報実験Ⅰ 生体・電子情報実験Ⅱ 医用・機械システム実験Ⅰ 医用・機械システム実験Ⅱ 注)上記4科目のうち，Ⅰの中から1つ，Ⅱの中から1つを選択すること.

授業科目配当表
平成21年度　電子・機械工学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	コース導入	ものづくりのいろは	選択		2	1	1	1			浅岡　照夫　他		70100
	学系共通科目		電子工学概論	選択		2	1	1	1			保坂　栄弘		70100
	学系共通科目		ロボット工学	選択		2	1			1	1	斎藤　之男		70100
	学系共通科目		自動車工学	選択		2	1			1	1	斎藤　之男	集中講義	70100
	学系共通科目		基礎医学概論	選択		2	1			1	1	宮脇　富士夫		
	学系共通科目	工学基礎	工学のための数学演習	選択		2	1			1	1	榊原　洋子　他		70100
	学系共通科目		イラストレーション工学	選択		2	1			1	1	福島　博		70100
	学系共通科目		電気磁気学A	選択		2	1			1	1	内川　義則　他		70100
	学系共通科目		電気回路	選択		2	1			1	1	田中　慶太		70100
	学系共通科目		材料力学Ⅰ	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		材料力学Ⅱ・演習	選択		3	2			1.5	1.5			70100
	学系共通科目		剛体の力学Ⅱ	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		流体力学	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		振動学	選択		2	3	1	1					70100
	学系共通科目	数理・情報処理	工業数学Ⅰ	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		工業数学Ⅱ	選択		2	2			1	1			70100
	学系共通科目		工業数学Ⅲ	選択		2	3	1	1					70100
	学系共通科目		実用プログラミングA	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		コンピュータ工学Ⅰ	選択		2	2	1	1					60200
	学系共通科目		コンピュータ工学Ⅱ	選択		2	2			1	1			60500
	コース専門科目		情報通信ネットワーク	選択	T2	2	2			1	1			70100
	学系共通科目		応用プログラミング	選択		2	3	1	1					60200
	学系共通科目	機械・電子基礎	夢工房Ⅰ	選択		2	1			2	2	斎藤　之男　他		70100
	学系共通科目		夢工房Ⅱ	選択		1	2	1	1					70100
	学系共通科目		夢工房Ⅲ	選択		1	2			1	1			70100
	コース専門科目		夢工房Ⅳ	選択	T1, T2	1	3	1	1					70100
	コース専門科目		夢工房Ⅴ	選択	T1, T2	1	3			1	1			70100
	学系共通科目		マシンデザインⅠ	選択		1	2	1	1					70100
	学系共通科目		マシンデザインⅡ	選択		1	2			1	1			70100
	学系共通科目	機械工学	機械工学A	選択		2	2			1	1			70100
	コース専門科目		機械工学B	選択	T3	2	3	1	1					70100
	コース専門科目		マシンエレメントⅠ	選択	T1	2	2	1	1					70100
	コース専門科目		マシンエレメントⅡ	選択	T1	2	2			1	1			70100
	コース専門科目		材料強度学	選択	T1	2	2			1	1			70100
	コース専門科目		工業熱力学・演習	選択	T1	3	3	1.5	1.5					70100
	コース専門科目		形状創成学・演習	選択	T1	3	3	1.5	1.5					70100
	コース専門科目		流体工学	選択	T1	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		マシンデザインⅢ	選択	T1, T2	1	3	1	1					70100
	コース専門科目		マシンデザインⅣ	選択	T1, T2	1	3			1	1			70100
	コース専門科目		構造・機能材料学	選択	T1	2	3	1	1					70100
	コース専門科目		材料変形学	選択	T1	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		ＣＡＤ工学	選択	T1, T2	2	4	1	1					70100
	コース専門科目		光機能工学	選択	T2	2	4	1	1					70100
	コース専門科目		量子物理化学	選択	T2	2	4	1	1					70100
	コース専門科目		ナノ技術	選択	T2	2	4			1	1			70100
	コース専門科目	機械制御	電気電子回路A・演習	選択	T1, T2	3	2	1.5	1.5					70100
	コース専門科目		電気電子回路B・演習	選択	T2	3	3			1.5	1.5			70100
	コース専門科目		電子機械材料学	選択	T2	2	2			1	1			70100
	コース専門科目		自動制御・演習	選択	T2	3	2			2	2			70100
	学系共通科目		アクチュエータ工学	選択		2	3			1	1			70100
	学系共通科目		計測センサ工学	選択		2	3	1	1					70100
	コース専門科目		自動機械	選択	T2	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		環境アセスメント	選択	T2	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		パワーエレクトロニクス	選択	T2	2	4	1	1					70100
	コース専門科目		環境エネルギー工学	選択	T2	2	4			1	1			70100

コースコードは、T1:知能機械コース、T2:電子機械コース、T3:電子システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

授業科目配当表

平成21年度　電子・機械工学系　1年次

科目区分	科目群	分野	科目名	必選	コースコード	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当者	備考	教職コード
専門教育科目	コース専門科目	コンピュータ応用技術	シミュレーション工学	選択	T2	2	2	1	1					70100
	コース専門科目		マンマシンインターフェース	選択	T1, T2	2	3	1	1					70100
	コース専門科目		エレクトロニクスデザインⅠ	選択	T1, T2	1	3	1	1					70100
	コース専門科目		エレクトロニクスデザインⅡ	選択	T1, T2	1	3			1	1			70100
	コース専門科目		情報システム設計	選択	T2	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		信号とシステム	選択	T2	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		マイクロコンピュータ工学	選択	T2	2	4	1	1					70100
	学系共通科目	電子システム	電気磁気学B	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		計測工学	選択		2	2	1	1					70100
	学系共通科目		過渡現象	選択		2	2			1	1			70100
	学系共通科目		応用数値解析	選択		2	2			1	1			60200
	コース専門科目		計測装置学	選択	T3	2	2	1	1					70100
	コース専門科目		電子情報回路A	選択	T3	2	2	1	1					60300
	コース専門科目		電子情報回路B	選択	T3	2	2			1	1			60300
	コース専門科目		応用電子回路	選択	T3	2	3	1	1					70100
	コース専門科目		電子設計	選択	T3	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		信号処理工学A	選択	T3	2	3	1	1					60200
	コース専門科目		信号処理工学B	選択	T3	2	3			1	1			60200
	コース専門科目		ディジタル情報理論	選択	T3	2	2			1	1			60400
	コース専門科目		制御工学A	選択	T3	2	3	1	1					70100
	コース専門科目		制御工学B	選択	T3	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		電子材料工学	選択	T3	2	2			1	1			70100
	コース専門科目		システム工学	選択	T3	2	3	1	1					60500
	コース専門科目		計算機工学	選択	T3	2	3			1	1			60300
	コース専門科目		宇宙通信工学	選択	T3	2	4	1	1					60400
	コース専門科目		メカトロニクス	選択	T3	2	4	1	1					70100
	コース専門科目		電磁気工学・演習	選択	T2	3	3	1.5	1.5					70100
	コース専門科目	生体医工学	臨床医学概論Ⅰ	選択	T3	2	2	1	1					
	コース専門科目		臨床医学概論Ⅱ	選択	T3	2	3	1	1					
	コース専門科目		医療福祉機器学	選択	T3	2	2	1	1					70100
	コース専門科目		生体計測工学	選択	T3	2	2			1	1			70100
	コース専門科目		生体情報工学	選択	T3	2	3			1	1			60400
	コース専門科目		医用電子工学	選択	T3	2	3			1	1			70100
	コース専門科目		生体代替工学	選択	T3	2	3	1	1					70100
	コース専門科目		循環器系人工臓器学	選択	T3	2	3			1	1			
	学系共通科目		医療とコミュニケーション	選択		2	3			1	1			
	コース専門科目	実験・実習	生体・電子情報実験Ⅰ	選択	T3	2	3	2	2					60400
	コース専門科目		医用・機械システム実験Ⅰ	選択	T3	2	3	2	2					70100
	コース専門科目		生体・電子情報実験Ⅱ	選択	T3	2	3			2	2			60500
	コース専門科目		医用・機械システム実験Ⅱ	選択	T3	2	3			2	2			70100
	学系共通科目	卒研等	実践プレゼンテーションとディベート	選択		2	4	1	1					
	学系共通科目		特別講義	選択		2	3			1	1			
	コース専門科目		電子・機械工学特別卒業研究	選択	T1, T2, T3	3	3			3	3			
	コース専門科目		電子・機械工学卒業研究Ⅰ	必修	T1, T2, T3	3	4	3	3					
	コース専門科目		電子・機械工学卒業研究Ⅱ	必修	T1, T2, T3	3	4			3	3			
	コース専門科目	その他	職業指導	自由	T1, T2, T3	4	4	1	1	1	1			70200
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップA	選択	T1, T2, T3	2	2	1	1					
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップB	選択	T1, T2, T3	2	2			1	1			
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップC	選択	T1, T2, T3	2	3	1	1					
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップD	選択	T1, T2, T3	2	3			1	1			
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップE	選択	T1, T2, T3	2	4	1	1					
	コース専門科目		電子・機械工学インターンシップF	選択	T1, T2, T3	2	4			1	1			
	コース専門科目		情報と職業入門	選択	T1, T2, T3	1	全	1				○佐藤　達雄		60600
	コース専門科目		情報と職業	選択	T1, T2, T3	2	全			1	1	○佐藤　達雄		60600

コースコードは、T1:知能機械コース、T2:電子機械コース、T3:電子システムコース。
教職コードは、「教職課程」参照。

専門教育科目

建築・都市環境学系

(Division of Architectural, Civil and Environmental Engineering)

建築・都市環境学系履修モデル

1．建築・都市環境学系の学習・教育目標

建築・都市環境学系では、21世紀の循環型社会の構築に向けて人間と自然が調和する環境を多角的に考察し、ゆとりと潤いある生活環境を目指して社会基盤の創造と保全に寄与できる建設技術者の育成を目的としています。具体的には、社会が要請する構造物を計画・設計・施工・管理する技術、地域から地球規模に至る環境保全や環境予測に必要な技術、さらには高度情報化社会に対応できる情報技術を習得し、持続可能な社会の構築に貢献できる技術者の育成を行います。この目的を達成するため、本学系では以下の（A）～（G）の学習・教育目標を掲げています。

（A）「技術は人なり」を目標とした人間形成の教育

良識ある人間性、倫理性、福祉への眼差し等の資質・感性を有し、かつ人文科学、社会科学等の基礎知識を有する心身健全な技術者を育成します。

（B）相互理解を深めるコミュニケーション能力の開発

科学技術のグローバル化に伴い、異文化を理解する能力や文化的素養を有し、かつ柔軟な思考力のもと自らの考えを文章化し、意見交換を通して多様化する社会の諸問題に対応でき、将来において国際的にも活躍できる技術者を育成します。

（C）基礎工学を重視した実学教育の徹底

物理学、化学、数学などの工学的基礎力の育成に重点を置き、専門科目では講義および実験、実習、演習を通して、即戦力となる技術者を育成します。

（D）創造力および問題発見・解決能力の開発

豊かな創造力や柔軟な思考力を有する技術者の育成と、現実社会の中で直面している諸問題を認識し、その問題解決について考える能力を有し、かつ高度な社会的要請にも対応できる技術者を育成します。

（E）環境と調和する循環型社会をリードする技術者の育成

自然の仕組みを理解し、人間と自然界が共生でき、持続可能な社会を構築する技術、また地域から地球規模にいたる環境評価・予測・保全に必要な技術を有した技術者を育成します。

（F）プロジェクト遂行能力の開発

与えられた制約のもとで、情報の収集・評価・利用する能力を有し、チームを組織して計画的に仕事を進め、問題を解決していく能力の開発ならびにその人材を育成します。

（G）情報技術革新へ対応できる技術者の育成

急速に発展する高度情報化に対応できるように、情報技術に関する基礎およびアプリケーションの活用やプログラム作成能力を有した技術者を育成します。

2．学系カリキュラムの概要

建築・都市環境学系のカリキュラムは、建築学、建設工学、土木工学、都市工学、環境学といった私たちの生活環境づくりに直結した学問分野で構成されています。そして、それぞれの分野に関して基礎から応用へと段階的に学習できるようにカリキュラムが編成されています。この段階的な学習を確実なものとするために、特に 3 年次から 4 年次への進級に際して、学系独自の進級条件を設定しています。この進級条件は所属する主コース・副コースの組み合わせによって異なるため、些細な勘違いなどで留年しないよう細心の注意を払って履修計画を立ててください。履修方法に関する疑問等は、学年担任をはじめとする学系教員に気軽に質問して下さい。

3．各コースの概要

（1）建築コース

建築コースは、建築の専門知識や技術を学び、デザインするための感性を磨くコースです。本コースの特徴は単体の建物だけでなく、都市・環境・景観に配慮した総合的な視野を備えた建築家や建設技術者を育成する点にあります。講義では建築のデザイン、歴史、計画、構造、構法、設備等の専門知識はもちろんのこと、都市環境コースとの連携により都市・環境・土木分野の知識について幅広く学ぶことができます。また、ＣＡＤの使い方、建築図面の描き方、建築設計の方法を学ぶ建築都市デザイン演習や、構造実験・材料実験といった実験科目を通して、実践的な技術力・判断力・プレゼンテーション能力を身につけることができます。

（2）都市環境コース

都市環境コースは、ひとにやさしく、安全で快適なまちづくりの方法を学ぶコースです。まちづくりの中心には市民がおり、市民が満足しなければまちづくりとは言えません。市民

が満足するためには、機能性、経済性、意匠性を同時に兼ね備えていなければなりません。都市環境コースが対象とする施設は、われわれの日常生活を支える上で必要不可欠なものばかりです。たとえば、鉄道、駅、道路、空港などの交通施設、電気、水道などのライフライン施設、公園、広場、ビオトープ、屋上緑化施設などの都市環境施設などがあります。

また本コースでは、社会基盤施設の計画から設計に至る能力を学習します。さらに地球環境問題が深刻さを増しつつある今日、建設に携わる技術者も環境を視野に入れて行動することが求められています。したがって、建設と環境との関連性に関する知識を習得して、環境に配慮した都市や地域づくりを実践できる21世紀型グローバル・エンジニアや都市環境デザイナーを育成します。

４．１年次の履修計画の立て方・学習の進め方

１年次に配当されている科目から30単位以上取得することで、２年次に進級することができます。本学系では、学部共通科目群の「情報処理Ａ」「情報処理Ｂ」「一般物理学実験」「一般化学実験」の単位取得を４年次への進級条件に含んでいるので、１年次にこれら４科目を履修してください。また、人間形成科目群の「技術者倫理」も４年次への進級条件に含まれるので、３年次までに必ず履修してください。

つぎに専門科目としては、１年前期に、導入科目である「建築・都市環境学へのアプローチ」が開講されます。この講義では、各コースがどのような特徴を持っているかを分かり易く説明し、卒業後、どのような職に就き、大学の講義が社会でどのように役立つかを知ることができます。本科目は４年次に進級するための学系指定科目となっているので、１年次に履修してください。

１年後期では、まず「建築都市デザイン演習Ⅰ」の３単位を必ず履修してください。つぎに「建築都市デザイン概論」「工学のための数学演習」「工学のための統計学」「剛体の力学Ⅰ」を履修してください。これらの講義では、建築や都市をデザインすることの面白さや大切さを学習し、あるいは２年次以降に学習する専門科目を理解するための基礎学力を培います。

５．主コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

（１）建築コースを主コースとする学生の履修計画

２年次と３年次の２年間で、「３年次から４年次への進級条件」を満たすように計画的に単位履修を行ってください。「３年次から４年次への進級条件」は選択した副コースによっ

て異なるので注意してください。詳細は進級条件表を参照してください。

a) 建築コース（主）＋都市環境コース（副）とする学生の履修計画（主：主コース、副：副コースを示す。以下同じ）

（学系共通科目の履修）

① 2年次・3年次の「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」の4科目4単位の中から必ず3単位以上を履修してください。

② 2年次の「測量学・演習」「測量実習」の2科目5単位を必ず履修してください。

③ 進級条件表の学系指定科目（12科目27単位）の中から20単位以上を3年次終了までに履修してください。

以上で、学系共通科目群から28単位以上を履修することになり、3年次から4年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コース専門科目群から「建築都市デザイン演習Ⅰ」「建築都市デザイン演習ⅡA」「建築都市デザイン演習ⅡB」の3科目7単位を含む14単位以上を履修してください。

② 副コース専門科目群から6単位以上を履修してください。

以上で、3年次から4年次への進級条件が満たされます。

b) 建築コース（主）＋他学系のコース（副）とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

① 学系共通科目群の中から、学系指定科目（12科目27単位）10単位以上、かつ合計で22単位以上を履修してください。

② 副コースの所属する学系の学系共通科目群から10単位以上を履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コース専門科目群の中から14単位以上を履修してください。

② 副コース専門科目群の中から2単位以上を履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。

（2）「都市環境コース」を主コースとする学生の履修計画

2年次と3年次の2年間で、「3年次から4年次への進級条件」を満たすように単位を取得します。「3年次から4年次への進級条件」は選択した副コースによって異なりますので注意してください。

a) 都市環境コース（主）＋建築コース（副）とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

① 2年次・3年次の「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」の4科目4単位の中から必ず3単位以上を履修してください。

② 2年次の「測量学・演習」「測量実習」の2科目5単位を必ず履修してください。

③ 進級条件表の学系指定科目（12科目27単位）の中から20単位以上を3年次終了までに履修してください。

以上で、学系共通科目群から28単位以上を履修することになり、3年次から4年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コース専門科目群から「建築都市デザイン演習Ⅰ」「建築都市デザイン演習ⅡＡ」「建築都市デザイン演習ⅡＢ」の3科目7単位を含む14単位以上を履修してください。

② 副コース専門科目群から6単位以上を履修してください。

以上で、3年次から4年次への進級条件が満たされます。

b) 都市環境コース（主）＋他学系のコース（副）とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

① 学系共通科目群の中から、学系指定科目（12科目27単位）10単位以上、かつ合計で22単位以上を履修してください。

② 副コースの所属する学系の学系共通科目群から10単位以上を履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コース専門科目群の中から14単位以上を履修してください。

② 副コース専門科目群の中から2単位以上を履修してください。

以上で3年次から4年次への進級条件が満たされます。

6．副コースとしての履修計画の立て方・学習の進め方

（1）建築デザインコースを副コースとする学生の履修計画

a) 他学系のコース（主）＋建築コース（副）とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、学系共通科目群の中から10単位以上履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、コース専門科目群の中から 2 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

（2）都市デザインコースを副コースとする学生の履修計画

a) 他学系のコース（主）＋都市環境コース（副）とする学生の履修計画

（学系共通科目の履修）

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、学系共通科目群の中から10単位以上履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

（コース専門科目の履修）

① 主コースについては、所属学系の進級条件表を参照してください。

② 副コースについては、コース専門科目群の中から 2 単位以上を履修してください。

以上で 3 年次から 4 年次への進級条件が満たされます。

7．その他の注意事項

（1）大学院進学について

学部では学べなかったより専門性の高い知識や技術を修得するために毎年多くの学生が大学院に進学しています。大学院に進学するには、大学院入学試験を受けて合格することが必要ですが、成績の優秀な学生には、推薦入学を認めています。進学を希望する学生は、早い段階からよい成績を取るように心がけてください。なお大学院を修了して社会に出ると、企業から即戦力として活躍することが期待され、学部卒業生よりもより専門性の高い職種、部門に就職することができます。大学院在籍中に、海外の大学院へ留学することもできます。近年は、建設系コンサルタント、設計コンサルタントなどの極めて専門性の高い職種の企業からは、大学院卒の学生に対する募集が多くなっています。

（2）就職について

これまで卒業した東京電機大学の先輩の努力により、毎年多数の求人の案内が届きます。多くの学生は学校推薦で就職しますが、最近は自由応募で就職する学生もいます。いずれの場合も、大学名のみで採用に至ることはありません。近年の就職活動をみると、最も重視さ

れていることは、コミュニケーション能力や、教養の広さ・深さです。これらは、日常生活における習慣やちょっとした取り組みによって蓄積されるものです。是非、高いモチベーションを持って学生生活を送ってください。

（3）JABEEプログラムについて

本学系はJABEE（日本技術者教育認定機構）より、国際水準の技術者教育を行う教育組織としての認定を受けています。コース選択において、建築コースと都市環境コースを主・副コース（主・副は任意）として選択した学生はこのJABEEプログラムの履修生となります。JABEEプログラムを修了し、本学を卒業すると登録により技術士補の資格を得ることができます（＊）。

また、JABEEプログラム（建築コース＋都市環境コース）以外の学生が、本学の転学部、転学科、転学系、転コース制度を利用して新たにJABEEプログラム（建築コース＋都市環境コース）に移籍する場合は、当該学生の既取得科目と単位数を勘案し、本学系の学習・教育目標の達成可能性を検討の上、個別にJABEEプログラム受け入れの可否を決定します。

（＊）JABEEプログラムは定期的な審査により認定されるものであり、本学系は学生教育にとって有意義であるとの判断から、継続的にその認定を受ける方針を定めています。しかしながら、予期せぬ事情によりこの認定を受けられない場合、技術士補の資格を得られなくなることもありますので、この点についてはあらかじめ了承ください。

（4）建築士プログラムについて

コースとは独立した教育課程として、建築士資格取得を目指した「建築士プログラム」が用意されています。この「建築士プログラム」を修了すると、大学卒業と同時に二級建築士と木造建築士資格の受験ができます。また、卒業後 2 年間の実務経験のあとに一級建築士資格の受験ができます。これらの受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。コースの進級条件等とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

（5）建設系資格について

建築士プログラム同様、建設系の各種資格については、コースの進級条件とは別の基準が設けられているので、注意して履修計画を立ててください。詳細は、「資格」に関するページを参照してください。

建築・都市環境学系の履修モデル図

1年	2年	3年	4年
共通教育科目・人間形成科目・英語科目			

学部共通科目	専門科目				
数学基礎 基礎微積分学A 基礎微積分学B 基礎線形代数学A 基礎線形代数学B 物理学基礎 物理学基礎演習 物理学A 物理学B 一般物理学実験 化学基礎 化学基礎演習 化学A 化学B 一般化学実験 情報処理A 情報処理B 立体図学 工学基礎 生物科学 環境科学	導入	建築・都市環境学へのアプローチ 建築都市デザイン概論			建築・都市環境卒業研究Ⅰ 建築・都市環境卒業研究Ⅱ
	数理・情報	工学のための数学演習 工学のための統計学	工業数学Ⅰ　計画数理 プログラミング演習	数値計算法	
	構造	剛体の力学Ⅰ	材料力学Ⅰ　応用力学・演習 鉄筋コンクリート工学	鋼構造学 構造実験	
	地盤		地盤工学A・演習　地盤工学B 土質実験		
	水理		流体力学 水理学A・演習　水理学B	水文学 水理実験	
	材料		建設材料学 材料実験		
	施工			建設施工法 道路工学	
	測量		測量学・演習 測量実習	リモートセンシング 空間情報工学	
	設計製図	建築都市デザイン演習Ⅰ	建築都市デザイン演習ⅡA 建築都市デザイン演習ⅡB	建築都市デザイン演習ⅢA 建築都市デザイン演習ⅢB	
	環境		水圏の環境 気圏・地圏の環境	衛生工学　環境アセスメント 生物圏の環境	
	都市			景観デザイン　建設マネジメント 防災工学　河川・海岸計画 都市計画　交通計画 都市プロジェクトの評価	
	建築		住居論　建築計画学 建築史　ランドスケープデザイン	建築デザイン論　建築法規 建築環境工学　建築設備 建築構法　建築構造学 振動学　建築とアートワーク論	
	職業		建築・都市環境インターンシップA 建築・都市環境インターンシップB	建築・都市環境インターンシップC 建築・都市環境インターンシップD	建築・都市環境インターンシップE 建築・都市環境インターンシップF

建築・都市環境学系　進級条件表

平成21年度　1年次

進級条件

〔1年次から2年次への進級条件〕

1年次に配当されている授業科目のうち30単位以上を取得のこと

〔3年次から4年次への進級条件〕

<table>
<tr><th></th><th>群</th><th colspan="2">進級条件</th></tr>
<tr><td rowspan="2">共通教育科目</td><td>人間形成科目群</td><td colspan="2">12単位以上取得のこと。
ただし「技術者倫理」の単位は必ず取得のこと。</td></tr>
<tr><td>英語科目群</td><td colspan="2">6単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門科目</td><td>学部共通科目群</td><td colspan="2">12単位以上取得のこと。
ただし「情報処理A」「情報処理B」「一般物理学実験」「一般化学実験」の単位を必ず取得のこと。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">学系共通科目群
および
コース科目群</td><td>対象副コース</td><td>条件</td></tr>
<tr><td>建築・都市環境学系</td><td>(1)主コース専門科目から14単位以上取得のこと。
ただし「建築都市デザイン演習Ⅰ」「建築都市デザイン演習ⅡA」「建築都市デザイン演習ⅡB」の単位を必ず取得のこと。
(2)副コース専門科目から6単位以上取得のこと。
(3)学系共通科目から28単位以上取得のこと。
ただし以下の条件(ⅰ)～(ⅲ)を満たすこと。
(ⅰ):「測量学・演習」「測量実習」の単位を必ず取得のこと。
(ⅱ):「材料実験」「土質実験」「構造実験」「水理実験」から3単位以上を取得のこと。
(ⅲ):下記の付表に示す学系指定科目から20単位以上取得のこと。</td></tr>
<tr><td>他学系</td><td>(1)主コース専門科目から14単位以上取得のこと。
(2)主コースの学系共通科目から22単位以上取得のこと。
ただし下記の付表に示す学系指定科目から10単位以上取得のこと。
(3)副コース専門科目から2単位以上取得のこと。
(4)副コースの学系共通科目から10単位以上を取得のこと。</td></tr>
<tr><td colspan="4">総取得単位数が104単位以上であること</td></tr>
</table>

付表:学系指定科目(12科目27単位)

「建築・都市環境学へのアプローチ」「建築都市デザイン概論」「工学のための数学演習」「剛体の力学Ⅰ」「材料力学Ⅰ」「応用力学・演習」
「地盤工学A・演習」「地盤工学B」「水理学A・演習」「水理学B」「鉄筋コンクリート工学」「建設材料学」

コース専門科目	
建築コース	都市環境コース
建築都市デザイン演習Ⅰ 建築都市デザイン演習ⅡA 建築都市デザイン演習ⅡB 建築都市デザイン演習ⅢA 建築都市デザイン演習ⅢB	
住居論	景観デザイン
建築計画学	都市計画
建築史	建設マネジメント
建築デザイン論	都市プロジェクトの評価
建築環境工学	環境アセスメント
建築設備	空間情報工学
建築構造学	防災工学
振動学	水圏の環境
建築構法	気圏・地圏の環境
建築法規	生物圏の環境
ランドスケープデザイン	交通計画
建築とアートワーク論	河川・海岸計画

＊学系指定科目以外の学系共通科目

工学のための統計学
工業数学Ⅰ
計画数理
数値計算法
鋼構造学
衛生工学
建設施工法
道路工学
流体力学
プログラミング演習
水文学
リモートセンシング

授業科目配当表

平成21年度　建築・都市環境学系　1年次

	科目群	分野	建築・都市環境学系	必選	単位数	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	建築コース	都市環境コース	担当者	建築士プログラム科目区分	備考	教職コード
専門教育科目	学系共通科目	導入	建築・都市環境学へのアプローチ	選択	2	1	1	1					有田　正光　他			70100
	学系共通科目		建築・都市デザイン概論	選択	2	1			1	1			高田　和幸　他	その他		70100
	学系共通科目	数理・情報	工学のための数学演習	選択	2	1			1	1			松井　邦人　他			70100
	学系共通科目		工学のための統計学	選択	2	1			1	1			高田　和幸			70100
	学系共通科目		工業数学Ⅰ	選択	2	2	1	1								70100
	学系共通科目		計画数理	選択	2	2	1	1								70100
	学系共通科目		プログラミング演習	選択	2	2			1	1						70100
	学系共通科目		数値計算法	選択	2	3	1	1								70100
	学系共通科目	構造	剛体の力学Ⅰ	選択	2	1			1	1			松井　邦人　他	構造力学		70100
	学系共通科目		材料力学Ⅰ	選択	2	2	1	1						構造力学		70100
	学系共通科目		応用力学・演習	選択	3	2			2	2				構造力学		70100
	学系共通科目		鉄筋コンクリート工学	選択	2	2			1	1				建築一般構造		70100
	学系共通科目		鋼構造学	選択	2	3	1	1						建築一般構造		70100
	学系共通科目		構造実験	選択	1	3			1	1				構造力学		70100
	学系共通科目	地盤	地盤工学A・演習	選択	3	2	2	2						構造力学		70100
	学系共通科目		地盤工学B	選択	2	2			1	1				構造力学		70100
	学系共通科目		土質実験	選択	1	2			1	1				構造力学		70100
	学系共通科目	水理	流体力学	選択	2	2	1	1								70100
	学系共通科目		水理学A・演習	選択	3	2	2	2								70100
	学系共通科目		水理学B	選択	2	2			1	1						70100
	学系共通科目		水文学	選択	2	3	1	1								70100
	学系共通科目		水理実験	選択	1	3			1	1						70100
	学系共通科目	材料	建設材料学	選択	2	2	1	1						建築材料		70100
	学系共通科目		材料実験	選択	1	2	1	1						建築材料		70100
	学系共通科目	施工	建設施工法	選択	2	3	1	1						建築生産		70100
	コース専門科目		道路工学	選択	2	3	1	1				G2				70100
	学系共通科目	測量	測量学・演習	選択	3	2	2	2						その他		70100
	学系共通科目		測量実習	選択	2	2	2	2						その他		70100
	コース専門科目		リモートセンシング	選択	2	3	1	1				G2				70100
	コース専門科目		空間情報工学	選択	2	3			1	1		G2				70100
	コース専門科目	設計製図	建築都市デザイン演習Ⅰ	選択	3	1			3	3	G1	G2	岩城　和哉　他	建築設計製図		70100
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅡA	選択	2	2	2	2			G1	G2		建築設計製図		70100
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅡB	選択	2	2			2	2	G1	G2		建築設計製図		70100
	コース専門科目		都市デザイン演習A	選択	2	2	2	2			G1	G2				70100
	コース専門科目		都市デザイン演習B	選択	2	2			2	2	G1	G2				70100
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅢA	選択	2	3	2	2			G1	G2		建築設計製図		70100
	コース専門科目		建築都市デザイン演習ⅢB	選択	2	3			2	2	G1	G2		建築設計製図		70100
	コース専門科目	環境	水圏の環境	選択	2	2			1	1		G2				70100
	コース専門科目		気圏・地圏の環境	選択	2	2			1	1		G2				70100
	学系共通科目		衛生工学	選択	2	3	1	1								70100
	コース専門科目		環境アセスメント	選択	2	3			1	1		G2				70100
	コース専門科目		生物圏の環境	選択	2	3			1	1		G2				70100
	コース専門科目	都市	景観デザイン	選択	2	3	1	1				G2		建築計画		70100
	コース専門科目		防災工学	選択	2	3	1	1				G2		その他		70100
	コース専門科目		都市計画	選択	2	3	1	1				G2		建築計画		70100
	コース専門科目		交通計画	選択	2	3	1	1				G2				70100
	学系共通科目		建設マネジメント	選択	2	3			1	1				建築生産		70100
	コース専門科目		河川・海岸計画	選択	2	3			1	1		G2				70100
	コース専門科目		都市プロジェクトの評価	選択	2	3			1	1		G2		その他		70100
	コース専門科目	建築	建築法規	選択	1	3	1				G1			建築法規		70100
	コース専門科目		ランドスケープデザイン	選択	2	2	1	1			G1			その他		70100
	コース専門科目		住居論	選択	2	2			1	1	G1			建築計画		70100
	コース専門科目		建築計画学	選択	2	2			1	1	G1			建築計画		70100
	コース専門科目		建築史	選択	2	2			1	1	G1			建築計画		70100
	コース専門科目		建築設備	選択	2	3			1	1	G1			建築設備		70100
	コース専門科目		建築デザイン論	選択	2	3	1	1			G1			建築計画		70100
	コース専門科目		建築とアートワーク論	選択	2	3	1	1			G1			その他		70100
	コース専門科目		建築環境工学	選択	2	3	1	1			G1			建築環境工学		70100
	コース専門科目		振動学	選択	2	3	1	1			G1			構造力学		70100
	コース専門科目		建築構法	選択	2	3	1	1			G1			建築一般構造		70100
	コース専門科目		建築構造学	選択	2	3			1	1	G1			構造力学		70100
	コース専門科目	卒研等	建築・都市環境特別卒業研究	選択	3	3			3	3						
	コース専門科目		建築・都市環境卒業研究Ⅰ	必修	3	4	3	3								
	コース専門科目		建築・都市環境卒業研究Ⅱ	必修	3	4			3	3						
	コース専門科目		建築・都市環境インターンシップA	選択	2	2	1	1								
	コース専門科目		建築・都市環境インターンシップB	選択	2	2			1	1						
	コース専門科目		建築・都市環境インターンシップC	選択	2	3	1	1								
	コース専門科目		建築・都市環境インターンシップD	選択	2	3			1	1						
	コース専門科目		建築・都市環境インターンシップE	選択	2	4	1	1								
	コース専門科目		建築・都市環境インターンシップF	選択	2	4			1	1						
	コース専門科目		職業指導	自由	4	4	1	1	1	1						70200
	コース専門科目		情報と職業入門	選択	1	全	1						○ 中間　正人			60600
	コース専門科目		情報と職業	選択	2	全			1	1			○ 中間　正人			60600

コースコードは、G1:建築コース・G2:都市環境コース
教職コードは、「教職課程」参照。

資　　格

1．本学卒業後に取得できる資格・免許

（1）卒業後資格が得られたり、試験免除等となったりする主な資格・免許を下記に記載します。

資格・免許	取得条件	取得しやすい学系	取り扱い機関
高等学校教諭１種免許状　数学	所定の単位を取得し申請した者は資格を得られる。詳しいことは学部編「教職課程」参照。	理学系 情報システムデザイン学系	各都道府県教育委員会
高等学校教諭１種免許状　工業		建築・都市環境学系 電子・機械工学系、生命理工学系	
高等学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命理工学系	
高等学校教諭１種免許状　情報		理学系、生命理工学系 情報システムデザイン学系 電子・機械工学系	
中学校教諭１種免許状　数学		理学系 情報システムデザイン学系	
中学校教諭１種免許状　理科		理学系 生命理工学系	
測量士補	次ページ　参照		国土交通省国土地理院
測量士			
一級建築士	次ページ　参照		(財)建築技術教育普及センター
二級建築士			
木造建築士			
社会調査士	社会調査士標準カリキュラム科目の所定の７科目（一部申請中）をすべて取得し必要書類を提出することで資格を得られる（科目については、掲示等で確認すること）。	情報システムデザイン学系	(社)社会調査協会
技術士補	受験資格については特に制限はない。４年制の理工系大学を卒業すれば、試験科目のうち共通科目が免除される。	全学系 ※建築・都市環境学系でJABEEプログラムを修了すると登録により技術士補の資格を得ることができる。詳細は158ページ参照	(社)日本技術士会
技術士	技術士補としての業務経験が４年以上の者、または技術士１次試験合格者で実務経験が７年を超える者は受験資格が得られる。	全学系	
ＥＩＴ（ＥＩ）	原則として４年生の工学系大学を卒業した者は、ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験の受験資格が得られる。この試験に合格するとＥＩＴまたはＥＩの資格が取得できる。	電子・機械工学系 生命理工学系	日本ＰＥ・ＦＥ試験協議会
ＰＥ	ＰＥ（Professional Engineer） ＦＥ（Fundamentals of engineering）試験に合格し、実務経験（エンジニアリングに関連する技術業務-計画・研究・設計・分析・試験・評価又はこれらに関する指導）が４年以上ある者は受験の資格が得られる。		

※詳細は各取扱い機関に問合せすること。

※公務員試験については234ページを参照すること。

建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士を受験するためには、一定の基準を満たして単位を修得して卒業した後、定められた年数以上の実務経験を経なければなりません。

◇一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格について

一級建築士・二級建築士・木造建築士の受験資格を得るためには理工学部理工学科において「建築士プログラム」を修了する必要があります。「建築士プログラム」を修了した場合、定められた年数以上の実務経験の後に一級建築士・二級建築士・木造建築士試験の各受験資格が得られます。受験資格が得られるのは「建築士プログラム」を修了した場合だけです。また、資格によって必要な修得単位数と実務経験年数が異なります。注意して履修計画を立ててください。

◇建築士プログラム修了条件

下表に示す条件を満たして卒業した者は「建築士プログラム」を修了したものとして認定し、卒業証明書に明記します。

<table>
<tr><td>必修科目</td><td colspan="3">一級建築士</td><td colspan="3">二級・木造建築士</td></tr>
<tr><td>建築設計製図</td><td colspan="3">7単位以上</td><td colspan="3">5単位以上</td></tr>
<tr><td>建築計画</td><td colspan="3">7単位以上</td><td colspan="3" rowspan="3">7単位以上</td></tr>
<tr><td>建築環境工学</td><td colspan="3">2単位以上</td></tr>
<tr><td>建築設備</td><td colspan="3">2単位以上</td></tr>
<tr><td>構造力学</td><td colspan="3">4単位以上</td><td colspan="3" rowspan="3">6単位以上</td></tr>
<tr><td>建築一般構造</td><td colspan="3">3単位以上</td></tr>
<tr><td>建築材料</td><td colspan="3">2単位以上</td></tr>
<tr><td>建築生産</td><td colspan="3">2単位以上</td><td colspan="3">1単位以上</td></tr>
<tr><td>建築法規</td><td colspan="3">1単位以上</td><td colspan="3">1単位以上</td></tr>
<tr><td>必修科目の
総単位数（a）</td><td colspan="3">30単位以上</td><td colspan="3">20単位以上</td></tr>
<tr><td>必修科目以外の
総単位数（b）</td><td colspan="3">適宜</td><td colspan="3">適宜</td></tr>
<tr><td>（a）＋（b）</td><td>60単位以上</td><td>50単位以上</td><td>40単位以上</td><td>40単位以上</td><td>30単位以上</td><td>20単位以上</td></tr>
<tr><td>建築実務の経験</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>0年</td><td>1年</td><td>2年</td></tr>
</table>

必修科目（括弧内の数字は単位数を示す）

建築設計製図：建築都市デザイン演習Ⅰ(3)、ⅡA(2)、ⅡB(2)、ⅢA(2)、ⅢB(2)
建築計画　　：建築計画学(2)、住居論(2)、建築デザイン論(2)、建築史(2)、都市計画(2)、景観デザイン(2)
建築環境工学：建築環境工学(2)
建築設備　　：建築設備(2)
構造力学　　：剛体の力学Ⅰ(2)、材料力学Ⅰ(2)、建築構造学(2)、応用力学・演習(3)、構造実験(1)、振動学(2)、地盤工学A・演習(3)、地盤工学B(2)、土質実験(1)
建築一般構造：鉄筋コンクリート工学(2)、鋼構造学(2)、建築構法(2)
建築材料　　：建設材料学(2)、材料実験(1)
建築生産　　：建設施工法(2)、建設マネジメント(2)
建築法規　　：建築法規(1)

必修科目以外　：建築都市デザイン概論(2)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、ランドスケープデザイン(2)、防災工学(2)、建築とアートワーク論(2)、都市プロジェクトの評価(2)

測量士補について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（３単位)、「測量実習」（２単位）の５単位を含む測量に関する科目30単位以上を修得した者は、申請により測量士補の資格が得られます。

測量士について

建築・都市環境学系の建築コース・都市環境コースを主コース・副コース（主・副は任意）として卒業し、かつ「測量学・演習」（３単位)、「測量実習」（２単位）の５単位を含む測量に関する科目30単位以上を修得した者は、測量士補の資格取得後、測量に関する１年以上の実務経験ののちに、申請により測量士の資格が得られます。

測量に関する科目（括弧内の数字は単位数を示す）

数学基礎(1)、物理学基礎(1)、物理学基礎演習(1)、基礎微積分学Ａ(2)、基礎微積分学Ｂ(2)、基礎線形代数学Ａ(2)、基礎線形代数学Ｂ(2)、物理学Ａ(2)、物理学Ｂ(2)、一般物理学実験(2)、剛体の力学Ⅰ(2)、材料力学Ⅰ(2)、工学のための数学演習(2)、工学のための統計学(2)、数値計算法(2)、工業数学Ⅰ(2)、流体力学(2)、振動学(2)、地盤工学Ａ・演習(3)、水理学Ａ・演習(3)、応用力学・演習(3)、測量学・演習(3)、測量実習(2)、土質実験(1)、水理実験(1)、計画数理(2)、水理学Ｂ(2)、道路工学(2)、衛生工学(2)、建設マネジメント(2)、水文学(2)、地盤工学Ｂ(2)、防災工学(2)、都市計画(2)、リモートセンシング(2)、空間情報工学(2)、河川・海岸計画(2)、気圏・地圏の環境(2)、交通計画(2)

建設系資格の受験資格について

一定の基準を満たして卒業した者は、種目ごとに定められた実務経験の後に下記に示す建設系資格の「受験資格」が得られます（現在申請中。決まり次第、掲示等でお知らせします)。

●建設系資格

建設機械施工技士　　（１級・２級）
土木施工管理技士　　（１級・２級）
建築施工管理技士　　（１級・２級）
電気工事施工管理技士（１級・２級）
管工事施工管理技士　（１級・２級）
造園施工管理技士　　（１級・２級）

第 3 章

教職課程

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位修得できるように設置された課程です。

中学校や高校の教員になるということは、社会で重要な役割を担うことになります。そのような教員を育てるということは、社会においても大事な責務である為、直接大学とは関係のない方々にもお世話になることになります。

教職課程の履修希望者は、教職関係科目を充分に理解できる能力（単位取得）は勿論のこと、教員としての適格性が必要であることはいうまでもありません。また、一般の学生以上に手続きや確認事項等で手間隙がかかります。それらが全て完了して初めて免許状を手にすることができるのです。

従って、当然のことながら、いい加減な気持ちで受けていると、学外者の方にご迷惑をお掛けしたり、後輩にも影響が出る場合もあります。自分の進路をよく考えながら、履修を進めていくようにしてください。

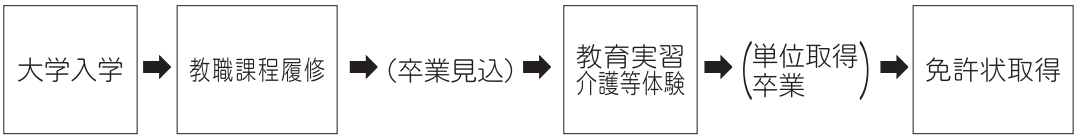
教職課程を修めようとする者は、本学部に設置された共通教育科目及び各学系で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職関係科目を履修し、単位を修得しなければなりません。講義概要はオンラインシラバスにおいて、把握してください。また、教育実習（科目名「教育実践研究入門」、「教育実践研究Ⅰ（中学）・Ⅱ（高校）」）や介護等体験（科目名「教職総合演習」）を伴う科目の履修や実習・体験等については、必要な時期に説明会や事前指導が行われますので、必ず出席するようにしてください。

なお、実習は学外で行うこととなっており、実習先が児童・生徒・高齢者といった抵抗力の弱い方々が対象ですから、実習生が感染していたら本人は何でもなくても大事となる可能性があります。その為、掲示や窓口での指示を守り予防接種やワクチン等の処置を求められたら必ず受診するようにして下さい。

これらの連絡は全て掲示板にて行われます。掲示に注意し見落としがないように注意してください。

大学入学から免許状取得まで

大学入学から教員免許状取得までの手順は下図のとおりです。



介護等の体験は卒業するまでに終了していること。

年次／月		1　年	2　年	3　年	4　年
4月	上旬	教職課程説明会			
	中旬	教職科目の履修申告			
	下旬	教職課程履修費納入			教育実習願提出および実習費納入 教育実習関係書類配布 教育実習事前オリエンテーション
5月					
6月					教育実習（実習校により実施期間は異なる）
9月	下旬	教職課程履修費納入			
10月	中旬				教員免許状一括申請に関する説明会
11月	上旬				一括申請書類提出
1月	下旬		教育実習オリエンテーション		
2月			教育実習校受入れ可否打診		
3月	上旬		教育実習申込書提出 教育実習許可判定発表 教育実習依頼に関する書類配布	進級発表 教育実習許可判定最終発表	卒業発表
	中旬				教員免許状交付 （卒業式当日）

※教職科目の履修申告は他の授業科目と同様に修正申告を行うことができます。

※各々の詳細については、その都度**共通掲示板**にてお知らせします。

※教職課程履修費については、掲示・説明会等でお知らせします。

取得できる免許状

学部卒業に必要な単位の取得のほかに、教科及び教職に関する授業科目を取得することにより、次の教員免許状が授与されます。

基礎資格	免許状の種類	免許の教科	授業科目配当学系
学部卒業	中学校教諭1種免許状	数　学	理学系、情報システムデザイン学系
		理　科	理学系、生命理工学系
	高等学校教諭1種免許状	数　学	理学系、情報システムデザイン学系
		理　科	理学系、生命理工学系
		情　報	理学系、情報システムデザイン学系 生命理工学系、電子・機械工学系
		工　業	建築・都市環境学系、電子・機械工学系、生命理工学系

履　修　要　件

免許法に基づき本学部で免許状を取得するための最低単位数は、次のとおりです。

(1) 本学部における最低取得単位数

免許の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合　計
中学校教諭1種免許状	学士の学位	20	33	6	59
高等学校教諭1種免許状	学士の学位	20	25	14	59

注）基礎資格（学士の学位を有すること）について

本学部を卒業することにより、理学系は学士（理学）、情報システムデザイン学系は学士（情報学）、建築・都市環境学系、電子・機械工学系、生命理工学系は学士（工学）の学位が与えられますので、学部を卒業することにより基礎資格は得られます。

(2) 文部科学省が定める科目

教職に関する科目、教科に関する科目の他に、人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群より**日本国憲法 2 単位、体育 2 単位、外国語コミュニケーション 2 単位、情報機器の操作 2 単位**の 8 単位を必ず取得しなければなりません（人間形成科目群、リテラシー科目群・英語科目群の科目配当表の教職コード欄参照)。

文部科学省が定める科目	必要単位	教職コード	本学での該当科目　　（　）内は、単位数
「日本国憲法」	2	00100	日本国憲法（2）
「体　　育」	2	00200	体育Ⅰ(1)、体育Ⅱ(1)、体育Ⅲ(1)、体育Ⅳ(1)、体育Ⅴ(1)、体育Ⅵ(1)
「外国語コミュニケーション」	2	00300	ドイツ語入門Ⅰ（1）　英語ⅠA（1） ドイツ語入門Ⅱ（1）　英語ⅠB（1） 基礎ドイツ語Ⅰ（1）　英語ⅡA（1） 基礎ドイツ語Ⅱ（1）　英語ⅡB（1） 初級ドイツ語Ⅰ（1）　英語ⅢA（1） 初級ドイツ語Ⅱ（1）　英語ⅢB（1） フランス語入門Ⅰ（1）　英語ⅣA（1） フランス語入門Ⅱ（1）　英語ⅣB（1） 基礎フランス語（1）　英語ⅤA（1） 初級フランス語（1）　英語ⅤB（1） 中国語入門Ⅰ（1） 中国語入門Ⅱ（1） 基礎中国語Ⅰ（1） 基礎中国語Ⅱ（1） 初級中国語Ⅰ（1） 初級中国語Ⅱ（1）
「情報機器の操作」	2	00400	情報処理A（2）

(3) 教科に関する科目

教科に関する科目については、科目配当表の教職コード欄に免許法上の区分が記載されています。下記の表は区分ごとにまとめたものです。(2009年４月１日現在)

数学（中学校一種・高校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。(　) 内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
代数学	20100	○基礎線形代数学Ａ(2)※ 基礎線形代数学Ｂ(2)※ 線形代数学Ⅰ演習(2) 線形代数学Ⅱ演習(2) 線形代数学Ⅲ(2) 線形代数学Ⅲ演習(1) 代数学Ⅰ(2) 代数学Ⅰ演習(1) 代数学Ⅱ(2) 代数学Ⅲ(2) 代数学Ⅳ(2) 応用線形代数学(2)	○基礎線形代数学Ａ(2)※ 基礎線形代数学Ｂ(2)※ 情報基礎数学Ⅰ(2) 情報基礎数学Ⅱ(2) 情報・符号理論(2)
幾何学	20200	○位相空間Ⅰ(2) 位相空間Ⅰ演習(1) 位相空間Ⅱ(2) 幾何学Ⅰ(2) 幾何学Ⅱ(2) 幾何学Ⅲ(2)	幾何学Ⅰ(2) 幾何学Ⅱ(2) 図形情報処理Ⅱ(2) ○図形情報処理Ⅰ(2)
解析学	20300	○基礎微積分学Ａ(2)※ 基礎微積分学Ｂ(2)※ 解析学Ⅰ演習(2) 解析学Ⅱ演習(2) 解析学Ⅲ(2) 解析学Ⅲ演習(1) 解析学Ⅳ(2) 解析学Ⅳ演習(1) 複素解析学Ⅰ(2) 複素解析学Ⅱ(2) 積分論(2) 常微分方程式(2) 常微分方程式演習(1) 偏微分方程式(2) 関数解析学Ⅰ(2) 関数解析学Ⅱ(2)	○基礎微積分学Ａ(2)※ 基礎微積分学Ｂ(2)※ 情報数値計算学(2) システム数学Ⅰ(2)
「確率論、統計学」	20400	○確率論(2) 確率過程論(2) 統計学(2)	○基礎確率論(2) 基礎統計学(2) 確率ネットワーク(2) 多変量解析(2)
コンピュータ	20500	○数理プログラミング(2) 離散数学(2) 画像解析(2)	○コンピュータシステム(2) アルゴリズムとデータ構造演習(2) コンピュータグラフィックスⅠ(2) アルゴリズムとデータ構造(2) コンピュータ言語(2)

○の科目は、必ず履修し習得すること。
※の科目は、学部共通科目から履修すること。
　　の科目は、理学系から履修すること。

理科（中学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命理工学系配当科目
物理学	30100	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※ 力学(2) 電磁気学(2) 量子力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2) 熱力学(2) 統計力学Ⅰ(2) 統計力学Ⅱ(2)	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※
物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	30200	○一般物理学実験(2)※ サイエンス実験Ⅰ(2)	○一般物理学実験(2)※
化学	30300	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 材料化学(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 化学反応学Ⅰ(2) 化学反応学Ⅱ(2) 分子分光学Ⅰ(2) 分子分光学Ⅱ(2) 化学熱力学(2) 電気化学(2) 界面化学(2) 高分子科学(2) 生命の化学(2)	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 無機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 電気化学(2) 生命の化学(2) 栄養科学(2) 生命分析化学(2) 生体高分子科学(2) 再生医化学(2) 生命物理化学(2)
化学実験（コンピュータ活用を含む。）	30400	○一般化学実験(2)※ サイエンス実験Ⅱ(2) 物理化学実験(4)	○一般化学実験(2)※
生物学	30500	生物科学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2)	生物科学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2) 生物反応学(2) 分子生物学(2) 細胞の科学(2) 植物生理学(2) 細胞工学(2) 遺伝学(2) 遺伝子工学(2) 免疫学(2) 薬理学(2) 生体組織学(2) 環境生命工学(2)
生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	30600	○生命理工学実験Ⅰ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2)	○生命理工学実験Ⅰ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2) 生命科学実験Ⅰ(2) 生命科学実験Ⅱ(2) 生物環境実験Ⅰ(2) 生物環境実験Ⅱ(2)
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)
地学実験（コンピュータ活用を含む。）	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○の科目は、必ず履修し習得すること。
※の科目は、学部共通科目から履修すること。
　　の科目は、生命理工学系から履修すること。

理科（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	生命理工学系配当科目
物理学	30100	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※ 力学(2) 電磁気学(2) 量子力学Ⅰ(2) 量子力学Ⅱ(2) 量子力学Ⅲ(2) 熱力学(2) 統計力学Ⅰ(2) 統計力学Ⅱ(2)	○物理学Ａ(2)※ 物理学Ｂ(2)※
化学	30300	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 材料化学(2) 無機化学Ⅰ(2) 無機化学Ⅱ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 化学反応学Ⅰ(2) 化学反応学Ⅱ(2) 分子分光学Ⅰ(2) 分子分光学Ⅱ(2) 化学熱力学(2) 電気化学(2) 界面化学(2) 高分子科学(2) 生命の化学(2)	○化学Ａ(2)※ 化学Ｂ(2)※ 無機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅰ(2) 有機化学Ⅱ(2) 電気化学(2) 生命の化学(2) 栄養科学(2) 生命分析化学(2) 生体高分子科学(2) 再生医化学(2) 生命物理化学(2)
生物学	30500	生物科学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2)	生物科学(2)※ ○生物学(2) 微生物学(2) 応用微生物学(2) 生物反応学(2) 分子生物学(2) 細胞の科学(2) 植物生理学(2) 細胞工学(2) 遺伝学(2) 遺伝子工学(2) 免疫学(2) 薬理学(2) 生体組織学(2) 環境生命工学(2)
地学	30700	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)	環境科学(2)※ ○生態地球科学(2)
物理学実験（コンピュータ活用を含む。）	30200	○一般物理学実験(2)※ サイエンス実験Ⅰ(2)	○一般物理学実験(2)※
化学実験（コンピュータ活用を含む。）	30400	○一般化学実験(2)※ サイエンス実験Ⅱ(2) 物理化学実験(4)	○一般化学実験(2)※
生物学実験（コンピュータ活用を含む。）	30600	○生命理工学実験Ⅰ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2)	○生命理工学実験Ⅰ(2)　生命科学実験Ⅱ(2) 生命理工学実験Ⅱ(2)　生物環境実験Ⅰ(2) 生命科学実験Ⅰ(2)　生物環境実験Ⅱ(2)
地学実験（コンピュータ活用を含む。）	30800	○地学実験(2)	○地学実験(2)

○の科目は、必ず履修し習得すること。
※の科目は、学部共通科目から履修すること。
　　の科目は、生命理工学系から履修すること。

情報（中学校一種・高校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	理学系配当科目	情報システムデザイン学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	数理情報学入門(2) ○情報と倫理(2) 技術者倫理(2)※	社会とｺﾝﾋﾟｭｰﾀ(2)　情報ｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ概論(2) ○ﾒﾃﾞｨｱ法と倫理(2)　情報と倫理(2) 技術者倫理(2)※
コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	60200	○数理情報学演習Ⅰ(2)	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ同演習Ⅰ(3)　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ設計学(2)　ｼｽﾃﾑ制御論(2) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ基礎(2)　数値解析Ⅰ(2)　数値解析Ⅱ(2) 形式言語(2)　ISD実習Ａ(1)　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学実験A(1) ○ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅠ・同演習(3)　ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ同演習Ⅱ(3) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ･ｱｰｷﾃｸﾁｬ(2)
情報システム（実習を含む。）	60300	データ科学(2) ○数理情報学演習Ⅱ(2)	ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ(2)　OSとｼｽﾃﾑ・ｿﾌﾄｳｪｱ(2)　ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ(2) ｿﾌﾄｳｪｱ工学(2)　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学演習Ａ(2)　ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑ論(2) ○ISDﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞⅡ・同演習(3)　ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄ指向ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(2) 数理最適化入門(2)
情報通信ネットワーク（実習を含む。）	60400	○情報論(2)	ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽｼｽﾃﾑ(2)　情報伝送工学(2)　○情報ﾈｯﾄﾜｰｸ概論(2) ﾈｯﾄﾜｰｸﾃﾞｻﾞｲﾝ論(2)　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ･ﾈｯﾄﾜｰｸ(2) ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(2)　ﾜｲﾔﾚｽﾈｯﾄﾜｰｸ工学(2) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学演習C(1)　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学演習D(1) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学実験Ｂ(1)　ﾊｲﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ（HPC)(2)
ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ表現及び技術（実習を含む。）	60500	○画像処理(2) 人工知能(2) 数理情報学演習Ⅲ(2)	造形ﾃﾞｻﾞｲﾝ実習(2)　記号論理学(2)　○ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ基礎(2) ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽⅡ(2)　音響情報処理(2)　画像工学(2) データ構造(2)　ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ科学演習Ｂ(1)　知識と推論(2) 組み込みｼｽﾃﾑ(2)
情報と職業	60600	情報と職業入門(1) 情報と職業(2)	情報と職業入門(1)　情報と職業(2)

免許法上の区分	教職コード	電子・機械工学系配当科目	生命理工学系配当科目
情報社会及び情報倫理	60100	○情報と倫理(2)　技術者倫理(2)※	○情報と倫理(2)　技術者倫理(2)※
コンピュータ及び情報処理（実習を含む。）	60200	○ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ工学Ⅰ(2)　応用ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ(2) 応用数値解析(2)　信号処理工学Ａ(2) 信号処理工学Ｂ(2)	
情報システム（実習を含む。）	60300	○電子情報回路Ａ(2)　電子情報回路Ｂ(2) 計算機工学(2)	
情報通信ネットワーク（実習を含む。）	60400	○ディジタル情報理論(2) 宇宙通信工学(2)　生体情報工学(2) 生体・電子情報実験Ⅰ(2)	
ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱ表現及び技術（実習を含む。）	60500	○ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ工学Ⅱ(2)　システム工学(2) 生体・電子情報実験Ⅱ(2)	
情報と職業	60600	情報と職業入門(1)　情報と職業(2)	情報と職業入門(1)　情報と職業(2)

※○科目は、必ず履修し習得すること。

工業（高等学校一種）

下記の区分ごとにそれぞれ１単位以上、計20単位以上（教職に関する科目と合計して59単位以上）修得すること。（　）内は単位数

免許法上の区分	教職コード	建築・都市環境学系配当科目
工業の関係科目	70100	○建築・都市環境学へのｱﾌﾟﾛｰﾁ(2) 建築・都市デザイン概論(2) 工学のための数学演習(2) 工学のための統計学(2) 工業数学Ⅰ(2) 計画数理(2) プログラミング演習(2) 数値計算法(2) 剛体の力学Ⅰ(2) 材料力学Ⅰ(2) 応用力学・演習(3) 鉄筋コンクリート工学(2) 鋼構造学(2) 構造実験(1) 地盤工学Ａ・演習(3) 地盤工学Ｂ(2) 土質実験(1) 流体力学(2) 水理学Ａ・演習(3) 水理学Ｂ(2) 水文学(2) 水理実験(1) 建設材料学(2) 材料実験(1) 建設施工法(2) 道路工学(2) 測量学・演習(3) 測量実習(2) リモートセンシング(2) 空間情報工学(2) 建築都市デザイン演習Ⅰ(3) 建築都市デザイン演習ⅡＡ(2) 建築都市デザイン演習ⅡＢ(2) 都市デザイン演習Ａ(2) 都市デザイン演習Ｂ(2) 建築都市デザイン演習ⅢＡ(2) 建築都市デザイン演習ⅢＢ(2) 水圏の環境(2) 気圏・地圏の環境(2) 衛生工学(2) 環境アセスメント(2) 生物圏の環境(2) 景観デザイン(2) 防災工学(2) 都市計画(2) 交通計画(2) 建設マネジメント(2) 河川・海岸計画(2) 都市プロジェクトの評価(2) 建築法規(1) ランドスケープデザイン(2) 住居論(2) 建築計画学(2) 建築史(2) 建築設備(2) 建築デザイン論(2) 建築とアートワーク論(2) 建築環境工学(2) 振動学(2) 建築構法(2) 建築構造学(2) 情報処理Ｂ(2)※
職業指導	70200	○職業指導(4)

免許法上の区分	教職コード	電子・機械工学系配当科目
工業の関係科目	70100	○ものづくりのいろは(2) 電子工学概論(2) ロボット工学(2) 自動車工学(2) 工学のための数学演習(2) イラストレーション工学(2) ○電気磁気学Ａ(2) 電気回路(2) 材料力学Ⅰ(2) 材料力学Ⅱ・演習(3) 剛体の力学Ⅱ(2) 流体力学(2) 振動学(2) 工業数学Ⅰ(2) 工業数学Ⅱ(2) 工業数学Ⅲ(2) 実用プログラミングＡ(2) 情報通信ネットワーク(2) 夢工房Ⅰ(2) 夢工房Ⅱ(1) 夢工房Ⅲ(1) 夢工房Ⅳ(1) 夢工房Ⅴ(1) マシンデザインⅠ(1) マシンデザインⅡ(1) 機械工学Ａ(2) 機械工学Ｂ(2) マシンエレメントⅠ(2) マシンエレメントⅡ(2) 材料強度学(2) 工業熱力学・演習(3) 形状創成学・演習(3) 流体工学(2) マシンデザインⅢ(1) マシンデザインⅣ(1) 構造・機能材料学(2) 材料変形学(2) ＣＡＤ工学(2) 光機能工学(2) 量子物理化学(2) ナノ技術(2) 電気電子回路Ａ・演習(3) 電気電子回路Ｂ・演習(3) 電子機械材料学(2) 自動制御・演習(3) アクチュエータ工学(2) 計測センサ工学(2) 自動機械(2) 環境アセスメント(2) パワーエレクトロニクス(2) 環境エネルギー工学(2) シミュレーション工学(2) マンマシンインターフェース(2) エレクトロニクスデザインⅠ(1) エレクトロニクスデザインⅡ(1) 情報システム設計(2) 信号とシステム(2) ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ工学(2) 電気磁気学Ｂ(2) 計測工学(2) 過渡現象(2) 計測装置学(2) 応用電子回路(2) 電子設計(2) ○制御工学Ａ(2) 制御工学Ｂ(2) 電子材料工学(2) メカトロニクス(2) 電磁気工学・演習(3) 医療福祉機器学(2) 生体計測工学(2) 医用電子工学(2) 生体代替工学(2) 医用・機械ｼｽﾃﾑ実験Ⅰ(2) 医用・機械ｼｽﾃﾑ実験Ⅱ(2) 情報処理Ｂ(2)※
職業指導	70200	○職業指導(4)

免許法上の区分	教職コード	生命理工学系配当科目
工業の関係科目	70100	機器分析(2)　水圏の環境(2)　気圏・地圏の環境(2)　生物圏の環境(2)　情報処理Ｂ(2)※
職業指導	70200	○職業指導(4)

※○科目は、必ず履修し習得すること。

(4) 教職に関する科目

教職に関する科目とは、教職課程を履修する学生のために特設した科目で、下記の科目が設置されています。中学校免許は下記の科目の中から、必修科目を含めて33単位、高校免許は最低25単位修得することになります。(教科教育法は、当該教科のみの修得)。　　(　) 内は単位数

免許法上の区分			単位数	教職コード	授業科目名	備考
	科目	各科目に含める必要な事項				
第一欄	教職の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容、進路選択に資する各種の機会の提供等	2	10100	教職入門(2)	中学・高校免許必修科目
第三欄	教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	6	10200	教育学概論Ｂ(2)	中学・高校免許必修科目
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			教育心理学概論(2)	中学・高校免許必修科目
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			教育学概論Ｃ(2)	中学・高校免許必修科目
第四欄	教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	中学校12 高校6	10300	教育方法・課程論(特別活動を含む)(2)	中学・高校免許必修科目
		特別活動の指導法				
		教育の方法及び技術				
		各教科の指導法			数学科教育法Ａ(2) 数学科教育法Ｂ(2) 数学科教育法Ｃ(2) 数学科教育法Ｄ(2) 理科教育法Ａ(2) 理科教育法Ｂ(2) 理科教育法Ｃ(2) 理科教育法Ｄ(2) 工業科教育法Ａ(2) 工業科教育法Ｂ(2) 情報科教育法Ａ(2) 情報科教育法Ｂ(2)	中学校免許は当該教科の教育法Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ必修、 高校免許は当該教科の教育法Ａ、Ｂ必修
		道徳の指導法			道徳教育論(2)	中学校免許のみ必修科目
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法	4	10400	生徒指導論(2)	中学・高校免許必修科目
		教育相談の理論及び方法			学校カウンセリング論(2)	中学・高校免許必修科目
第五欄	総合演習		2	10500	教職総合演習(2)	中学・高校免許必修科目
第六欄	教育実習		中学校7 高校5	10600	教育実践研究入門(2) 教育実践研究Ⅰ(中学)(5) 教育実践研究Ⅱ(高校)(3)	中学・高校免許必修科目 中学校免許のみ必修 高校免許のみ必修 ※中学・高校両免許取得希望者は「教育実践研究Ⅰ(中学)」を履修すること。

注) 中学校免許取得の場合は、120時間以上（３週間～４週間)、高校免許取得の場合は、60時間以上（２週間）の教育実習を行なう必要があります。

注) 　　は、卒業単位に算入されます。したがって履修上限50単位に入ります。

注) 備考欄の必修は、取得しようとする免許状に対してであり、卒業するための必要要件ではありません。

注)「道徳教育論」については高校免許のみの取得希望者が単位取得した場合は、「教科又は教職に関する科目」としてカウントされます。

(5) 介護等の体験

中学校の教員免許状を取得する場合に必要となります。介護等の体験は、満18歳を過ぎてから免許取得までの時期に省令等で指定する施設等で７日間の介護等の体験を行い、その体験を施設等の長に証明していただくことにより、小・中学校教諭一種免許状授与の要件となります。

この法律は平成10年度入学生より適用されています。本学においては、この介護等の体験の為に「**教職総合演習**」という科目を開講しています（前・後期開講）。介護等の体験希望者は、**介護等体験を行う年度以前に必ずこの科目を履修し、単位を取得する必要があります。**介護等の体験は、埼玉県教育委員会、埼玉県社会福祉協議会を通して養護学校、社会福祉施設へ申し込みを行います。その際に、賠償責任保険への加入が必要となります。手続き方法等については、教職課程説明会（４月上旬）、「教職総合演習」の授業中、介護等体験申込み説明会（11月下旬）、掲示等で行いますので、中学校の教員免許状の取得希望者は、必ず出席し、掲示に注意してください。

(6) 高等学校１種「工業」の教科について

高等学校１種「工業」の教員免許を取得するためには、本来は、それぞれ教科に関する科目、教職に関する科目の中の、定められた科目・単位を取得しなければなりませんが、現在のところ、免許法上の附則事項により、「教職に関する科目の単位については、教科に関する科目の同数の単位の取得をもってこれに替えることができます。従って、教職に関する科目の単位を全く修得しなくても、人間形成科目群・リテラシー科目群・英語科目群の中から文部科学省が定める科目（８単位：「日本国憲法２単位、体育Ⅰ、体育Ⅱ、体育Ⅲ、体育Ⅳ、体育Ⅴ、体育Ⅵから２単位、ドイツ語入門Ⅰ、ドイツ語入門Ⅱ、基礎ドイツ語Ⅰ、基礎ドイツ語Ⅱ、初級ドイツ語Ⅰ、初級ドイツ語Ⅱ、フランス語入門Ⅰ、フランス語入門Ⅱ、基礎フランス語、初級フランス語、中国語入門Ⅰ、中国語入門Ⅱ、基礎中国語Ⅰ、基礎中国語Ⅱ、初級中国語Ⅰ、初級中国語Ⅱ、英語ⅠA、英語ⅠB、英語ⅡA、英語ⅡB、英語ⅢA、英語ⅢB、英語ⅣA、英語ⅣB、英語ⅤA、英語ⅤBから２単位、情報処理Ａ２単位の修得は必要」）を修得し、かつ工業の教科に関する科目（「職業指導：4単位」を含む）を59単位以上修得することにより、工業の免許状が取得できます。（ただし、所属学系の工業の教科に関する科目が少ない場合は、前記の措置では59単位を充足しませんので、教職に関する科目か、他学系の工業の教科に関する科目を他学系履修して、単位を取得して下さい）

従ってこの措置で免許状の取得は可能ではありますが、教職に関する科目は教員となるた

めの基本的な科目であり、同じ免許状を取得するにしても、教職に関する科目を修得しているといないとでは、教職に就いた場合は勿論のこと、将来社会に出てからの役立ち方にも大きな差異がでてくることがあります。こうした点からも、教員を志望する者は、この措置に頼ることなく、少なくとも教職入門、教育学概論Ｂ、教育心理学概論、工業科教育法Ａ、工業科教育法Ｂについては修得しておくことが望まれます。

教職課程の履修手続

1．履修申告

所定の時期に履修申告を行ってください。申告の方法は、他の科目と同様です。

2．教職課程履修費の納入

教職課程の授業科目を履修するためには、通常の履修申告の他に**教職課程履修願**を提出し、所定の**履修費（10,000円：平成20年度実績）**を納入することが必要です。下記の教職科目の履修申告を行っていても、履修費を納入しない者は教職科目の履修を取り消します。

これらの手続は前期は4月下旬頃、後期は9月下旬頃行いますので、掲示に注意してください。

教育実践研究入門
教育実践研究Ⅰ（中学）
教育実践研究Ⅱ（高校）
道徳教育論
教育方法・課程論（特別活動を含む）
生徒指導論
学校カウンセリング論
数学科教育法Ａ
数学科教育法Ｂ
数学科教育法Ｃ
数学科教育法Ｄ
工業科教育法Ａ
工業科教育法Ｂ
理科教育法Ａ
理科教育法Ｂ
理科教育法Ｃ
理科教育法Ｄ
情報科教育法Ａ
情報科教育法Ｂ
情報と倫理
職業指導

◎在学中（学部・大学院）、1回の納入とする。
◎いずれの場合においても、一度納入したら履修費は返金しない。

3．教職課程履修券の交付

1、2の手続きを行った者に、「教職課程履修券」を交付します。この履修券は卒業時に免許状を受領する際に必要となります。また、在学中有効ですが、再発行はしませんので、大切に保管してください。

教　育　実　習

教育実習は、４年次生になって、中学校は120時間以上（３週間～４週間）、高等学校は60時間以上（２週間）以上にわたり、教育活動（教科指導および生徒指導等）に参加することによって行われます。高校１種「工業」の免許状を取得する場合は、前記したように必ずしも行う必要はありません。尚、教育実習期間中の欠席は認められませんので注意して下さい。

１．教育実習履修の条件

本学においては従来より、教育実習を行う場合、教育実習を大学として許可するかどうかの判定基準を設けています。判定基準に合格しないと教育実習が行えませんので注意して下さい。皆さんに適用される判定基準については、決まり次第、掲示しますが、参考に昨年度の判定基準を掲載しておきます。

参考：平成20年度２年次生・３年次生教育実習許可判定基準について

＜２年次学年末許可判定基準＞

３年次に進級できる者であり、尚且つ２年次学年末の取得単位数（教職・自由科目除く）が正規進級者72単位以上、留年者80単位以上とする。

＜３年次学年末許可判定基準＞

以下の教職に関する科目において５科目以上が合格点に達していて、３年次後期配当科目「教育実践研究入門」の単位を取得し、かつ４年次へ進級した者（２年次学年末許可判定に合格しても、３年次学年末で不合格の場合は教育実習は行えません）。

科　目　名	配当学年	配　当　期
教　職　入　門	全年次	前期
教　育　学　概　論　B	全年次	後期
教　育　心　理　学　概　論	２年次	前期
特　別　活　動　論	全年次	前期
道　徳　教　育　論	全年次	前期
生　徒　指　導　論	全年次	前期
教　育　学　概　論　C	全年次	後期
教　科　教　育　法　A　※	２年次	前期
教　職　総　合　演　習	全年次	前期・後期
教　育　課　程　論	全年次	後期
学　校　カ　ウ　ン　セ　リ　ン　グ　論	２年次	後期
教　育　方　法　論	全年次	後期

※各教科教育法Ａとは、数学科教育法Ａ、工業科教育法Ａ、理科教育法Ａ、情報科教育法Ａ。
ただし、教科教育法Ａは、複数教科の単位を取得しても１科目の合格扱いとなるので注意して下さい。

２．教育実習校

実習希望者は、２年次の後期（１月頃）の教育実習オリエンテーションに出席し、教務担当に「教育実習申込書」（用紙は教務担当にあり）を必ず提出して下さい（尚、留年した場合、再度提出する必要あり）。そして、２年次終了の春休みから自分の出身中学・高校、または縁故のある学校へ出向いて依頼をしてください。なお本学部では１．の基準により判定の上、一定のレベル以上にある者に限り、実習校への依頼を認めています。

依頼するにあたっては、本学で発行する「教育実習依頼状」等を実習校へ提出する必要がありますので、教育実習を許可された者は掲示しますので、教務担当まで来てください。

３．教育実習の手続き

①　**「教育実習願」**（用紙は教務担当にあり）を、教務担当へ提出すること。
②　教育実習費（10,000円：平成20年度実績）を納入すること。
③　実習の際、次の必要書類を整えて、実習校へ携行すること。
　イ）教育実習日誌（本学部所定のものを各自売店で購入すること）
　ロ）出勤簿用紙（教務担当で用意する）
　ハ）教育実習評価表用紙（教務担当で用意する）
　ニ）教育実習終了証明書用紙（教務担当で用意する）
④　実習が終了したならば、ただちに教育実習日誌を「教育実践研究Ⅰ（中学）、Ⅱ（高校）」の担当教員へ提出すること。

※　みなさんは実習が終了しましたら、必ず実習校へお礼状を送るようにして下さい。

免許状の申請・交付

教育職員免許状の授与権者は、その大学が所在する都道府県の教育委員会であり、本学部の場合は埼玉県の教育委員会となります。

申請方法には、大学が免許状の申請を一括して受付け、卒業式当日に免許状が交付される**一括申請**と、個人が直接教育委員会へ申請する**個人申請**があります。

1．一括申請

免許状取得を希望する 4 年次生（ただし、卒業見込で、かつ免許状取得見込の者に限る）に対し、10月中旬頃、一括申請説明会を行います。その際に配布する申請書類を記入し、本籍地の市区町村長が発行する「戸籍抄本」・介護等体験証明書等を添付して、期日までに教務担当へ提出してください。

教務担当ではこれをまとめて教育委員会へ一括して申請し、審査をうけ、卒業式当日学位記交付時に各自へ**教職課程履修券**と引きかえに教員免許状を交付します。

2．個人申請

卒業後、居住する都道府県の教育委員会へ、個人で申請して交付を受ける方法です。詳しい事は各教育委員会へ各自で問い合せて下さい。在学中適用となっていた免許法が何らかの改正等で変わる事があります。その場合は取得しなくてはならない科目が増えたりすることもありますので注意して下さい。

○　免許状取得見込証明書

教員採用試験を受験する際に必要な「教育職員免許状取得見込証明書」は、現在履修中の授業科目を修得見込として扱い、教務担当で発行します。

○　免許状取得証明書

免許状を取得した後、「教育職員免許状取得証明書」が必要となった場合は、交付を受けた教育委員会へ請求してください。

授業科目配当表

平成21年度　教職科目　1年次

科目群	分野	授業科目名	単位	学年	前前期	前後期	後前期	後後期	担当教員名及び備考	教職コード
教職課程科目	教職に関する専門科目	教職入門	2	全	1	1			前島康男	10100
		教育学概論B	2	全			1	1	前島康男	10200
		教育心理学概論	2	2	1	1				10200
		教育方法・課程論(特別活動を含む)	2	全	1	1			前原健二	10300
		教育実践研究入門	2	3			1	1	※1	10600
		教育実践研究Ⅰ(中学)	5	4	半期2.5コマ 集中				※1	10600
		教育実践研究Ⅱ(高校)	3	4	半期1.5コマ 集中				※2	10600
		道徳教育論	2	全	1	1			前島康男	10300
		生徒指導論	2	全	1	1			前島康男	10400
		教育学概論C	2	全			1	1	前原健二	10200
		数学科教育法A	2	2	1	1			※3	10300
		数学科教育法B	2	2			1	1	※3	10300
		数学科教育法C	2	3	1	1			※3	10300
		数学科教育法D	2	3			1	1	※3	10300
		情報科教育法A	2	3	1	1				10300
		情報科教育法B	2	3			1	1		10300
		工業科教育法A	2	3	1	1				10300
		工業科教育法B	2	3			1	1		10300
		理科教育法A	2	2	1	1			※3	10300
		理科教育法B	2	2			1	1	※3	10300
		理科教育法C	2	3	1	1			※3	10300
		理科教育法D	2	3			1	1	※3	10300
		教職総合演習	2	全	半期1コマ(但し前・後期開講)				°松本洋二	10500
		学校カウンセリング論	2	2			1	1		10400
教科に関する専門科目		情報と倫理	2	2			1	1		60100
		情報と職業入門	1	全	1				°中間正人・°佐藤達雄	60600
		情報と職業	2	全			1	1	°中間正人・°佐藤達雄 ※4	60600
		職業指導	4	4	1	1	1	1		70200

※1中学・高校免許用　　※2 高校免許用　　※3 高校免許は4単位・中学免許は8単位

※4理学系のみ2年次配当

第４章

学生生活について

学籍について

みなさんは入学により本学の学生としての身分を取得し、卒業によりその身分を失いますが、退学または除籍により身分を失う場合もあります。いったん入学した以上、卒業を望むのが当然ですが、どうしても退学せざるを得ない事情も生じますでしょうし、病気などのためやむなく休学しなければならない事態も起こってくるかもしれません。そのようなときには、学生厚生担当で次のような手続きを行ってください。（いずれも所定の願用紙を使用しなければなりません。）

1．休学、復学

病気、ケガその他やむを得ない理由により、３ヶ月以上の欠席を必要とする場合は、所定の「休学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、学生証を添えて届け出て許可を得なければなりません。病気・ケガによる場合は、医師の診断書が必要です。

休学できる期間は、許可を受けた学年限りです。なお、特別の事情があると認められた場合は再休学を許可することがあります。休学期間中の学費は免除されます。

休学の理由がなくなったときは、復学を願い出ることができます。ただし復学できるのは、原則として学期の始めです。

（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

2．退　　学

病気・ケガその他やむを得ない理由により、退学を希望する場合は、所定の「退学願」にその理由を記し、本人と保証人の連署・捺印の上、学生証を添えて届け出て許可を得なければなりません。病気、ケガによる場合は、医師の診断書が必要です。

（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

※学期進行中に休学または退学を届け出る場合は、その学期の学費が納入済みであることが必要です。

3．除　　籍

次のいずれかに該当する場合は除籍となります。

⑴　最長在学年数（８年）をこえたとき

⑵ 休学による場合を除き、同一学年に 3 回留年してなお進級できないとき
⑶ 学業成績が特に不良で改善の見込みがない者
⑷ 通算 3 年の休学期間をこえてなお復学しないとき
⑸ 正当な理由がなく、無届で、引き続き 3 ヶ月以上欠席したとき
⑹ 前期分学費を 7 月末日までに、後期分学費を 1 月末日までに納入しない者
（詳細は、学生厚生担当にて相談してください。）

4．転学部

転学部は学業上又は経済的な理由により願い出た場合、受け入れ先に定員の余裕があれば、選考のうえ、許可することがあります。
（転学部に関する手続きは、11月から12月末までに学生厚生担当にて相談してください。P201の「届け出・願い出」⑷ も参照してください。）
なお、転学部を希望する場合の出願資格は次の通りです。
第 2 年次編入
第 1 年次終了時に36単位以上修得見込みであること。
第 3 年次編入
第 2 年次終了時に60単位以上修得見込みであること。
また、希望する学部（学科）において、単位修得済みの指定科目がある場合は、それを取得済みであること（掲示を参照のこと）。

5．転学系（主コースの変更）

主コース、副コース分けの際に決定されます。

6．再 入 学

退学または除籍となって、将来、再入学を希望する場合は、定員に余裕あれば、選考のうえ、再入学することができます。
ただし、懲戒による退学、または前記除籍事由の⑴および⑵によって除籍となった場合は、再入学が認められません。
（詳細は、入試センター（神田キャンパス）にて相談してください。）

クラスについて

クラスは、みなさんの所属する学系・学年別に編成されています。各種ガイダンス、学部行事への参加および専門科目の授業などは、これらのクラスを単位として行われることになります。

クラスには、それぞれ数名のクラス担任がおり、クラスのアドバイザーとして、クラスで行う行事および各種手続き事項に関する指示や相談のほか、学習上の問題や個々の悩みなどの相談に応じています。

オフィス・アワー（Office Hour）

オフィス・アワーとは

オフィス（Office）は通常、勤め先や事務所と訳されますが、本来の意味は「仕事場」です。大学では、教員の仕事場、つまり「教員室」ということになります。教員室は、教員が研究などを行っている個室のことです。アワー（Hour）は時間のことです。直訳すると、オフィス・アワーは教員が「教員室にいる時間」ということになります。

オフィス・アワーは、教員が学生との面談のために教員室で待機している時間のことです。つまり、学生の皆さんは、オフィス・アワーには自由に教員に質問や相談をするために教員室を訪れることができます。

オフィス・アワーの利用方法

オフィス・アワーを利用して教員と話をするために特別な手続きは必要ではありません。オフィス・アワーに教員室をノックすれば良いだけです。各教員のオフィス・アワーは、オンライン・シラバスや教員室のドアなどに掲示されています。時間をチェックして、教員室で先生と話をしてみましょう。

オフィス・アワーは、全学年・全学系の学生に公開されています。オフィス・アワーは、自分が所属する学系以外の教員の話を聞く良い機会です。これからの技術者は専門を越えたより広い見識が必要です。他学系や共通教育群の先生方との接触はみなさんの知識の幅を広げることに役立ちます。

オフィス・アワー利用の心得

オフィス・アワーはあなた個人だけのものではありません。あなた以外の学生にも開かれたものです。オフィス・アワーは学生がだらだらと教員室で過ごすための時間ではありません。言いたいことや質問項目を事前にちゃんと準備しましょう。自分の主張を順序立てて簡潔に表現することは社会人として重要なことです。このようにして、オフィス・アワーを利用することによって、自己表現能力をみがくこともできます。

学費について

1．学費の納入方法

学費は、本学指定の「学費振込用紙」（記載金額が納入額）により銀行振込みにより本学に納入して下さい。

2．「学費振込用紙」の交付方法

新 1 年次生および転学部・編入学者は、入学手続き時に前期分の学費を納入済ですので、後期分の振込用紙を 7 月上旬に保証人宛に郵送します。

平成20年度以前入学の学生（学籍番号先頭 2 ケタが08以下の者）には、毎年 4 月上旬に保証人宛に 1 年分（前・後期の 2 枚）の振込用紙を郵送します。

それぞれ前もって保証人に周知しておいてください。

3．学費の納入期限

前期分は、 4 月末日

後期分は、10月末日

ただし、前期分に関しては、新 1 年次生・転学部・編入学者は入学時に納入済です。

4．学費の延納

特別な理由により学費を期限内に納入できず延納を希望するときには、その納入期限前に本学所定の「学費延納願」を提出しなければなりません。

「学費延納願」には、延納事由を具体的に記載してください。

なお、延納が許可される期間は、前期・後期ともに各納入期限日から起算して 2 ヵ月です。（詳細は学生厚生担当に相談してください。）

5．その他納入に関する注意

⑴　学費が所定の手続きを経ず未納の場合は、学則により除籍対象者となりますので、十分注意してください。

⑵　「学費振込用紙」は、コンピュータで印字されます。出力される保証人の氏名・住所等は、みなさんが入学手続きの際提出した書類にもとづいて処理をしていますので保証人の氏名・住所等の変更がある場合は、必ず変更届を学生厚生担当窓口に提出してください。

⑶　「学費振込用紙」を紛失した場合は、学生厚生担当にて学費振込用紙再交付の手続きをとってください。この場合は、保証人宛に送付することができませんので、みなさんから保証人へ「学費振込用紙」を渡してください。

⑷　学費等納入額内訳表は、４月に郵送する学費振込用紙に同封します。

奨学金制度

奨学金制度には、日本学生支援機構による奨学金をはじめ本学の奨学金、地方公共団体の奨学金、企業その他民間団体の奨学金があります。

奨学金の種類としては給付奨学金と貸与奨学金があります。給付奨学金は返還義務はありませんが、貸与奨学金は返還義務があります。

奨学金関係の事務取り扱いは学生厚生担当が行っています。募集をはじめ**連絡はすべて掲示にてお知らせしますので、掲示に注意してください。**

１．日本学生支援機構奨学金

学業、人物ともに優秀で経済的理由により修学困難な学生のうち、大学から推薦された学生について、日本学生支援機構で選考の上、次の奨学金が貸与されます。

日本学生支援機構奨学金の種類と募集について

● 「第１種」（無利子）

貸与期間	奨学生に採用された月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	４月上旬
貸与月額	自宅・・・54,000円　／　自宅外・・・64,000円（平成20年度）
資　　格	１年次生・・・・高校時評定平均値　　3.5以上 ２～４年次生・・クラス内学業成績順位　　上位1/3以内

● 「第２種」（有利子）

貸与期間	奨学生に採用された年度開始月から卒業予定の最短修業年限まで
募集時期	４月上旬
貸与月額	３万、５万、８万、１０万、１２万の中から選択（平成20年度）
資　　格	１年次生……高校時評価平均値　　平均水準以上 ２～４年次生…クラス内学業成績順位　　平均水準以上

平成20年度　　本学の日本学生支援機構奨学生数

種類／学部	第一種奨学金	第二種奨学金	合　　計
理　工　学　部	３５２	６４５	９９７

２．特別奨学金（本学独自）（給付）

故　桜井虎三郎氏の遺志により、桜井家からの寄付および法人からの積立金等を基金として設立された奨学金です。

資　　格	２～４年次生 学業成績・人物ともに優秀な者 学費支弁が困難な者
募集時期	６月
採用者数 平成20年度実績	理工学部４名（年額300,000円／人）

３．東京電機大学校友会・新電気奨学金（貸与）

東京電機大学校友会が昭和59年度より設立した制度で、家庭の経済的事情急変のために、学業継続が困難になった者に対して貸与される奨学金です。

資　　格	本学学生
貸与額	１回に納入する学費等の相当額 卒業後６ヶ月を経過した月から起算し５年間で返還（無利子）
募集時期	学費納入期限以前
採用者数 平成20年度実績	理工学部２名

4．各種団体による奨学金

・地方自治体、その他民間育英団体の奨学金は各種あります。内容の詳細については、募集の依頼があり次第掲示します。
・大学を通さずに募集する自治体等もあります。直接各団体へ問い合わせ、応募の方法等を確認してください。

5．学生救済奨学金

教育の機会均等の精神に基づき学業達成に意欲的でありながら、経済的事由が急変したために修学半ばにして断念せざるを得ない学生に対して奨学金を貸与し、学業継続の機会を与えるために新設されました。

資　　格	大学院、学部に在籍する学生であって、経済的事由により学費の支弁が困難であると認められる者、かつ貸与することにより学業継続が可能である者（卒業年次生優先）
応募・採用時期	原則として４月・９月（ただし、各校における在籍期間中１回）
奨　学　金　額	1回に納入する学費等の相当額とし、奨学金は学費に充当する。(無利子)
返　　還	卒業後５年間（繰り上げ返還は可）
採　用　者　数 平成20年度実績	理工学部４名

6．学生支援奨学金

海外英語短期研修への参加およびパーソナルコンピュータ・製図機器等の教育装置の購入など自己資質向上を目的とする学生に対して、支援奨学金を貸与することにより、学生の学業・学生生活を支援するために新設されました。

資　　格	大学院、学部に在籍する学生（ただし、休学中、留学中、所定修業年限を超えて在籍している者を除く）
応募・採用時期	原則として４月・９月（ただし、各校における在籍期間中１回）
奨　学　金　額	30万円を上限とする（無利子）
返　還　期　間	卒業後５年間（繰り上げ返還は可）
採　用　者　数 平成20年度実績	理工学部７名

平成20年度に募集依頼のあった各種奨学金の一例

奨学金名称	種別	月　額	応　募　資　格	出願時期
〈財団系〉				
あしなが育英会	貸与	一般　40,000 特別　50,000	保護者が病気・災害等で死亡又は後遺障害のために働けなくなった家族の子女	５月上旬
電通育英奨学会	貸与	月額　30,000	①人物・学業ともに優秀な学生 ②学業成績５段階評価で3.5以上の者	４月上旬
関　育　英　会	貸与	月額　30,000	人物・学業とも優秀な学部２年生	５月上旬
中村積善会	貸与	月額　64,000	人物・学業とも優秀な学部生	４月下旬
交通遺児育英会	貸与	月額　40,000 50,000 60,000 から選択	保護者等が交通事故で死亡したり、著しい後遺障害で働けないため、教育費に困っている家庭の子女	５月下旬
ツツミ奨学財団	給付	月額　40,000	人物・学業とも優秀な学部１年生	５月上旬
守谷育英会	給付	月額　25,000	東京都内に居住し人物・学業とも優秀な学生	４月中旬
高山国際教育財団	給付	月額　50,000	人物・学業とも優秀な学部１年生	４月中旬
実吉奨学会	貸与	自宅　30,000 自宅外　36,000	人物・学業ともに優秀な学生	４月中旬

〔注〕１．月額は平成20年度のもの
２．隔年で募集される場合や出願時期が年度によって異なる場合があるので、必ず掲示で確認すること。

教育ローン（銀行提携）

本学では、保証人の皆様方の経済的負担の軽減策の一環として、各銀行と教育ローンの提携をしています。この教育ローンは、在学生の保証人を対象に、ご父母から学費等借入れの申し出があった場合に本学が銀行へローンの取り次ぎをするもので、各銀行共に通常の利率よりも低い金利でローンが返済できるものとなっています。また、銀行によっては在学中は元金の返済据置（利息のみ返済）が可能であったり、ご父母だけでなく、学生自身が利用できるなど様々な特徴を備えています。

詳細ならびに手続きについては、学生厚生担当に相談してください。

連絡・呼出し

みなさんへの連絡、呼出しその他の伝達事項は、すべて掲示により指示します。

連絡事項の見落としがないように、**毎日掲示板を確認**するよう心がけてください。

電話での問合わせ、又は呼出し、連絡などは行いません。掲示の期間は原則として１週間ですが、いったん掲示した事項は周知したものとして扱います。掲示を見なかったからということは、理由になりませんから十分に注意してください。

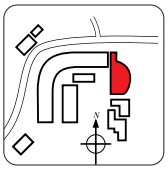
掲示の色分け

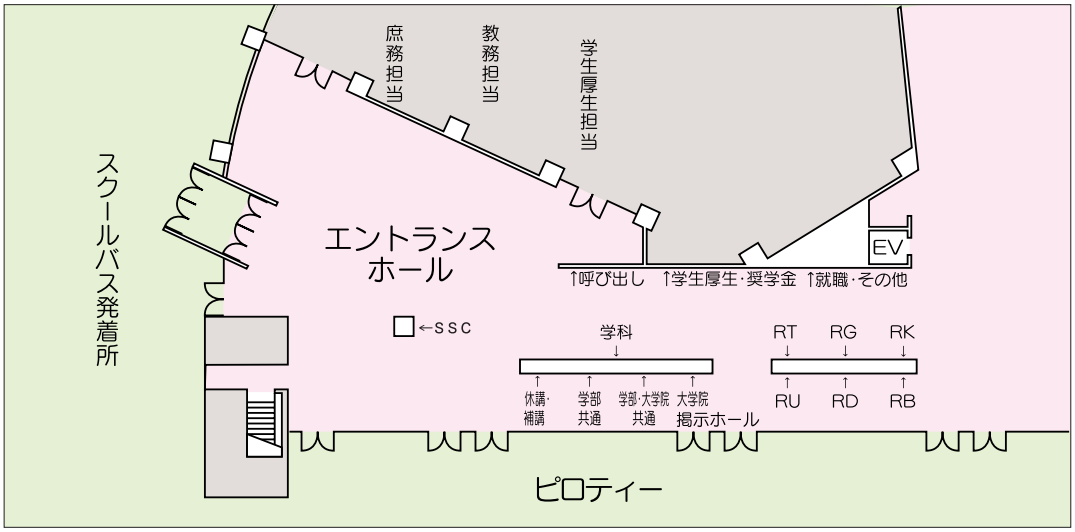
教務担当からの掲示は、所属する各学系各学科及び大学院で色分けされています。

各学系・各学科・大学院の色は右のとおりです。この他履修・試験・その他必要に応じ、移動掲示板にて掲示することがあります。

RU 白茶	RB 銀ねずみ	RD りんどう
RT 淡グリーン	RG 黄	RK びわ
学部共通 白	学科 みずいろ	大学院 白

全体図





※教職・履修・試験関係の掲示は、移動掲示板等で示します。

証明書の交付

1．学生厚生担当が交付する証明書

〔証明書自動発行機より発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
1	在学証明書（和文）	200
2	健康診断証明書	200
3	学生旅客運賃割引証（学割）	無料

〔窓口で発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
1	学生証再発行	2,000
2	在学証明書（英文）	700
3	通学証明書	無料

(1) 学生証再発行

もし、学生証を紛失または汚損したときは、証明書自動発行機より申請書を購入し、捺印の上学生厚生担当窓口に提出してください。申請翌日に再発行されます。

(2) 在学証明書（和文、英文）

和文在学証明書は証明書自動発行機で交付します。英文在学証明書は学生厚生担当窓口に申請して下さい。３日後に発行します。

(3) 健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。（学内定期健康診断を受診した学生のみ）

(4) 学生旅客運賃割引証（学割）

乗車区間が片道100キロを超える時に利用できます。証明書自動発行機で交付します（無料）。

＊非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）には、学割は発行されません。

個人用：１日２枚まで、年間合計１０枚まで発行します。正課教育等で使用する場合には、年間発行枚数にカウントしない場合がありますので、学生厚生担当窓口へ

問い合わせてください。

団体用：大学に届出のある課外活動（クラブ等）や研究室などの団体で利用する場合に限り交付します。課外活動の場合には、学外活動願に「団体学割申込書」を添えて学生厚生担当窓口へ提出してください。

なお、団体用は年間使用枚数にカウントしません。

◎学生団体運賃割引き制度について

上記の他に、学生１５名以上が教職員に引率されて同一行程で旅行する場合、学生団体として普通運賃が割引になります。なお、申し込みの際に、団体旅行申込書に大学の証明が必要になります。

(5) 通学証明書

通学定期券は、殆どの場合学生証の提示で購入出来ますが、バス・都電など、通学証明書を必要とする場合があります。

その場合には、通学証明書交付願に必要事項を記入し、申し込んでください。即時交付されます（無料）。

通学区間は、学校最寄り駅と居住地最寄り駅との最短経路になります。

＊非正規生（研究員・研究生・科目等履修生など）は、通学定期券を購入することはできません。

2．教務担当が交付する証明書

〔証明書自動発行機より発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
1	卒業見込証明書	200
2	成績証明書	300
3	成績通知書	期間内は無料 期間外は 200
4	履修登録確認表	無　料
5	仮受験票	1,000

〔窓口で発行するもの〕

No.	証明書の種類	在　学　生 手数料（円）
6	人物調査書	500
7	教職免許状取得見込証明書	500
8	大学院進学用調査書（他大学院宛）	500
9	外国語文卒業見込証明書	1,200
10	外国語文成績証明書	1,500
11	科目等履修生在籍証明書	200
12	科目等履修生単位取得証明書	1,000
13	JABEE認定修了証明書	500

(1) 卒業見込証明書（２００円）

卒業見込みであるという内容です。４年次生に対してのみ発行いたします。

（※３年次以上の在学での卒業を希望する学生に対しては、卒業を希望する学期の初めから発行いたします。）

(2) 成績証明書（３００円）

修得した科目、或いは履修中の科目が表記されており、単位数や評価が記載されています。

(3) 成績通知書（２００円）

学期末・学年末の成績を本人へ通知するものです。

(4) 履修登録確認表（無料）

通常、履修申告終了後、４月下旬と５月中旬、10月中旬ごろに履修登録が認められた結果を通知します。

(5) 仮受験票（１,０００円）

試験を受ける際は学生証が必要ですが、学生証を忘れた者は、証明書自動発行機より受けて下さい。当日１～６時限の仮受験票が紙で出力されますので、該当の時限分を切り取って使用してください。なお、仮受験票は当日のみ有効ですので、受験しない時限の仮受験票は各自で処分してください。

(6) 人物調査書（５００円・１０日後）

学生の人物を客観的に示したものです。

原則として、学生に身近な卒業研究指導教員又は、クラス担当教員などが記入します。申請が出てから教員へ作成依頼をしますので、日にちには余裕をもって申請してください。

(7) 教職免許状取得見込証明書（５００円・２日後）

４年次生の教職課程履修者で免許状取得に必要な単位を取得予定の者へ発行します。

(8) 大学院進学用調査書（５００円・１０日後）

本学の大学院へ提出する場合は必要ありませんが、他大学院を受験する場合に必要となります。人物調査書と同じく卒業研究指導教員へ依頼する項目がありますので、申請は早めにするようにしてください。

(9) 外国語文卒業見込証明書（１,２００円・７日後）

(10) 外国語文成績証明書（１,５００円・７日後）

(11) 科目等履修生在籍証明書（２００円・２日後）

(12) 科目等履修生単位取得証明書（１,０００円・２日後）

(13) JABEE認定修了証明書（５００円・２日後）

※証明書自動発行機について

○証明書自動発行機の利用時間は９：00から21：00までです。（但し事務室内にある発行機は窓口受付時間内のみ利用可能）

○在学生は学生証が無いと利用出来ません。

○窓口で発行する証明書であっても、証明書自動発行機にて手数料を支払い、必要事項を記入する申請書を取り出す必要があります。

卒業後の各種証明書の申請についてはＰ238参照

届け出・願い出

1．学生厚生担当に提出する書類

(1) 退学願

一身上の都合などにより退学を願い出る場合は、所定の退学願に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

退学後は再入学が困難（再入学ができない場合もあります）ですので、慎重に検討してください。

(2) 休学願

長期間にわたる欠席を必要とする場合は、所定の休学願に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

(3) 復学願

休学の事由が消滅し、復学を願い出る場合は、所定の復学願に必要事項を記入し、所定の期限までに提出してください。

(4) 転学部願

理工学部から工学部第二部への転学部は、希望する理由が主に経済的による場合であって、工学部第二部の学科の定員に余裕がある場合に限り、選考の上、許可することがあります。未来科学部、情報環境学部への転学部を希望する場合も含め、10月下旬までに学生厚生担当窓口に申し出てください。詳細については事前に学生厚生担当窓口でご相談ください。

(5) 転学系願

二年次から学年が進行していく過程で真にやむを得ない理由で、理工学部内の他の学系へ異動したい場合は、他の学系の定員に余裕がある場合に限り、選考のうえ許可することがあります。事前に学生厚生担当窓口にてご相談ください。

(6) 住所変更届

現住所・保証人住所・帰省先・電話番号（携帯電話番号含む）等に変更があった場合は、速やかに住所変更届に必要事項を記入し、学生証を添えて提出してください。

(7) 本籍地変更届

本籍地を変更した場合は、本籍地変更届に必要事項を記入し、提出してください。

(8) 改姓届

改姓した場合は、改姓届に必要事項を記入・捺印し、学生証および戸籍抄本を添えて提出してください。

(9) 保証人変更届

保証人を変更した場合は、保証人変更届に必要事項を記入・捺印し、提出してください。

(10) 教室その他の学内施設使用願

課外活動で教室を使用する場合には、学内集会願、その他の学内諸施設を使用する場合には、施設使用願に必要事項を記入し、願い出て承認を受けてください。

(11) 厚生施設の使用申込書

第 5 章の厚生施設を参照してください。

(12) 車両通学願

前期・後期に実施する安全運転講習会を受講し、指定期間内に車両通学願にその他の必要書類を添えて提出してください。

(13) 学外活動願

学外で課外活動やボランティア活動等を行う場合、および学内で対外試合等を行う場合には学外活動願を提出してください。

2．教務担当に提出する書類

(1) 履修申告に関する書類

各学年の学期のはじめに 1 年間の履修計画をたて、履修申告要領に従って授業科目の履修申告をする必要があります。

申告にあたっては、「履修申告」（Ｐ48参照）および年度はじめの履修申告に関する指示を参照して下さい。

なお、**申告をしていない授業科目は受講できず、試験を受ける事はもとより単位の認定もされません。**

(2) 欠席届

病気、ケガ、その他のやむを得ない理由で授業を欠席した場合は、教務担当窓口にある欠席届に必要事項を記入の上、診断書等欠席を証明出来る物を添えて提出してください。

なお、教務担当窓口で取り扱う欠席期間は連続して７日以上とします。

６日以内の欠席は、直接授業科目担当教員に提出して下さい。

(3) 追試験願

学期末試験の受験資格があり、かつ、やむを得ない理由により学期末試験を受験できなかった学生は、追試験願に診断書等欠席を証明出来る物を添えて、教務担当に提出して下さい。（Ｐ61参照）

(4) 閉館時間中の正課授業実施願

卒業研究などで、２１時以降学内にいる場合には、「閉館時間中の正課授業実施願」に必要事項を記入の上、指導教員・学科長の認印を受けて、**実施当日の窓口時間内**に提出して下さい。数日分まとめての申請は受付けません。出席する学生名はその都度確認の上、記載するようにして下さい。

学　生　相　談

1．学生相談室

みなさんが大学生活を送るうえで出会うさまざまな困難な問題や、わからない事柄などについて相談に応じ、明るく充実した学生生活を送れるよう援助・協力するために、学生相談室が開設されています。

大学生活を送る間には、学習上や生活上に、大小さまざまな問題が起きてきます。そのような場合、いつも自分ひとりで問題を解決できるとは限りません。堂々めぐりの中でひとりで考えこまず思いきって第三者と話し合うことが時には必要ではないでしょうか。友人・先輩、あるいは両親・教師その他身近な人々と話し合うことによって解決の糸口がみつかることもあるでしょう。学生相談室もその相談相手のひとりとして考えてみてください。何か問題が起きた時、相談したいことがある時、なんとなく気持ちがモヤモヤしている時、無性にだれかと話したくなった時等々、いつでも遠慮なく「学生相談室」に立ち寄ってください。学生相談室はみなさんの学生生活にとって直接の利害関係をもたない機関であり、相談内容の秘密はかたく守られています。

相談は、個人でもグループでも受け付けます。相談員は、カウンセリングの専門家ですが、必要があれば他の部課の職員や先生、あるいは学外の諸機関等を紹介します。みなさんがより豊かな学生生活を送れるよう窓口を開いています。気軽に利用してください。

2．相談内容

- 学業について
- 将来の職業・進路について
- 人生・思想などについて
- 対人関係について
- 心身の健康について
- 性格について
- 家庭の事情などについて
- その他生活全般について

3．相談室の場所・開室曜日・時間

本館１階にあります。

開室曜日・時間は、学生厚生担当に常備されているパンフレットを参照して下さい。

健　康　管　理

衣・食・住は私達が生活する上において欠くことのできないものです。これと同様に大切なのは健康であるということです。健康であるということは学生生活を送るうえでもとても大切なことです。本学でもみなさんの健康管理について十分配慮していますが、まずはみなさん自身が日頃から健康の保持に努めることが大切です。

更に、色々な感染症は本人だけの影響にとどまらず、周囲に及ぼす影響も大きく、大学閉鎖に繋がることもあります。ぜひご自身の母子手帳を確認し、事前に抗体価などを調べ必要時はワクチン接種しておくことをお勧めいたします。

1．健康相談室

授業中・課外活動中等に学内で急に気分が悪くなったり、思わぬケガをしたときは、すぐに健康相談室に来室してください。健康相談室では、校医の指導のもとに看護師がそれぞれの応急処置にあたっています。

健康相談室では身長や体重、血圧や体脂肪率を自動的に測定する健康管理システムを設置しています。学生の皆さんがこのシステムを定期的に利用することにより健康状態のバロメーターにすることができます。

そのほか、ここでは平常の健康相談にも応じていますので、何となく身体に異常を感じるといった症状のときなども、遠慮なく来室してください。

2．相談室の場所・開室時間

本館１階にあります。

開室時間は

月曜～土曜　９：30～16：30

（ただし、11：30～12：30は休憩時間）

なお、急患は随時受付けます。

健康保険証について

急病等で医療機関を受診する際は必ず必要となります。個人管理で携帯するか手元に保管しておいてください。なお自宅外通学となる方は遠隔地被保険者証を交付することをお勧めしております。保護者の加入している健康保険組合等に申請してください。

3．定期健康診断

毎年 4 月に学校保健法及び感染症法に基づき、全学生を対象に定期健康診断を実施しております。奨学金申請やクラブ活動、就職活動などで健康診断証明書が必要な場合は、受診記録に基づき作成しております。特にクラブ関係の団体活動を行う予定の学生はその団体全員の受診が必要となります。忘れずに毎年受診してください。

定期健康診断の実施項目は次のとおりです。

1．胸部レントゲン間接撮影

2．身体計測

（身長、体重、日常視力）

3．内科診察（検尿、血圧測定）

定期健康診断の日程は、事前に学生厚生担当掲示板にて詳細をお知らせします。再検査（精密検査）の詳細も同様に掲示連絡致します。

学内の定期健康診断を受診せず、学外で健康診断を受診した場合は、その証明書を健康相談室窓口に提出してください。その場合本学より健康診断証明書の交付はできません。

4．その他の健康診断について

クラブ活動（強化合宿・公式試合等参加）のために健康診断を受けたい場合は所定の健康診断受診申込書に記入の上、 2 週間前に健康相談室に申し込んでください。

ただし、この健康診断では、レントゲン撮影などができないので、定期健康診断を受けなかった学生に対しては、診断による活動許可ができない場合があります。

5．健康診断証明書

証明書自動発行機で交付します。指定用紙での発行を希望する場合は 2 週間前までに健康相談室へご相談ください。

ハラスメント防止宣言

STOP! HARASSMENT

東京電機大学大学院理工学研究科・理工学部は、個人の人格と人権が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような、自由な学問と教育の場であることを目指しています。そのためには、全ての学生・教職員等が、鳩山キャンパスにおいて教育・研究・労働、その他の諸活動を、心理的にも肉体的にも安全で快適な環境の中で行なわれなければなりません。

しかしながら、残念なことに大学キャンパスといえども、一般社会が持つ様々な問題が生じています。特に、人間関係において、相手を対等な関係と見ることなく、差別したり、打撃を与えたり、性的対象と見て心理的・身体的に傷つけたり、圧迫したりすることは絶対にあってはならないことです。

鳩山キャンパスでは、このような場合の相談窓口として相談員制度を設け、ハラスメントの防止に取り組むことを宣言します。

理工学研究科　委員長
理工学部　学部長

ハラスメント相談員

ここには掲載されていませんが、ハラスメント相談員というのを設けています。詳細につきましては、別途パンフレットを作っていますので、そちらで確認して下さい。

ハラスメントにあったら



セクシュアル・ハラスメントもしくはアカデミック・ハラスメントで少しでも悩んでいるなら、一人で悩まずに気軽に相談員に話してください。一緒に話し合っていきましょう。

■相談員は、あなたの立場に立って相談にのります。

- 相談員は、あなたの名誉やプライバシーを固く守ります。
- 相談員の対応に納得がいかない場合は、別の相談員に相談することもできます。
- 匿名での相談、友人の付き添い、または代理での相談も受け付けます。

■問題の解決に向けて

- 相談員は、あなたの話を聞き、必要に応じて助言等を行います。
- 相談員だけでは解決できない場合、キャンパス対策委員会に調停を申し立てることもできます。
- キャンパス対策委員会は、キャンパス調査委員会を設置し、問題を適切かつ迅速に解決するよう努めます。
- いずれの場合も、あなたの意思に沿わない解決はしません。

ハラスメントの

本ガイドラインは、鳩山キャンパスに関わるすべての者が個人として尊重され、セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等のない環境の中で就学・就労できる権利を保障することを目的とします。学生、大学院生、外国人留学生のほか、研究生、科目等履修生など、本学で教育を受けるすべての者が対象となります。教職員は、常勤・非常勤を問わず、本学に在職するすべての教職員を対象としています。

Q セクシュアル・ハラスメントとは?

セクシュアル・ハラスメントとは、相手方の**意に反する言動**であり、本人が意図するとせざるとにかかわらず、相手方によって性的な言動であると受けとめられ、それによって、相手方を**不快**にし、差別し、脅威や屈辱感あるいは利益、不利益を与え、また相手方がそこで学び、働く環境を悪化させることをいいます。

Q 意に反する言動とは?

(1) 言葉の問題として、性的な冗談を言ったり、からかったり、執拗に食事やデートに誘ったりすること。あるいは性的なことを話題として取り上げたり、相手方に性的経験などを聞いたりすること

(2) 視覚的な問題として、相手の体をじろじろ見ることや、ヌードポスターなどを配布したり、掲示しておくこと

(3) 行動として、相手方の身体に不必要に接近したり触れることや、性的関係を強要すること

Q 不快さの基準とは?

そのような言動をされた相手方の判断によります。

Q 相手方がそこで学び、働く環境を悪化させるとは?

(1) 職務上の地位を利用して、あるいは教育上、研究上、雇用上の利益の代償あるいは対価として、性的要求をする場合や、逆に陰に陽に不利益的な取扱いをすることをもって性的要求をすること

(2) はっきりとした不利益は伴わないまでも、職務の遂行や勉学の遂行を妨げる等の、職場あるいは勉学環境を悪化させること

防止と対策に関するガイドライン

セクシュアル・ハラスメントは、男性から女性に対するものだけでなく、女性から男性に対するもの、同性間のものも対象になります。そして、いわゆる上下関係にある者の間だけでなく、同僚・同級生の間、あるいは学生から教職員に対してなされる場合も含まれます。



Q アカデミック・ハラスメントとは?

アカデミック・ハラスメントも重大な人権侵害です。それは就学の場で「指導」、「教育」または「研究」の名を借りて、嫌がらせや差別をしたり、人格を傷つけることです。

例えば、次のような行為があります。

(1) 相手によって差別したり、必要以上に厳しく指導したり、指導を放棄したりする。
(2) 「お前はやっぱり駄目だ」と全てを否定する言い方を繰り返す。
(3) 指導の際に「大学をやめろ」とか、「卒業させない」と何度も言う。

アカデミック・ハラスメントも、教職員と学生の間だけではなく、ゼミやクラブの先輩と後輩、同級生同士であっても許されません。

その他に、「一気のみの強要」や「ストーカー的行為」も人権侵害となります。

Q ハラスメントにあったら?

(1) ハラスメントに少しでも悩んでいたら、相談員に相談して下さい。
(2) 相談は、面談だけでなく、電話、手紙、電子メールなどでも受け付けます。代理の方でも受け付けます。
(3) 相談員は、あなたの立場に立って、問題の解決にあたります。
(4) 相談だけでは解決できない場合、調停を申し立てることができます。

Q 調停とは?

(1) 調停は、キャンパス調査委員会が当事者から話しを聞き、当事者間の意思の疎通を支援し、問題の解決にあたるものです。
(2) キャンパス調査委員会は、キャンパス対策委員会構成員、ハラスメント相談員の若干名から構成されます。
(3) キャンパス調査委員会は、相談に対して助言をおこなったり、申し立ての内容を相手方に伝えたりします。また、必要があると判断したときは当事者間の話し合いの場を設定します。
(4) 調停の合意は当事者が決めることであり、キャンパス調査委員会が強制的に合意をとりつけることはありません。

Q 調停では解決しない場合は?

(1) 学部長(または研究科委員長)のもとのキャンパス対策委員会が事実調査を行い、対応策を策定し、学長に提案します。
(2) 学長は、すみやかに解決に必要な措置をとります。

当事者の権利とプライバシーの保護

(1) 相談、調停のすべての段階において、また手続き終了後においても、当事者の名誉とプライバシーは保護されます。
(2) 申し立て人に対しては、大学として、心理的ケアを含む可能な限り最善の救済措置が講じられるよう努力します。
(3) 調停の過程において、相手方とされる者には、疑義の内容を知り、また疑義に反論する権利が保障されています。

ハラスメント防止のために

(1) キャンパス対策委員会は、ハラスメント防止のためのパンフレットやポスターを作成し、理解を深めるように努めます。
(2) 定期的にハラスメントの相談受付件数、調停件数ならびに対応結果等を、当事者のプライバシーに配慮しながら公表します。

(鳩山キャンパスの学生等に関するハラスメント防止等に関するガイドラインより抜粋)

学習サポートセンター

1．学習サポートセンター（通称：SSC）

みなさんが大学の授業をうける上では、高校までに学んできた数学、物理、化学、英語が基礎となり重要になってきます。

学習サポートセンターでは上記科目の基礎の復習、見直し、勉強を進める上での相談など学習の支援をおこなっています。

学習サポートセンターの指導スタッフは、数学、物理、化学については高校で長年授業を行ってきたベテランの先生を中心に、英語については英語教育専門の先生が、みなさんの希望により個別、グループのどちらでも対応をしています。（※予約も可能です）

基礎科目をもう一度勉強し直したい。勉強方法など相談したい。そう思った時は、親切丁寧に対応しますので、いつでも気軽に利用してください。

2．対応科目

数学、物理、化学、英語

3．場所、時間、曜日

数学、物理、化学、英語　　12号館１階　127室（ＳＳＣ）

開室曜日・時間は、本館１階にある掲示板のポスターを参照してください。



第５章

各種施設の利用

総合メディアセンター

総合メディアセンターでは、学生と教職員の研究と学習のために、各学科の教育計画や研究計画に沿った設備・機器、情報資源、ネットワークを整備して、各種メディアを有効に活用できるようさまざまなサービスを提供しています。

総合メディアセンターの計算機サービスと図書サービスは、鳩山キャンパス（理工学部）はもとより神田キャンパス（工学部、未来科学部）と千葉ニュータウンキャンパス（情報環境学部）でも1つの利用者ID（学籍番号）とパスワードにより利用することができます。利用者情報を一元管理することにより、総合メディアセンターの各システムは、認証の共通化を実現しています。

パスワードについて

パスワードは、利用者ＩＤが他人に利用されることを防ぐ役目をする鍵です。個人データとシステムを守るために、パスワードを時々変更するようにしてください。

・初期パスワードは必ず変更してください。
・他人に推測されやすいパスワードに変更しないでください。
・６～８文字の英数字を混在させたパスワードにしてください。

＜ 利用上の注意事項 ＞

・総合メディアセンター施設内での飲食や喫煙は厳禁です。清潔で静粛な環境を保つよう心掛けてください。
・大きな声での話し合いは周りの迷惑になるため厳禁です。守れない場合は、総合メディアセンター施設から退出してもらいます。
・携帯電話やPHSの使用は周りの迷惑となるため禁止します。どうしても使用する時は総合メディアセンター施設から退出して使用してください。
・機器類や図書資料は共有財産です。らくがきや破損等をしないよう、大切に使用してください。
・ユーザー端末、図書検索端末、プリンタ等の機器類に異常が発生した場合や、不測の事態が起きた場合は、直ちに総合メディアセンター員か係員に連絡してください。
・利用者IDの貸借や他人の利用者IDを使った利用は絶対に行わないでください。第三者にパスワードが知られることがあり、不正利用に流用されたり、法令に触れる事件に巻き込まれる危険性があります。
・印刷を実行するときは無駄のないように十分に検討を行った上で出力してください。また、テキスト（手引き書、マニュアル等）の印刷や課題に無関係な出力やコピー機代わりの使用は厳禁です。
・個人情報の載った出力結果等、自分の出力したものは必ず持ち帰ってください。
・ユーザー端末やサーバ等のシステム運用および利用上の変更については、総合メディアセンター内の掲示板とホームページでお知らせします。常に確認するようにしてください。
・総合メディアセンター施設内では、スタッフの指示に従って利用してください。

＜ 総合メディアセンターからのお知らせ ＞

ホームページまたは総合メディアセンターの掲示板にて、お知らせします。
総合メディアセンター・鳩山サテライトセンターのホームページ
URL・・・ http://www.ccs.dendai.ac.jp/mrcl/

＜ 図書サービス＞

◇　利用にあたって

図書資料の館内利用と館外貸出は、すべて学生証によって行います。常に携帯して提示を求められたら身分を証明できるようにしてください。

◇　開館時間及び休館日

通常開館	月～金	土
神田キャンパス	8:45～21:45	8:45～21:45
鳩山キャンパス	2 階　9:00～20:10 3 階　10:00～20:10	2 階　9:00～18:00 3 階　10:00～17:00
千葉ニュータウンキャンパス	9:30～19:00	9:30～16:00

短縮開館	月～金	土
神田キャンパス	8:45～18:15	8:45～16:20
鳩山キャンパス	10:00～16:00	10:00～16:00
千葉ニュータウンキャンパス	10:00～16:00	10:00～16:00

※　休館日は、日曜日、祝祭日、創立記念日（9月11日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に法人や総合メディアセンターが特に必要と認めた日

◇　入退館

所持品を持って入館できます。ただし、飲食物の持込みは禁止します。出入口のゲートを通って入退館してください。

貸出手続きをしていない図書資料の持ち出しをすると、ブックディテクション装置が大きな警告音を発して出口を遮断しますので注意してください。

不正行為をした者は、学則によって処分されます。

（注）積層書庫は、所持品の持込みを禁止しています。入庫の際には貴重品以外の荷物を棚に預けてください。

◇　図書資料の館外貸出

図書資料の貸出にあたっては、借用する図書資料に学生証を添えて、カウンターへ出してください。バーコードラベルの添付されている図書資料は、自動貸出装置を利用して貸出手続きができます。ただし、以下の図書資料は館外貸出しませんので注意してください。

- 禁帯出の赤ラベルが貼ってある図書資料
- 学位論文
- 貴重書
- 雑誌
- 視聴覚資料

貸出冊数および貸出期間は以下の通りです。

	冊数	貸出期間
学部１年生～３年生	5 冊	2 週間
学部４年生、大学院生	10冊	1 ヶ月

◇　図書資料の返却

図書資料は、定められた期日までに返却してください。他キャンパスで借りた図書資料はどのキャンパスでも返却可能です。期限日は図書サービスホームページ上から利用者IDとパスワードを入力するだけで簡単に確認することができます。特に、卒業・退学・除籍・転学・休学などの場合は、貸出残余期間を問わず即時返却してください。

返却延滞者は貸出停止となりますので、注意してください。

なお、図書資料を紛失・破損した場合は、弁償していただきます。

※　休館日・開館時間外の図書資料の返却は、ブックポストを利用してください。
（各サテライトセンター　正面出入口に設置されています）

◇　各種サービス

○　レファレンスサービス

図書検索や文献検索等図書サービスの利用についての質問・相談は、カウンターで受け付けます。

○　相互サービス

必要な図書資料が本学に所蔵されていない場合は、カウンターの係員に相談してください。もし、探している図書資料が他機関の図書館等に所蔵されている場合は、文献の複写依頼や利用の紹介を行います。

○　図書資料検索端末

総合メディアセンターで所蔵している図書資料は、図書検索端末または、図書サービスホームページ（URL･･･http://lib.mrcl.dendai.ac.jp/）から検索することができます。

○　コピーサービス（有料）

総合メディアセンターで所蔵している図書資料を複写したい場合は3階閲覧室で複写することができます。**著作権に関しては利用者が全責任を負うものとします。**

私物やノート類の複写をすることはできません。

図書館においては、次に掲げる場合には、図書館資料を複製することができる。
・図書館等の利用者の求めに応じ、調査研究のために公表された著作物の一部分の複製物を一人につき一部提供する場合。（著作権法第31条より抜粋）

○　購入希望図書資料について

購入希望の図書資料がありましたら、図書サービスホームページから必要事項を記入し申込を行ってください。申込内容確認後、購入決定の可否をホームページでご確認ください。

○　図書資料の予約について

貸出中の図書資料は図書サービスホームページ上から予約することができます。

	所属キャンパス	他キャンパス
検索結果の状態	貸出中	貸出中・配架済
貸出可能日	メール発送後	
取り置き期間	メール発送後　7 日間	

○　メールによるお知らせ

図書サービスに関してメールによるお知らせを行っています。

メールはすべて大学のメールサーバ宛になります。メールは常に確認してください。

メールサービスの内容を下記に記載します。下記以外の場合にもサービスについて連絡することがあります。

・予約資料の到着

資料予約申込受付の連絡（他キャンパス資料に対しての予約）

予約資料到着の連絡（自キャンパス資料に対しての予約）

・返却期限日のお知らせ

返却期限日の 1 日前の連絡

・延滞資料のお知らせ

返却期限日以降 5 日目から10日ごとに連絡

・文献複写到着のお知らせ

複写依頼を行った文献到着の連絡

・購入希望図書のお知らせ

購入希望図書の購入却下、貸出可能の連絡

◇　ご意見・ご質問

総合メディアセンター　図書サービスへのご意見、ご質問等は下記のメールアドレスにて受け付けています。

E-Mail：h-library@mrcl.dendai.ac.jp



3 階閲覧室



2 階閲覧室



ABCIII自動貸出装置

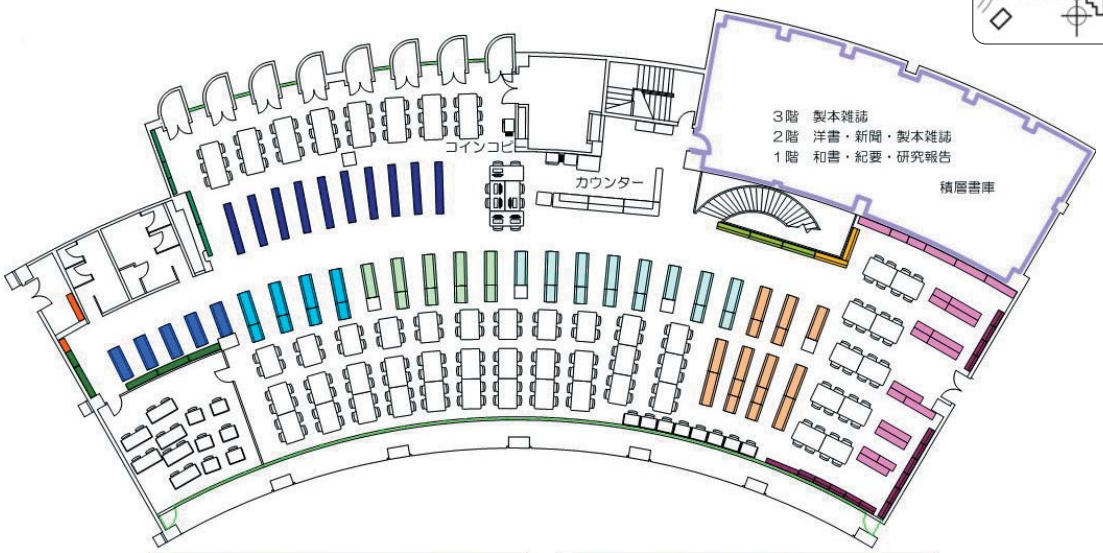


図書検索端末

全体図



1号館3階1301室　図書閲覧室



1	参考図書	000～999	辞書・辞典類
2	一般図書	400～	数学系
3		450～	科学系
4		500～	建設系
5		520～	環境・建設系
6		532～779	通信・コンピュータ 産業・芸術
7	新着本	当月に購入した図書	
8	受験書	資格試験等の参考資料	

9	JIS	日本規格　JIS
10	大型本	地図・百科事典・写真・美術書
11	配架場所	書庫　請求番号　000～999
		書庫1階　和書・紀要・研究報告
		書庫2階　洋書・新聞・製本雑誌
		書庫3階　製本雑誌
12	文庫・新書	
13	雑誌	
14	地図	

1号館2階1201室　図書閲覧室



＜ 計算機サービス ＞

◇　利用にあたって

・各実習室・パソコン教室等の設備は教育研究を目的として設置しています。目的以外の利用（ゲームやクラブ活動等）は認めていません。
・総合メディアセンターおよび法令に定める不正利用を行わないよう注意してください。
・濡れた傘の持込みは禁止です。傘立てを利用してください。
・第１・２実習室は土足厳禁です。靴は必ず下駄箱に入れてください。
・各実習室及びパソコン教室での飲食は厳禁です。（ガム・飴等も含む）
飲食物を所持している場合は部屋に入る前に鞄等にしまってから入室してください。
・端末にログインしたまま、または荷物を置いたまま長時間席を離れることはセキュリティ上大変危険です。また、席取り行為も他の利用者に迷惑になるため禁止です。席を離れる時は、必ず端末の電源を切り、荷物を持って離れるようにしてください。

◇　利用方法

○　ユーザー端末（第1・2・3実習室、パソコン教室）の利用

・利用者ID（学籍番号）とパスワードを入力することで利用することができます。
・利用者IDとパスワードは、他のキャンパス（神田・千葉）でも共通して利用することができます。
・ パスワード変更は毎年年度初めの変更期間中に最低１回は行わなければなりません。パスワードの変更方法は、実習室の掲示板かホームページにある操作手順に従ってください。
この期間中にパスワードの変更がない場合は、利用意思がないものとして使用できなくなります。変更期間については、総合メディアセンター内の掲示及びホームページでお知らせします。年度初め（４月）の時期は特に注意して確認するようにしてください。

◇　利用時間

○　ユーザー端末利用・窓口受付時間

<table>
<tr><th></th><th>月～金</th><th>土</th><th>休業期間</th></tr>
<tr><td colspan="4">ユーザ端末利用</td></tr>
<tr><td>・第１実習室</td><td rowspan="2">9：30～20：00</td><td rowspan="4">9：30～16：50</td><td rowspan="4">9：30～16：50</td></tr>
<tr><td>・第２実習室</td></tr>
<tr><td>・第３実習室</td><td rowspan="2">9：30～19：20</td></tr>
<tr><td>・パソコン教室</td></tr>
<tr><td colspan="4">窓口受付</td></tr>
<tr><td>・スタッフ室</td><td>9：30～20：00</td><td>9：30～16：50</td><td>9：30～16：50</td></tr>
</table>

※　システム作業等により利用時間が変更になることがあります。
※　休館日は、日曜日、祝祭日、創立記念日（9月11日）、夏季・冬季および春季の休業中の一定期間、その他に法人や総合メディアセンターが特に必要と認めた日。

◇　ネットワーク利用

インターネットを経由して学外のコンピューターへ接続することは、学外の他機関の通信用コンピューターや専用回線などを利用することになります。快適な利用をするためにも、無駄な接続や

データ転送をしないよう心掛けて利用してください。総合メディアセンターでは快適な利用ができるように、接続状況をモニタリングすることがあります。

ネットワークの利用に際し次のような行為は行わないでください。

- 不正確なメールアドレスへの送信
- 大量なデータの送受信
- いたずらメールの送信
- 著作権を侵害するような取り扱い
- 特定の個人や団体への誹謗中傷
- 大学の名誉を著しく傷つける行為
- Ｐ２Ｐタイプのファイル共有プログラムの利用
- ネットワーク対戦ゲーム等の利用

◇　メール・システム

メール・システムが使用できるようにインフラを提供しています。学生は、入学と同時にメールアドレス（学籍番号@ms.dendai.ac.jp）が付与されます。これにより各種サービスのお知らせが個人宛に送られてきます。

Webメール・システム（https://webmail.mrcl.dendai.ac.jp）

ブラウザを利用したメール閲覧システムを提供しています。自宅、外出先から、Internet Explorerなどのブラウザが利用できる環境があればメールの送受信が可能です。上記のURLにアクセスすれば、その場でメールの送受信ができます。

メールの使用は、マナーを守りコミュニケーションツールとして活用してください。

◇　情報コンセント

情報コンセントが利用可能です。LANポート付パソコンとケーブルを持参すれば利用できます。利用に際してユーザー認証が必要となります。使用方法や利用時間はお知らせまたは、ホームページをご覧ください。

	設置場所
10号館	1階　情報端末コーナー 2階　第1・2メディア教室、情報端末コーナー
12号館	1階　アトリウム 情報端末コーナー 12124・12221・12321教室
2号館	1階　総合メディアセンター 第2実習室前廊下 第1実習室

◇　無線LAN

無線ＬＡＮが利用可能です。利用に際してユーザー認証が必要となります。使用方法や利用時間はお知らせまたは、ホームページをご覧ください。

また、無線ＬＡＮカードは3階図書閲覧室カウンターで貸出を行っています。貸出期間は当日一日です。必ず当日中に3階図書閲覧室カウンターに返却してください。返却されないときは、返却延滞となり図書の貸出等が停止となります。

	設置場所
1 号館	2 階　総合メディアセンター図書閲覧室、中庭
3 号館	3210、3220、3230、3240、3311教室
4 号館	1 階　喫茶コーナー 2 階　学生食堂
6 号館	6101、6102、6103、6104教室
9 号館	2 階　学生ラウンジ
10号館	1 階　エントランスホール、中庭 0206、0207、0208、0209、0210、0211教室 0212、0213教室
12号館	1 階　アトリウム 12226、12227、12228、12229、12325、12326教室 12327、12328、12329教室

◇　プリンティング・システム

総合メディアセンター設置のプリンタとプロッターの出力管理システムです。

ユーザ端末パソコンで印刷処理をしてプリンタまたは、プロッターと対にあるプリンターコンソール端末を使用して必要な分を出力することができます。

印刷出力に「ポイント制」をとっています。毎年度、初期ポイント値が与えられ、印刷の種類に応じたポイントを消費します。ポイントがなくなると印刷出力ができなくなります。

初期ポイント超過分については自己負担（有料）になります。

- ポイント超過分が本人負担であるからといって、何を印刷しても良いということではありません。注意してください。
- ポイント制は、利用者が印刷した枚数を認識して、森林資源の節約に意識してもらうことを目的にしています。初期ポイントを使い切ることをせず、大切に使ってください。
- 初期ポイントは、授業や実験の課題等に使用した過去の利用実績から、年度中に作業が中断しない上位値を設定しています。ポイントを使い切る利用は想定していません。
- テキスト（手引き書、マニュアル等）の印刷や課題に無関係な出力やコピー機代わりの使用は厳禁です。

◇　プログラム相談

プログラム相談とは、機器の操作方法、課題の処理方法やプログラム技法、さらにはプログラム実行時のエラー等の問題について相談員の意見や解決方法を求めるために設けられています。プログラム相談は、大学院生のプログラム相談員が、第1～3実習室、パソコン教室のプログラム相談窓口で授業期間中に下記の時間で行っています。

	月～金	土	休業期間
相談時間	12:45 ～ 14:15	12:00 ～ 13:30	－
（1日2回）	16:20 ～ 17:50	15:30 ～ 17:00	－

◇　リモートデスクトップサービス

リモートデスクトップとは、総合メディアセンターが提供する研究環境を学内ＬＡＮに接続されているWindowsＰＣ環境、例えば研究室ＰＣからリモートデスクトップ接続にて利用できる研究ユーザ（４年生以上）向けサービスです。

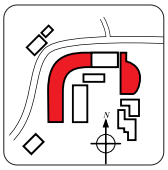
サービス名称	台数	サービス時間	
閉館時間帯限定 リモートサービス	16台	平日	20：30～翌朝８：00
		土曜	17：30～翌朝８：00
		休日	08：00～翌朝８：00
24時間帯限定 リモートサービス	13台	終日	

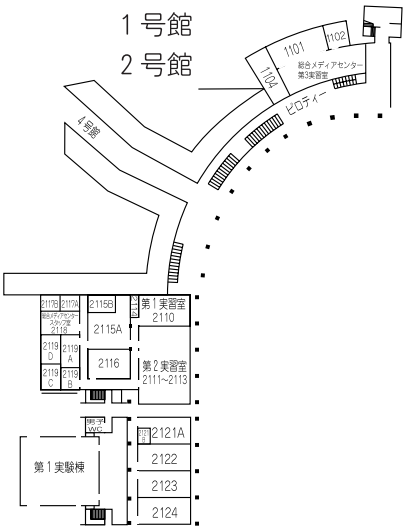
詳細は、http://sunixsvr01.term.usmc.dendai.ac.jp/RemoteService.html

◇　利用できる施設・設備

教室名	装　　置　　名	台数	備　　考
第1実習室	パソコン	16台	＜2号館1階　2110室＞ 授業及び研究システム利用者専用の実習室です。 ※カラープロッタを利用する場合は申告が必要です。利用の際は総合メディアセンタースタッフ室までお越しください。 ※学内LANを通して研究室からも利用できます。
	パソコン（マルチメディア端末）	1台	
	プリンタ（カラー）	1台	
	カラープロッタ（大判プリンタ）	2台	
	スキャナ	1台	
	情報コンセント	4式	
第2実習室 第2実習室A	パソコン	22台	＜2号館1階　2111～2113室＞ 授業用のパソコンを設置しています。 ※授業時以外は自由に利用できます。 ※第2実習室　ＡＢＣは、可動式パーティションにより個別の部屋に仕切ることがあります。
	パソコン（マルチメディア端末）	1台	
	プリンタ（カラー）	1台	
	教材掲示装置	1式	
	スキャナ	1台	
第2実習室 第2実習室B	パソコン	22台	
	パソコン（スキャナー用）	1台	
	プリンタ（カラー）	1台	
	教材掲示装置	1式	
	スキャナ	1台	
第2実習室 第2実習室C	パソコン	22台	
	パソコン（マルチメディア端末）	1台	
	プリンタ（カラー）	1台	
	モノクロプロッタ（大判プリンタ）	1台	
	教材掲示装置	1式	
	スキャナ	1台	
第3実習室	パソコン	80台	＜1号館1階　1101室＞ 授業用と同一のパソコンを設置しています。 ※開館中は常時利用できます。
	パソコン（マルチメディア端末）	2台	
	プリンタ（カラー）	4台	
	スキャナ	2台	
パソコン教室	パソコン	180台	＜10号館（本館）1階パソコン教室＞ 授業用のパソコンを設置しています。 ※授業時以外は自由に利用できます。
	パソコン（マルチメディア端末）	2台	
	プリンタ（カラー）	6台	
	教材掲示装置	1式	
	スキャナ	2台	

全体図







第3実習室



第1・2実習室



パソコン教室



プリンティング・システム

10号館（本館）



厚 生 施 設

高坂「麓」

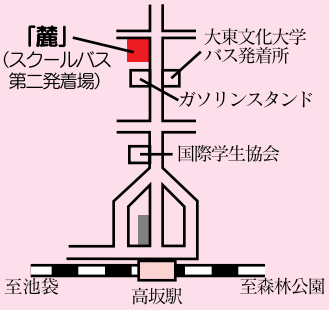
所 在 地　埼玉県東松山市元宿2－25－13

ＴＥＬ　049－334－3425

開設期間　水～土曜日（除く学生休業期間）

座 席 数　ホール20名　和室40名

交　　通　東武東上線高坂駅より徒歩４分





スポーツ施設

各種スポーツ施設は、理工学部の学生や教職員の健康や体力増進のために、体育館やグラウンドをはじめ多くの方の好みに合ったスポーツが実施できるようにつくられた施設です。効率よく、気持ちよく利用するために以下の利用方法に従って下さい。

1．利用の仕方

体育の授業以外の時間帯に使用できます。利用可能な施設と時間帯を確認して利用計画を立て、学生厚生担当において所定の手続きをし、スポーツ施設利用許可証を受けてください。学科授業・行事、自治会公認団体の試合等がある場合は、そちらが優先となります。

利用申込みは、自治会公認団体は使用日の14日前、一般学生は 7 日前から可能です。テニスコートの一般学生の利用は 1 人 1 回 3 時間までです。長期休業の際の申込みについては、別途掲示等でお知らせします。

テニスコート、多目的コートは許可証を理工学部受付に提示し、鍵を借りて利用してください。

2．スポーツ用具の貸出と返却

個人で用具を用意することが望ましいが、用意できない場合には貸出しを行っています。

用具の借用は、個人使用の場合は体育館 1 階フロアーの貸出しコーナーで、氏名や用具名など必要事項を貸出帳に記入のうえ、借用してください。返却時には貸出帳に返却時間を記入し、所定の場所に整理して返却してください。

ゼミや学系など団体で借用する場合は所定の借用書（体育館教員控え室に有）に使用目的、個数、借用期日、責任者の氏名を記入して捺印をして、体育館教員控え室に提出してください。

なお、不注意による用具の紛失や破損をした場合には、弁償していただきます。また、用具の消耗や紛失が激しい場合は用具の貸出は中止します。できるだけ多くの方が利用できるように大事に取り扱ってください。

3．施設利用の心得

・体育館　　土足は禁止します。下足室に靴をおき、館内は館内用シューズか備え付けのスリッパを履いてください。スリッパでの運動は禁止します。

・テニスコート　テニスシューズかそれに類する物を履いてください。使用後はネットをゆるめておくこと。

・グラウンド　雨天時や雨天後などグラウンド状態不良の場合は、原則的に使用を禁止します。

・更衣室　　自由に使用できますが、ロッカーを私物化しないようにしてください。またロッカーには、貴重品や高価な物は絶対に置かず各自で携帯すること。ロッカーを含め体育館内に放置された私物は定期的に撤去します。

・ごみは必ず持ち帰るかごみ箱に入れてください。

・施設使用後は備えつけのモップやレーキ（サッカーシュート練習板裏・体育館地下倉庫に有り）で必ず整備を行ってください。

・盗難防止のため、貴重品等の管理には各自で十分に注意するようにして下さい。

第 6 章

将来への道標

就　　職

みなさんは、卒業した後の進路として大多数の学生が就職を希望するでしょうが、満足な就職先を得るためには、日頃から就職に対する意識を持つことが大切です。例えば、何のために就職するのか、世の中にどんな仕事があって、どんな仕事がしたいのか、どんな仕事ができるのか等をよく理解しておくことです。

また、経済・産業・政治・文化・国際問題に関心を持って、広く世間を眺めるとともに、それらの情報を自分の就職活動に結びつけるように努めていきましょう。

１．就職指導

理工学部における就職指導体制については、就職活動全般について協議し、実行の中心となる組織として学部長を長とする「就職協議会」が活動しており、企業等への推薦については学系長・就職担当教員が中心となり、必要に応じて「就職選考会議」を開催し、そこで求人側条件と求職学生の適性・能力を慎重に検討のうえ推薦者を決定していくことになっています。なお、理工学部の就職関係支援及び事務については、学生厚生担当で行っています。

就職を希望するみなさんに対しては適宜、「就職ガイダンス」を開催します。その主な内容は、就職に対する心構えや、就職についての考え方、求人動向とその対策、就職登録や斡旋のための諸手続、就職活動への助言等です。

その他、就職に関する情報を提供すると共に、ＳＰＩ２模擬テストや各種講座等を実施していますので積極的に参加して下さい。また、就職資料室（本館１階事務室内）では、就職に関する資料を収集し閲覧に供しています。なお、就職についての相談には常時応じています。

２．会社研究のために

参考文献

企業の事業内容・歴史・業績などを知るための主な参考文献としては、会社四季報・東洋経済（東洋経済新報社）、日経ビジネス（日経ＢＰ社）、週刊ダイヤモンド（ダイヤモンド社）、就職ジャーナル（リクルート）等の他、各種就職情報誌があります。

はじめに

経済や技術進歩の動きは日本の中だけで解決できる問題ではなく、世界を相手にする時代になっています。今は実感がないかもしれませんが、社会に出てグローバルに仕事をする時がやってくるでしょう。大学生活の中で何を学び、何を経験していくかは、皆さんの将来にとって非常に大切な事です。

私達（学生支援センター、理工学部事務部学生厚生担当、情報環境学部事務部就職担当）は、皆さんの就職までの活動を側面から支援するスタッフです。皆さんに「生きがいのある将来」を目指し、充実した学生生活を送っていただきたいと思います。

大学の環境・施設をフルに活用し、疑問・質問が生じた場合は遠慮なく、先生方や私達スタッフに相談してください。

目標のある生活

大学生活を始めるにあたって、大学に進学した理由や学部、学科を選択したきっかけをもう一度自分なりに振り返ってみましょう。大学入学という目標を達成し気が抜けてしまった人もいるかもしれませんが、ここで次の目標をたててみましょう。目標にチャレンジする・何か趣味に熱中する・友人と沢山遊ぶ…　今しかできないことを楽しんで経験することは、就職という「点」だけではなく「人生」という大きな流れにおいて非常に大切な事です。

キャリアを考える

キャリア career とは「経歴」「職業」の意で「人生」をもさす言葉です。キャリアは社会へ出たあと、会社で異動があるとき、自分で事業を始めるときなどに深く考える事になります。

将来の自分は「どんな人になっていたいか」を思い描き、それに近づくための方法を考えてみましょう。目標に向けて今をどう過ごし、何をしておくべきかをしっかりと考えることが大切です。

皆さんの今後のステップとして、まず 1・2 年のうちから今後の「人生」を考え、 3・4 年で専門性を身につけていくことが挙げられます。

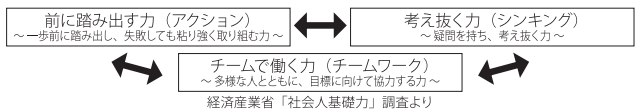
大学生活のヒント

ここで少し就職について考えてみましょう。企業は「採用したい人物像」として下記を挙げています。これらは大学でやっておくべきことのヒントとなります。

採用したい人物像　キーワード

・コミュニケーション能力があり、自分の考えを主張できる人（対人能力、思考力）
・学生時代に目的を持って行動し、成果を出した人（積極性）
・基礎学力をしっかりと身に付けている人（基礎学力、専門知識）
・ストレスに強く、環境変化に柔軟に対応できる人（適応力）

社会人基礎力の3つの能力



経済産業省「社会人基礎力」調査より

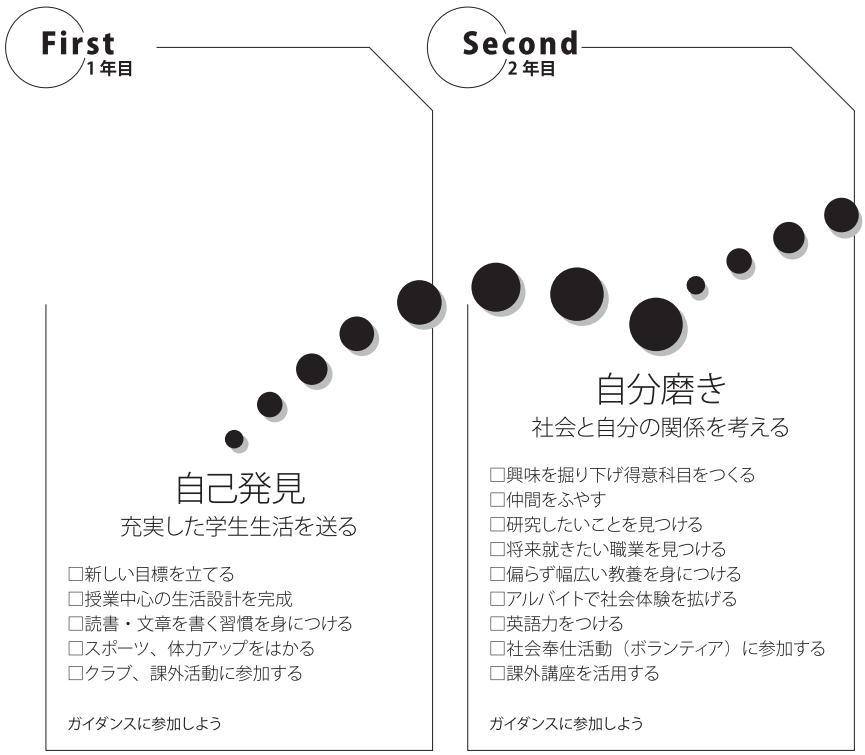
身につけよう！

今後の人生で直面する問題には**「一つの決まった答え」**というものはありません。

社会では、**「自分で考え、行動を起こす能力」**が求められています。

セルフチェックシート

それぞれの年次の目標とガイドを掲げます。
できた項目の□にチェックを入れよう。



取っておくと役立つ資格、目標としたい検定試験例

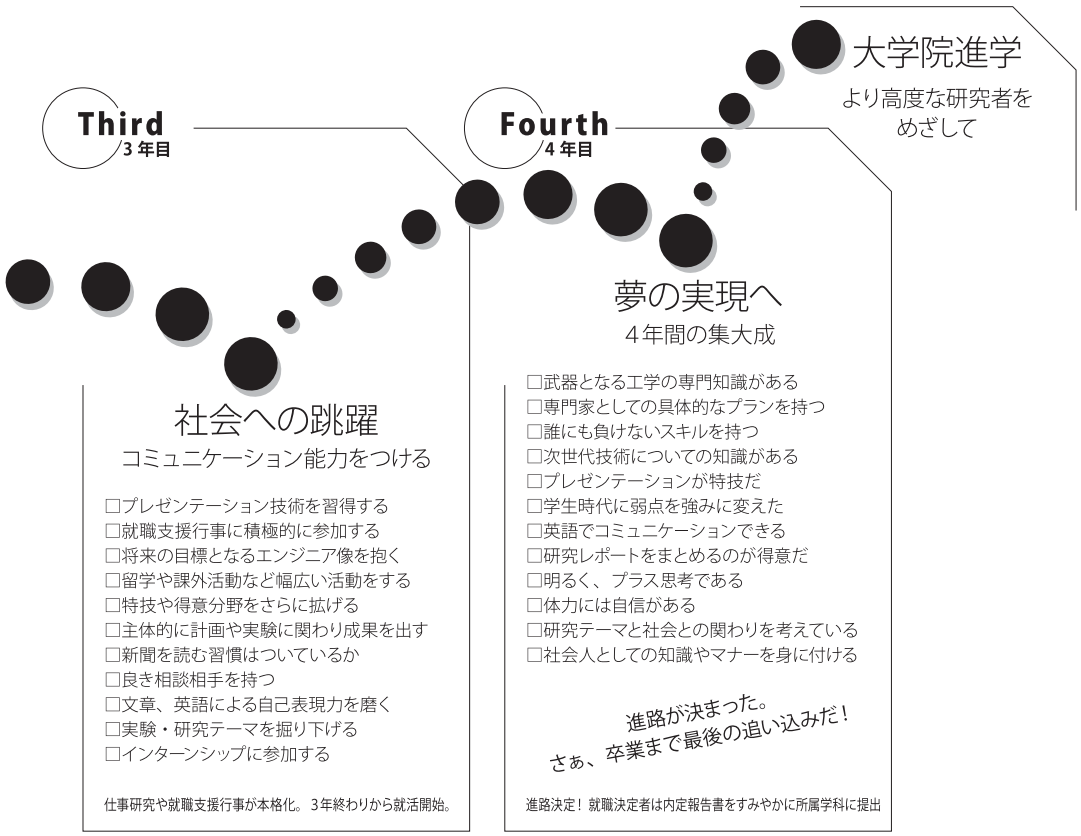
電気・通信

電気工事士／電気主任技術者／電気通信主任技術者／電気工事施工管理技士／工事担当者／家電製品エンジニア／無線従事者（陸上特殊無線技士・海上特殊無線技士など）／ラジオ・音響技能検定

情　報

パーソナルコンピュータ利用技術認定／初級・上級システムアドミニストレータ／基本情報技術者／ソフトウェア開発技術者／データベース検索技術者／システム監査技術者／情報セキュリティアドミニストレータ／システムアナリスト／プロジェクトマネージャー／アプリケーションエンジニア／テクニカルエンジニア（ネットワーク・データベース・システム管理・エンベデットシステム）／ ORACLE MASTER ／ MCP ／ MOT ／ CCNA ／ Java ／ CompTIA ／ CIW

4年間の設計図を描いていこう！



機械・デザイン

自動車整備士／航空整備士／機械設計技術者／ガス溶接作業主任者／画像処理検定／消防整備士／冷凍空調技士／CAD利用技術者／CADトレース技能審査／DTPエキスパート／マルチメディア検定／CG検定

建築・土木

建築士／土木施工管理技術士／管工事施工管理技術士／測量士（補）／設備士／インテリアコーディネーター／インテリアプランナー／福祉住環境コーディネーター検定／宅地建物取引主任者／土地家屋調査士

その他

技術士（補）／FE／EIT／PE／危険物取扱者／ボイラー技士／公害防止管理者／エックス線作業主任者／エネルギー管理士／TOEIC／TOEFL／工業英語検定

ＴＤＵ求人情報（企業検索システム）

本学に求人依頼のあった企業情報をデータベース化し、インターネット上で閲覧できるシステムです。鳩山キャンパス就職資料室にあるパソコンからアクセスできるのはもちろんのこと、各コンピュータ教室や各研究室等、学外のパソコンからアクセスが可能です。

ホームページアドレスは

http://www.dendai.ac.jp/shushoku/for_student/index.html です。

（学外からのアクセスにはパスワードが必要です。認証用のIDとパスワードは総合メディアセンターを利用するときに使用するものと同じです。）

鳩山キャンパス就職資料室

鳩山キャンパス就職資料室は本館１階事務室内にあり、求人票、会社資料等がファイルされています。個々の会社案内等の資料は、本学に求人の依頼があった企業のものが主体ですが、参考資料その他も取り揃えてあります。また、卒業生が書き残していった就職試験問題報告書綴も閲覧出来ますので大いに活用しましょう。

開室時間　　月～金　９：30～17：00

土　　９：30～13：00

神田キャンパス就職資料室（学生支援センター・６号館１階）

東京電機大学神田キャンパスにある就職担当部署の学生支援センターを利用することも可能です。鳩山キャンパスと同じ就職関連資料の閲覧や就職について相談することが出来ます。就職活動で都内に行った際は、学生支援センターに立ち寄ってみましょう。

開室時間　　月～金　９：00～21：40

土　　９：00～16：30

３．公立学校教員志望者

公立学校の教員採用試験は、教職教養・一般教養・専門教科・面接等で構成されています。この試験で留意しなければならないことは、合格イコール採用ではないことです。ここでの合格とは「公立学校教員採用候補者名簿」に成績順に登載されるということであり、採用は名簿登載者の中から諸条件を考慮して決定されます。したがって、高位で合格することが、採用を確実にする第一の方策となります。

ところで、この試験を高位で突破するということについてですが、教員養成の専門大学ではない一般の大学の場合はカリキュラムそのものが教員養成を直接に目的としていないため、不十分となることはやむを得ません。したがって試験の内容にあわせて、自分で補充、努力していかねばなりませんが、このための参考書、雑誌、問題集等は、一般の書店で容易に手に入りますし、通信講座や公開模試を行うところもありますので、これらを利用するとよいでしょう。

教職につこうとする人は早い段階から問題意識をもって取り組み、しかも、単に知識のみをつめこむだけではなく、教師としての真の情熱をも併わせもつ人材たるべく努力してほしいものです。なお、最近は全国的に教員採用試験の倍率が高いので、その動向については、十分留意することが必要です。

4．公務員志望者

国家公務員・地方公務員を問わず、公務員になる為には言うまでもないことですが、公務員試験に合格しなければなりません。

現在、国や多くの地方自治体では、行政運営の効率化を図るため、行政組織の統廃合、経費の削減、定員増の抑制などの、いわゆる行政改革を推進中であります。このため、新規学卒者の採用人員の増加はまず見込めないものと考えなくてはなりません。また、昨今の社会情勢から新規学卒者の公務員志望数は、増加しており、競争倍率は相当厳しいものになることが予想されます。これに加えて、試験問題の難度が高いことは、従来から定評のあるところです。したがって公務員試験の難関を突破するためには、相当の心構えを持ち、試験までの短い期間を受験準備のために有効に活用するために、入念な対策を立てて、万全の態勢で試験に臨むことが必要です。

本学では公務員志望者を対象とする公務員試験対策講座や模擬試験を実施しますので、各自が充分な学習や対策を講じるとともに、これらの行事に積極的に参加をして実力を養うことを心がけてください。

公務員試験

資格	取　得　条　件	取扱い機関
国家公務員（Ⅰ種）	21才以上33才未満なら男女・学歴を問わず受験できるが、大学卒業段階の知識・技術及びその応用能力を必要とする程度の学力が必要。（高級官僚コース）	人事院 各事務局
国家公務員（Ⅱ種）	21才以上29才未満なら男女・学歴を問わず受験できるが、大卒程度の学力が必要。（中堅幹部コース）	人事院 各事務局
地方公務員（上級）	学歴等に制限なく各都道府県、市町村職員の採用試験を受験できる。	各地方人事委員会 事務局
特別区職員（Ⅰ種）	採用予定年３月31日現在22才以上28才未満なら男女・学歴を問わず受験できる。	特別区人事委員会 事務局

5．各種学内講座

本学では、学生の資格取得又は公務員試験合格を支援するために各種講座を開いています。平成20年度募集した講座は以下の通りです。平成21年度の日程につきましては、別途掲示致します。

（１）２級建築士講座

期　間：10月～翌年７月まで

費　用：31,500円

授業数：105分授業１日１コマ、計15日間15コマ

（学内講座は10月～12月。翌年は自宅ＷＥＢ学習と専門学校通学）

（２）公務員試験紹介イベント

期　間：６月～10月まで

費　用：無料

授業数：90分授業１日２コマ、計７日間14コマ

6．学内 TOEIC 試験

TOEIC とは、アジアやヨーロッパなど世界50カ国で実施されている英語能力試験です。ビジネスにおける英語のコミュニケーション能力を測る試験としての特徴があり、多くの企業が採用時にTOEIC試験の得点を重要視しています。在学中に企業にとって認められる得点を得ることが就職に有利であることは言うまでもありません。従いまして、本学では、格安で受験できる学内 TOEIC 試験の受験を薦めています。

〇平成21年度学内TOEICについて

☆平成21年度の日程実施要領については、学生厚生担当掲示板にて連絡しますので見落とさないように注意して下さい。

申し込みは証明書自動発行機で行います。期間に申し込めなかった場合はいかなる理由においても受け付けられませんので注意して下さい。

進　　学

大学院理工学研究科には下表に示す、修士課程４専攻が設置されています。また修士課程修了者は、先端科学技術研究科博士課程（後期）に進むことができます。

修士課程の入学試験は、学内推薦入学（６月頃）、一般公募（７月頃・２月頃）、飛び入学入試（２月頃）、３年次以上の在学での卒業生に対する入試（９月頃・３月頃）に分けて行われます。

なお、学内推薦入学の場合は、３年次終了時点の成績が選考基準となっています。

また、他大学大学院の募集要項が学生厚生担当で保管されていますので、それらをよく見て進路を決定してください。現在では、研究所やそれに類する研究機関を持っている企業も多く、大学院修了生の求人も増加しています。

特に公的研究機関に就職を希望する場合は大学院への進学を勧めます。

大学院（理工学研究科）

修　士　課　程
理　　学　　専　　攻
情　　報　　学　　専　　攻
デ　ザ　イ　ン　工　学　専　攻
生　命　理　工　学　専　攻

※大学院についての詳細は「第７章 大学院」を参照してください。

「東京理工系４大学による学術と教育の交流に関する協定」に基づく他大学院推薦入試制度

「東京理工系４大学による学術と教育の交流に関する協定」（協定校：芝浦工業大学、東京都市大学（旧名：武蔵工業大学)、工学院大学、本学）の一環として、４大学による大学院修士課程への特別推薦入試制度があります。

この制度は、各大学の学部学生に対して各大学の各研究科各専攻が、他大学から推薦された学生（出身大学内の学内推薦基準を満たしている学生）を１名ずつ受入れ、相互の交流をはかることを目的としております。

詳細については、教務担当までお問い合わせ下さい。

科目等履修生（卒業生・その他）

本学において、特定の授業科目について、さらに学習してみたい場合や、各種資格免許の取得、あるいは職務上の必要などから単位が必要となった場合には、科目等履修生として履修することが出来ます。

卒業後このような必要性が生じたら、教務担当に問い合わせて下さい。

〒350－0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
TEL 049－296－0430

卒業後の各種証明書の申請について

卒業後に証明書が必要となることがよくあります。次の事項によく注意して申請をしてください。

1．請求方法

教務担当窓口まで来校するか、または郵送によって申し込んでください。（電話での申し込みは受け付けいたしません。）

2．請求に際しての必要事項（郵送の場合）

・卒業年月
・学科名・学籍番号
・氏名・生年月日・本籍地
・証明書の種類と必要部数
・交付手数料相当の現金または郵便局の小為替・返送用郵便料相当の現金または切手
・返送先の郵便番号・住所・氏名・連絡先（電話番号）
・返送を速達で希望する場合はその旨

※身分証明書のコピーを必ず添付して下さい。

3．交付手数料

卒業証明書	500円
成績証明書	500円
人物調査書	1,000円
大学院進学用調査書	1,000円
教職免許状単位取得証明書	1,000円
基礎資格及び単位修得証明書	1,000円
外国語文卒業証明書	1,200円
外国語文成績証明書	2,000円
元在学成績証明書	1,000円
元在学証明書	500円

（学生厚生担当扱い）

4．問い合わせ・請求先

〒350－0394
埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学理工学部事務部教務担当
ＴＥＬ　049（296）0430
（在学生の問い合わせは受付ません。）

本学のホームページ　理工学部事務部教務担当に証明書申込み方法が記載してあります。

http://www.cse.dendai.ac.jp/certificate/index.html

校　友　会

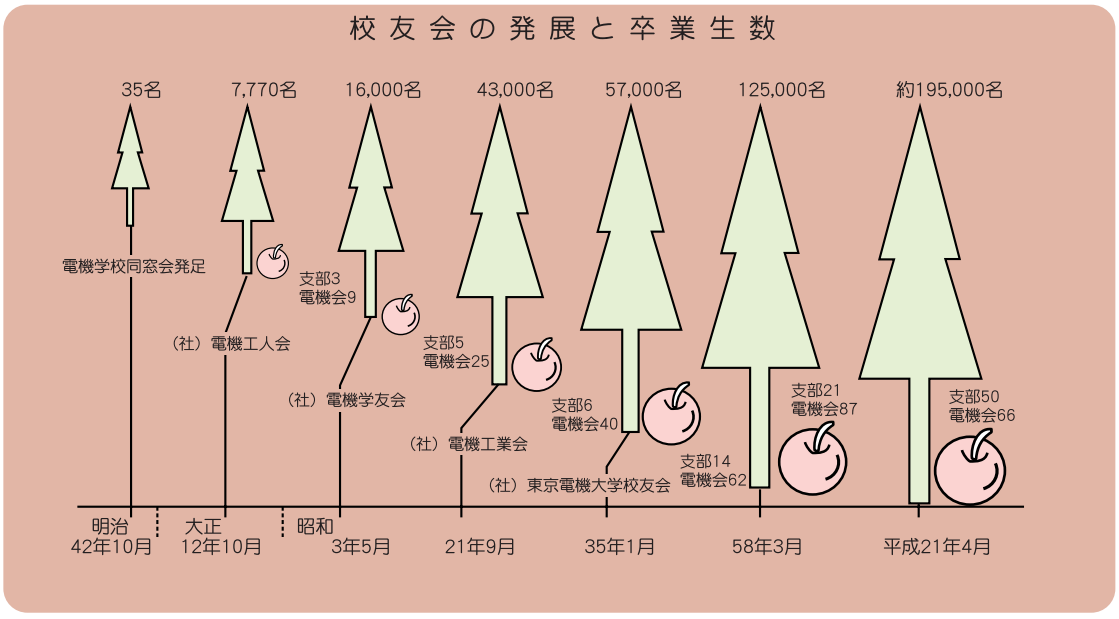
みなさんが学園の一員として学生生活を送る中で、校友会・同窓会という言葉を耳にする機会が多々あると思います。ここでは校友会・同窓会活動について紹介します。

1．校友会と在学生とのかかわり

校友会を卒業生の親睦団体と考えている方が多いと思いますが、本学園では在学中から準会員として校友会と種々の面で連係が保たれています。一例を挙げれば、奨学金貸付や厚生資金の貸付による経済援助、学園祭・合同体育祭行事およびクラブ活動への援助があります。

その他、卒業生情報の管理、機関誌「工学情報」の発行など、在学生や卒業生のための活動を積極的に展開しております。





2．校友会組織と現況

現在、校友会の組織下には各校別の同窓会があり、卒業生の出身地域別の地方・県支部（みなさんの出身地にもあります。）や企業内支部（職域電機会）等が全国各地に組織化されています。

これらの支部組織は将来就職等によりＵターンする場合など何かとみなさんの相談に力を貸していただけるものと思います。

3．東京電機大学校友会・新電気奨学金

この制度の特色は一般の奨学金制度のように特定の期間に限定して公募するのではなく、学生本人または保証人の事情により学費等校納金の支払いに困難な状態が生じたとき、申請により校友会が立て替えるものです。

希望者は下記の要件を確認したうえ、学生厚生担当へ相談してください。

貸与額：学費（授業料及びこれと同時に納付する金員を含む）の１／２相当額

返　還：卒業後半年据え置いた後、５年間で年賦・半年賦・月賦による元本均等返済
（一括返済可）無利息

4．大学同窓会の活動

学園の諸活動と密接な関係のある大学同窓会は、クラス会の開催はもとより、みなさんのクラブ活動や諸行事にも校友会本部と一体となって活動しています。これらの活動を支えている卒業生は大学院・大学・短大関係で約９万６千名に達しております。

特に、大学同窓会では学園と協力して"就職セミナー"を開催しており、産業界で活躍している先輩による就職進路相談は好評であり、また卒業生と在学生との交歓行事"OB 交歓会"では、優秀な学生団体に丹羽賞、同窓会奨励賞を授与しております。

5．丹羽賞

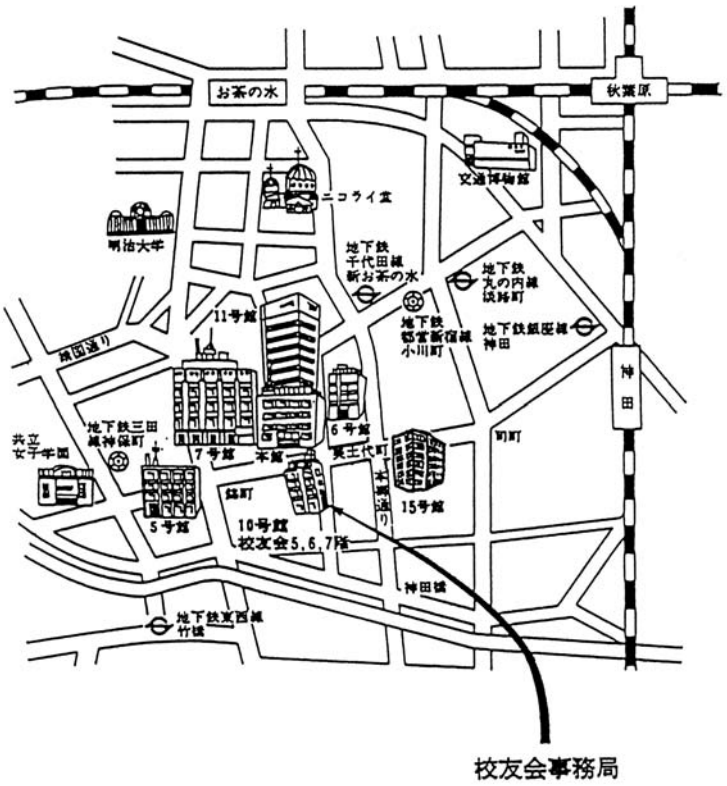
初代学長の故丹羽保次郎先生が、生前同窓会に寄せられた基金を基に創設されたもので、準会員（在学生）のクラブ活動の育成援助を目的とし、過去１年間に優秀な成績をあげた学生団体に与えられます。

6．同窓会奨励賞

昭和60年度より設けられた賞で丹羽賞の対象にはなりませんが、地道で着実な活動を続けている団体を応援する目的で贈られます。

7．校友会館を訪ねてください

校友会館は、神田キャンパス10号館５Ｆにあります。在学中に先輩のこと、郷里の校友会支部のことなど知りたいことがありましたら、お気軽にご相談ください。



校友会事務局

〒101－8457 東京都千代田区神田錦町２－５－１
社団法人　東京電機大学校友会
ＴＥＬ　０３－５２８０－３５１２
ＦＡＸ　０３－５２８０－３５６２
E-Mail:kouyukai@jim. dendai. ac. jp
URL:http://www.tduaa.or.jp/koyu/
業務時間　９：20～17：00

第7章

大学院

大学院入学のすすめ

（理工学研究科の教育方針）

本研究科では、多様化する高度技術社会で活躍できる、創造性豊かな科学・技術者の養成に特化した実践的な教育研究を目指しています。学部を卒業した後に、専門性を高めてより高度な学問を身につけて下さい。本研究科の教育研究方針には次のような特色があります。

１．自立性と課題探求能力の育成

授業の履修においては、学生が専攻の枠にとらわれず独自の学習計画を立て、学際的に選択できるカリキュラム編成を行っています。研究活動においては、院生一人一人が独自のテーマについて創意工夫し、計画を立てて、実行することにより、問題発見能力と解決能力を養えるように指導しています。また、コンピュータを使ったプレゼンテーション、インターネットの利用など、ＩＴ技術を活用できるように教育研究環境の整備に努めています。

２．国際化への対応

これからの技術者・研究者にはしっかりした国際感覚が求められます。そのために海外で開催される国際会議での論文発表を奨励する助成制度を設けています。この制度を利用して多くの院生が国際的な経験をつんでいます。また、本研究科はアイオワ大学と学生交流協定を結んでおり、単位取得を目的とした留学制度があります。コロラド大学、コースタルカロライナ大学での短期語学研修制度も実施しており、英語教育に力を注いでいます。

３．他大学との単位互換協定

本研究科は首都大学院コンソーシアム、東京理工系４大学および東洋大学大学院工学研究科と単位互換協定を結んでおり、他大学大学院の講義が履修できるようにしています。

４．昼夜開講制

社会の要請と期待に応えるために、各専攻とも昼夜開講制を導入しています。これによって社会人が大学院で勉学することが容易になっています。

５．奨学金制度

本研究科では、優秀な学生に勉学の機会を幅広く与えるために、いろいろな奨学金制度を提供しています。貸与奨学金制度や副手制度があり、多くの学生がこれらの制度を利用しています。

６．部門制

各専攻にそれぞれ２～３の部門を設置し、部門独自の科目区分を設けることにより、広さと同時に専門分野における教育・研究の深化を図っています。

７．修了年限の短縮化

修士課程の修学は２年が標準ですが、優れた研究業績を修めた院生は１年で修了可能です。

以上のような特色をもつ本研究科へ、意欲ある学生が入学することを期待しています。

理学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

理学専攻は数理科学部門、物質科学部門の 2 部門から成っています。数理科学部門では、解析学・代数学・幾何学の数学 3 分野を中心に、その諸科学への応用までを視野に入れた研究を行います。物質科学部門では、物理学と化学を基軸とし、物質の構造・性質・反応性を中心に、実験および理論面から掘り下げて研究します。また専攻共通科目として両部門の共通の基盤となる科目が用意されており、自らの研究の動機付けが得られるようになっています。

〈研究部門・テーマ〉

■数理科学部門：関数解析学、偏微分方程式論、代数幾何学、不変式論、楕円曲線論、ホッジ理論、ガロア表現論、形式群論、微分幾何学

■物質科学部門：燃料電池の研究、生命化学物質の溶媒和に関する熱力学的研究、多孔質シリコンの作製に関する研究、統計物理学、多孔性固体による物質の吸着、高分子ゲルのダイナミクスと熱力学的研究、化学振動の研究

〈開設科目〉

■数理科学部門

解析学Ａ	解析学Ｂ	代数学Ａ
代数学Ｂ	幾何学Ａ	幾何学Ｂ
解析学特論Ａ	解析学特論Ｂ	幾何学特論
代数学特論Ａ	代数学特論Ｂ	応用解析学
応用代数学	確率過程論	数理科学セミナーⅠ
数理科学セミナーⅡ	数理科学特別研究Ⅰ	数理科学特別研究Ⅱ

■物質科学部門

化学熱力学特論	溶液化学	物性化学特論
反応化学特論	界面化学特論	固体物性物理学
物理学特論Ａ	物理学特論Ｂ	物理学特論Ｃ
物理学特論Ｄ	物質科学輪講Ⅰ	物質科学輪講Ⅱ
物質科学セミナーⅠ	物質科学セミナーⅡ	物質科学特別研究Ⅰ
物質科学特別研究Ⅱ		

■専攻共通科目

数理科学基礎	神経・脳の科学	数理物理学
理学インターンシップ		

理学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏　名	職　名	現在の研究テーマ
数理科学部門	☆荒牧　淳一＊	教　授	関数解析学、偏微分方程式論
	中野　哲夫＊	教　授	射影多様体への群作用、不変式論、代数曲線のモジュライ空間
	硲　　文夫＊	教　授	楕円曲線論、ホッジ理論
	山形　周二	教　授	ガロア表現、形式群
	越智　禎宏＊	准教授	楕円曲線の数論
	小黒　　隆	講　師	微分幾何学
	高橋　秀慈	講　師	偏微分方程式論
物質科学部門	岡本　博司＊	教　授	燃料電池の研究、リズム・カオス・パルスの化学的ダイナミックスの研究
	小川　英生＊	教　授	生命化学物質の溶媒和に関する熱力学的研究、生命および環境化学物質を含む溶液の物性論的研究、超臨界流体の熱力学的研究
	小田垣　孝＊	教　授	非平衡系、複雑系、不規則系を中心とする物性理論
	木下　　彬＊	教　授	多孔質シリコンの作製に関する研究、多孔質シリコンの応用研究
	井上　　真	准教授	統計物理学、磁性体のスピン模型
	類家　正稔	准教授	多孔性固体による物質の吸着、糖の水溶液中での水和に関する熱力学的研究
	山室　憲子＊	准教授	高分子ゲルのダイナミクスと熱力学的研究、ミセル水溶液の構造変化とダイナミクス、液晶形成物質のダイナミクスと熱力学的研究
	向山　義治	講　師	燃料電池の研究、化学振動の研究

☆：専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

情報学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

情報学専攻は、情報学に関する分野横断的な教育研究を通じて、21世紀の情報社会をリードするエキスパートを育成します。本専攻は、数理的および工学的なアプローチを特色とする数理情報・コンピュータ科学部門、ソフトウェアを基盤とする「遊び」に関わるテクノロジーについての教育研究を行うアミューズメント・ソフトウェア部門、ネットワークならびコミュニケーションに関わる学際的な教育研究を推進するネットワーク・コミュニケーション部門の３部門から成ります。

〈研究部門・テーマ〉

■数理情報・コンピュータ科学部門：知能システム科学、制御理論、信号処理、アルゴリズムの設計と解析、形式言語、人工知能、データベース

■アミューズメント・ソフトウェア部門：ソフトウェア工学、画像工学、感性工学、確率システムの解析、計算理論、グラフ理論、コンピュータグラフィックス、ゲームプログラミング

■ネットワーク・コミュニケーション部門：ネットワーク工学、通信システムの解析、待ち行列、パターン認識、心理学、心と身体論、情報社会論、科学技術政策論

〈開設科目〉

■数理情報・コンピュータ科学部門

グラフ理論	大規模ネットワーク理論	システム設計論
システム理論	確率システム理論	組込みシステム特論
プログラム言語論	コンパイラ理論	学習制御論
人工知能	論理プログラミング	データ工学特論
計算科学	数理情報・コンピュータ科学セミナーⅠ	数理情報・コンピュータ科学セミナーⅡ
数理情報・コンピュータ科学特別研究Ⅰ	数理情報・コンピュータ科学特別研究Ⅱ	

■アミューズメント・ソフトウェア部門

ゲームとシミュレーション	ゲームと計算	応用サイバースペース論
画像情報処理論	感性工学特論	アミューズメント・ソフトウェア特論Ａ
アミューズメント・ソフトウェア特論Ｂ	アミューズメント・ソフトウェア特論Ｃ	アミューズメント・ソフトウェアセミナーⅠ
アミューズメント・ソフトウェアセミナーⅡ	アミューズメント・ソフトウェア特別研究Ⅰ	アミューズメント・ソフトウェア特別研究Ⅱ

■ネットワーク・コミュニケーション部門

情報理論	確率ネットワーク	データマイニング
ヒューマンインターフェース	科学技術社会論	情報倫理学
ネットワーク・コミュニケーションセミナーⅠ	ネットワーク・コミュニケーションセミナーⅡ	ネットワーク・コミュニケーション特別研究Ⅰ
ネットワーク・コミュニケーション特別研究Ⅱ		

■専攻共通科目

応用解析学	応用代数学	情報数学
ソフトウェア開発工学特論	情報産業論	計算機アーキテクチャ特論
計算機ネットワーク特論	マルチメディア工学特論	ＣＡＤシステム特論
アルゴリズム特論	オートマトン	言語情報システム論
情報コミュニケーション心理学	確率過程論	情報学インターンシップ

情報学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏　名	職　名	現在の研究テーマ
数理情報・コンピュータ科学部門	☆狩野　弘之＊	教　授	自律ロボット、視覚情報解析、曲線曲面の設計論
	伊東　正安＊	特任教授	信号処理、超音波画像処理、形態情報処理
	内門　　茂＊	教　授	静止画像処理、動画像処理、学習制御
	大塚　尚久＊	教　授	システム理論、制御理論
	勝野　裕文＊	教　授	人工知能、知識表現、データベース
	古東　　馨	教　授	計算機数学、形式言語理論、計算機ソフトウェア
	陳　　致中＊	教　授	アルゴリズムの理論、計算の複雑さの理論
	中村　克彦＊	教　授	オートマトン理論、形式言語、論理プログラミング、人工知能
	三井　浩康＊	特任教授	組込みシステム、遠隔教育方式
	山口　陽子＊	客員教授	脳の計算論、生物的自律分散制御
	Bijoy.K.Ghosh ＊	客員教授	マシンビジョン
アミューズメント・ソフトウェア部門	柏崎　尚也＊	教　授	感性パラメータにより芸術作品等の感性評価、ミュージックパズルの研究、新しい表示デバイスの開発研究
	佐藤　定夫＊	教　授	マルコフ過程論、ソフトウェアシステム
	志和　新一＊	教　授	遠隔学習に関する研究、英単語の学習法と評価法の研究、３Ｄ画像によるインタラクティブな応用に関する研究
	細村　　宰	教　授	衛星画像の土地被覆分類、カメラを用いた３Ｄ画像計測、ＣＧを用いた情報の可視化に関する研究
	築地　立家＊	准教授	計算理論、ゲームプログラミング
	松浦　昭洋	准教授	アルゴリズム論、情報可視化ソフトウェア、エンターテインメントコンピューティング
	徳田　太郎	講　師	グラフ理論、組み合せ論
ネットワーク・コミュニケーション部門	石塚　正英＊	教　授	身体に関する複合科学的研究、フェティシズムに関する比較文明論的研究、情報社会に関する社会思想史的研究
	市野　　学＊	教　授	パターン認識、シンボリック・データ・アナリシス、データマイニング
	小林　春美＊	教　授	環境と人間の言語・認知の関係についての研究、言語発達における環境情報の役割に関する研究
	町原　文明＊	教　授	通信理論、待ち行列理論、トラヒック理論
	山口　正二＊	教　授	認知や動機づけに関する研究、学校教育における生徒と教師の心理的距離、教師の聖職性に関する実証的研究
	若松　征男	教　授	科学技術政策形成過程への参加型システムの組み込みの研究、参加型手法の研究
	藤本　　衡	准教授	計算機ネットワーク、システム性能評価
	中山　　洋	講　師	高等学校対応のグループウェアの開発、ＶＲを用いた深層心理アナライザーの開発、香り（アロマ）と作業効率との関係

☆：専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

デザイン工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

デザイン工学専攻には機械、電気・電子、建築、土木、環境と幅広い分野が含まれていますが、目指すのは具体的なもの作りであり、コンピュータ支援技術をベースにしたメカトロニクス、インテリジェント設計といった機械デザインや、建築・土木・環境に関する高度な知識をベースにした都市・建築デザインのような高度なデザイン工学の素養を身につけた技術者・研究者の育成を行います。

〈研究部門・テーマ〉

■メカトロニクスデザイン工学部門：インテリジェントロボット、環境エネルギ変換システム、バイオニックデザイン、再生医工学に基づく生体材料、リハビリテーション工学、ロボットシステム、総合生産システム、技術開発システム、工作機械の構造設計、気体力学およびコンピュータグラフィックス、電磁現象の解析と応用

■建設環境デザイン工学部門：湖沼・河川の水質改善、水生植物群落の機能、環境影響評価、画像処理・画像計測・３Ｄモデリング・地理情報の空間分析、骨組みおよびシェル構造物の非線形解析、鋼構造物の解析・設計法、舗装構造物の解析・設計・診断・性能評価、鋼構造物の疲労と破壊、構造物の耐震設計、地震時の地盤の液状化、建築および都市空間の形態分析、都市・地域計画

〈開設科目〉

■メカトロニクスデザイン工学部門

材料科学特論	先端材料特論	結合工学特論
振動のモデリングと解析	工作機械システム特論	マイクロ加工特論
品質工学特論	インテリジェントシステム工学	自動車の運動力学特論
気体力学特論	医療・福祉用ロボット工学特論	バイオメカトロニクス特論
再生医工学	メカトロニクス特論	光工学特論
生体治療機械システム特論	福祉工学特論	モーションコントロール特論
産業電子工学	パワーエレクトロニクス特論	応用電磁気学
数値解析工学	インターナショナルセミナー	メカトロニクスデザイン工学セミナーⅠ
メカトロニクスデザイン工学セミナーⅡ	メカトロニクスデザイン工学特別研究Ⅰ	メカトロニクスデザイン工学特別研究Ⅱ

■建設環境デザイン工学部門

応用水理学Ａ	応用水理学Ｂ	耐風工学特論
環境流体力学Ａ	環境流体力学Ｂ	環境生物工学
交通計画学特論	意思決定の理論	画像計測Ａ
画像計測Ｂ	建築空間論	建築設計論
建築設計演習Ａ	建築設計演習Ｂ	ランドスケープ特論
環境影響評価特論	植物環境工学	低温生物工学
安全・安心・都市システム特論	振動論	構造設計論
土質工学特論	地震防災工学特論	耐震工学特論
地盤防災工学特論	災害科学の最前線	薄肉構造解析
材料特性論	応用数理学	鋼構造学特論
建設信頼性工学	コンクリート工学特論	建築インターンシップ
建設環境デザイン工学セミナーⅠ	建設環境デザイン工学セミナーⅡ	建設環境デザイン工学特別研究Ⅰ
建設環境デザイン工学特別研究Ⅱ		

■専攻共通科目

流体力学特論	弾性論	有限要素法
自動制御工学特論	技術評価システム特論	デザイン工学インターンシップ

デザイン工学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏　名	職　名	現在の研究テーマ
メカトロニクスデザイン工学部門	☆浅岡　照夫＊	教　授	光触媒セラミックスに関する研究、生体材料に関する研究
	樫村　幸辰＊	教　授	冷凍チャックの開発、複合材料の金型への適用、工作機械の構造設計に関する研究
	斎藤　之男＊	教　授	福祉用ロボットの研究、インテリジェントロボット・高機能ハンドとセンサ制御の研究
	角田　興俊	特任教授	総合生産システムに関する研究、画像処理に関する研究
	富田　英雄＊	教　授	パワエレクトロニクスに関する研究、リハビリテーション工学に関する研究、ロボットシステムに関する研究
	羽根吉寿正＊	教　授	電子制御工学、パワーエレクトロニクス、電動機駆動システム、環境エネルギー変換システム
	立石　哲也＊	客員教授	バイオニックデザインに関する研究
	中島　建夫	客員教授	技術開発システムの研究、生産システムの研究、多次元データ評価システムの研究
	小畑　修二＊	准教授	不規則性材料の電子構造の研究、電磁現象の解析とその応用に関する研究
	榊原　洋子	准教授	気体力学、コンピュータグラフィックス
建設環境デザイン工学部門	有田　正光＊	教　授	湖沼・河川の水質改善、河口域の環境問題
	井浦　雅司＊	教　授	骨組およびシェル構造物の非線形解析
	近津　博文＊	教　授	画像処理、画像計測、３Ｄモデリング、地理情報の空間分析
	中井　正則＊	教　授	水生植物群落の機能、砂漠化現象の解明
	中尾　雅躬＊	教　授	鋼構造物の解析および設計法、スチールハウスの構造設計
	松井　邦人＊	教　授	舗装構造物の解析・設計・診断・性能評価、舗装に及ぼす気象変化の影響
	見村　博明＊	教　授	鋼構造物の疲労と破壊、構造物の性能評価
	安田　　進＊	教　授	地震時の地盤の液状化、斜面崩壊、地盤改良、ハザードマップ
	山崎　真司＊	特任教授	構造物の耐震設計、鋼部材の塑性挙動
	日鼻　宏一	客員教授	環境影響評価、環境マネジメント
	岩城　和哉	准教授	建築および都市空間の形態分析
	高田　和幸＊	准教授	都市・地域計画、交通計画、交通市場分析

☆：専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

生命理工学専攻　修士課程

〈内容と特色〉

生命現象に関する謎の解明や人類の直面する諸問題（医療・福祉問題、環境問題、食糧問題など）の解決には、学際的なアプローチが不可欠です。生命理工学専攻では、生命・環境科学分野と生体医工学分野を二本柱とし、各専門分野で活躍できる研究者・技術者の育成ばかりでなく、深い教養と学際的な視点から前記の諸問題に取り組むことのできる人材の養成も目標とします。このように、生命理工学専攻は学生が自らの資質や適性に合わせて進路を選択できるような教育システムを提供することによって、有為の人材を社会に輩出することを目指します。

〈研究部門・テーマ〉

■生命・環境科学部門：

抗がん物質の構造活性相関、植物培養細胞の超低温保存、小胞体におけるタンパク質の品質管理機構、高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、植物成長に及ぼす磁場・振動・超音波・赤外光の効果、骨代謝及び骨基質蛋白質の生合成機構に関する研究、細胞死の誘導機構の研究

■生命医工学部門：

生体計測に関する研究、信号処理・画像処理に関する研究、集積回路に関する研究、生体および疾患のモデル化、人工臓器に関する研究、機能性材料および生体適合性材料に関する研究、診断および治療技術に関する研究、生命支援および手術支援技術に関する研究

〈開設科目〉

■生命・環境科学部門

生理活性有機化合物論	化学熱力学特論	生理化学
界面化学特論	物性化学特論	生体システム科学
神経・脳の科学	低温生物工学	植物環境工学
植物細胞工学	生体高次機能学	生命・環境科学セミナーⅠ
生命・環境科学セミナーⅡ	生命・環境科学特別研究Ⅰ	生命・環境科学特別研究Ⅱ

■生命医工学部門

応用電磁気学	情報計測工学	画像情報工学
情報回路設計	固体物性物理学	産業電子工学
医療・福祉用ロボット工学特論	システム制御論	生体材料工学
医用福祉工学	医用工学	生体治療機械システム特論
生体医工学セミナーⅠ	生体医工学セミナーⅡ	生体医工学特別研究Ⅰ
生体医工学特別研究Ⅱ		

■専攻共通科目

細胞分子生物学	環境生物学	臨床医学
生体情報工学	生命理工学インターンシップ	

生命理工学専攻 教員一覧

教育・研究部門	氏　名	職　名	現在の研究テーマ
生命・環境科学部門	川井　悟＊	教　授	食品中のがん予防物質の探索、細胞周期制御物質の構造活性相関、カンキツ類におけるフラボノイド生合成の遺伝様式
	栗山　昭＊	教　授	植物培養細胞の超低温保存、組織培養による植物の生産、植物細胞の低温・乾燥耐性
	田中　眞人＊	教　授	小胞体におけるタンパク質の品質管理機構、抗体の高度利用法に関する研究
	村勢　則郎＊	教　授	高分子ゲル中の水のキャラクタリゼーション、クモの糸の氷核活性とその利用、線虫の凍結保存
	山名　昌男＊	教　授	植物成長に及ぼす磁場・振動・超音波・赤外光の効果、植物電位の計測
	村松　和明	准教授	骨代謝および骨基質蛋白質の生合成機構に関する研究、軟骨細胞の分化制御およびエピジェネティクスに関する研究、機能性生体材料の開発に関する研究
	長原　礼宗	講　師	細胞死・細胞分化の誘導機構の研究、抗癌剤の作用機序の研究、自然免疫機構の研究
生体医工学部門	☆宮脇富士夫＊	教　授	器械出しナース・ロボットの開発研究、遺伝子組換え支援技術の開発に関する研究、心機能回復促進型補助人工心臓の開発に関する研究
	内川　義則＊	教　授	脳磁図・心磁図の計測に関する研究、信号処理・画像処理システムの開発に関する研究
	内田　干城	教　授	皮膚の老化度の測定に関する研究、色測定による皮膚の診断に関する研究、妊娠線の発症メカニズムに関する研究
	福井　康裕＊	教　授	人工臓器に関する研究、生命支援技術に関する研究、生物工学に関する研究
	舟久保昭夫＊	教　授	人工臓器に関する研究、生体計測に関する研究
	保坂　栄弘＊	教　授	循環器系生体パラメータの非観血・無侵襲計測法及び診断への応用に関する研究、連続パルス磁気刺激による低侵襲治療法の研究、心室細動除去法の低エネルギー化の研究
	星野　洋＊	教　授	大面積集積回路のＣＡＤ、微少電力通信用集積回路の開発、生体に関する計測システムの研究

☆：専攻主任　＊：研究指導を受けることができる教員

第8章

そ の 他

留　　学

１．留学のすすめ

本学では、みなさんが在学中の一時期に海外の大学に留学することを制度として認めています。みなさんが感受性に富んだ若い時代に外国に留学し、勉学に励むと同時に外国の異文化に触れ、相互理解を深め、国際性を身につけることは、将来、技術者・研究者として国際社会で活躍するためには大切なことです。

積極的にこの制度を利用し、是非、有益な留学を実現させてください。

２．協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって、単位の取得を目的として留学する制度です。現在の協定校は、アメリカのアイオワ大学で、募集は毎年10月頃行います。選考には、ＴＯＥＦＬのスコアが重要視され、ＣＢＴ（コンピュータ版）197点以上、ｉＢＴ（インターネット版）71点以上を目安としています。留学は翌年９月からの１年間で、学部で60単位を限度とした単位認定を行っており、留学先の学費は免除となります。（原則的に本学学費は納入。）

３．認定校留学

単位の取得を目的とした留学を希望する者が、自分で外国の大学の留学または受入れ許可をとり、本学がこれを許可し、留学する制度です。募集は毎年10月頃行います。留学は翌年度中からで期間は１年とし、学部で60単位を限度とした単位認定を行っており、留学先の学費は自己負担となります。（原則的に本学学費は納入。）

４．海外英語短期研修

現在、英語短期研修はコロラド大学・アイオワ大学・シドニー大学において開催されています。いずれも、現地教師による少人数レッスンで本学学生専用のプログラムが組まれています。所定の成績を修めれば、本学が指定した英語科目の単位を修得したものとして認定さ

れます。コロラド大学は 7 月～ 8 月、アイオワ大学・シドニー大学は 2 月～ 3 月に約 3 週間実施されます。実施の約半年前に募集をし、選抜試験を行っています。

ＴＯＥＦＬ（Test of English as a Foreign Language）は、英語を母国語としない外国人留学生のために英語の聴解力（Listening Comprehension Section）、文法・作文力（Structure and Written Expression Section）、読解・語彙力（Reading Comprehension and Vocabulary Section）、および文章力（Test of Written English）の知識をテストするものである。また、テストはコンピュータにて行われる Computer-Based Test（ＣＢＴ）とインターネットで行われる Internet-Based Test（ｉＢＴ）とがあります。今後、全世界のＴＯＥＦＬテストはｉＢＴに統一されていきます。

留学に係わる手続きや必要な注意事項は、冊子「海外協定校留学案内」に集約されており、学生厚生担当にて配布しています。

また、留学に関する相談は学生厚生担当にて随時応じています。

保険制度

本学では、正課中あるいは課外活動中の不慮の災害事故補償のための「学生教育研究災害傷害保険」への加入受付事務等をしています。新入生は入学手続時に４年間分の保険料を納入し、全員が加入しています。留年等で保険期間が切れた場合は、４月はじめに学生厚生担当において所定の手続きをすることにより継続加入ができます。

１．保険金が支払われる場合

１．正課授業中
２．学校行事中
３．１、２以外で学校施設内にいる間
４．学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間
５．通学中

２．保険金の種類・金額

下記の一覧表を参照してください。

保険金種類 / 担保範囲	死　亡	後遺傷害	医　療	入院（日額）
正課中 学校行事中	2,000万円	90万～3,000万円	0.6万～30万円	4,000円
上記以外で学校施設内にいる間	1,000万円	45万～1,500万円	3万～30万円	4,000円
学校施設以外で大学に届出た課外授業中	1,000万円	45万～1,500万円	3万～30万円	4,000円

※死亡保険金の支払いは、事故の日から180日以内に死亡したとき
※後遺障害保険金は、事故の日から180日以内に後遺障害が生じたとき
※医療保険金は、平常の生活ができるようになるまでの治療期間に応じて異なる。正課中お

よび学校行事中の事故は実治療日数（実際に入院または通院した日数）が 4 日以上の場合支払われ、学内での休憩中および課外活動中の事故は14日以上の場合に支払われる。

※事故の状況等によっては、保険金が支払われない場合があります。

3．保険料・保険期間

保険期間	保険料適用区分
	昼　間　部 （理工系・体育系）
1　年　間	1,200円
2　年　間	2,100円
3　年　間	3,050円
4　年　間	3,900円

※保険期間（ 4 年間）の切れた場合の加入受付については、 3 月下旬～ 4 月上旬に掲示でお知らせします。必ず受付期間内に延長の手続きを行ってください。（追加の保険料が必要です。）

※その他、詳細は「学校教育研究災害傷害保険のしおり」を参照してください。

※介護等体験、インターンシップ等を行う場合には、「学生教育研究災害障害保険」に加えて、オプションで対物賠償等も補償範囲となる「インターンシップ・介護体験活動・教育実習等賠償責任保険」へ加入の必要があります。

　加入は随時受け付けていますが、その際には本体となる「学生教育研究災害障害保険」へ加入している必要があります。留年等で保険期間（入学から 4 年間）を経過している場合には、予め 4 月上旬までに「学生教育研究災害障害保険」へ加入しておいてください。

　（詳細は、学生厚生担当窓口にて相談してください。）

学生生活支援

1．短期貸与金

短期貸与金制度は、みなさんの先輩方が設けた「東京電機大学同窓会助け合い基金」をもって運用しているもので、みなさんが緊急に金銭を必要とする場合に貸付をする制度です。取扱いは、学生厚生担当で行っています。

貸与金額　　10,000円以内
貸与期間　　１ヵ月以内

なお、**貸付を受ける際に、学生証、印鑑が必要です。**

2．アパートの紹介

本学では、理工学部のアパート・貸間の斡旋を錦電サービス㈱に委嘱しています。斡旋される物件の大部分は駅より徒歩10分の範囲にあり、理工学部まで30分以内（待ち時間除く）で通学できます。

新入生の自宅外通学者のなかには、はじめての一人暮らしに不安を覚える方もいると思います。

―― 新しい環境に早く順応する ――これは、これからの希望に満ちた学生生活を送るうえで、大切な要素です。理工学部では、新入生は、同じような環境にある者が協力し合っていけるよう、できるだけ本学部の新入生が多い物件を斡旋するよう指導しています。

一般のアパート・貸間の申込みは

錦電サービス㈱　　〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
東京電機大学　理工学部内
TEL　０４９－２９６－２９６２㈹
http://www.kinden-service.co.jp

課外活動

課外活動の意図するところは、団体の運営にたずさわることによって自主性を養い、協調精神を身につけ、秩序を守ることを知り自己の人間形成に役立てることにあります。

この人間形成は、いうまでもなく正課教育を通して行われるのですが、より一層の効果をあげるための役割を果たしているのがこの課外活動です。しかし課外活動に必要以上のエネルギーを費やし、勉学がおろそかになるようでは、もはや学生とはいえません。この課外活動の目的を充分に把握した上でクラブ活動に参加するよう望みます。

なお、学生が課外活動を行うときは、「学生生活についての規程」に基づき次の手続きを、とらなければなりません。

1．学外活動を行うとき

学生厚生担当備付けの学外活動願に記入の上、開始の 1 週間前までに学生厚生担当に届け出なければなりません。

2．学内集会を行うとき

学生厚生担当備付けの学内集会願に記入の上、実施の 3 日前までに学生厚生担当に届け出なければなりません。

アルバイト

アルバイトを希望するみなさんのために、学生厚生担当ではその紹介を行っています。原則的にアルバイトの実施期間は夏・冬・春の休業期間中に限りますが、教育関連等の職種については、随時紹介を行っています。

求人の受入れから紹介にいたる取扱いにあたっては、学業などに支障があってはならないという教育的配慮と、事故防止上から職種を制限しています。

（後掲の一覧表を参照）

1．応募方法

掲示板の求人票から、自分の条件にあうアルバイトを選択し、各自で先方に申し込みをしてください。求人票の掲示は１ヵ月を目安としていますが、定員になり次第、剥がします。なお、紹介状が必要となるアルバイトもあります。その件に関しては学生厚生担当窓口に申し出て下さい。

2．留意事項

求人内容・条件などが著しく違った場合は報告してください。病気・急用・その他突発的な理由で遅刻、欠勤などをする場合は、必ず勤務先へ連絡してください。安易な考えや行動は多大な迷惑をかけることになり、みなさん自身や大学の信用問題に及ぶことにもなりますので特に注意してください。

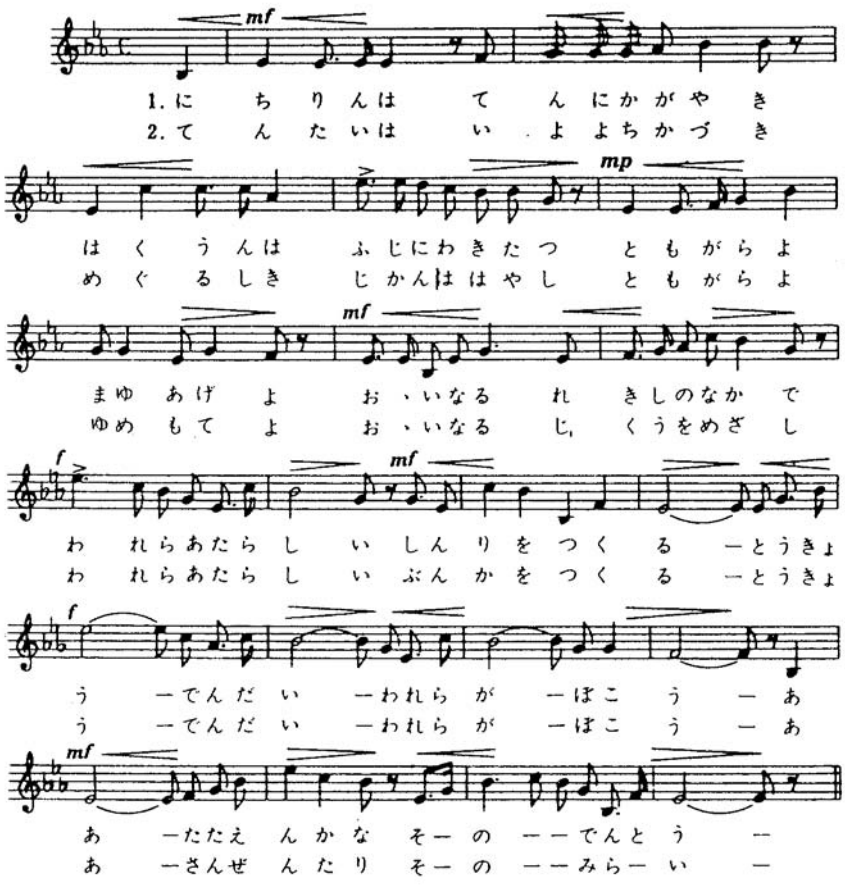
制　限　職　種　一　覧　表

	具体例	理　由　及　び　参　考　事　項
危険を伴うもの	●プレス、ボール盤、旋盤、裁断機など自動機械の操作	危険事故が伴う。 （例外…理工系でその専攻に役立つもの）
	●高電圧、高圧ガス等危険物の取扱い（助手も含む）	免許を必要とし、高度の危険度がある。
	●自動車、単車の運転、自転車による重量物（30kg以上）の配達	最近の厳しい交通状況から危険度も高く、また事故を起こした場合の経済的・精神的負担が重すぎ、刑事責任まで負うことになる。
	●線路内や交通頻繁な路上での作業（測量、白線引き、交通整理）	
	●土木・水道工事現場作業	
	●建築中の現場作業、建物倒壊、残材片付作業	落下物・転落等の危険度が大きい（内装工事は除く）。
	●２階以上の高所での屋外作業（ガラス拭き、器具取りつけ等）	
	●ヘルメット着用が必要とされる作業	
	●警備員	会場整備、誘導、受付は除く。
人体に有害なもの	●農薬、劇薬など有害な薬物の扱い（メッキ作業、白蟻駆除等）	健康上、人体に有害と考えられる。
	●特に高温度・低温度の作業	
	●塵埃、粉末、有害ガス、騒音等の著しい中での作業	
法令に違反するもの	●労働争議に介入するおそれのあるもの	職業安定法20条参照
	●営利職業斡旋業者への仲介斡旋	職業安定法の趣旨（雇用関係の成立の斡旋）に反する。
	●マルチ・ネズミ講商法に関するもの	無限連鎖講の防止に関する法律参照
	●出来高払（一定額の賃金の保証のないもの）	労働基準法27条参照
	●募集・採用の対象を男性のみ又は女性のみとするもの	男女雇用機会均等法参照
	●募集・採用の人数を男女別に設定するもの	
	●募集・採用に当たり、性別により異なる条件を付すもの	
教育的に好ましくないもの	●街頭でのチラシ配り、ポスター張り	内容的に問題があったり、無許可の場合が多い。
	●不特定多数を対象とした街頭や訪問による調査	相手側の了解が得られない場合が多く、トラブルの原因となることが多い。
	●訪問販売、勧誘、専門におこなう集金	
	●競馬、競輪場等、ギャンブル場内の現場作業	
	●バー、キャバレー、マージャン、パチンコなど風俗営業の現場作業、長期継続の深夜作業	
	●夜間作業（20時以降）	
	●選挙の応援に関連する一切の業務	大学としては特定の政党や候補者を応援することは望ましくない。
	●スパイ行為、興信所業務に類する調査	
望ましくない求人	●人命にかかわることが予想される業務	水泳指導員、監視員、ベビーシッター等
	●労働条件が不明確なもの	賃金、時間、場所、労働内容、支払方法等に関することが明示されていないもの。登録制によるもの。
	●人員の限定を条件とするもの	例えば10人中１人でもかけると他の９人を不採用とするようなもの。
	●学生を紹介しても採否の連絡が無かったり、正当な理由なく採用されないことがしばしばくり返されるもの	
	●各大学の判断により好ましくないもの	

東京電機大学　校歌

歯切れよく　雄大に

草野心平 作詞
平岡照章 作曲



東京電機大学校歌

一

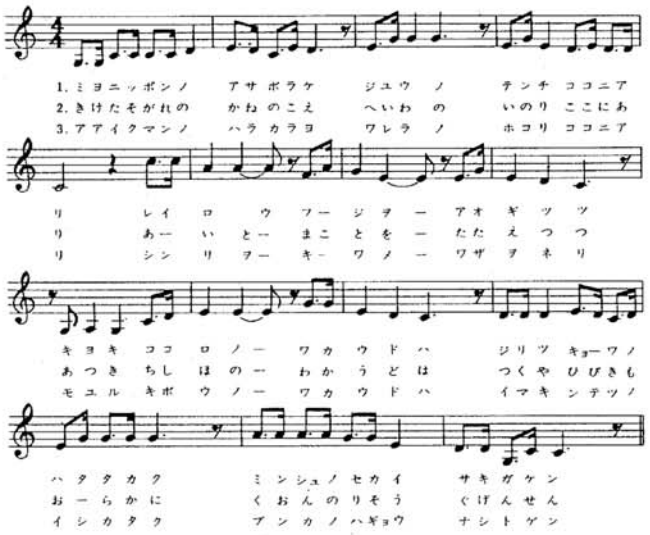
日輪（にちりん）は　天にかがやき
白雲（はくうん）は　富士に沸（わ）きたつ
朋（とも）がらよ　眉（まゆ）あげよ
大いなる　歴史のなかで
われら新しい　真理を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ讃（たた）えん哉（かな）
その伝統

二

天体は　いよよ近づき
めぐる四季　時間は早し
朋（とも）がらよ　夢もてよ
大いなる　時空（じくう）をめざし
われら新しい　文化を創（つく）る
東京電大　われらが母校
あゝ燦然（さんぜん）たり
その未来

東京電機大学　学生歌

望月直文作詞
田辺尚雄作曲



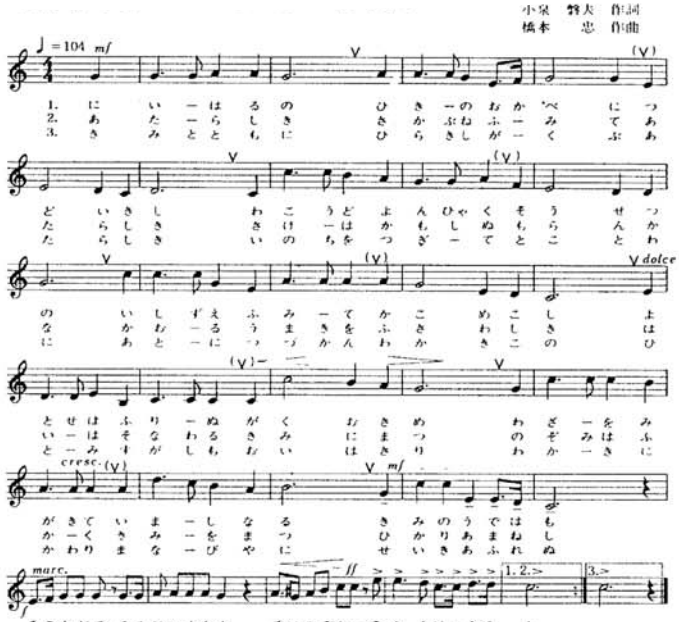
一、見よ日本のあさぼらけ　自由の天地ここにあり
玲瓏富士を仰ぎつつ　高潔き心の若人は
自律協和の旆高く　民主の世界先駆けん

二、聞け黄昏の鐘の音　平和の祈願ここにあり
信愛と誠実をたたえつつ　熱き血潮の若人は
撞くや響もおほらかに　久遠の理想具現せん

三、ああ幾万の同胞よ　我等の誇りここにあり
真理を究め技術を錬り　燃ゆる希望の若人は
今金鉄の意志かたく　文化の覇業なしとげん

東京電機大学理工学部　讃歌

小泉智夫作詞
橋本忠作曲

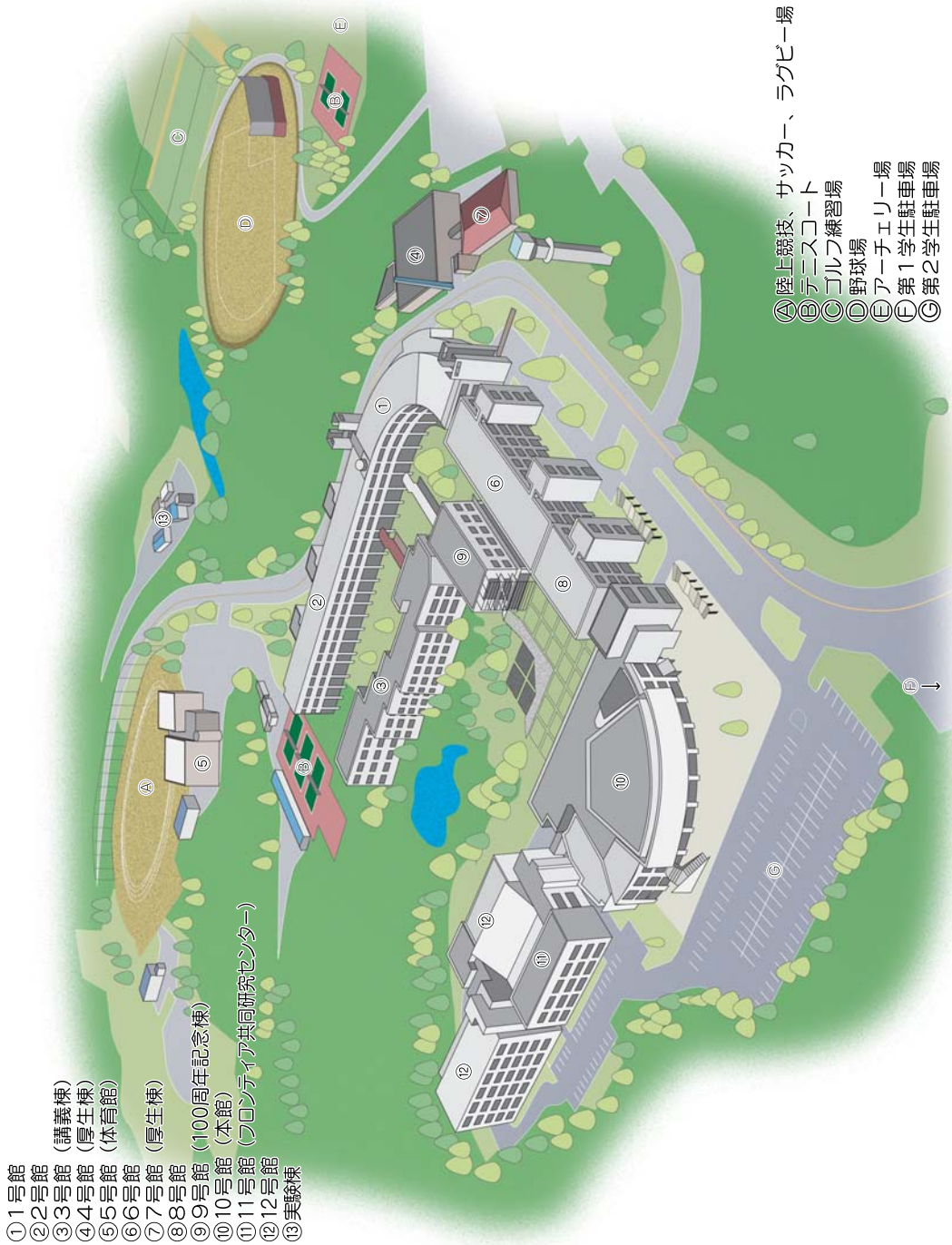


一、新春の比企の丘辺に　集い来し若人四百
創設の礎踏みて　固め来し四年は経りぬ
学修め業を磨きて　今し鳴る君の腕はも
その門出茲に祝わん　世に臨む備は成ると

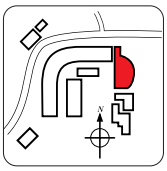
二、新しき酒槽踏みて　新しき酒は醸しぬ
盛らん哉香る甘酒を　ふさわしき杯は備る
君に待つ望は深く　君に待つ光汎し
その門出共に祈らん　自愛しめ若き命を

三、君と共に拓きし学部　新しき生命を継ぎて
永遠に後に続かん　若き等の瞳清しも
老は去り若きに代り　学舎に生気溢れぬ
その門出共に唱わん　「吾が学部よとわに栄あれ」

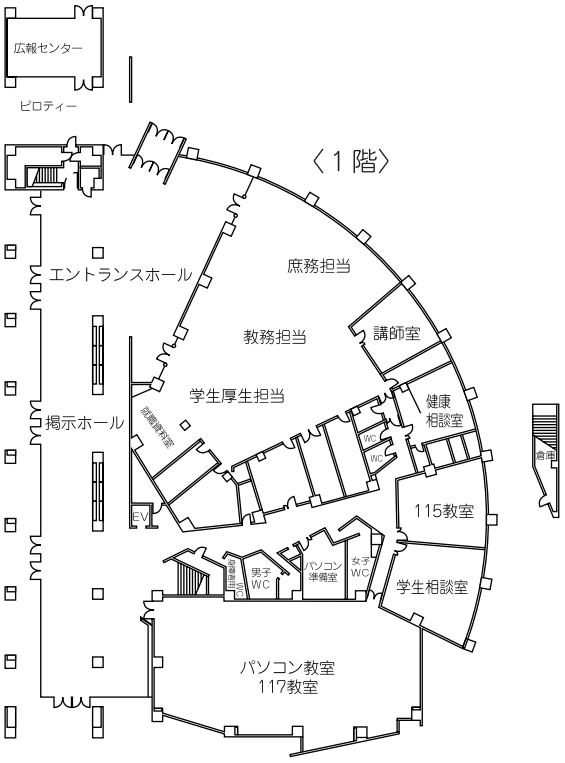
鳩山キャンパス案内図

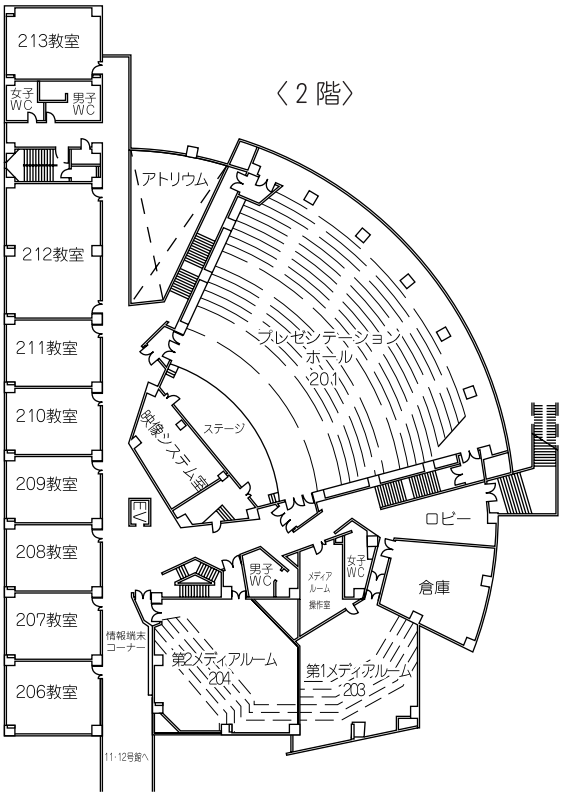

①1号館
②2号館
③3号館（講義棟）
④4号館（厚生棟）
⑤5号館（体育館）
⑥6号館
⑦7号館（厚生棟）
⑧8号館
⑨9号館（100周年記念棟）
⑩10号館（本館）
⑪11号館（フロンティア共同研究センター）
⑫12号館
⑬実験棟
Ⓐ陸上競技、サッカー、ラグビー場
Ⓑテニスコート
Ⓒゴルフ練習場
Ⓓ野球場
Ⓔアーチェリー場
Ⓕ第１学生駐車場
Ⓖ第２学生駐車場

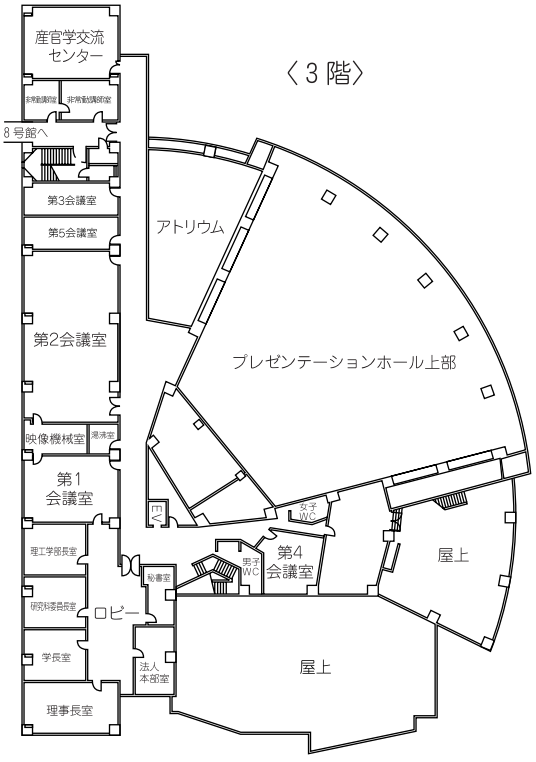
全体図

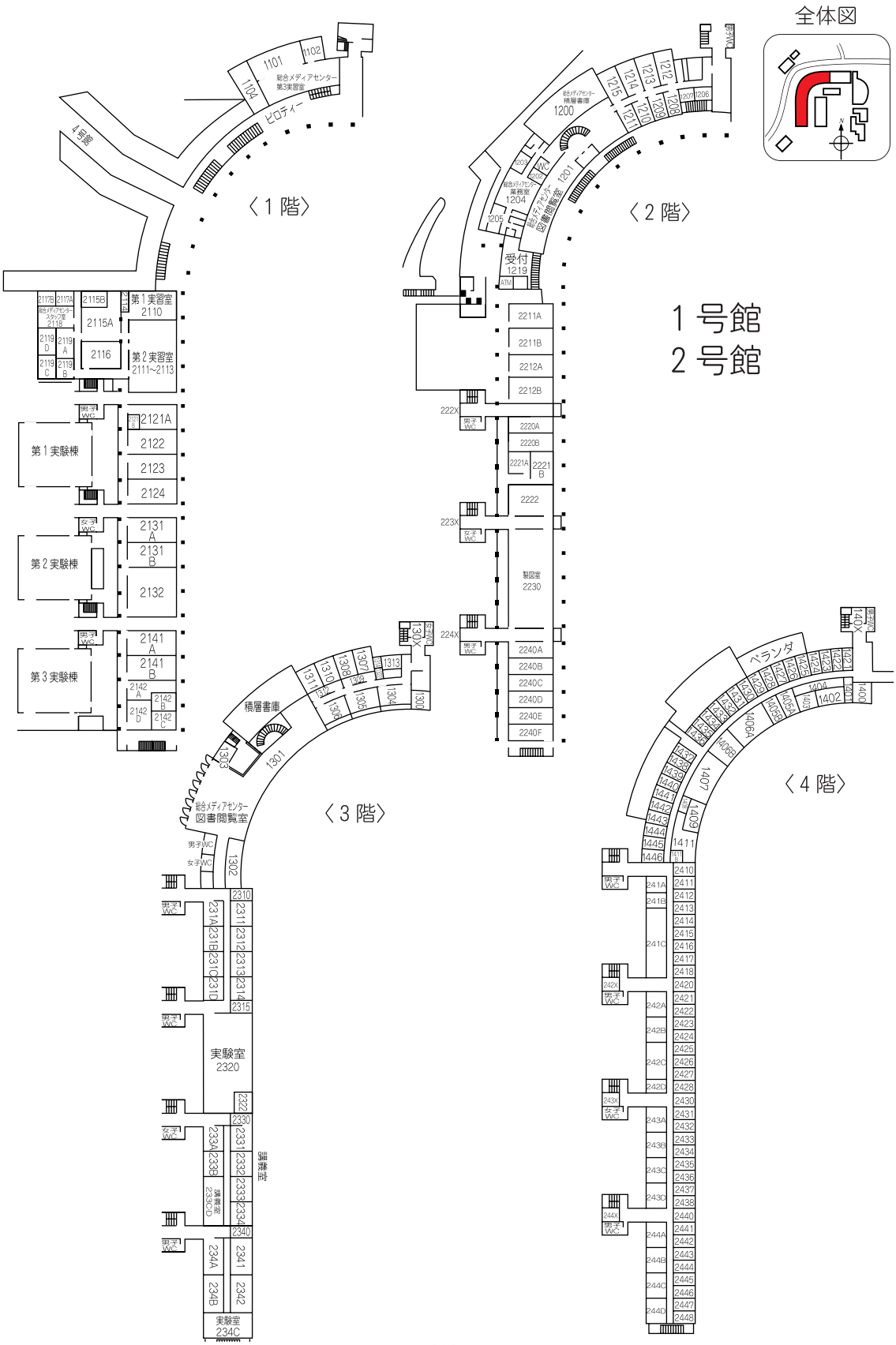


10号館（本館）

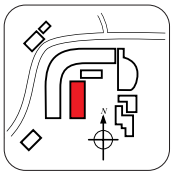

〈1階〉
広報センター
ピロティー
エントランスホール
庶務担当
教務担当
講師室
学生厚生担当
掲示ホール
健康相談室
WC
WC
倉庫
EV
115教室
学生相談室
男子WC
パソコン準備室
女子WC
パソコン教室
117教室


〈2階〉
213教室
女子WC
男子WC
アトリウム
212教室
211教室
210教室
209教室
208教室
207教室
206教室
プレゼンテーションホール
201
映像システム室
ステージ
EV
ロピー
倉庫
男子WC
メディアルーム
操作室
女子WC
情報端末コーナー
第2メディアルーム
204
第1メディアルーム
203
11・12号館へ


〈3階〉
産官学交流センター
8号館へ
第3会議室
第5会議室
アトリウム
第2会議室
プレゼンテーションホール上部
映像機械室
第1会議室
EV
女子WC
第4会議室
男子WC
屋上
理工学部長室
秘書室
ロピー
学長室
法人本部室
屋上
理事長室

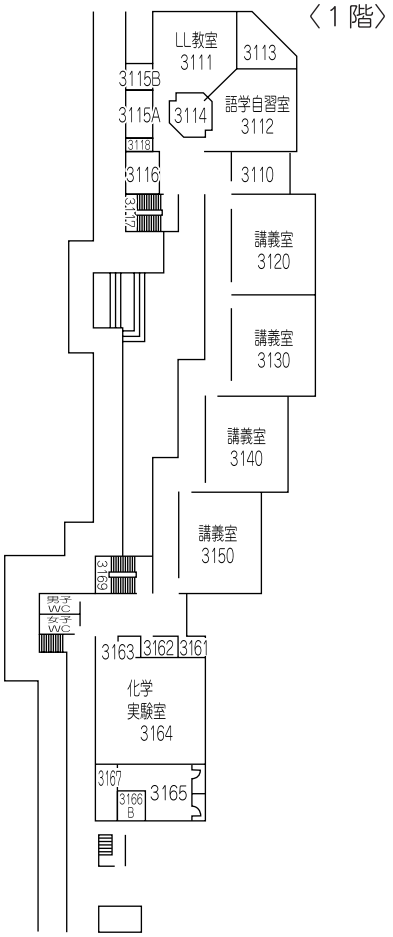

全体図
1号館
2号館
〈1階〉
〈2階〉
〈3階〉
〈4階〉
1号館
ピロティー
総合メディアセンター 第3実習室
1101
1102
1104
第1実習室 2110
第2実習室 2111~2113
2115A
2115B
2116
2117A
2117B
2118
2119A
2119B
2119C
2119D
第1実験棟
第2実験棟
第3実験棟
2121A
2122
2123
2124
2131A
2131B
2132
2141A
2141B
2142A
2142B
2142C
2142D
総合メディアセンター 図書閲覧室
1200
1201
1202
1203
1204
1205
1206
1207
1208
1209
1210
1211
1212
1213
1214
1215
受付 1219
ATM
2211A
2211B
2212A
2212B
2220A
2220B
2221A
2221B
2222
2230
製図室
2240A
2240B
2240C
2240D
2240E
2240F
222X
223X
224X
1300
1301
1302
1303
1304
1305
1306
1307
1308
1309
1310
1311
1312
1313
積層書庫
実験室 2320
講義室
2310
2311
2312
2313
2314
2315
2330
2331
2332
2333
2334
2340
2341
2342
実験室 234C
231A
231B
231C
231D
233A
233B
233C
233D
234A
234B
1400
1401
1402
1403
1404
1405
1406A
1406B
1407
1408
1409
1411
ベランダ
2410
2411
2412
2413
2414
2415
2416
2417
2418
2420
2421
2422
2423
2424
2425
2426
2427
2428
2430
2431
2432
2433
2434
2435
2436
2437
2438
2440
2441
2442
2443
2444
2445
2446
2447
2448
241A
241B
241C
242A
242B
242C
242D
243A
243B
243C
243D
244A
244B
244C
244D

全体図

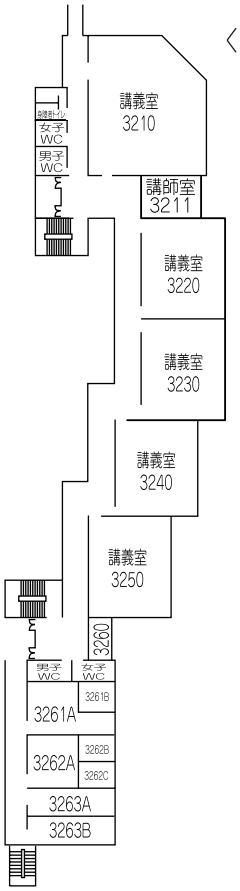


3号館（講義棟）

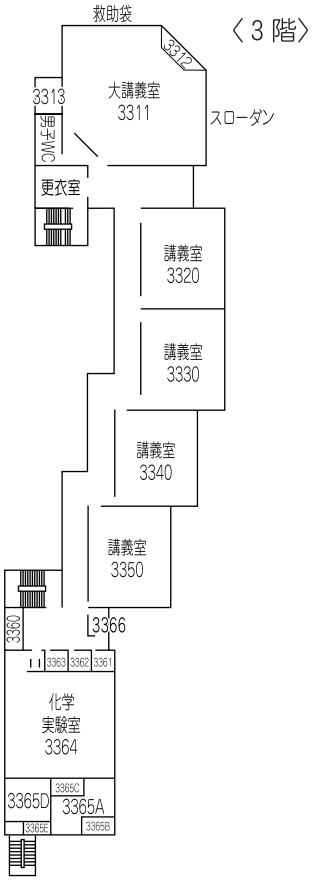
〈1階〉



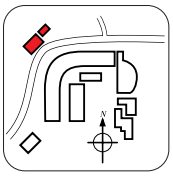
〈2階〉



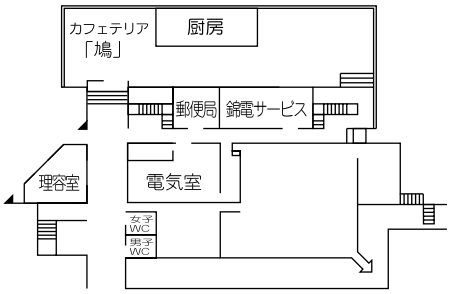
〈3階〉



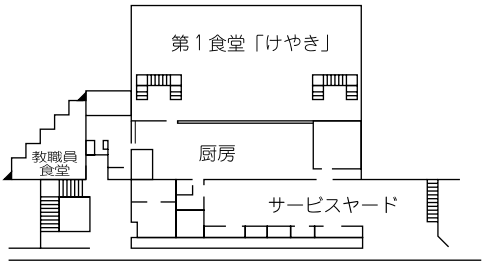
全体図



4 号館（厚生棟）

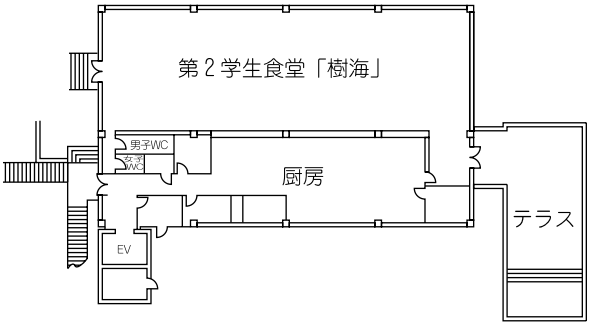


〈1 階〉



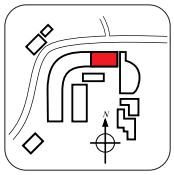
〈2 階〉

7 号館（厚生棟）



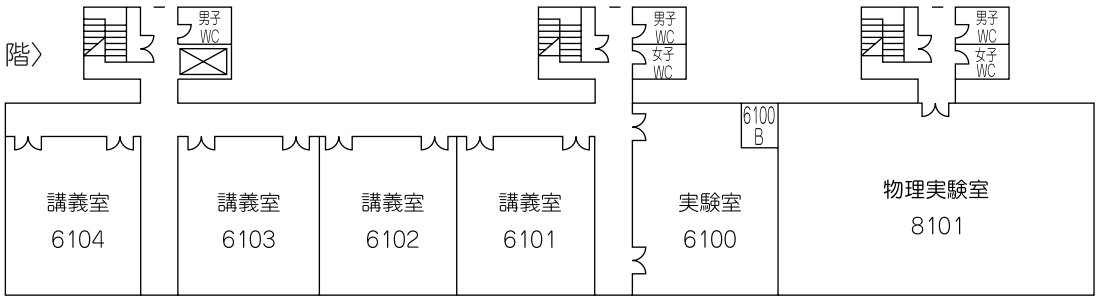
〈1 階〉

全体図

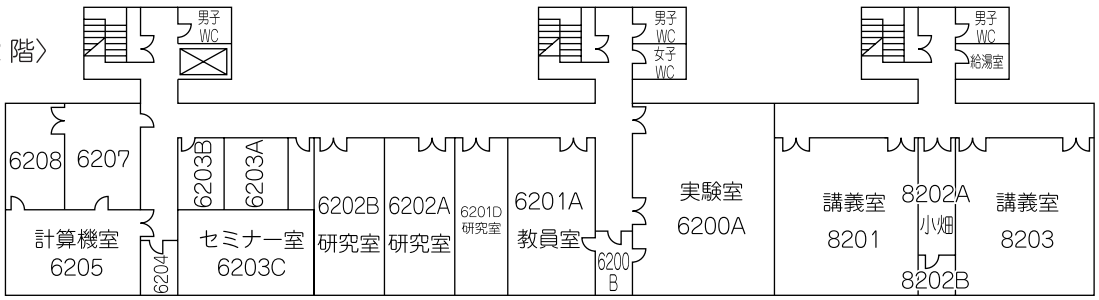


6・8号館

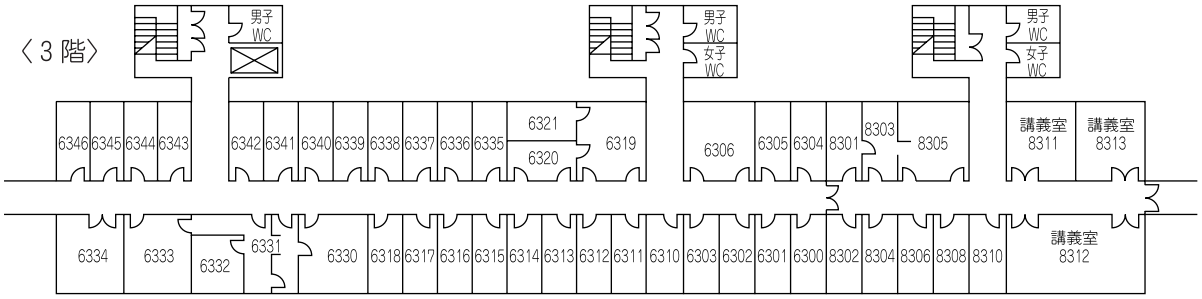
〈1階〉



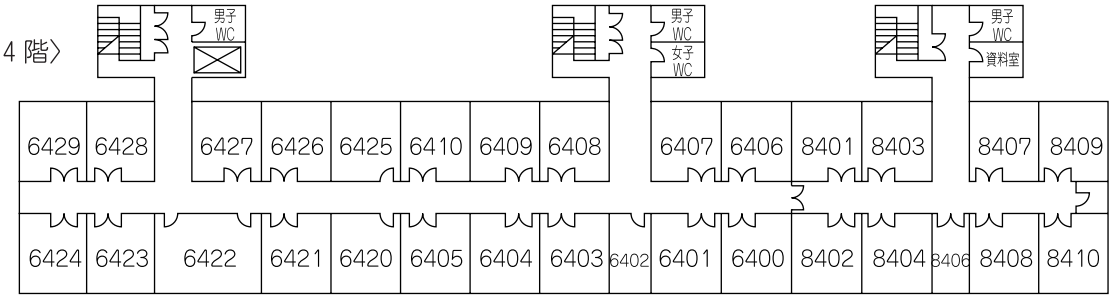
〈2階〉



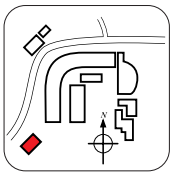
〈3階〉



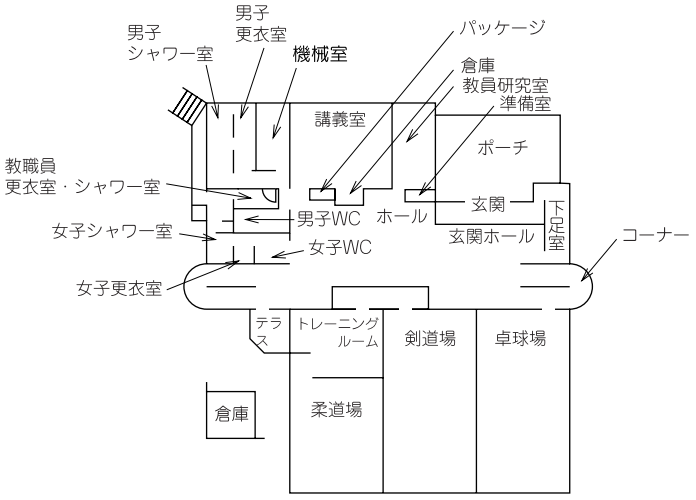
〈4階〉



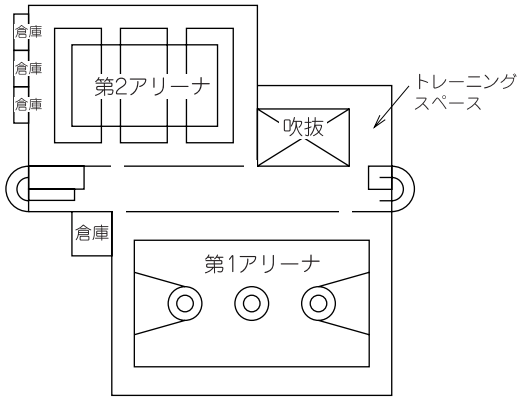
全体図



5号館（体育館）

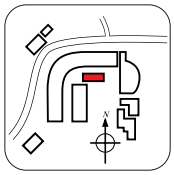


〈1階〉



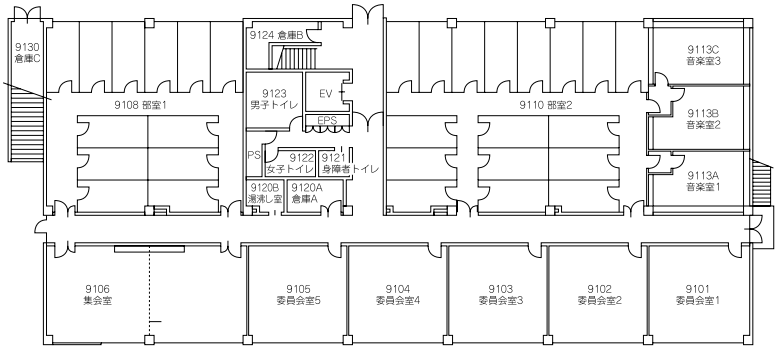
〈2階〉

全体図

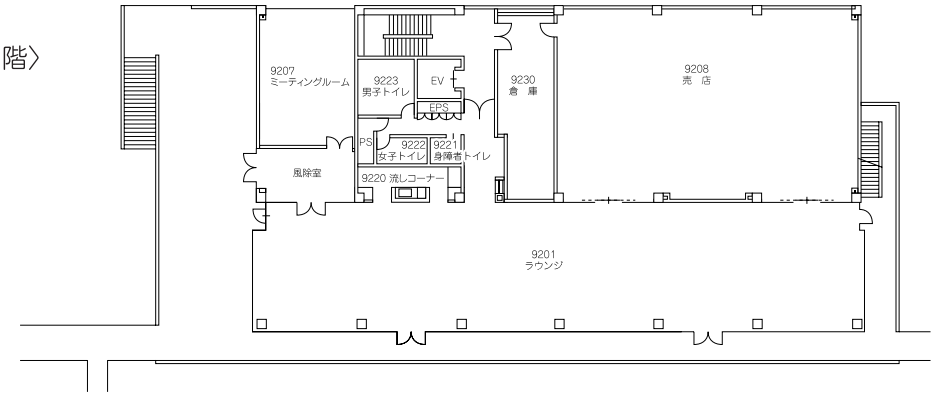


9号館

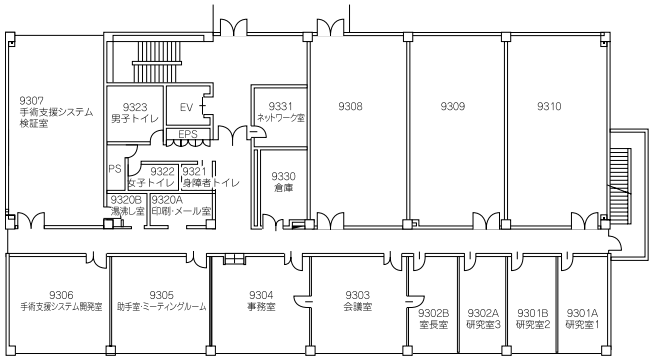
〈1階〉



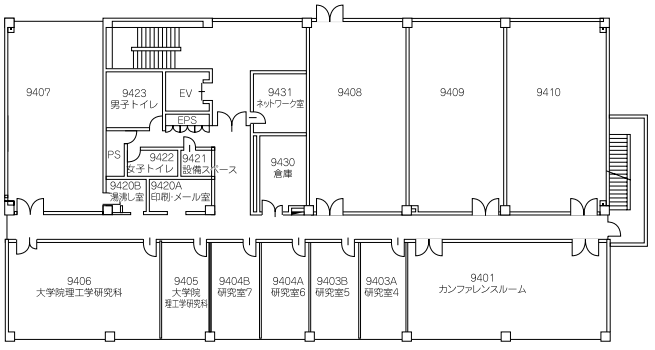
〈2階〉



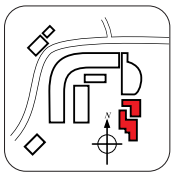
〈3階〉



〈4階〉



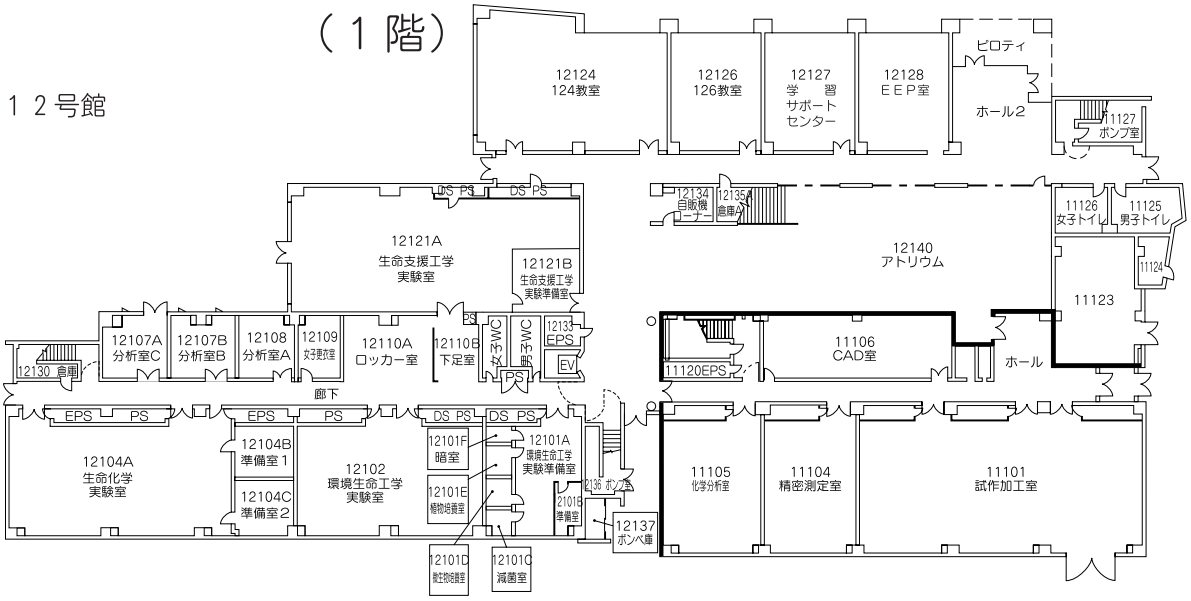
全体図



12号館
11号館（フロンティア共同研究センター）

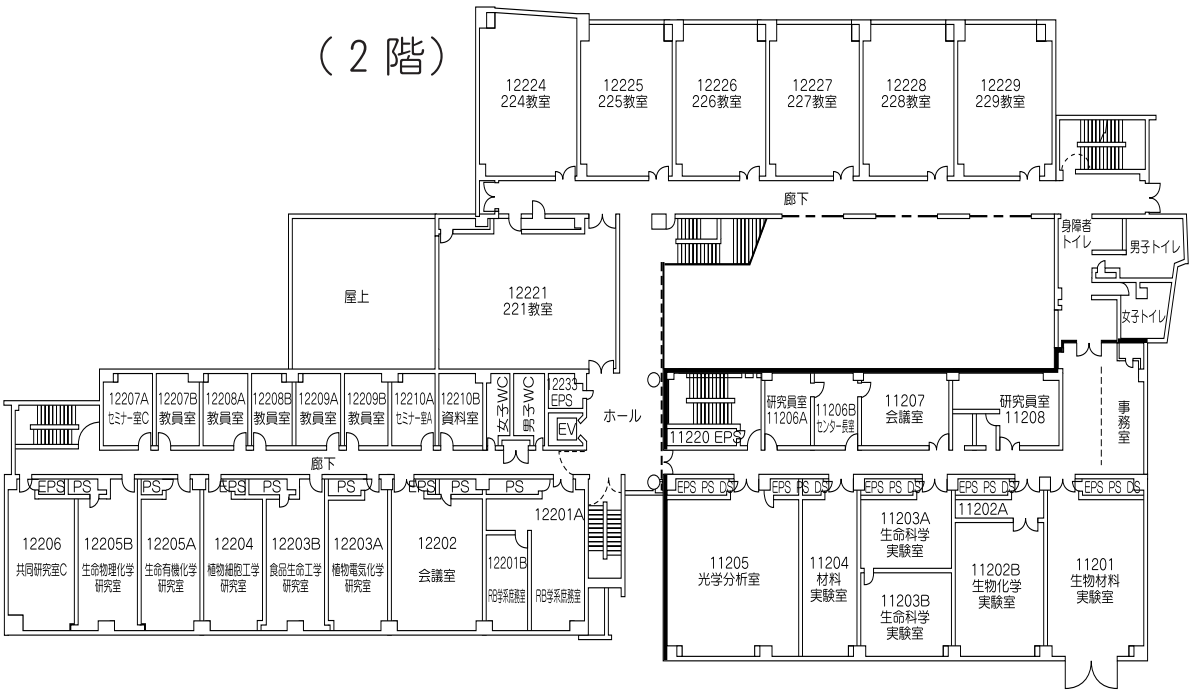
（１階）

１２号館

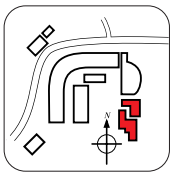


フロンティア共同研究センター

（２階）



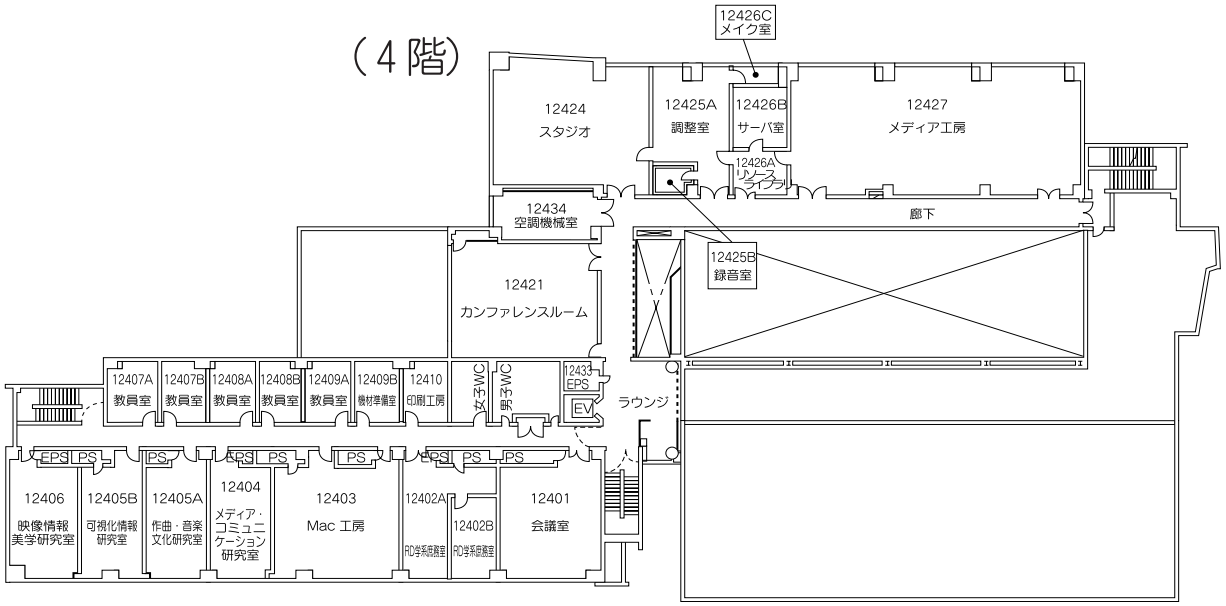
全体図



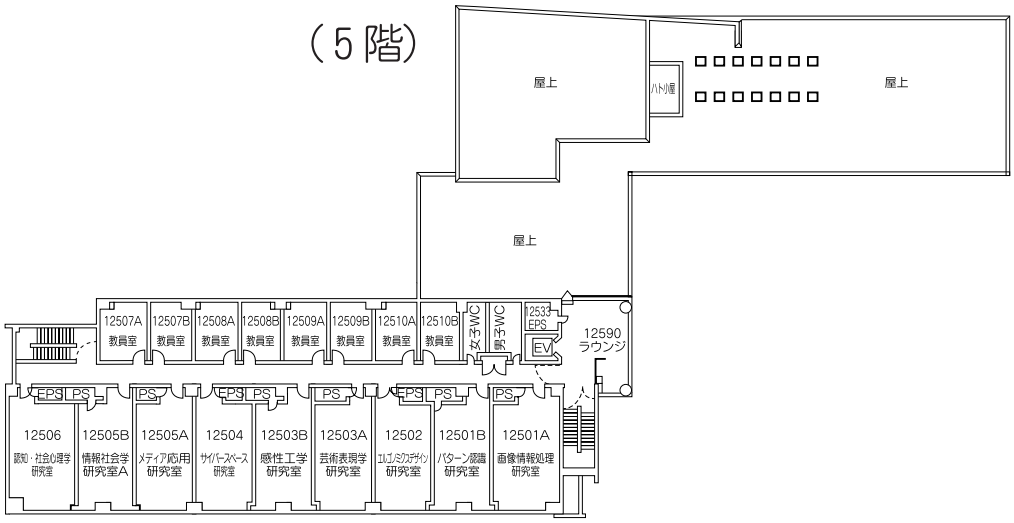
（3階）

12324 324教室
12325 325教室
12326 326教室
12327 327教室
12328 328教室
12329 329教室
廊下
12321 321教室
身障者トイレ
男子トイレ
女子トイレ
12307A 教員室
12307B 教員室
12308A 教員室
12308B 教員室
12309 講師室(B)
12310 セミナー室B
女子WC
男子WC
12333 EPS
EV
ホール
11306 物性科学研究室
11307 実験室3
11308A 研究員室
11308B X線撮影室
EPS
廊下
PS
12306 細胞分子生物学研究室
12305B 臨床医用科学研究室
12305A 医用福祉工学研究室
12304 生命医用工学研究室
12303 共同研究室B
12302 共同研究室A
12301 実習室
PS DS
11305A 半無響室
11305B
11304 実験室2
11301 実験室1

（4階）


12426C メイク室
12424 スタジオ
12425A 調整室
12426B サーバ室
12427 メディア工房
12426A リソースライブラリ
12434 空調機械室
廊下
12425B 録音室
12421 カンファレンスルーム
12407A 教員室
12407B 教員室
12408A 教員室
12408B 教員室
12409A 教員室
12409B 機材準備室
12410 印刷工房
女子WC
男子WC
12433 EPS
EV
ラウンジ
PS
12406 映像情報美学研究室
12405B 可視化情報研究室
12405A 作曲・音楽文化研究室
12404 メディア・コミュニケーション研究室
12403 Mac 工房
12402A RD学系図書室
12402B RD学系図書室
12401 会議室

（5階）

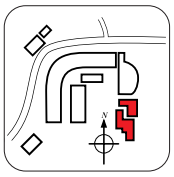

屋上
ハト小屋
屋上
屋上
12507A 教員室
12507B 教員室
12508A 教員室
12508B 教員室
12509A 教員室
12509B 教員室
12510A 教員室
12510B 教員室
女子WC
男子WC
12533 EPS
EV
12590 ラウンジ
PS
12506 認知・社会心理学研究室
12505B 情報社会学研究室A
12505A メディア応用研究室
12504 サイバースペース研究室
12503B 感性工学研究室
12503A 芸術表現学研究室
12502 エルゴノミクスデザイン研究室
12501B パターン認識研究室
12501A 画像情報処理研究室

鳩山キャンパス 教員室一覧

全体図

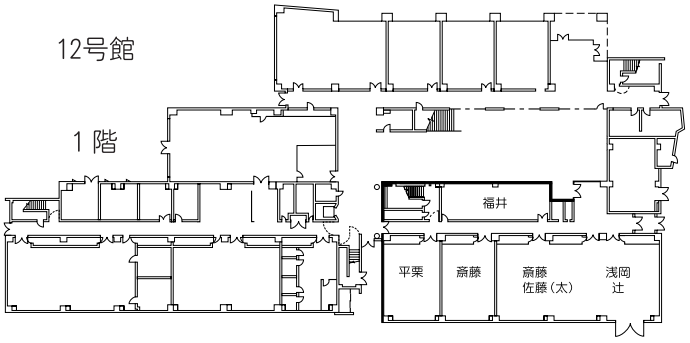


全体図



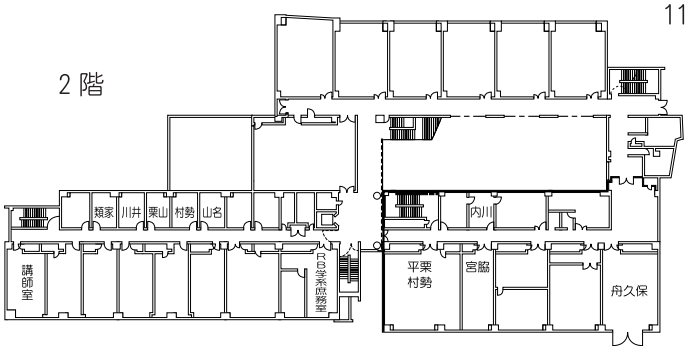
12号館

1 階

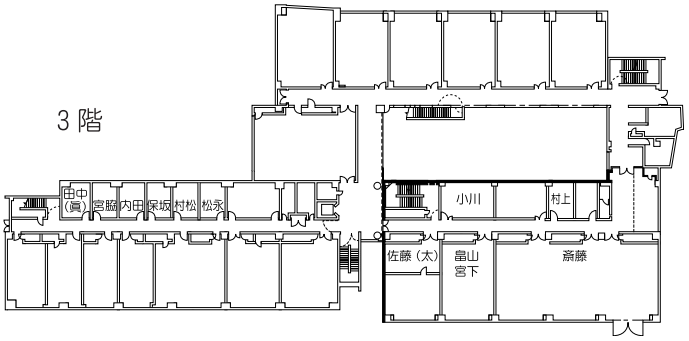


11号館（フロンティア共同研究センター）

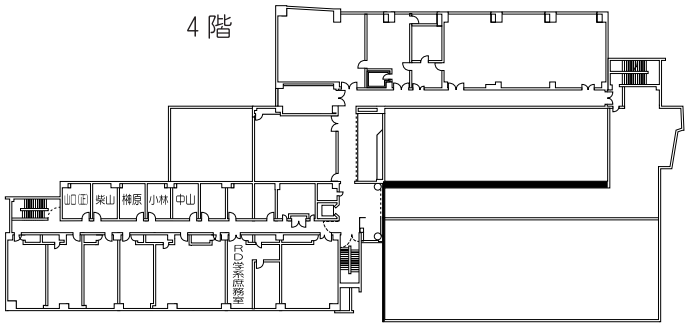
2 階



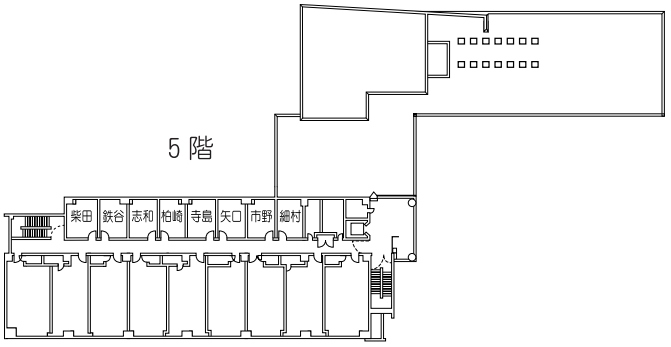
3 階



4 階



5 階



理工学部教員一覧

（平成21年２月28日現在）

＊は学系長、群主任

理　学　系

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
＊小　川　英　生	教　　授	2142Ｄ
荒　牧　淳　一	教　　授	1428
内　門　　茂	教　　授	6338
大　塚　尚　久	教　　授	6316
岡　本　博　司	教　　授	3261Ｂ
小田垣　　孝	教　　授	6314
勝　野　裕　文	教　　授	6317
狩　野　弘　之	教　　授	6337
木　下　　彬	教　　授	3262
中　野　哲　夫	教　　授	1425
硲　　文　夫	教　　授	6303
山　形　周　二	教　　授	1422
井　上　　真	准　教　授	3263
越　智　禎　宏	准　教　授	1430
仲　光　邦　昭	准　教　授	6304
本　橋　　章	准　教　授	6300
山　室　憲　子	准　教　授	3365Ｂ
類　家　正　稔	准　教　授	12207Ｂ
小　黒　　隆	講　　師	1427
高　橋　秀　慈	講　　師	1421
向　山　義　治	講　　師	3365Ｃ
日　髙　章　理	助　　教	6336
吉　武　裕美子	助　　教	6302

生命理工学系

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
＊川　井　　悟	教　　授	12208Ａ
栗　山　　昭	教　　授	12208Ｂ
田　中　眞　人	教　　授	12307Ａ
村　勢　則　郎	教　　授	12209Ａ

氏　　名	職　　名	室　番　号
山　名　昌　男	教　　授	12209Ｂ
村　松　和　明	准　教　授	12309
長　原　礼　宗	講　　師	12206
安　部　智　子	助　　教	
松　永　直　樹	助　　手	12309

情報システムデザイン学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊佐　藤　定　夫	教　　授	6305
石　塚　正　英	教　　授	1441
市　野　　学	教　　授	12510Ａ
柏　﨑　尚　也	教　　授	12508Ｂ
勝　又　洋　子	教　　授	1438
古　東　　馨	教　　授	1426
小　林　春　美	教　　授	12408Ｂ
志　和　新　一	教　　授	12508Ａ
陳　　致　中	教　　授	1424
寺　島　悦　恩	教　　授	12509Ａ
中　村　克　彦	教　　授	2414
細　村　　宰	教　　授	12510Ｂ
町　原　文　明	教　　授	6346
山　口　正　二	教　　授	12407Ａ
三　井　浩　康	特任教授	
柴　田　良　二	准　教　授	12507Ａ
築　地　立　家	准　教　授	6339
藤　本　　衡	准　教　授	6345
松　浦　昭　洋	准　教　授	2412
矢　口　博　之	准　教　授	12509Ｂ
片　岡　一　夫	講　　師	1423
柴　山　拓　郎	講　　師	12407Ｂ
徳　田　太　郎	講　　師	6315
中　山　　洋	講　　師	12409Ａ
泉　　智　紀	助　　教	241Ｃ
高　橋　達　二	助　　教	241Ｃ

氏　　名	職　　名	室　番　号
笹　川　隆　史	助　　手	
澁　谷　智　志	助　　手	

電子・機械工学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊内　川　義　則	教　　授	8308
浅　岡　照　夫	教　　授	2427
内　田　干　城	教　　授	12308Ａ
樫　村　幸　辰	教　　授	2433
斎　藤　之　男	教　　授	2428
富　田　英　雄	教　　授	8304
羽根吉　寿　正	教　　授	2421
福　井　康　裕	教　　授	6314
舟久保　昭　夫	教　　授	6312
保　坂　栄　弘	教　　授	12308Ｂ
星　野　　洋	教　　授	8304
宮　脇　富士夫	教　　授	12307Ｂ
角　田　興　俊	特任教授	2434
小　畑　修　二	准　教　授	8202
榊　原　洋　子	准　教　授	12408Ａ
安　部　誠　一	講　　師	2430
田　中　慶　太	助　　教	6311
塚　本　壮　輔	助　　教	6311
梅　村　敦　史	助　　手	2430
大　越　康　晴	助　　手	6310
小　平　和　仙	助　　手	2132

建築・都市環境学系

氏　　名	職　　名	室　番　号
＊見　村　博　明	教　　授	2448
有　田　正　光	教　　授	2441
井　浦　雅　司	教　　授	2437
近　津　博　文	教　　授	2443
中　井　正　則	教　　授	2447
中　尾　雅　躬	教　　授	2445

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
松　井　邦　人	教　　授	2446
安　田　　進	教　　授	2442
岩　城　和　哉	准　教　授	2444
高　田　和　幸	准　教　授	2436
武　村　　武	助　　教	244Ｄ
田　中　智　宏	助　　教	244Ｃ
根　本　修　平	助　　手	244Ｃ

共通教育群

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
＊石　村　多　門	教　　授	1442
岡　林　　茂	教　　授	1437
掛　水　　隆	教　　授	1435
越　川　邦　夫	教　　授	1436
小　島　　勇	教　　授	1400
細　川　正　昭	教　　授	1434
前　島　康　男	教　　授	1445
若　松　征　男	教　　授	1440
遠　藤　晶　子	准　教　授	1432
小山内　　大	准　教　授	1433
前　原　健　二	准　教　授	1444
松　平　圭　一	准　教　授	1446
池　田　瑞　音	講　　師	1443
木　村　二三夫	講　　師	3165
細　田　真妃子	講　　師	6301
山　岸　日　出	講　　師	1431
足　立　直　也	助　　教	3165
野　田　達　也	助　　手	5104Ａ

非常勤教員

氏　　名	職　　名	室　　番　　号
青　野　裕　一	非常勤助手	
我　妻　　洋	非常勤講師	
天　畠　一　郎	非常勤助手	
池　辺　一　彦	非常勤講師	

氏　　名	職　　名	室　番　号
石　川　智　弥	非常勤講師	
市　川　美　知	非常勤講師	
出　澤　正　徳	非常勤講師	
糸　井　江　美	非常勤講師	
伊　藤　博　之	非常勤講師	
井　上　浩三郎	非常勤講師	
井　上　　健	非常勤講師	
岩　田　憲　和	非常勤講師	
氏　家　　豊	非常勤講師	
牛　島　　栄	非常勤講師	
内　田　　明	非常勤講師	
大　賀　寿　郎	非常勤講師	
大　澤　佳　美	非常勤助手	
大　隅　　昇	非常勤講師	
小　田　高　広	非常勤講師	
落　合　　良	非常勤講師	
カイラン・アリムカン	非常勤講師	
勝　　忠　義	非常勤講師	
勝　本　正　之	非常勤講師	
加　藤　綾　子	非常勤講師	
河　津　　璋	非常勤講師	
川　瀬　正　壽	非常勤講師	
川　添　善　行	非常勤講師	
木　津　潤　平	非常勤講師	
日　鼻　宏　一	非常勤講師	
工　藤　　豊	非常勤講師	
栗　原　文　香	非常勤講師	
黒　田　俊　郎	非常勤講師	
小　泉　寿　男	非常勤講師	
小　泉　力　一	非常勤講師	
河　内　香　織	非常勤講師	
河　野　次　郎	非常勤講師	
小久保　孝　芳	非常勤講師	

氏　　名	職　　名	室　番　号
小　沼　史　彦	非常勤講師	
小　原　政　敏	非常勤講師	
近　谷　英　昭	非常勤講師	
坂　口　裕　志	非常勤講師	
櫻　木　直　美	非常勤講師	
佐　藤　誠四郎	非常勤講師	
佐　藤　達　雄	非常勤講師	
里　見　忠　篤	非常勤講師	
佐　野　彰　一	客員教授	
嶋　田　芳　男	非常勤講師	
島　村　徹　也	非常勤講師	
志　水　賢　二	非常勤講師	
志　村　　勉	非常勤講師	
ジャーク　ミルティル	非常勤講師	
Sean Joseph Kennedy	英語インストラクター	12128
鈴　木　源　治	非常勤助手	
清　野　聡　子	非常勤講師	
相　馬　輝　彦	非常勤講師	
高　倉　あゆみ	非常勤助手	
高　瀬　忠　重	非常勤講師	
高　楯　信　雄	非常勤講師	
滝　沢　　誠	非常勤講師	
竹　本　清　香	非常勤講師	
田　中　美　和	非常勤講師	
谷　井　一　者	非常勤講師	
張　　国　璐	非常勤講師	
塚　原　謙太郎	非常勤助手	
堤　　理　英	英語インストラクター	12128
ディーン　クレル	英語インストラクター	12128
照　井　俊　朗	非常勤講師	
土　井　香乙里	英語インストラクター	12128
戸　田　誠之助	非常勤講師	
鳥谷部　　達	非常勤講師	

氏　　名	職　　名	室　番　号
奈　尾　信　英	非常勤講師	
中　島　禎　志	非常勤講師	
中　島　　保	非常勤講師	
中　島　浩　貴	非常勤講師	
中　谷　隆　之	非常勤講師	
中　間　正　人	非常勤講師	
新　堀　克　美	非常勤講師	
濁　川　孝　志	非常勤講師	
ﾇﾙﾒﾒｯﾄ・ｱﾋﾆﾔｽﾞ	非常勤講師	
野　口　佳　子	非常勤講師	
長谷川　悦　朗	非常勤講師	
畠　山　　晋	非常勤講師	
八　谷　好　高	非常勤講師	
花　岡　一　男	非常勤講師	
林　　直　樹	非常勤講師	
姫　野　賢　治	非常勤講師	
廣　嶋　早　苗	非常勤講師	
福　島　祥一郎	英語インストラクター	12128
福　島　　博	非常勤講師	
藤　井　弘　義	非常勤講師	
藤　澤　英　幸	非常勤講師	
ブレア　トムスン	英語インストラクター	12128
星　野　時　二	非常勤講師	
増　島　高　敬	非常勤講師	
増　田　晴　美	非常勤講師	
松　井　芳　彦	非常勤講師	
松　元　明　弘	非常勤講師	
松　本　文　士	非常勤助手	
松　本　洋　二	非常勤講師	
美　頭　千不美	非常勤講師	
皆　川　孝　昭	非常勤助手	
宮　寺　庸　造	非常勤講師	
村　山　美佐緒	非常勤講師	

氏　　名	職　　名	室　番　号
メメット　マイヌル	非常勤講師	
本　山　美　穂	非常勤講師	
山　口　陽　子	非常勤講師	
山　田　祐　理	非常勤講師	
山　本　寿　武	非常勤講師	
吉　本　國　春	非常勤講師	
呂　　小　燕	非常勤講師	
林　　鳴　宇	非常勤講師	

第 9 章

学則および諸規定

- 大学学則
- 学生生活についての規程
- 試験に関する細則
- 特別奨学生規程
- 理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

東京電機大学学則

第1章　総　　則

（目的・使命）

第1条　本大学は、学校教育法による最高の教育機関として、民主的社会人としての教養を涵養するとともに、深く専門の学芸を教授・研究し、その知的道徳的能力を展開させ、もって優秀な人材を養成することを目的とする。

（自己評価等）

第2条　本大学においては、教育研究水準の向上を図り、大学の目的および社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果を公表するものとする。

2　前項の点検および評価は、その趣旨に則して適切に項目を設定し、かつ適切な体制のもとに行う。

3　本大学は、第1項の点検および評価の結果について、学外者による検証を行うよう努めるものとする。

4　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

第2章　組　　織

（学部・学科の組織）

第3条　本大学に、次の学部および学科を置く。

工学部
　電気電子工学科
　環境化学科
　機械工学科
　情報通信工学科
工学部第二部
　電気電子工学科
　機械工学科
　情報通信工学科

理工学部
　理工学科
情報環境学部
　情報環境学科
未来科学部
　建築学科
　情報メディア学科
　ロボット・メカトロニクス学科

2　前項の各学科の入学定員、編入学定員および収容定員は、別表第 1 とする。

（大学院）

第 4 条　本大学に、大学院を置く。大学院に関する規則は別に定める。

（総合メディアセンター・研究所等）

第 5 条　本大学に、総合メディアセンターを置く。

2　本大学に、次の研究所を置く。

　総合研究所、先端工学研究所（ハイテク・リサーチ・センターを含む）、建設技術研究所、フロンティア共同研究センター

3　前 2 項のほか、実習工場、その他教育・研究に必要な施設を置く。

第 3 章　運営の機関および教職員

（学長・学部長等）

第 6 条　本大学に、学長をおく。学長は、校務をつかさどり、大学を代表する。学長の選出に関する規則は、別に定める。

2　各学部に、学部長をおく。学部長は当該学部に関する学務をつかさどる。

3　前 2 項のほか、教育・研究の運営上必要な職をおく。

（職　員）

第 7 条　教育職員として、教授、准教授、講師、助教および助手をおく。

2　事務職員、技術職員、および必要な職員をおく。

（学部教授会）

第 8 条　各学部に、教授会を置く。

2　教授会は、その学部の教授をもって組織する。但し、必要があるときは、その学部の准教授および専任の講師を、教授会に出席させることができる。

3　教授会は、学部長が招集する。

（連合・合同教授会）

第 9 条　工学部および工学部第二部については、その連合教授会をひらくことができる。

2　学長は、全学部の合同教授会を招集することができる。

（審議事項）

第10条　教授会は、その学部に関する次の事項を審議する。

①　学生の入学・進級・卒業・休学・退学等に関する事項

②　学位授与に関する事項

③　教職課程および授業に関する事項

④　履修・試験・成績等に関する事項

⑤　学生の厚生補導および賞罰に関する事項

⑥　学則の改正に関する事項

⑦　学部長の推挙に関する事項

⑧　学科長および系列主任の選定に関する事項

⑨　教授、准教授、講師、助教および助手の人事に関する事項

⑩　学部長が諮問した事項

⑪　その他教育・研究に関する事項

2　教授会は、大学全般にわたるもしくは各学部に共通する次の事項を審議する。

但し、必要があるときは、合同教授会においてこれを審議する。

①　学長の推挙に関する事項

②　学長室長、入試センター長、学生支援センター長、研究企画室長および総合メディアセンター長の選定に関する事項

③　学長が諮問した事項

④　その他の重要な事項

第 4 章　　修学期間および授業

（修業年限）

第11条　修業年限は、 4 年とする。

（最長在学年限）

第12条　最長在学年限は、 8 年とする。但し、編入学、転入学、および再入学した者の最長在学年限は、その者の在学すべき年数の 2 倍に相当する年数とする。

（学年・学期・授業期間）

第13条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月31日に終る。

２　学年を、次の２つの学期に分ける。

①　工学部、工学部第二部、理工学部、未来科学部

前学期　４月１日から９月15日まで

後学期　９月16日から翌年３月31日まで

②　情報環境学部

前学期　４月１日から８月31日まで

後学期　９月１日から翌年３月31日まで

３　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

４　各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

（休業日）

第14条　休業日は、次の通りとする。

日　曜　日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

創立記念日　９月11日

夏季休業

①　工学部、工学部第二部、理工学部、未来科学部

７月26日から９月15日まで

②　情報環境学部

７月10日から８月31日まで

冬季休業　12月21日から翌年１月７日まで

春季休業　３月21日から４月３日まで

但し、必要があるときは、休業日を変更し、または臨時に休業日を定めることができる。

２　休業中でも、特別の必要があるときは、授業を行うことがある。

（授業の時）

第15条　工学部、理工学部、情報環境学部および未来科学部は昼間に、工学部第二部は夜間に、授業を行う。

第５章　　教育課程および単位

（教育課程の編成方針）

第16条　本大学においては、学部および学科または課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

２　教育課程の編成に当たっては、当該学部および学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

３　本大学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究の実施に努めるものとする。

（授業科目）

第17条　授業科目の区分は、共通教育科目、専門教育科目および教職に関する科目とし、それぞれ別表第３－１、第３－２のとおり開講する。

２　各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、各年次に配当して編成する。ただし、自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。

３　共通教育科目として、特定の主題について２以上の科学の分野にわたる内容を総合した科目を設けることができる。

（履修の要件）

第18条　工学部、工学部第二部、理工学部、情報環境学部および未来科学部の各々における履修の要件については、それぞれ別表第２－１、第２－２、第２－３、第２－４および第２－５のとおりとする。

２　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として修得すべき単位数について、１年間または１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、別に定める。

３　所定の単位を優れた成績をもって修得した学生について、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認定することについては、別に定める。

（他学部等の科目履修）

第19条　本大学の学生が所属する学部の他学科または他学部の学科において履修し、修得した授業科目の単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、当該学生が所属する学科における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項により修得したものとみなすことのできる科目および単位数等は、各学部において定めるものとする。

（教員の免許状授与の所要の資格の取得）

第20条　教育職員の免許を取得しようとする者は、教職に関する科目および必要な授業科目を修得しなければならない。

2　本大学において取得できる免許状の種類ならびに教職に関する科目および必要な授業科目は別表第４とする。

（単位の算定基準）

第21条　各授業科目の単位数は、各学部教授会において定めるものとする。

2　授業科目の単位数の算定に当たっては、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、原則として、授業の方法に応じ、次のとおり単位数を計算するものとする。

①　講義および演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

②　実験、実習、製図、および実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

3　前項の規定にかかわらず、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を考慮して単位数を定めることができる。

第６章　　試験、成績、進級、卒業および学位授与

（履修届）

第22条　学生は、履修する授業科目につき、指定の期限までに、履修届を提出しなければならない。

（試　験）

第23条　授業科目の履修終了の認定のため、試験を行う。但し、授業科目によっては、平常の成績をもって試験に代えることができる。

（試験の方法・時期）

第24条　試験は、筆記、口述、または論文審査等の方法により行う。

2　試験の時期は、学期末とする。但し、必要があるときは、その他の時期においても行うことができる。

（受験資格）

第25条　学生は、本学則、およびこれに基づいて定められた規則に従って履修した授業科目についてのみ、試験を受けることができる。

（成績評価・単位認定）

第26条　試験の成績は、S、A、B、C、およびDとし、S、A、B、およびCを合格とし、Dを不合格とする。

2　試験に合格した授業科目については、その授業科目について定められた単位を与える。

（他の大学等における授業科目の履修等）

第27条　本大学の学生が本大学に入学した後に他の大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、60単位を超えない範囲で本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、本大学の学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合および外国の大学または短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第28条　本大学の学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2　前項により与えることができる単位数は、前条第1項および第2項により本大学において修得したものとしてみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（入学前の既修得単位等の認定）

第29条　本大学の学生が本大学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生によって修得した単位を含む。）のうち、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学に入学した後の本大学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　本大学の学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、教授会が教育上有益と認めたものは、本大学における履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学等の場合をのぞき、本大学において修得した単位以外のものについては、前々条第1項および第2項並びに前条第1項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

（進　級）

第30条　本大学においては、学生の単位修得の状況を考慮し、上級学年次に進みその学年次に配当された授業科目を履修するための条件を定めることができる。

2　前項の条件をみたさない者は、原学年次に留年する。

（卒　業）

第31条　本大学は、４年以上在学し、第18条別表第２－１、第２－２、第２－３、第２－４および第２－５に規定する履修の要件に従い、工学部、工学部第二部、理工学部および情報環境学部において、各合計124単位以上、未来科学部建築学科において、合計136単位以上、未来科学部情報メディア学科およびロボット・メカトロニクス学科において、合計128単位以上を修得した者を卒業と認定する。

２　本大学が文部科学大臣の定めるところにより、本大学の学生として３年以上在学した者（これに準ずるものとして文部科学大臣が定めるものを含む。）で、卒業の要件として本大学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合の卒業の取扱いは、前項の規定にかかわらず、別に定める。

（学位の授与）

第32条　本大学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

２　前項の学士の学位に付記する名称は、次のとおりとする。

工　学　部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	環境化学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
工学部第二部	電気電子工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	機械工学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報通信工学科	学士（工学）（東京電機大学）
理　工　学　部	理工学科	学士（理学）（東京電機大学）
		学士（工学）（東京電機大学）
		学士（情報学）（東京電機大学）
情報環境学部	情報環境学科	学士（情報環境学）（東京電機大学）
未来科学部	建築学科	学士（工学）（東京電機大学）
	情報メディア学科	学士（工学）（東京電機大学）
	ロボット・メカトロニクス学科	学士（工学）（東京電機大学）

第７章　　入学、学籍の異動、および賞罰

（入学の時期）

第33条　入学の時期は、学年もしくは学期の始めとする。

（入学資格）

第34条　本大学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

①　高等学校を卒業した者もしくは通常の課程による12年の学校教育を修了した者

②　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

③　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

④　文部科学大臣の指定した者

⑤　高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

⑥　その他、本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学志願手続）

第35条　入学志願者は、指定の期間内に、入学志願手続をとらなければならない。

（入学者の選考）

第36条　本大学に入学するには、入学者の選考に合格しなければならない。

2　入学者の選考は、学力検査、調査書の審査、面接、健康診断等の方法により行う。

（入学手続）

第37条　入学者の選考に合格した者は、指定の期日までに、保証人連署の誓約書その他必要な書類に、別表第５に定める学費を添えて、入学の手続をしなければならない。

2　学長は、前項の入学手続を完了した者に、入学を許可する。

（保証人）

第38条　学生は、在学中、保証人がなければならない。

2　保証人は、父、母、またはその他の成年者で、独立の生計を営む者でなければならない。

3　保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負う。

（変更の届）

第39条　学生は、氏名、本籍、住所、および保証人もしくはその住所に変更があったときは、すみやかに届出なければならない。

（編入学・転入学）

第40条　次の各号のいずれかに該当する者が、所定の手続を経て、編入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。但し、情報環境学部においては、編入学定員の範囲内において選考のうえ、許可する。

①　大学を卒業した者

②　短期大学を卒業した者

③　高等専門学校を卒業した者

④　他の大学で１年以上を修了した者

⑤　その他法令により編入学を認められた者

２　他の大学の学生が、所定の手続を経て、転入学を願い出たときは、定員に余裕のある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

３　前２項により編入学または転入学した者の在学年数には、本条による入学以前の学校在学年数の全部または一部を算入する。

４　本大学の学生が他の大学に転入学を志望するときは、事情により許可することがある。

（転学部・転学科）

第41条　本大学の学生が転学部または転学科を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。

２　転学部または転学科した者の在学年数には、前に在籍した学部または学科の在学年数の全部または一部を算入する。

（休　学）

第42条　傷病またはやむを得ない理由により、ひき続き３ケ月以上出席することができない者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、休学を願い出て、学部長の許可を受けて休学することができる。

（休学期間）

第43条　休学期間は、休学の許可を受けた年度かぎりとする。但し、特別の事情があると認めたときは、願い出により、休学期間の延長を許可することがある。

２　休学期間は、通算して３年をこえることができない。

３　休学期間は在学年数に算入しない。

４　工学部、工学部第二部、理工学部および未来科学部においては、休学期間中における学費の納入を免除する。情報環境学部においては、休学者は学期ごとに、60,000円の在籍料を納入する。

（復　学）

第44条　休学した者は、休学の理由が消滅したときは、保証人と連署のうえ、復学を願い出て、学部長の許可を受けて、復学することができる。

2　復学の時期は、原則として、学期の始めとする。

（退　学）

第45条　傷病その他の理由により退学をしようとする者は、医師の診断書または理由書を添え、保証人と連署のうえ、願い出て許可を受けなければならない。

（除　籍）

第46条　次の各号のいずれかに該当する者は除籍する。

①　最長在学年数をこえた者

②　工学部、工学部第二部および未来科学部においては休学による場合を除き、同一学年に3回留年してなお進級できない者。また、理工学部においては休学による場合を除き、同一学年に3回留年してなお進級・卒業できない者

③　学業成績が特に不良で、改善の見込みがない者

④　第43条第2項に定める通算休学期間をこえてなお復学しない者

⑤　正当な理由がなく、無届で、ひき続き3ケ月以上欠席した者

⑥　工学部、理工学部、工学部第二部および未来科学部において、前期分学費を7月末日までに、後期分学費を1月末日までに納入しない者。情報環境学部においては、所定の学費納入期限から起算して3ケ月以内に学費を納入しない者

（再入学）

第47条　本大学を退学した者または除籍された者が、再び入学を願い出たときは、定員に余裕がある場合にかぎり、選考のうえ、許可することがある。但し、懲戒による退学者の再入学は、許可しない。

（留　学）

第48条　本大学の学生が、外国の大学等の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望し、かつ本人の教育上有益であると認める場合、これを許可することができる。

2　留学期間は1年を原則とする。ただし、本学が認めた大学等への短期留学については、1年未満であっても特別に留学を認めることができる。

3　前項により認められた留学期間については、1年を限度として第11条に定める修業年数に算入することができる。

4　留学期間中における学費は、事情により減額もしくは免除することができる。

（表　彰）

第49条　学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することができる。

（懲　戒）

第50条　本大学の規則・規程に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2　懲戒の種類は、その情状により、退学、停学、および訓告とする。

3　前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。

①　性行不良で改善の見込みがない者

②　本大学の秩序を乱し、その他学生として本分にいちじるしく反した者

第 8 章　　学費およびその他の費用

（学費およびその他の費用）

第51条　入学検定料、学費および科目等履修費は、別表第 5 とする。

2　学費とは、入学金、授業料、実験実習料、教育充実費をいう。

3　学費およびその他の費用は、所定の期日までに納入しなければならない。

4　すでに納入した学費およびその他の費用は返還しない。ただし、入学手続きのために納入した学費その他の費用については、学費取扱規程の定めによる。

5　入学金を除く学費は分納することができる。

第 9 章　　研究生、研究員、科目等履修生および外国人留学生

（研究生・研究員）

第52条　本大学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者は、選考のうえ、研究生として受入れることができる。

2　本大学において特定の専門事項について特定の教員と協力して研究を行うことを志望する者は、選考のうえ、研究員として受入れることができる。

（科目等履修生）

第53条　本大学の学生以外の者で、本大学で開設している 1 または複数の授業科目の履修を希望する者は、本大学の教育研究に支障のない範囲内で、選考のうえ、科目等履修生として科目等の履修を許可することができる。

2　科目等履修生については、別に定める。

（外国人留学生）

第54条　外国人で第34条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人特別学生として入学を許可することができる。

2　外国人で本学における特定の授業科目を聴講することを志願する者は、選考のうえ、外国人特別聴講生として入学を許可することができる。

3　外国人で本学における特定の教員について研修を志願する者は、選考のうえ、外国人特別研究生として受入れを許可することができる。

（社会人学生）

第55条　社会人で第34条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、社会人特別学生として入学を許可することができる。

2　社会人特別学生は、企業依託学生および工学部第二部社会人コース学生とする。

3　社会人特別学生についての事項は、別に定める。

（準　用）

第56条　前３条の規定に抵触しないかぎり、本学則の他の規定は、科目等履修生、外国人留学生、および社会人学生に準用する。

第10章　　改正および雑則

（改　正）

第57条　本学則の改正は、各学部教授会の議を経なければならない。

（施行細則その他）

第58条　本学則施行についての細則その他必要な事項は別に定める。

学生生活についての規程

1　目　　的

この規程は、本学学生が平和で秩序ある学生生活を営み、教育・研究の環境を適性に保つことを目的とする。

2　学生に対する通知・連絡

学生に対する通知・連絡はすべて掲示により行う。「一週間」掲示した通知事項は、関係のある学生全員に通知されたものとして扱う。ただし、緊急の場合は学内放送又は直接連絡により行うことがある。

休講・授業時間割等についての電話による問い合わせには応じないから各自が注意すること。

3　学生証

(1)　学生証は入学の際交付を受け、その後は毎年 4 月に前年度の学生証を更新すること。また、学生は常時学生証を携帯し、本学職員の請求があったときはいつでもこれを呈示すること。

(2)　学生証は卒業・退学・除籍・休学の場合は直ちに返納の手続きを受けること。

(3)　学生証を紛失したときは直ちに諸手続を経て再交付を受けること。

4　保証人

学生は、入学手続時に父母又はこれに代わる者を保証人として届け出るものとする。保証人を変更したとき又はその住所に異動があったときは、速やかに事務部長あて届け出ること。

5　現住所

学生は、その現住所を届け出て連絡先を明らかにし、現住所に変更があったときは、直ちに変更届を事務部長あて提出すること。

6　学生の掲示

(1)　学内における学生の掲示は、掲示者の責任において行うものとする。ただし掲示の内容は、事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

(2)　学内における学生の掲示場所は次のとおりである。

ア　学生用掲示板

イ　普通教室内のクラス用掲示板

(3)　掲示場所の円滑適正な運用は、学生自治会が行うものとする。

(4)　新入生オリエンテーション・学園祭等特別の行事の際は、前述の場所以外に特に事務部長が期間を定めて掲示を許可することがある。

期間を経過した掲示物は速やかに撤去しなければならない。

7　学生の印刷物の発行・配布

学生の印刷物は、その学生の責任において発行・配布するものとする。ただし、印刷物の内容は事実と相違したり、他の名誉を傷つけたりするものであってはならない。

8　学生の学内集会

(1)　学生が学内で集会しようとするときは、次の事項を記載した集会願を事務部長あて提出すること。

ア　責任者の氏名　　イ　集会の名称

ウ　集会の目的　　エ　集会の場所

オ　集会の日時　　カ　参加者の人数

キ　学外者参加団体名及び人数

ク　その他

提出期限は原則として、開催日の１週間前とする。

(2)　集会において、本学の教育研究及び業務に支障をおよぼしたり、本学の近隣に対し迷惑をおよぼしたりするような行為をしてはならない。そのような行為があるときは、集会を中止させることがある。

(3)　集会は、神田キャンパスにおいては22時20分、千葉ニュータウンキャンパス並びに鳩山キャンパスにおいては21時までとする。

(4)　学内の宿泊は禁止する。ただし、特別の事情がある場合は、事前に宿泊願を事務部長に提出し、本学の許可を受けなければならない。

又、学生の宿泊に関する必要な事項は別に定める。

9　学生の学外活動

学生の団体が学外において活動を行おうとするときは、開始日の２週間前までに、所定の学外活動願を事務部長あて提出すること。

10　団体の結成

(1)　学生が新しく団体を設立しようとするときは、所定の用紙に会則等必要事項を記入し、責任者の署名捺印のうえ事務部長あてに願い出ること。

(2)　団体の会則又はその他の事項を変更したときは、速やかに事務部長あてに届け出ること。

(3)　学生の団体の継続については、団体の名簿を毎年５月末日現在で事務部長あてに届け出ること。

届け出のない団体は事務部長は解散したものとみなす。

付　　則

この規程は、昭和53年４月１日から施行する。

付　　則（平成２年３月27日決定）

この改正は、平成２年４月１日から施行する。

試験に関する細則

第１条（目的）　本細則は、大学および大学院の学則に定める試験について、その細部のことを定める。

第２条（試験の種類）　試験は定期試験、中間試験、追試験とする。

２．定期試験は授業科目を履修する全学生を対象として、各学期末または学年末に定期的に行う試験をいう。

３．中間試験は授業科目を履修する全学生を対象として、学期の中間に随時行う試験をいう。

４．追試験は急病等真にやむを得ない事情により、定期試験を受けることのできなかった学生を対象として、当該授業科目を担当する教員が必要と認めたときに随時行う試験をいう。

５．第１項に定めるほか再試験を加えることができる。

第３条（再試験）　再試験は前条第２項に定める試験の成績不良のため履修完了が認定されない学生を対象として、当該科目を担当した教員が特に必要と認めたとき行う試験をいい、その成績をもって履修完了の認定にあてることができる。

第４条（受験資格）　定期試験を受験するには、定められた期間に当該科目に対し履修届を提出し、かつ、その授業に常時出席していなければならない。

２．定期試験を受験するには、前項のほか、その期までの学費を納入していなければならない。

３．追試験は定期試験の受験資格をみたし、かつ、定期試験期間終了後３日以内に試験欠席届を提出した学生につき考慮するものとする。

第５条（追・再試験の手続）　追試験の受験を希望する者は、学部事務部の指定する期間内に所定の受験料を添えて受験申告書を学部事務部に提出し、受験票の交付を受けなければならない。

２．特に指定して行われる再試験においては、前項に定める手続をしなければならない。

第６条（学生証・受験票の提示）　定期試験の受験者は定刻迄に試験室に入り、つねに学生

証を机の上に置かなければならない。

2．追試験又は再試験の受験者は、前項によるほか、受験票を机の上に置かなければならない。

第7条（遅刻及び退室）　受験者の遅刻は、第1時限目に行う科目に限り試験開始後30分以内は認める。ただし試験時間は延長しない。

2．第2時限目以降に行う科目については遅刻は認めない。ただし特別の事情のある場合に限り学部長（又はその代行者）の判断により受験許可書の交付を受けて受験することができる。

3．受験者の退室は、試験開始後40分を経過してから試験終了10分前迄許可する。

第8条（試験監督者）　試験監督者は、当該試験時限中試験実施について一切の権限を有する。

2．試験監督者は、前項の権限に基づいて処置した事項について、試験終了後直ちに学部長（又はその代行者）に報告しなければならない。

3．試験監督者については、前2項に定めるもののほか、試験監督規程として別に定める。

第9条（不正行為）　試験監督者は、試験中に不正行為を行つた学生があるときには、その答案を取上げた上退室を命ずるものとする。

2．試験監督者は、試験中に受験態度不良若しくは試験監督者の注意に違反した学生があるときには、その答案を取り上げた上退室を命ずることができる。

3．前2項の場合には、試験監督者はその試験終了後、直ちに学部長（又はその代行者）に事情を報告するものとする。

第10条（不正行為に対する処置）　前条の場合には、学部長は教授会の議を経て、当該学生に対し次の各号のうち、いずれかの処置を行い、これを公示し、かつ、その学生の保証人に通知するものとする。

（1）当該試験の属する定期試験の一部又は全部を無効とする。

（2）当該試験を無効とする。

付　　則

1～3　略

4．本細則第7条第2項、第8条第2項、第9条第3項及び第10条の学部長は大学院研究科においては研究科委員長と読替えるものとする。

5，6　略

7．理工学部においては再試験は行なわない。

8～　略

特別奨学生規程

第１条（目　的）　この規程は、学校法人東京電機大学が設置する学校の学生及び生徒であって、人物優秀にして学業成績良好であり、かつ学費の支弁が困難な者に対して奨学金を給付することを目的とする。

第２条（基　金）　この奨学金の基金は次の各号の基金をもって構成する。

①　桜井虎三郎氏の遺志により桜井家から本法人に寄贈された基金

②　その他の基金

第３条（奨学金）　奨学金は、前条の基金から生ずる果実をもって充当する。

２．奨学金の各校への配分は当該年度の予算に計上して行う。

第４条（給付額）　奨学金の給付額は各学校の学則に定める当該年度の学費の一部もしくは全額とする。

２．給付金は学費に充当しなければならない。

第５条（奨学生の選考、決定、採用等）　奨学生は、各学校ごとに設置された奨学生選考委員会の選考を経て、学校の長がこれを決定し、採用する。

２．前項により奨学生を採用した時は、学校の長は遅滞なく理事長宛（総務部長経由）に文書をもって報告しなければならない。

第６条（奨学生の資格の喪失）　奨学生が次の各号のいずれかに該当し、奨学生として不適当と認められるにいたった時は、その資格を失うものとする。

①　学則に違反して退学（除籍）、停学又はけん責等の処分を受けたとき。

②　成績不良もしくは素行不良のとき。

③　学校への提出書類等に虚偽の記載などを行ったとき。

２．奨学生が前項の事由によりその資格を失ったときは、既に給付した奨学金を返済させることができる。

第７条（事　務）　奨学生に係る事務は各学校の奨学金担当部署が行う。

２．前項の他に、本規程実施についての必要な事務は総務部（総務担当）において行う。

第８条（実　施）　この規程の実施についての必要事項は別に定める。

付　　則

１．この規程は、昭和54年４月１日から施行する。

２．この規程の施行と同時に桜井奨学金規程（昭和36年３月14日施行）、東京電機大学奨学生規程（昭和26年４月１日施行）、東京電機大学特別奨学生規程（昭和38年12月施行）は廃止する。

３．この規程の施行されたときに、前項の規程による奨学生である者は、卒業までなお旧規程の適用を受けるものとする。

付　　則（平成15年３月４日決定）

この改正は、平成15年４月１日から施行する。（第７条）

理工学部学生の車両通学に関する取扱細則

（目　的）

第１条　この取扱細則は、理工学部学生の車両通学および鳩山校地内において学生が運転する車両の駐車に関し必要な事項を定める。

（車両の定義）

第２条　この取扱細則でいう車両とは、道路交通法に基づく運転免許を要する車両をいう。

（車両通学の許可願）

第３条　車両を運転して通学を願いでる者（以下「車両通学者」という。）は別紙により必要事項記入の上理工学部長あてに申請しなければならない。

（許　可）

第４条　理工学部長は申請があった者の内で、次の条件を具備若しくは合致している場合は駐車許可証（以下「許可証」という。）を発行する。許可証の発行を受けていない者の車両による通学は認めない。

１．公共の交通機関を利用して通学することが客観的判断に照らして著しく困難な者。

２．原則として運転免許証取得後6ヶ月以上を経過していること。

３．自動車損害賠償責任保険及び次の自動車任意保険の適用を受けられる者。

	対　人　賠　償	対　物　賠　償	搭 乗 者 賠 償
四　　輪	7,000万円以上	100万円以上	500万円以上
自動二輪	5,000万円以上	100万円以上	200万円以上

４．道路運送車両法による1年毎の定期点検整備を受けていること。

（許可証の有効期間）

第 5 条　許可証の有効期間は当該年度内とする。

（順守事項）

第 6 条　車両通学者は、道路交通法等の関係法令及び学内諸規定を順守し、安全運転の励行に努めなければならない。

（許可の取消しおよび違反者の処置）

第 7 条　車両通学者が道路交通法等の関係法令及び学内諸規定に違反した場合並びに第 4 条の条件を具備若しくは合致しない場合は、理工学部長は車両通学許可を取消すことができる。

2．前項における違反者に対しては、次のとおり段階的に処置することとする。

①本人に対する警告

②前号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、学部長より厳重に訓戒する。

③第 2 号の処置にもかかわらず、違反を重ねた者は、車両通学許可を取消すこととする。

3．前項第 3 号により車両通学許可を取消された者が車両で通学した場合、学則第50条に則り、停学または退学処分とすることができる。

（事故処理）

第 8 条　車両通学者が運転中に起こした事故について大学は一切責任を負わない。

2．鳩山校地内車両を駐車している間に生じた破損、盗難等の事故について大学はその補償を行わない。

3．前各項の事故が発生したときは当事者はその内容を理工学部事務部（学生厚生担当）に連絡しなければならない。

（安全運転講習会）

第９条　大学は車両通学者を対象にした安全運転講習会を必要に応じて実施することとする。

２．車両通学者は前項の講習会に出席しなければならない。理由なく欠席した者には駐車許可を取消すことがある。

（その他の事項）

第10条　駐車中は許可証を車内の見やすいところにおかなければならない。

２．許可証は他人に貸与してはならない。

３．許可証を紛失したときは理工学部事務部（学生厚生担当）に直ちに届け出なければならない。

４．指定の駐車場以外には駐車をしてはならない。

付　　則

1　この取扱細則は、昭和52年９月13日から施行する。

2　昭和55年１月22日一部変更（昭55．１．22決定）

付　則（昭和59年11月６日決定）

この改正は、昭和59年11月６日から施行する。（第４条１項(3)原付自転車削除、第７条違反者の処置追加、第７条１項一部変更、同条２項、３項追加）

付　則（昭和63年９月28日決定）

この改正は、昭和63年９月28日から施行する。

付　則（平成８年９月９日決定）

この改正は、平成８年10月１日から施行する。

付　則（平成15年３月31日決定）

この改正は、平成15年４月１日から施行する。（第８条、第10条）

大学キャンパス等所在地

神田キャンパス

工学部、工学部第二部、未来科学部
大学院工学研究科（修士）、大学院未来科学研究科（修士）、
大学院先端科学技術研究科（博士）
〒101－8457 東京都千代田区神田錦町２－２
Tel. 03－5280－3311

鳩山キャンパス

理工学部
大学院理工学研究科（修士）、大学院先端科学技術研究科（博士）
〒350－0394 埼玉県比企郡鳩山町石坂
Tel. 049－296－2911㈹

千葉ニュータウンキャンパス

情報環境学部
大学院情報環境学研究科（修士）、大学院先端科学技術研究科（博士）
〒270－1382 千葉県印西市武西学園台２－1200
Tel. 0476－46－4111

高坂「麓」（厚生施設）

〒355-0063 東松山市元宿２－25－13
Tel. 049－334－3425

本冊子は新入生のみ配布されます。卒業するまで大切に取扱いください。

平成21年４月１日　発行

編　者　　理工学部事務部教務担当
発行者　　東京電機大学理工学部
〒350-0394　埼玉県比企郡鳩山町石坂
電話　049（296）0430

印刷所　　関　根　印　刷　所
〒360-0113　埼玉県熊谷市御正新田413-5
電話　048（536）0162

〔非売品〕


TDU